



Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 806-2588-10
2000年3月

Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Java, JumpStart, OpenBoot, ONC, OpenWindows, PGX32, Solstice, Solstice Enterprise Agents, ToolTalk, SunOS, Sun Enterprise, Sun Enterprise Network Array, Sun Quad FastEthernet, SunSwift, SunVideo, Sun Workshop, Solaris JumpStart, Ultra, Ultra Enterprise, Voyager, WebNFS, XIL は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Adobe, PostScript, Display PostScript は、米国 Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標であり、国によっては登録されていることがあります。Kodak Color Management System と KCMS は、米国における米国 Eastman Kodak Company の商標または登録商標です。Netscape は、米国 Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は郵政省が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド'98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 8 (Intel Platform Edition) Installation Guide

Part No: 806-0956-10

Revision A



目次

- はじめに 13
- 1. インストールの準備 19
 - このマニュアルで使用する用語 19
 - インストールの計画と設定 23
 - Solaris Web Start の実行方法 23
 - ▼ インストールを計画する方法 24
 - ▼ インストールを設定する方法 27
- 2. Solaris Web Start の使い方 43
 - Solaris Web Start のデフォルト動作と制限 43
 - システムに複数のディスクがある場合のデフォルトインストールの制限 44
 - 手作業によるファイルシステムの配置 45
 - Solaris Web Start による Solaris のインストール 45
 - ▼ システムを構成する方法 45
 - ▼ Solaris をインストールする方法 62
 - インストールサーバーを使った Solaris Web Start の使用 79
- 3. 既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存 81
 - パーティションへの Solaris のインストール 82
 - Solaris 8 対話式インストールプログラムの使い方 82

- ▼ Solaris 用の fdisk パーティションを作成する方法 (構成) 82
- ▼ Solaris 用の fdisk パーティションを作成する方法 (インストール) 93
- 4. システムのアップグレード 105
 - システムをアップグレードする 105
 - アップグレードについて頻繁に寄せられる質問 106
 - システムのアップグレード 108
 - ▼ 準備作業 108
 - ▼ システムをバックアップする方法 109
 - ▼ アップグレードを計画する方法 111
 - ▼ アップグレードを設定する方法 113
 - ▼ アップグレード用にシステムを構成する方法 125
 - ▼ Solaris をアップグレードする方法 141
 - ▼ アップグレード後の整理作業をする方法 157
- 5. **Solaris 8** をインストールした後のソフトウェアの追加と削除 159
 - Solaris Web Start によるソフトウェアの追加 160
 - ▼ Solaris Web Start を使ってソフトウェアを追加する方法 160
 - Solaris Product Registry によるソフトウェアの追加と削除 163
 - 目的 163
 - Solaris Product Registry の使い方 164
 - ▼ インストール済み製品の情報を表示する方法 166
 - ▼ インストール済み製品の整合性を検査する方法 167
 - ▼ Solaris Product Registry を使ってソフトウェアをインストールする方法 168
 - ▼ 製品をアンインストールする方法 169
 - Admintool によるパッケージの追加と削除 170
 - ▼ Admintool でパッケージを追加する方法 170
 - ▼ Admintool でパッケージを削除する方法 175
 - pkgadd と pkgrm によるパッケージの追加と削除 179
 - ▼ pkgadd でパッケージを追加する方法 179

- ▼ pkgrm でパッケージを削除する方法 180
- 6. インストール時の問題解決 183
 - システムのブート 183
 - エラーメッセージ 183
 - 一般的な問題 185
 - Solaris オペレーティング環境のインストール 188
 - Solaris 8 のインストール (アップグレード) 189
 - エラーメッセージ 189
 - 一般的な問題 190
- A. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** に含まれるパッケージ 193
- B. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** に含まれるパッケージ 213
- C. **Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)** に含まれるパッケージ 221
- D. **CUI インストールの日本語訳 257**
 - インストールの概要 258
 - インストール画面 258
 - 全体の流れ図 259
- IA - Configuration Assistant 273
 - 1. Solaris Device Configuration Assistant [Solaris デバイス構成用補助] 273
 - 2. Scanning Devices [デバイスの検索] 274
 - 3. Identified Devices [認識されたデバイス] 274
 - 4. Device Tasks [デバイス作業] 275
 - 5. View/Edit Devices [デバイスの編集] 276
 - 6. Add ISA Device [ISA デバイスの追加] 276
 - 7. Select Resource Types [リリースタイプの選択] 277
 - 8. Specify Port (IRQ, DMA, Memory) Resource [ポート (IRQ、DMA、メモリー) リソースの指定] 278
 - 9. Set Keyboard Configuration [キーボード構成の設定] 279

10. Set Keyboard Format [キーボード形成の設定] 279
 11. Delete Saved Configuration [構成の削除] 280
 12. Set Console Device [コンソールデバイスの設定] 280
 13. Boot Solaris [Solaris のブート] 281
 14. View/Edit Autoboot Settings [自動ブート設定の編集] 282
 15. View/Edit Property Settings [プロパティ設定の編集] 282
 16. Set Network Configuration Strategy [ネットワーク構成の設定] 283
 17. Select the Type of Installation [インストール方法の選択] 284
 18. The Solaris Installation Program [Solaris インストールプログラム] 284
- IA – kdmconfig 285
1. kdmconfig Introduction [kdmconfig の実行] 285
 2. Graphics Device Selection [グラフィックスデバイスの選択] 286
 3. Monitor Types Selection [モニタータイプの選択] 287
 4. kdmconfig Window System Configuration Test [ウィンドウシステムの構成のテスト] 287
- sysidtty 288
1. The Solaris Installation Program [Solaris インストールプログラム] 288
 2. Identify This System [システムの指定] 289
 3. Configure Security Policy [セキュリティポリシーの設定] 290
 4. Configure Kerberos Security [Kerberos セキュリティの構成] 290
 5. Confirm Information [情報の確認] 291
 6. Network Connectivity [ネットワーク接続] 292
 7. DHCP 292
 8. Host Name [ホスト名] 293
 9. IP Address [IP アドレス] 294
 10. IPv6 294
 11. Name Service [ネームサービス] 295

12. Domain Name [ドメイン名]	296
13. Name Server [ネームサーバー]	296
14. DNS Server Addresses [DNS サーバーアドレス]	297
15. DNS Search List [DNS 検索リスト]	297
16. Subnets [サブネット]	298
17. Netmask [ネットマスク]	299
18. Time Zone [時間帯]	299
19. Offset From GMT [GMT からのオフセット]	300
20. Time Zone File [時間帯ファイル]	301
21. Date and Time [日付と時間]	301
ttinstall	302
1. Solaris Interactive Installation 1 [Solaris 対話式インストーラ 1]	302
2. Solaris Interactive Installation 2 [Solaris 対話式インストーラ 2]	303
3. Select Geographic Regions [地域による言語の選択]	303
4. SPARC - Select 64 Bit [64 ビットの選択]	304
5. Select Software [ソフトウェアの選択]	305
6. Select Disks [ディスクの選択]	305
7. IA - Use x86boot partition? [x86BOOT パーティションを使用しますか?]	306
8. IA - Disk Editing Options [ディスクの編集オプション]	306
9. IA - Customize fdisk Partitions for Disk [fdisk パーティションのカスタマイズ]	307
10. Select Boot Disk [ブートディスクの選択]	308
11. Preserve Data? [データを保存しますか?]	308
12. Preserve Data [データの保存]	309
13. Automatically Layout File Systems? [ファイルシステムの自動配置を行いますか?]	310
14. Automatically Layout File Systems [ファイルシステムの自動配置]	310

15. Auto-layout Unsuccessful [自動配置の失敗]	311
16. File System and Disk Layout [ファイルシステムとディスクの配置]	312
17. Warning 2 [警告 2]	313
18. Warning 3 [警告 3]	313
19. Mount Remote File Systems? [リモートファイルシステムをマウントしますか?]	314
20. Mount Remote File System [リモートファイルシステムのマウント]	315
21. Customize Software? [既存のソフトウェアをカスタマイズしますか?]	315
22. Warning 1 [警告 1]	316
23. More Space Needed [より多くの領域が必要]	317
24. File System Modification Summary [ファイルシステム変更の要約]	318
25. Change Auto-layout Constraints [自動配置の制限の変更]	319
26. Collapse File Systems [ファイルシステムの短縮]	320
27. Generating Backup List [バックアップリストの生成]	320
28. Select Media for Backup [バックアップ用メディアの選択]	321
29. Profile [プロファイル]	321
30. Warning 4 [警告 4]	322
31. Reboot After Installation? [インストール後にリブートしますか?]	323
32. Exit [終了]	323
ヘルプ画面	324
ヘルプ一覧表	324
(IA) kdmconfig - Topics	331
Bus type [バスタイプ]	331
Buttons [ボタン]	331
Color Depth Number [カラーデプス数]	331

Confirm Information [情報の確認]	331
Display Resolution [ディスプレイの解像度]	331
Graphics Card [グラフィックスカード]	332
Interrupt Number (IRQ) [割り込み番号 (IRQ)]	332
I/O Address [I/O アドレス]	332
Keyboard [キーボード]	333
Keyboard Layout [キーボードの配置]	333
Memory Address [メモリアドレス]	333
Monitor Type [モニタータイプ]	333
Navigation [ナビゲート]	334
Pointing Device [ポインティングデバイス]	336
Screen Size [画面サイズ]	336
Serial Port [シリアルポート]	336
Virtual Screen [仮想スクリーン]	337
(IA) kdmconfig - Reference	337
Glossary [用語集]	337
sysidtty - Topics	338
Confirm Information [情報の確認]	338
Date and Time [日付と時間]	338
DNS Search List [DNS 検索リスト]	338
DNS Servers [DNS サーバー]	339
Domain Name [ドメイン名]	339
Host Name [ホスト名]	340
IP Address [IP アドレス]	340
Identifying Your System [自己のシステムの識別]	340
Kerberos Configuration [Kerberos 構成]	341
IPv6	341

- Locating Servers [サーバーの配置] 342
- Name Service [ネームサービス] 342
- Name Servers [ネームサーバー] 343
- Navigation [ナビゲート] 343
- Netmask [ネットマスク] 346
- Network Connectivity [ネットワークの接続性] 346
- Primary Network Interface [一次ネットワークインタフェース] 347
- Security Policy (Kerberos) [セキュリティポリシー (Kerberos)] 347
- Subnets [サブネット] 347
- Time Zone [時間帯] / Offset from GMT [GMT からのオフセット] /
Time Zone File [時間帯ファイル] 348
- sysidtty - How To 348
 - Finding System Information [システム情報を見つける手順] 348
 - Navigation [ナビゲート] 349
- sysidtty - Reference 352
 - Glossary [用語集] 352
- ttinstall -Topics 355
 - Auto - layout [自動配置] 355
 - Creating a Profile [プロファイルの作成] 356
 - Device Naming Conventions [Solaris 2.x 環境でのデバイス命名規則] 357
 - (IA) fdisk Partitions [fdisk パーティション] / (IA) Solaris fdisk
Partitions [Solaris fdisk パーティション] 358
 - Languages [言語] 359
 - Laying Out File System on Disks [ディスク上でのファイルシステムの
配置] 359
 - More Space Needed for the Upgrade [アップグレードにさらに必要な容
量] 361
 - Mounting Remote File Systems [リモートファイルシステムのマウン
ト] 363

Navigating Using the Keyboard [キーボードでのナビゲート]	363
Preserving Data [データ保存] / Preserve Data Screen [データ画面]	365
Software Groups : What They Contain [ソフトウェアグループ : 何が入っているか]	366
Specifying a Boot Disk [ブートディスクの指定]	367
Upgrading Option [アップグレードオプション]	368
ttinstall - How To	370
Access a Disk's Existing Layout [ディスクの現在の配置を利用する]	370
Determine a System's platform [システムのプラットフォームを確認するには]	370
Free Up Disk Space [ディスク容量の解放]	373
Reset Software Group to Default Selections [ソフトウェアグループをデフォルトの選択に再設定するには]	373
Resolve Software Dependencies [ソフトウェア依存関係の解決処理]	374
Specify a Boot Disk [ブートディスクの指定]	374
ttinstall - Reference	375
Customize Disks Screen [ディスクのカスタマイズ画面]	375
Customize Software Screen [ソフトウェアカスタマイズ画面]	378
Disk Editor Properties Screen [ディスクエディタ・プロパティ画面]	380
File System Modifications Summary Screen [ファイルシステム変更の要約画面]	381
Geographic Region Screen [地域画面]	382
Glossary [用語集]	383
Mount Remote File System Screen [リモートファイルシステムのマウント画面]	388
Select Auto-layout Constrains Screen [自動配置機能の構成画面の選択]	389
Select Boot Disk [ブートディスクの選択]	392
Select Disks [ディスクの選択]	392

Select Disk to Customize Screen [ディスクのカスタマイズ] 392

Select Media for Backup Screen [バックアップ用メディアの選択画面] 393

Select Root Location [ルート位置の選択] 394

Select Version to Upgrade Screen [アップグレードのバージョン選択の画面] 394

Server's Exportable File Systems Screen [サーバーのエクスポート可能なファイルシステム画面] 395

索引 397

はじめに

『Solaris™ 8 インストールガイド (Intel™ 版)』では、Solaris Web Start を使って、ローカル CD-ROM デバイスから Solaris オペレーティング環境とそれに関連するソフトウェアを単一の Intel システムにインストールおよびアップグレードする方法を説明します。

このマニュアルでは、ネットワークに接続されたシステムに Solaris オペレーティング環境をインストールする方法や、Solaris 8 対話式インストールプログラム、JumpStart™、または Solaris カスタム JumpStart を使って大規模なネットワーク環境の複数のシステムに Solaris をインストールする場合の手順の設定、自動化、カスタマイズ、および実行方法は説明していません。これらの高度な操作については、『Solaris 8 のインストール (上級編)』を参照してください。

対象読者

このマニュアルは、Solaris Web Start を使って単一システムに Solaris ソフトウェアをインストールするユーザーやシステム管理者を対象としています。Solaris Web Start は、Java™ を使って開発された Sun のウィザードベースのグラフィカルなソフトウェアインストールアプリケーションです。

内容の紹介

このマニュアルは、次の章から構成されています。

第 1 章では、このマニュアルで使われている用語を定義し、インストールの計画と設定について説明します。

第 2 章では、Solaris Web Start を使ってシステムの構成と Solaris ソフトウェアのインストールを行う方法について説明します。

第 3 章では、Solaris 8 対話式インストールプログラムを使って Solaris ソフトウェア用の fdisk パーティションを作成し、ディスクにある既存のオペレーティングシステムやユーザーデータを保護する方法について説明します。

第 4 章では、システムをアップグレードするためのバックアップと計画について説明してから、システムで Solaris を設定、構成、およびアップグレードする方法について説明します。

第 5 章では、Solaris ソフトウェアをインストールした後でソフトウェアパッケージを個別に追加または削除する方法を説明します。

第 6 章では、インストール時に発生する可能性がある問題と解決策について説明します。

付録 A では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれているソフトウェアパッケージを説明します。

付録 B では、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれているソフトウェアパッケージを説明します。

付録 C では、Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれているソフトウェアパッケージを説明します。

付録 D では、CUI インストールの画面およびヘルプの日本語訳を説明します。

関連マニュアル

Solaris 8 ソフトウェアのインストール時に必要な関連情報を表 P-1 に示します。

表 P-1 関連情報

情報	説明
『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』	Solaris 8 リリースに関連するバグ、既知の問題、提供が中止されたソフトウェア、およびパッチの説明が記載されています。
『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』	サポートされるハードウェアの情報が記載されています。
『Solaris 8 のインストール (上級編)』	ネットワークに接続されたシステムに Solaris オペレーティング環境をインストールする方法や、Solaris 8 対話式インストールプログラム、Solaris JumpStart、または Solaris カスタム JumpStart を使って大規模なネットワーク環境の複数のシステムに Solaris をインストールする場合の手順の設定、自動化、カスタマイズ、および実行の方法を説明しています。

Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 Fatbrain.com から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索をおこなうこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト


```
system% command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

- スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルで画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。

インストールの準備

この章では、Intel 版 Solaris 8 のインストール計画とインストール方法について説明します。

注 - Solaris は、システムにすでにインストールされている場合があります。詳細は、ご使用のハードウェアマニュアルを参照してください。

このマニュアルで使用する用語

先に進む前に次の用語について理解しておいてください。

用語	定義
CHS 対応 (シリンダ/ヘッド/セクター対応)	ディスクをシリンダ、ヘッド、およびセクターの番号でアドレス指定する。「LBA 対応」も参照
DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)	アプリケーションレイヤープロトコルの 1 つ。このプロトコルを使えば、TCP/IP ネットワーク上の個々のコンピュータまたはクライアントは、一元的に管理された特定の DHCP サーバー (1 つまたは複数) から IP アドレスなどのネットワーク構成情報を取得できる。DHCP を使うと、大規模な IP ネットワークの保守や管理に伴うオーバーヘッドが削減される

用語	定義
fdisk パーティション	<p>IA (Intel アーキテクチャ) ベースのシステムで動作する特定のオペレーティングシステム専用割り当て、ディスクドライブの論理パーティション。 Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する場合は、IA ベースのシステムに少なくとも 1 つの Solaris 8 fdisk パーティションを設定する必要がある。IA ベースのシステムでは、異なるオペレーティングシステムがドライブごとに 4 つまでサポートされる。それぞれのオペレーティングシステムは、固有の fdisk パーティションにインストールされなければならない。</p> <p>Solaris ソフトウェアがインストールされる IA ベースシステムの fdisk パーティションは複数のスライスに分割され、その 1 つがスワップスライスとして使用される。「スライス」も参照</p>
IPv6	<p>現在のバージョン IPv4 (バージョン 4) が発展した新しいバージョン (バージョン 6) のインターネットプロトコル (IP)。このバージョンは IPv4 への追加となるため、定義された移行メカニズムを使って IPv6 を導入すれば、現在の操作に影響を与えることはない。さらに、IPv6 はインターネットの新機能を使用するためのプラットフォームを提供する。</p> <p>IPv6 の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 3 巻)』の「IPv6 の概要」を参照</p>
Kiosk	<p>Solaris Web Start を使って Solaris ソフトウェアをインストールするときにマニュアルや Web ページを参照したり、その他のコンテンツが表示されたりするブラウザベースの環境</p>
LBA 対応 (論理ブロックアドレス対応)	<p>ディスクのセクターは直線的にマップされ、アドレス指定される。「CHS 対応」も参照</p>
Solaris 8 対話式インストールプログラム	<p>システムを設定し、そのシステムに Solaris 8 ソフトウェアをインストールするときに使用するグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) またはキャラクターユーザーインタフェース (CUI) ベースの対話式インストール方法</p>

用語	定義
Solaris Web Start	<p>Java 技術を利用したウィザードベースのグラフィカルアプリケーションで、ローカルやリモートの CD-ROM ドライブから単一システムに Solaris オペレーティング環境やその他のソフトウェアのインストールを行う。Solaris Web Start はコマンド行インタフェース (CLI) で起動することもできる。「カスタム JumpStart」や「Solaris 8 対話式インストールプログラム」も参照</p>
アップグレード	<p>ディスク上の既存の Solaris バージョンに新しいバージョンの Solaris をマージすること。新しいバージョンの Solaris へシステムをアップグレードするには、前回 Solaris をインストールした後に行われたローカルの変更はできるかぎり保存される。「初期インストール」も参照</p> <hr/> <p>注 - Solaris Web Start を使って、Solaris 7 やそれ以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start が、以前のバージョンとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです (10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です)。</p> <p>したがって、Solaris Web Start の代わりに Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。このプログラムの詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。</p>
ウィザード	<p>特定の作業を支援するグラフィカルユーザーインタフェースベースの自己完結型プログラム</p>
カスタム JumpStart	<p>インストール方法の 1 つ。この方法では、Solaris ソフトウェアがユーザー定義のプロファイルに基づいてシステムに自動的にインストールされる。プロファイルは、個別のユーザーやシステムに合わせて作成できる</p>
初期インストール	<p>システムのディスクにあるすべての情報を上書きして Solaris を新たにインストールすること。「アップグレード」も参照</p>
シリンド	<p>ディスクドライブにおいて、ディスクが回転する軸から同じ距離にあるトラックの集まり。「トラック」と「セクター」も参照</p>

用語	定義
スライス	Solaris fdisk パーティションを論理的に分割した部分 (fdisk パーティション内の swap や root スライスなど)。「fdisk パーティション」も参照
スワップ	<p>システムのメモリーに入りきらないプログラムやデータを一時的に格納するために Solaris ソフトウェアが使用するスライス。スワップにあるプログラムやデータは、システムがリブートされるたびに削除または上書きされる。スワップ空間が小さすぎると、ソフトウェアによってはインストールしても実行できないことがある。スワップ空間が大きすぎると、インストールに必要な他のファイルがディスクに入らないことがある。</p> <p>大半のユーザーには、スワップサイズを 512M バイト確保することをお奨めします。</p> <p>注 - 必要に応じて、Solaris ソフトウェアをインストールするシステムのスワップ空間は後で増やすことができます。ただし、減らすことはできません。</p>
セクター	ディスク上のデータ記憶領域または各ディスクリングの個々のセクション。セクターは通常、512 バイトからなる
トラック	ディスクが回転するときに 1 つの静止したディスクヘッドの下を通過する同心リング
パッケージ	モジュール形式のインストールを可能にするために 1 つの単位としてグループ化された一連のソフトウェア
ミニルート	ブート可能な最小の Solaris root (/) ファイルシステム。ミニルートには、カーネルと、Solaris 環境をハードディスクにインストールするために必要なソフトウェアだけが含まれる。ミニルートは初期インストールでマシンにコピーされる

インストールの計画と設定

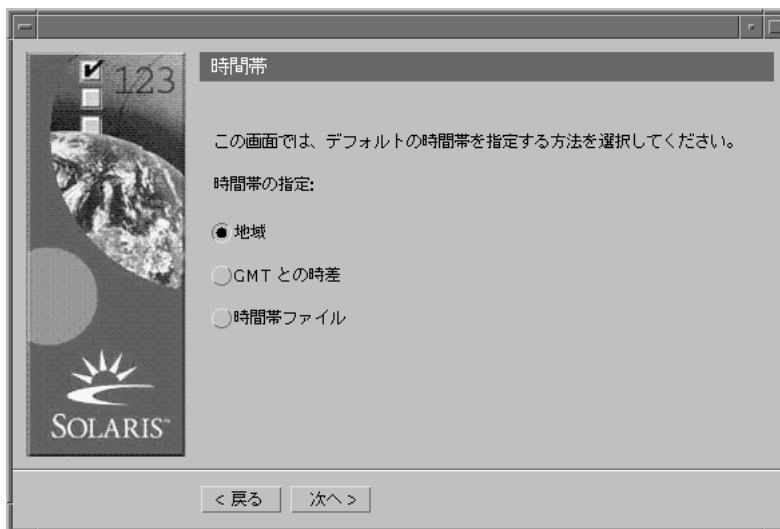
Solaris Web Start の実行方法

Solaris Web Start は 2 つの方法で実行できます。

- グラフィカルユーザーインターフェースでは、ローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、ビデオアダプタ、キーボード、およびモニターが必要です。
- コマンド行ユーザーインターフェースでは、ローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、キーボード、およびモニターが必要です。
Solaris Web Start のコマンド行ユーザーインターフェースは、tip(1) 接続で実行できます。

操作手順や設定内容は、どちらのユーザーインターフェースもほとんど同じです。両者の違いを次の例で示します。

例 1-1 グラフィカルユーザーインターフェースの「時間帯 (Time Zone)」画面



例 1-2 コマンド行ユーザーインターフェースの「時間帯 (Time Zone)」メニューとプロンプト

デフォルトの時間帯を指定する方法を選択してください。

時間帯の指定:

1. 地域
2. GMT との時差
3. 時間帯ファイル

希望する時間帯の指定方法に対応する番号で入力してください [1]:

どちらのインタフェースが使用されるかの基準

Solaris Web Start は、システムにビデオアダプタがあることを検出するとグラフィカルユーザーインタフェースを使用し、ビデオアダプタがないことを検出するとコマンド行ユーザーインタフェースを使用します。

▼ インストールを計画する方法

注 - このマニュアルで説明する手順は、CD を使って Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合の手順です。ネットワークを介して Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合には、手順が異なることがあります。

1. 次の表に従い、最初に行うべき手順に進みます。

Solaris のインストールに使用する装置	手順
使用するシステムに接続されたローカル CD-ROM ドライブ	24ページの手順 2
ネットワーク上のリモート CD-ROM ドライブ	『Solaris 8 のインストール (上級編)』、およびこの章とこの後の各章で説明する手順

2. 既存の Solaris システムに

- インストールされている場合は、第 4 章に進みます。
- インストールされていない場合は、次の手順に進みます。

3. 使用するハードウェアがサポートされているかどうかを確認します。

『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照してください。

4. 使用するシステムがネットワークに接続されている場合は、**Solaris** オペレーティング環境をインストールするシステムに関し次の情報を収集します。

注 - Solaris がまだシステムにインストールされていない場合は、ネットワークの管理を担当するシステム管理者などから次の情報を入手してください。

必要なネットワーク情報	例	情報収集に使用するコマンド (Solaris がインストールされている場合)
ホスト名	crater	<code>uname -n</code>
ホスト IP アドレス	129.221.2.1	<code>yptest system_name hosts</code> または <code>nismatch system_name hosts.org_dir</code>
サブネットマスク	255.255.255.0	<code>more /etc/netmasks</code>
ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+)	<pre>passwd: files nis group: files nis hosts: xfn nis [NOTFOUND=return] files networks: nis [NOTFOUND=return] files protocols: nis [NOTFOUND=return] files rpc: nis [NOTFOUND=return] files ethers: nis [NOTFOUND=return] files netmasks: nis [NOTFOUND=return] files bootparams: nis [NOTFOUND=return] files publickey: nis [NOTFOUND=return] files netgroup: nis automount: files nis aliases: files nis services: files nis sendmailvars: files</pre>	<code>cat /etc/nsswitch.conf</code>
ドメイン名	lbloom.West.Arp.COM	<code>domainname</code>

必要なネットワーク情報	例	情報収集に使用するコマンド (Solaris がインストールされている場合)
ネームサーバーのホスト名	thor75	ypwhich
ネームサーバーのホスト IP アドレス	129.153.75.20	ypmatch nameserver_name hosts または nismatch nameserver_name hosts.org_dir

5. 次のソフトウェアグループのうちどれをインストールするかを決め、すべてのソフトウェアをインストールするのに必要なディスク容量を判断します。

■ Solaris ソフトウェアグループ

ソフトウェアグループ	推奨するディスク容量
全体ディストリビューションと OEM サポート	2.4G バイト
全体ディストリビューション	2.3G バイト
開発者システムサポート	1.9G バイト
エンドユーザーシステムサポート	1.6G バイト

注 - スワップ空間はディスク容量の推奨値に含まれています。スワップ空間は少なくとも 320M バイト必要ですが、使用可能なメモリーやその他の要因によってはさらに必要になることがあります。Solaris Web Start は、スワップ空間にデフォルトで 512M バイトを割り当てます。

■ 追加ソフトウェア

必要なディスク容量については、該当するマニュアルを参照してください。

■ ベンダー (Sun 以外) のソフトウェア

ベンダー (Sun 以外) のソフトウェアのマニュアルを参照してください。

■ ホームディレクトリの容量

ホームディレクトリには、メール、テキストファイルやデータファイル、アプリケーションファイルなどのユーザーファイルを保存できることを考慮してください。

6. **Solaris** のインストールに使用する言語を選択します。

- プロンプトやメッセージなどのインストール情報を表示する言語を次の中から選択できます。
 - 日本語
 - 英語
 - 中国語 (簡体字)
 - 中国語 (繁体字)
 - 韓国語
 - フランス語
 - ドイツ語
 - イタリア語
 - スペイン語
 - スウェーデン語

7. 次の **CD** が手元にあるか確認します。

- Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)

▼ インストールを設定する方法

注 - 1977 年の終わり以降に製造されたほとんどの IA マザーボードでは BIOS が E1 Torito 標準をサポートしているため、ブートデバイスとして CD-ROM ドライブが認識されます。

1. **Solaris** ソフトウェアを tip(1) 接続を使用して

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。

- インストールする場合は、ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あるか確認します。

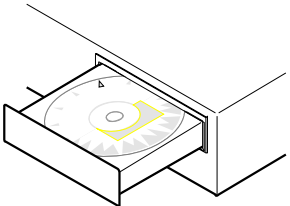
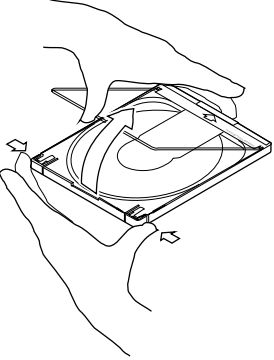
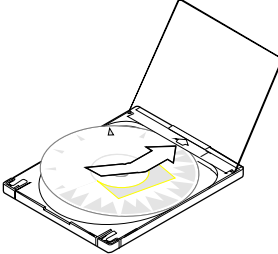
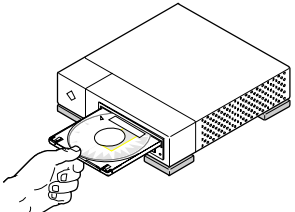
注 - tip ウィンドウの現在の大きさを調べるには、`stty(1)` コマンドを使用します。

2. システムが **CD** から

- ブートできる場合は、システムの BIOS 設定ツールでこの機能が有効になっているかどうかを確認します。
- ブートできない場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをシステムのフロッピーディスクドライブに挿入します。

注 - Solaris 8 Device Configuration Assistant は、<http://soldc.sun.com/support/drivers> からダウンロードすることもできます。

3. **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに入れます。

トレイ式 CD-ROM ドライブの場合	キャディ式 CD-ROM ドライブの場合
<p>1. ドライブの正面パネルの取り出しボタンを押します。トレイが出てきます。</p>  <p>2. Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) をロゴの面を上にしてトレイにのせます。</p> <p>3. CD-ROM ドライブにトレイを押し戻します。</p>	<p>1. キャディの角をつかみながら中央の蓋を持ち上げて、キャディを開きます。</p>  <p>2. Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) をロゴの面を上にしてキャディに入れ、キャディを閉じます。</p>  <p>3. キャディの矢印が CD-ROM ドライブ方向に向くようにして、CD-ROM ドライブにキャディを挿入します。</p> 

4. システムを停止して電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。メモリーテストとハードウェア検出が実行され、画面が再表示されます。

- Solaris 8 Device Configuration Assistant からブートしている場合は、画面に次のメッセージが表示されます。

```
Solaris Boot Sector                               Version 1
```

続いて次のような情報が表示されます。

```
Solaris for x86 - Generic DCB                       Version 1.234

loading /solaris/boot.bin
```

画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

- Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) からブートしている場合は、画面に次のメッセージが表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition   Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

続いて次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

5. 「Solaris Device Configuration Assistant」画面が表示されたら F2 キーを押します。

「Bus Enumeration」画面が表示され、次のメッセージが表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「Scanning Devices」画面が表示され、システムデバイスが走査されます。走査が完了すると、「Identified Devices」画面が表示されます。

6. F2 キーを押します。

「Loading」画面が表示され、システムをブートするためにロードされるドライバの情報が表示されます。数秒後に「Boot Solaris」画面が表示されます。

7. 「**Boot Solaris**」画面で「**CD**」を選択し、F2 キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
<<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ide@1/sd@0,0:a
Boot args: kernel/unix

<<< Starting Installation >>>

SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
Solaris Web Start 3.0 installer
The Solaris Installer can be run in English, or any of the following languages:

1) English           6) Japanese
2) German            7) Korean
3) Spanish           8) Swedish
4) French            9) Simplified_Chinese
5) Italian           10) Traditional_Chinese
Select the language you want to use to run the installer:
```

8. プロンプトやメッセージなどのインストール情報の表示に使用する言語の番号を入力します。共通デスクトップ環境が起動され、**Solaris Web Start** が **Solaris fdisk** パーティションを検出できない場合には、選択された言語で次のような情報がコンソールに表示されます。

```
インストールを行う言語として日本語が選択されています。
Solaris Web Start 3.0 Installer を開始しています

Solaris Installer が、Solaris インストールプログラム
ソフトウェアを置くシステムハードディスクを検索中です。

適切な Solaris fdisk パーティションが見つかりませんでした。
```

(続く)

続き

Solaris Installer は、ルートディスク c0t0d0 上に Solaris fdisk パーティションを作成する必要があります。少なくとも 395 MB の容量を使用します。

警告: ディスク上の情報はすべて失われます。

Solaris Installer が Solaris fdisk を作成します [y,n,?]

Solaris Web Start が Solaris fdisk パーティションを検出できた場合には、選択された言語で次のような情報が表示されます。

インストールを行う言語として日本語が選択されています。
Solaris Web Start 3.0 Installer を開始しています

Solaris Installer が、Solaris インストールプログラム
ソフトウェアを置くシステムハードディスクを検索中です。

デフォルトのルートディスクは /dev/dsk/c0t0d0 です。 \n\
Solaris Installer が Solaris をインストールするために \n\
/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットする必要があります。 \n\n

警告: ディスク上の情報はすべて失われます。

/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットしますか? [y,n,?,q]

9. Solaris Web Start が Solaris fdisk パーティションを

- 検出できた場合は、36ページの手順 21 に進みます。
- 検出できなかった場合は、プロンプトで「y」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。


```
Total disk size is 972 cylinders
Cylinder size is 4032 (512 byte) blocks

Partition  Status  Type           Cylinders
=====  =====  =====
1          DOS12      0      7      8      1

SELECT ONE OF THE FOLLOWING:

1. Create a partition
2. Specify the active partition
3. Delete a partition
4. Exit (update disk configuration and exit)
5. Cancel (exit without updating disk configuration)
Enter Selection:
```

10. 「1」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Select the partition type to create:
1=SOLARIS  2=UNIX      3=PCIXOS   4=Other
5=DOS12    6=DOS16      7=DOSEXT  8=DOSBIG
A=x86 Boot B=Diagnostic 0=Exit?
```

11. 「A」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Specify the percentage of disk to use for this partition
(or type "c" to specify the size in cylinders).
```

12. このパーティションに割り当てるディスクの割合を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

Should this become the active partition? If yes, it will be activated each time the computer is reset or turned on.
Please type "y" or "n".

13. 「y」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Partition 2 is now the active partition.  
  
SELECT ONE OF THE FOLLOWING:  
  
1. Create a partition  
2. Specify the active partition  
3. Delete a partition  
4. Exit (update disk configuration and exit)  
5. Cancel (exit without updating disk configuration)
```

14. 「1」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Select the partition type to create:  
1=SOLARIS   2=UNIX       3=PCIXOS    4=Other  
5=DOS12     6=DOS16      7=DOEXT     8=DOSBIG  
A=x86 Boot  B=Diagnostic  0=Exit?
```

15. 「1」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

Specify the percentage of disk to use for this partition
(or type "c" to specify the size in cylinders).

16. このパーティションに割り当てるディスクの割合を入力し Enter キーを押します。
次のような情報が表示されます。

Should this become the active partition? If yes, it will be activated
each time the computer is reset or turned on.
Please type "y" or "n".

17. 「n」を入力し、Enter キーを押します。

IA ブートパーティションと Solaris パーティションが作成され、次のような情報が表示されます。

```
Total disk size is 972 cylinders
Cylinder size is 4032 (512 byte) blocks

                Cylinders
Partition  Status  Type          Start  End  Length  %
=====  =====  =====
1          DOS12
2          Active  x86 Boot      8     16     9     1
3          Solaris  17     969    953    98

SELECT ONE OF THE FOLLOWING:

1. Create a partition
2. Specify the active partition
3. Delete a partition
4. Exit (update disk configuration and exit)
5. Cancel (exit without updating disk configuration)
Enter Selection:
```

18. 「4」を入力し、Enter キーを押します。
次のような情報が表示されます。

適切な Solaris fdisk パーティションが見つかりませんでした。

Solaris Installer は、ルートディスク c0t0d0 上に Solaris fdisk パーティションを作成する必要があります。少なくとも 395 MB の容量を使用します。

警告: ディスク上の情報はすべて失われます。

Solaris Installer が Solaris fdisk を作成します [y,n,?]

19. 「n」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

他のインストールオプションを選択してください。詳細は、Solaris インストールマニュアルを参照してください。

インストールを再開するには、/sbin/cd0_install を実行してください。

20. システムプロンプトで /sbin/cd0_install と入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

デフォルトのルートディスクは /dev/dsk/c0t0d0 です。 \n\
Solaris Installer が Solaris をインストールするために \n\
/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットする必要があります。 \n\n

警告: ディスク上の情報はすべて失われます。

/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットしますか? [y,n,?,q]

21. プロンプトで 「y」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

注: ファイルシステムの配置中には swap サイズを変更できません。

swap スライスのサイズを 384MB から 1865MB の範囲で入力してください。デフォルト = 512MB [?]

22. プロンプトで Enter キーを押してデフォルトのスワップパーティションサイズを使用するか、必要なスワップパーティションサイズを入力して Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

Solaris Installer は、ディスクの先頭に swap スライス配置しようとしています。そのようにすると、これより後のインストール処理で、もっとも柔軟にファイルシステムをパーティション分割することができます。

ディスクの先頭から swap スライスを作成しますか? [y,n,?,q]

23. スワップスライスをディスクのどこに置くかを決めます。ディスクの先頭にスワップスライスを配置するとファイルシステムをパーティションに分割するときの柔軟性が増し、ディスクをアクセスする効率が向上します。スワップスライスを

- ディスクの先頭に置く場合は、「y」を入力し、Enter キーを押してから 38 ページの手順 25 に進みます。
- 先頭に置かない場合は、「n」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

警告: 3 以外のシリンダに swap スライスを配置するには、ディスク配置についての高度な知識が必要です。ここでどのシリンダを選択するかによって、これより後のインストール処理で選択するディスク配置に影響します。

3 から 590 の間で、開始シリンダを入力してください。デフォルトの開始シリンダは 3 です。 [?]

24. Enter キーを押してデフォルトの開始シリンダ (システムによって異なる) を使用するか、必要な開始シリンダを入力して Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

以下が Solaris Installer で使用されます：

```
ディスクスライス : /dev/dsk/c0t0d0  
swap サイズ      : 512 MB  
開始シリンダ     : 3
```

警告：ディスク上の情報がすべて消去されます。

これでよろしいですか? [y,n,?,q]

25. プロンプトで「y」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

Solaris Installer はディスクスライス /dev/dsk/c0t0d0s1
を使用します。ファイルがコピーされた後にシステムが自動的にリポートされ、
インストール処理が継続されます。
お待ちください...

ミニルートをローカルディスクにコピー中です。...完了しました。

プラットフォーム固有のファイルをコピー中です。...完了しました。

リポートとインストール処理の継続のために準備しています。
インストールを継続するためにはリポートする必要があります。
ブートメディア (フロッピーまたは CD-ROM) を取り出し、Enter キーを押してください。
注：ブートメディアが CD-ROM である場合は
システムがリセットされてから CD-ROM を取り出してしてください。

26. 28ページの手順2でシステムのフロッピーディスクドライブに **Solaris 8 Device Configuration Assistant** を

- 挿入した場合は、システムのフロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、Enter キーを押します。
- 挿入しなかった場合は、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Syncing file systems... 49 done
rebooting...
```

システムがリセットされ、メモリーテストとハードウェア検出が行われます。

27. システムのメモリーテストとハードウェア検出が終了する前に、**Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** を **CD-ROM** ドライブから取り出します。

次のような情報が表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

```
Current Disk Partition Information
```

Part#	Status	Type	Start	Length
1		DOS12	63	32193
2	Active	X86 BOOT	32256	36288
3		SOLARIS	68544	3842496
4		<unused>		

```
Please select the partition you wish to boot:
```

数秒後に画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
Autobooting from bootpath /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/cmdk@0,0:b
```

```
If the system hardware has changed, or to boot from a different
device, interrupt the autoboot process by pressing ESC.
```

```
Initializing system
Please wait...
```

(続く)

```

                <<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/cmdk@0,0:b
Boot args:

Type    b [file-name] [boot-flags] <ENTER>    to boot with options
or      i <ENTER>                               to enter boot interpreter
or      <ENTER>                                to boot with defaults

                <<< timeout in 5 seconds >>>

Select (b)oot or (i)nterpreter:
SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.

```

続いて「The Solaris Installation Program」画面が表示されます。

28. F2 キーを押します。

「kdmconfig - Introduction」画面が表示されます。

29. F2 キーを押します。

「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示され
ます。

30. この画面に表示された構成情報を調べ、必要な変更を行います。

31. 変更が終わったら「**No changes needed - Test/Save and Exit**」を選択し、F2
キーを押します。

ウィンドウ構成テスト用画面が表示されます。

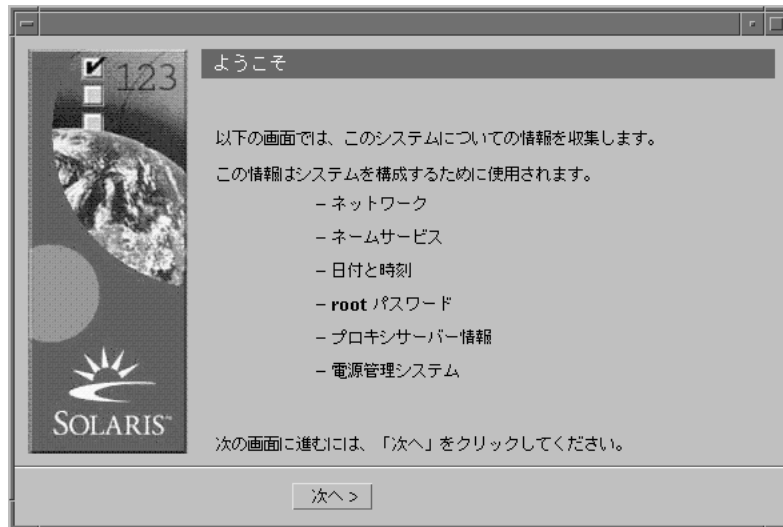
32. F2 キーを押します。

33. 表示された画面でポインタを移動できるか確認し、さらにパレットの色が正しく
表示されているか確認します。

34. 色が正しく表示されていて、ポインタを移動できるか確認します。

- 色が正しくないか、ポインタを移動できない場合は、「No」をクリックするか (可能な場合)、キーボードの任意のキーを押すか、何もしないでウィンドウ構成テスト用画面が自動的に終了するのを待ちます。次に、色が正しく表示され、ポインタを正しく移動できるようになるまで、40ページの手順 30 から40ページの手順 34 までを繰り返し行います。
- 色が正しく表示され、ポインタを移動できる場合は、「Yes」をクリックします。

数秒後に「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。



35. 第 2 章へ進みます。

Solaris Web Start の使い方

この章では、Solaris Web Start を使って Solaris ソフトウェアをインストールする方法を説明します。

注 - システムにインストールする Solaris ソフトウェアやその他の製品ソフトウェアのカスタマイズについては、第 5 章で説明します。

Solaris Web Start のデフォルト動作と制限

表 2-1 は、Solaris Web Start がデフォルトで行うことと、Solaris Web Start でできること、できないことをまとめています。

表 2-1 Solaris Web Start のデフォルト動作と制限

デフォルト動作	できること	できないこと
すべての Solaris ソフトウェアを一度にインストールする	選択したソフトウェアグループ追加ソフトウェアの製品をインストールできる	ソフトウェアグループを構成するパッケージを個別にインストールできない
デフォルトのディスクスライスを作成する	スライスのサイズを変更できる	インストールのファイルシステム配置段階でスワップサイズを変更できない
注 - デフォルトの swap スライスサイズは変更できません。		

表 2-1 Solaris Web Start のデフォルト動作と制限 続く

デフォルト動作	できること	できないこと
システムディスクを設定する	「カスタムインストール (Custom Install)」を選択し、「ファイルシステムの配置 (Lay Out File Systems)」画面を使用して、他のディスクを設定できる	—
一度に追加ソフトウェアをインストールする	追加ソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールできる (ただし、追加ソフトウェアをインストールするソフトウェアが、ソフトウェアをインストールするデフォルトの場所の変更をサポートする場合)	同梱されていないソフトウェアやその他のソフトウェアを /opt 以外のスライスにインストールできない
Solaris 環境の英語版をインストールする	Solaris のその他の言語対応版をインストールできる	Solaris 環境の英語版をインストールしないようにできない

システムに複数のディスクがある場合のデフォルトインストールの制限

複数のディスクがあるシステムにソフトウェアをインストールする場合、「インストール形式の選択 (Select Type of Install)」画面の「デフォルトインストール (Default Install)」を選択すると、システムディスクしか設定されません。

他のディスクがシステムから認識されるためには、それらのディスクにファイルシステムを手動で設定、マウントし、ファイルシステムのエントリを /etc/vfstab に作成する必要があります。ファイルシステムの設定方法については、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』の「ファイルシステムの概要」と format (1M) のマニュアルページを参照してください。

Solaris Web Start を使ってシステムのすべてのディスクを設定する場合は、「インストール形式の選択 (Select Type of Install)」画面の「カスタムインストール (Custom Install)」を選択し、「ファイルシステムの配置 (Lay Out File Systems)」画面に表示されるすべてのディスクを選択します。

手作業によるファイルシステムの配置

Solaris Web Start はファイルシステムの配置を自動的に行います。

ほとんどの場合はこのファイルシステム構成で十分ですが、製品に同梱されていない製品をインストールするときには、ファイルシステムを手動で配置しなければならない場合があります。これらの製品は、Solaris ソフトウェアと同じファイルシステム (ルート (/)、/usr、/swap) を共有する必要があります。

ファイルシステムを手動で配置する場合は、Solaris Web Start のツールを使って次のことができます。

- 必要なディスクの選択
- 必要なファイルシステムの選択
- ファイルシステムの作成、名前の変更、削除、拡張、または縮小

注 - デフォルトのスワップスライスのサイズは変更できません。

- 選択した内容の表示と確認

注 - ファイルシステムの編集には、高度なシステム管理の知識が必要です。十分な知識がない場合は、ファイルシステムの配置を変更しないでください。

Solaris Web Start による Solaris のインストール

▼ システムを構成する方法

注 - Solaris Web Start のグラフィカルユーザーインターフェースを使って Solaris ソフトウェアをインストールする場合は、使用するコンピュータシステムにローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、ビデオアダプタ、キーボード、およびモニターが必要です。Solaris Web Start のコマンド行ユーザーインターフェースを使って Solaris ソフトウェアをインストールする場合には、必要なのはローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続と、キーボード、モニターだけです。

1. 第 1 章の手順を

- 実行していない場合は、第 1 章に戻ります。
- 実行している場合は、次の手順に進みます。

2. 「ようこそ (Welcome)」画面で「次へ > (Next >)」をクリックします。

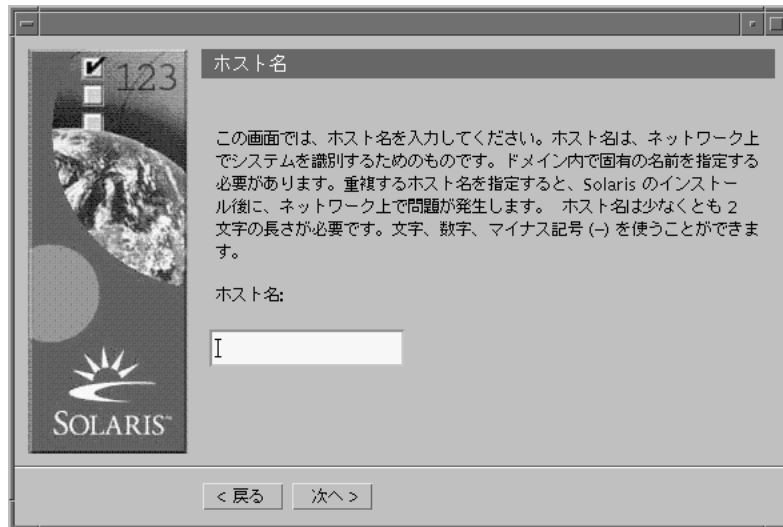
Solaris Web Start はシステムの情報を収集してから、「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面を表示します。



3. システムがネットワークに

- 接続されていない場合は、「しない (Non-networked)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「ホスト名 (Host Name)」画面が表示されます。

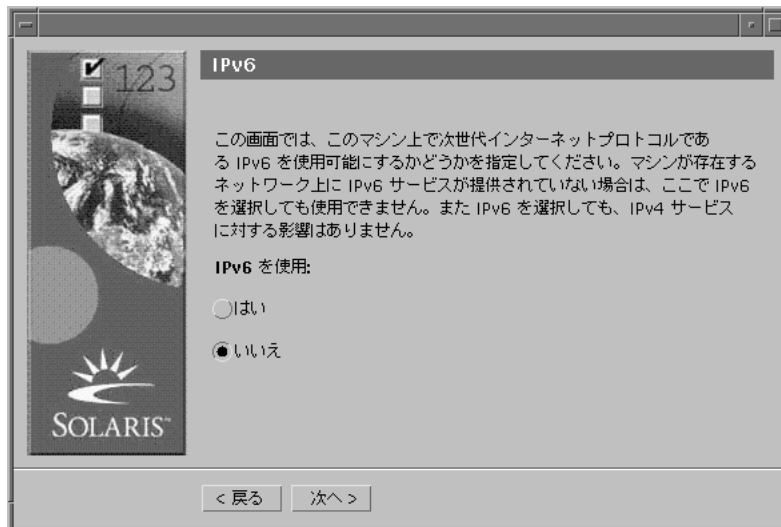


- 接続されている場合は、「する (Networked)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
「DHCP」画面が表示されます。



4. 46ページの手順3で「する (Networked)」を
 - 選択しなかった場合は、48ページの手順7に進みます。
 - 選択した場合は、次の手順に進みます。
5. ネットワークインタフェースの構成に **DHCP** を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックし、48ページの手順7に進みます。
 - 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 「IPv6」画面が表示されます。

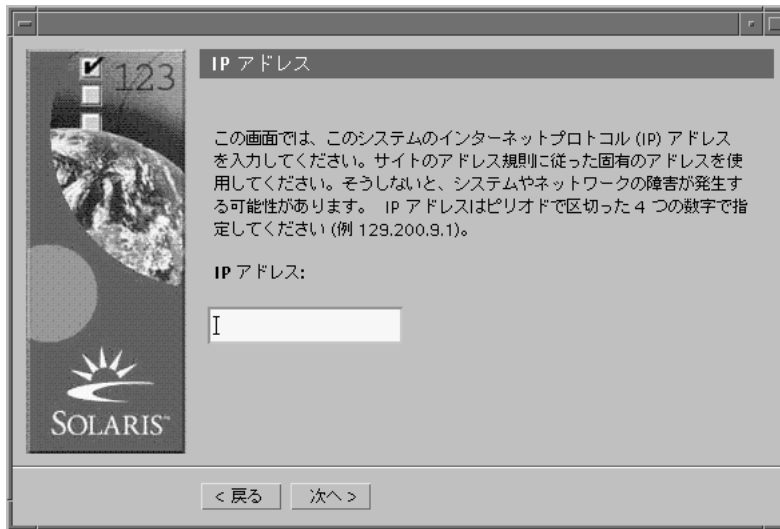


6. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックし、52ページの手順11に進みます。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックし、52ページの手順11に進みます。

7. 「ホスト名 (Host Name)」画面に必要なホスト名を入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

46ページの手順3で「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面から「する (Networked)」を選択している場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面が表示されます。

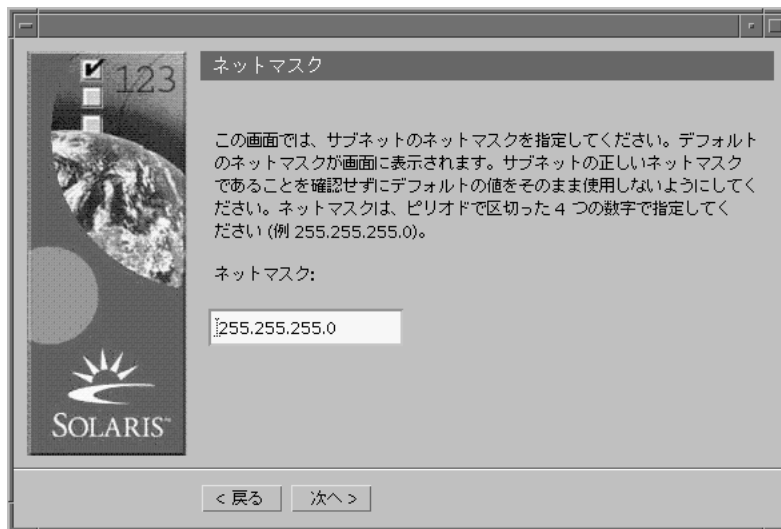


46ページの手順3で「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面から「しない (Non-networked)」を選択していると、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。

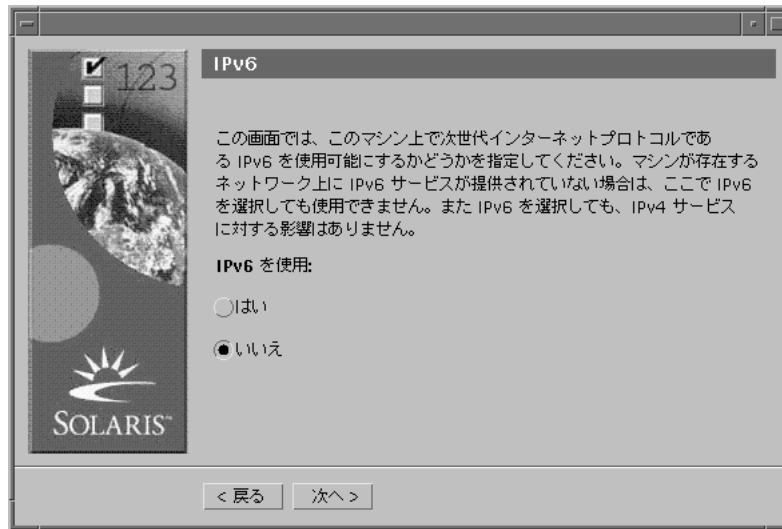


8. 使用するシステムはネットワークに接続されているか確認します。「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「する (Networked)」を

- 選択しなかった場合は、56ページの手順 15 に進みます。
 - 選択した場合は、ネットワークインタフェースの構成に DHCP を使用すると指定したか確認します。「DHCP」画面で「はい (Yes)」を
 - 選択した場合は、52ページの手順 11 に進みます。
 - 選択しなかった場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面で、ネットワークに接続されているこのシステムの IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 「ネットマスク (Netmask)」画面が表示されます。



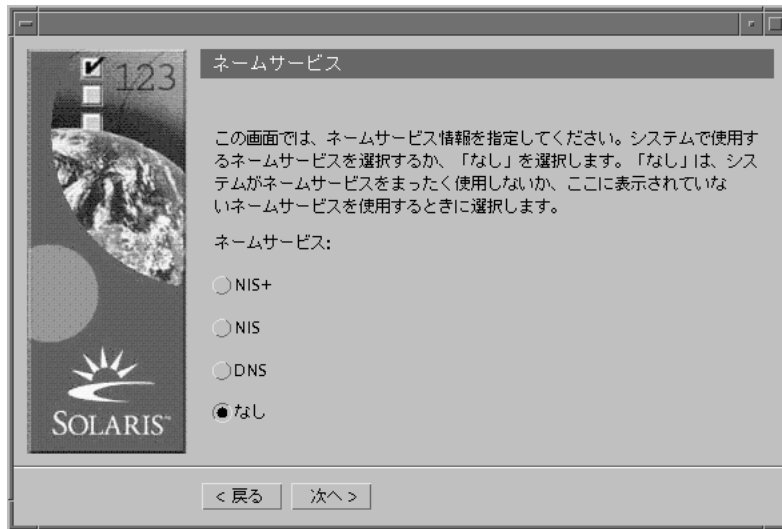
9. 必要なネットマスクを入力するか、デフォルトのネットマスクを変更せずに「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 「IPv6」画面が表示されます。



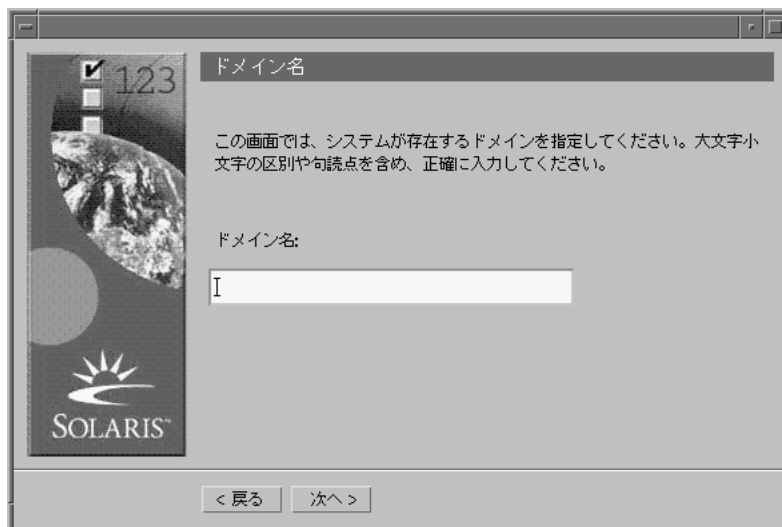
10. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

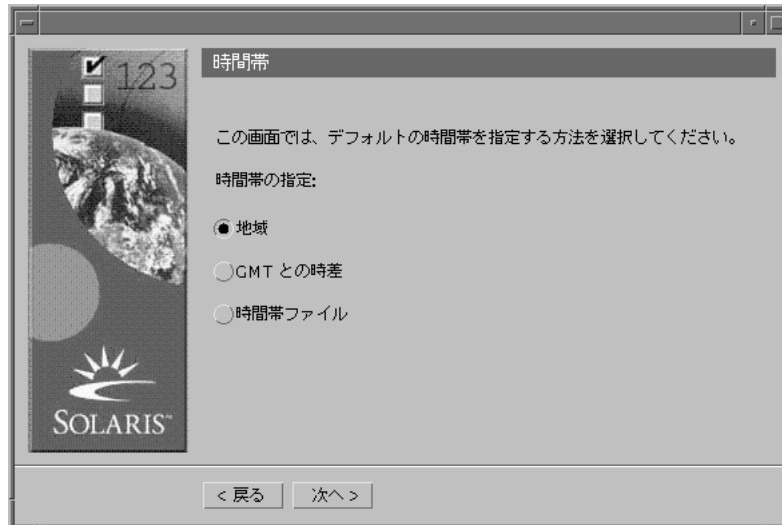
「ネームサービス (Name Service)」画面が表示されます。



11. そのシステムで使用するネームサービスを選択するか、ネームサービスを使用しない場合は「なし (None)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
NIS+、NIS、または DNS を選択すると、「ドメイン名 (Domain Name)」画面が表示されます。



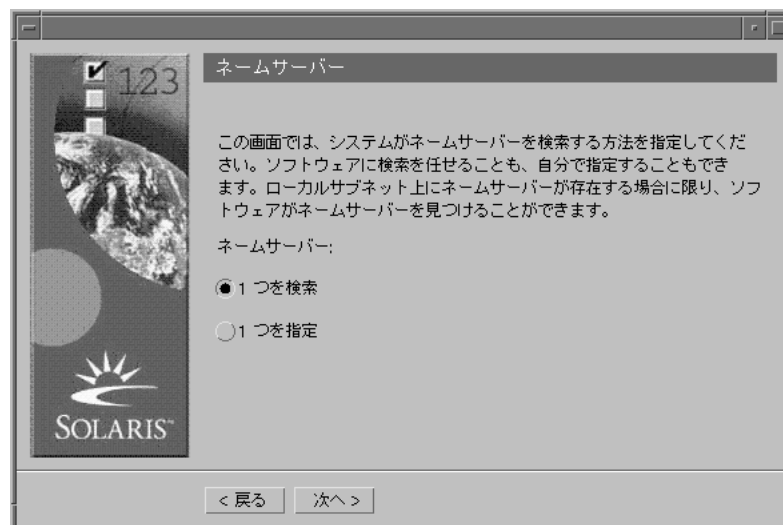
「なし (None)」を選択すると、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。



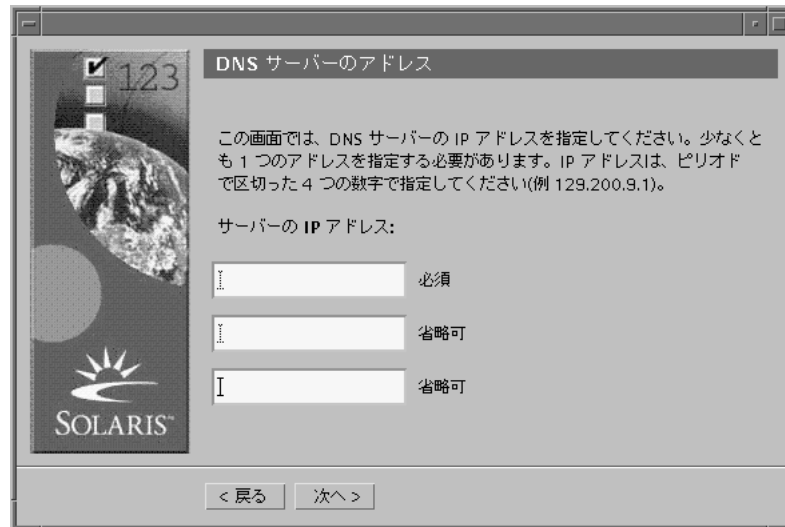
12. 52ページの手順 11 で「なし (None)」を

- 選択した場合は、56ページの手順 15 に進みます。
- 選択しなかった場合は、そのシステムが属するドメイン名を入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

NIS+ か NIS を選択した場合は、「ネームサーバー (Name Server)」画面が表示されます。

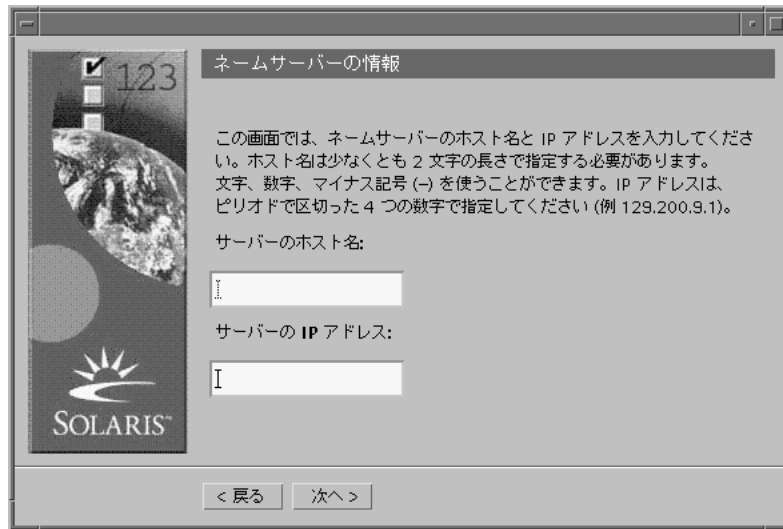


DNS を選択した場合は、「DNS サーバーのアドレス (DNS Server Address)」画面が表示されます。

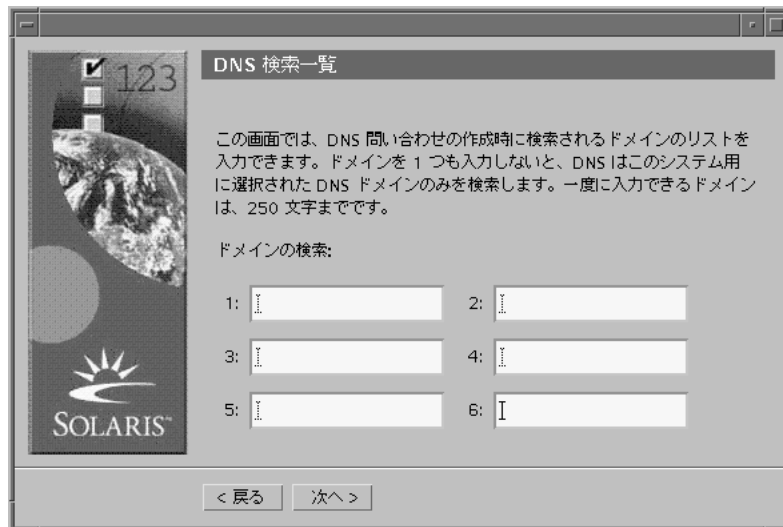


13. 使用するネームサービスとして

- NIS+ か NIS を選択した場合は、「1 つを検索 (Find one)」または「1 つを指定 (Specify one)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
 - 「1 つを検索 (Find one)」を選択した場合は、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。
 - 「1 つを指定 (Specify one)」を選択した場合は、「ネームサーバーの情報 (Name Server Information)」画面が表示されます。



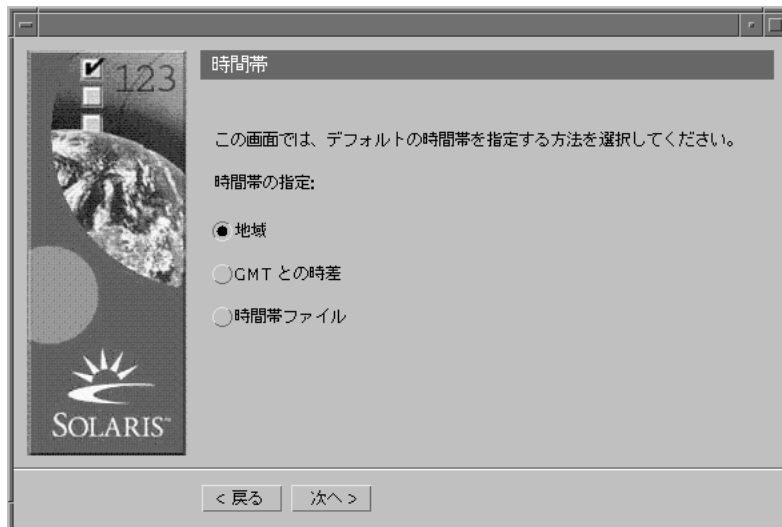
- DNS を選択した場合は、必要な DNS サーバー (1 つまたは複数) の IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
「DNS 検索一覧 (DNS Search List)」画面が表示されます。



14. 使用するネームサービスとして

- NIS+ か NIS を選択した場合は、「ネームサーバーの情報 (Name Server Information)」画面にネームサーバーのホスト名と IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

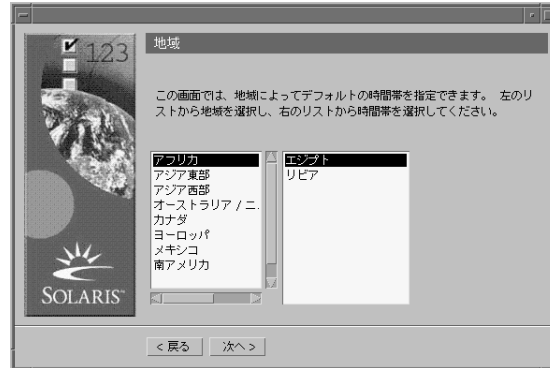
- DNS を選択した場合は、DNS 問い合わせの作成時に検索されるドメイン (1 つまたは複数) 名を入力し (ある場合)、「次へ > (Next >)」をクリックします。「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。



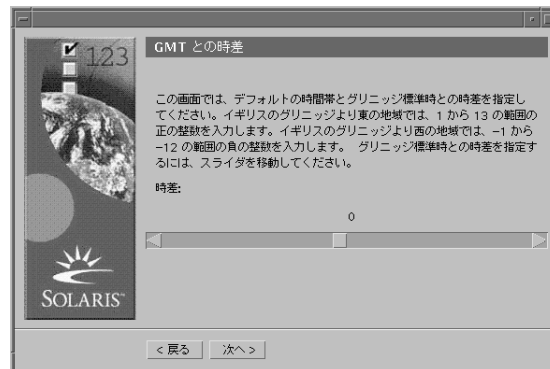
15. デフォルトの時間帯を指定する方法を「時間帯 (Time Zone)」画面で選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
選択に従って、「地域 (Geographic Region)」、「GMT との時差 (Offset From GMT)」、「時間帯ファイル (Time Zone File)」のどれかの画面が表示されます。
16. 次の表に従い、デフォルトの時間帯を指定します。

選択した時間帯

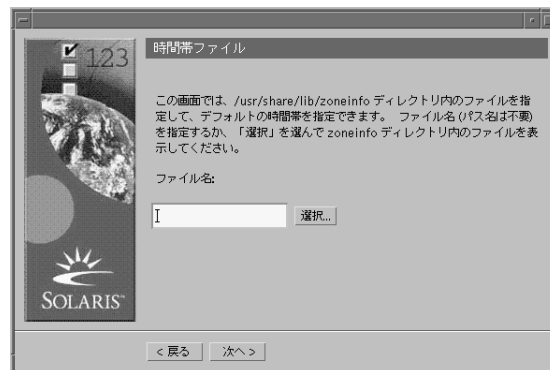
指定方法



左のリストから地域を選択し、右のリストから時間帯を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。



スライダを左 (イギリスのグリニッジより西の地域) または、右 (イギリスのグリニッジより東の地域) へ動かし、「次へ > (Next >)」をクリックします。

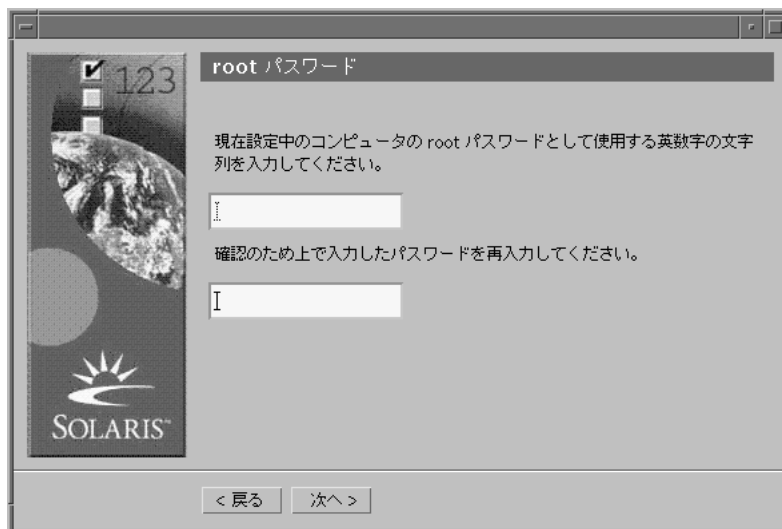


`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリにあるファイル名を指定するか、「選択 (Select)」を選択してこのディレクトリからファイルを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「日付と時刻 (Date and Time)」画面が表示されます。

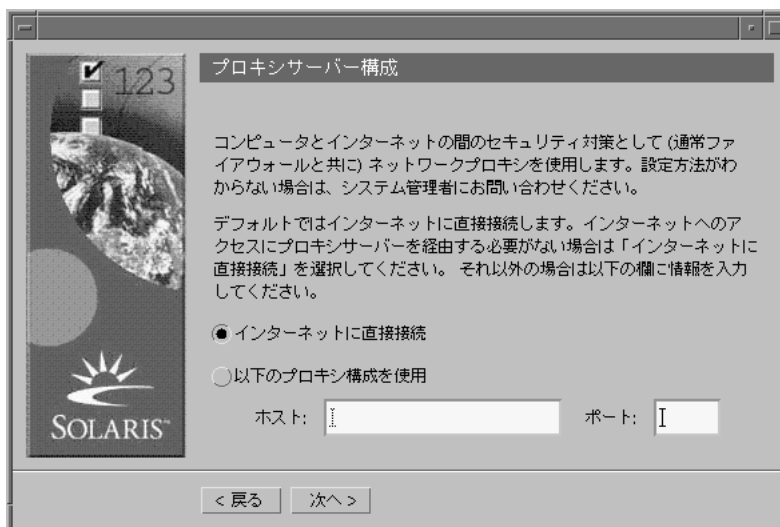


17. 必要に応じて日付と時刻を変更し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
「root パスワード (Root Password)」画面が表示されます。



18. スーパーユーザーのパスワードに使用する英数字の文字列を両フィールドに入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「プロキシサーバー構成 (Proxy Server Configuration)」画面が表示されます。



19. インターネットへのアクセスに

- プロキシサーバーを経由しない場合は、「インターネットに直接接続 (Direct connection to the Internet)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- プロキシサーバーを経由する場合は、「以下のプロキシ構成を使用 (Use Proxy Configuration Below)」を選択し、このシステムが使用するプロキシサーバーのホスト名とポートを指定し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。



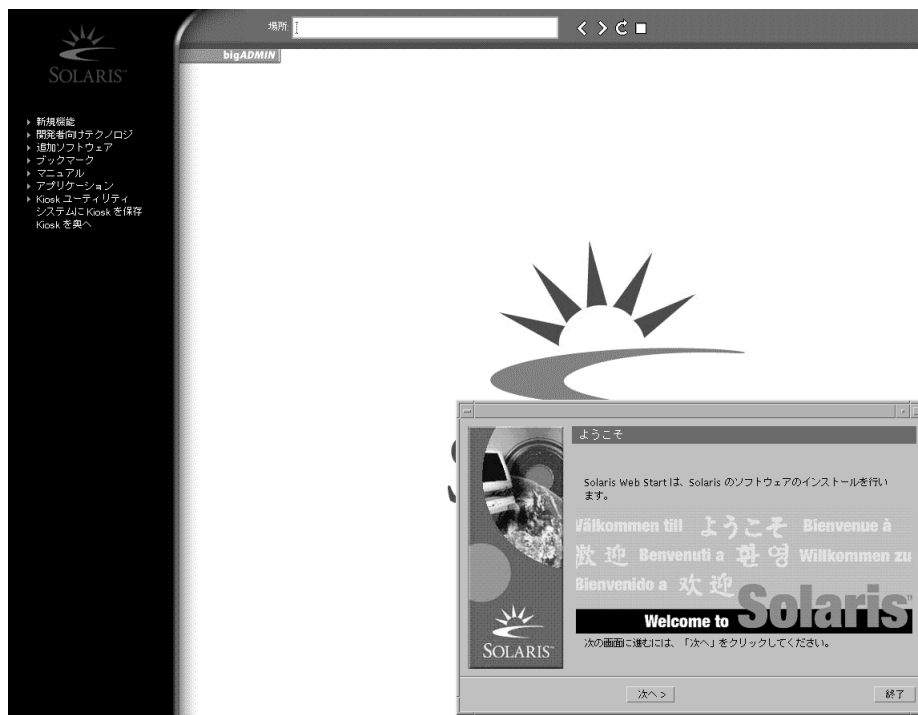
20. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面の情報が

- 正しくない場合は、情報を訂正できる画面が表示されるまで「< 戻る (< Back)」をクリックします。
- 正しい場合は、「確認 (Confirm)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面に次のメッセージが表示されます。

指定した設定でシステムが構成されるのをお待ちください...

「Solaris Web Start の Kiosk」が起動し、「抽出中 (Extracting)」画面が表示されてから「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。



注 - これ以降、「Kiosk」メニューに表示されているリンクはどれでもクリックできます。

場合によっては、「Kiosk」によって画面が隠れてしまうことがあります。

「Kiosk」メニューの上に画面を表示するには、「Kiosk を奥へ (Send Kiosk to Background)」をクリックします。

注 - Solaris ソフトウェアをインストールした後に Kiosk を使用するには、「システムに Kiosk を保存 (Save Kiosk on System)」をクリックして、使用するシステムに Kiosk をコピーする必要があります。Kiosk は、システムの /var/sadm/webstart/kiosk ディレクトリに置かれます。さらに、Kiosk を使用するために以下を行います。

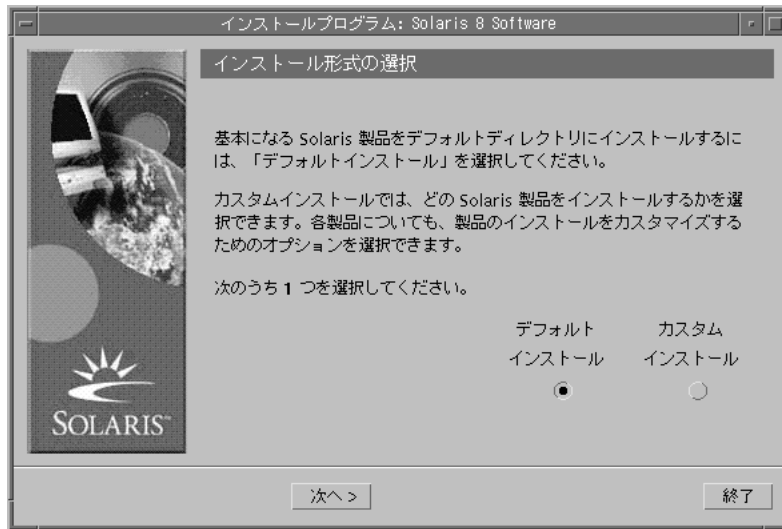
- Netscape™ Communicator 4.7 を使用する。
 - Netscape から /var/sadm/webstart/kiosk/index.html を開く。
 - CDE のスタイルマネージャの「ウィンドウ (Window)」で「ポインタでウィンドウをアクティブに (Point In Window To Make Active)」を選択し、「アクティブにしたウィンドウを手前に (Raise Window When Made Active)」の選択を解除する。
-

▼ Solaris をインストールする方法

1. 「ようこそ (Welcome)」画面で「次へ > (Next >)」をクリックします。
Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) が取り出され、「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。



2. トレイまたはキャディ式 **CD-ROM** ドライブから **CD** を取り出し、**Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** を置きます。
3. トレイまたはキャディを挿入して、「**CD を挿入 (Insert CD)**」画面の「**了解 (OK)**」をクリックします。
「CD を読み取り中... (Reading CD...)」画面が表示され、次に「初期化中... (Initializing...)」画面が表示され、その後「インストール形式の選択 (Select Type of Install)」画面が表示されます。



4. インストールの種類を選択します。

- デフォルトインストールを行う場合は、「デフォルトインストール (Default Install)」を選択して「次へ> (Next >)」をクリックし、73ページの手順 19 に進みます。
- カスタムインストールを行う場合は、「カスタムインストール (Custom Install)」を選択し、「次へ> (Next >)」をクリックします。

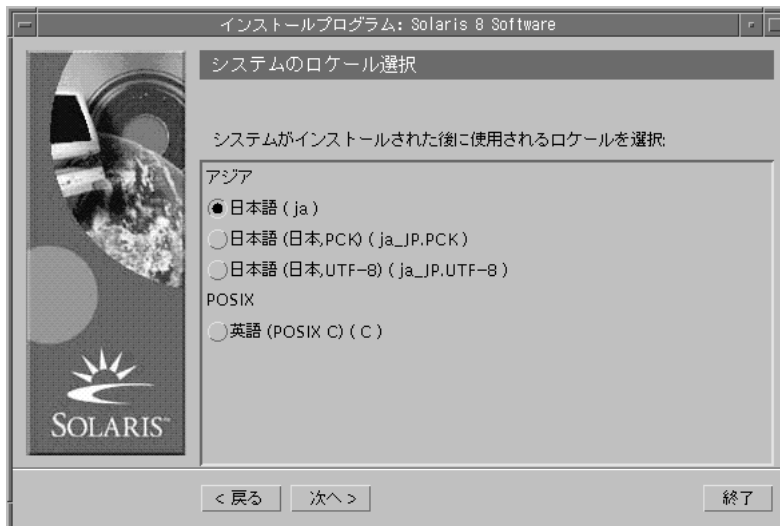
注 - カスタムインストールでは、Solaris の同梱の製品や Sun 以外の製品を CD、ローカルファイルシステム、またはネットワークファイルシステムからインストールしたり、Kiosk に表示された Web ページからダウンロードしてインストールしたりすることができます。

「ソフトウェアのロケール選択 (Select Software Localizations)」画面が表示されます。



5. 英語に加えてインストールする地域とロケールを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「システムのロケール選択 (Select System Locale)」画面が表示されます。



6. **Solaris** をインストールした後、最初に使用するロケールを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

注 - インストールする言語として Japanese (日本語) を選択した場合、デフォルトでは日本語 (ja) が選択されます。

「製品の選択 (Select Products)」画面が表示されます。



7. **Solaris 8** に加えてインストールする製品を選択 (複数選択可) し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

注 - 製品を選択すると、製品の説明がある場合は表示されます。

「追加製品の指定 (Additional Products)」画面が表示されます。



8. 同梱のソフトウェア製品や **Sun** 以外のソフトウェア製品をインストールするかどうかを指定します。これらの製品は、**Solaris Web Start** を使ってインストールできなければなりません。
- インストールしない場合は、「なし (None)」を選択して「次へ > (Next >)」をクリックし、69ページの手順 12 に進みます。
 - インストールする場合は、「製品 CD (Product CD)」、「Kiosk ダウンロード (Kiosk Download)」、または「ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム (Local or Network File System)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
 - 「製品 CD (Product CD)」を選択すると、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) が取り出され、「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。
 - 「Kiosk ダウンロード (Kiosk Download)」を選択すると、「Kiosk ダウンロード領域を走査して、Solaris Web Start でインストールできる製品を検索しています... (Scanning Kiosk download area looking for Solaris Web Start Ready products...)」画面が表示されます。Solaris Web Start が Kiosk ダウンロード領域 (/webstart/kiosk/download) の走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示され、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

- 「ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム (Local or Network File System)」を選択すると、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面が表示されます。



9. 67ページの手順 8 で選択した追加製品のソースが

- 製品 CD の場合は、トレイまたはキャディから Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を取り出し、必要な製品 CD を入れ、「CD を挿入 (Insert CD)」画面の「了解 (OK)」をクリックします。

「CD を走査中... (Scanning CD...)」画面が表示されます。Solaris Web Start が製品 CD の走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示され、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

- Kiosk ダウンロードの場合は、次の手順に進みます。
- ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステムの場合は、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面にファイルシステムへのパスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「Kiosk ダウンロード領域を走査して、Solaris Web Start でインストールできる製品を検索しています... (Scanning Kiosk download area looking for Solaris Web Start Ready products...)」画面が表示され、Solaris Web Start がファイルシステムの走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示さ

れ、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

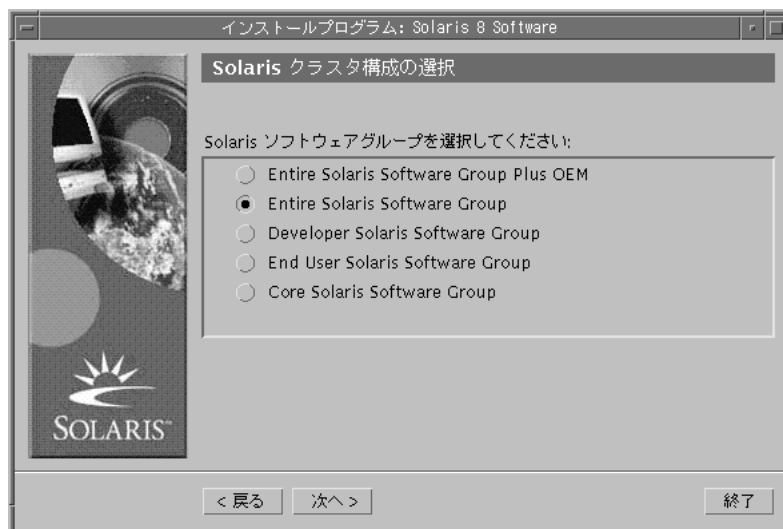
10. 「製品の選択 (Select Products)」画面で、インストールする製品を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

注 - 製品を選択すると、製品の説明がある場合は表示されます。

「追加製品の指定 (Additional Products)」画面が表示されます。

11. 追加製品を製品 **CD** からインストールすると

- 指定しなかった場合は、次の手順に進みます。
- 指定した場合は、トレイまたはキャディから製品 CD を取り外し、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を入れ、「了解 (OK)」をクリックします。
「CD を読み取り中... (Reading CD...)」画面が表示され、その後「Solaris クラスタ構成の選択 (Select Solaris Cluster Configuration)」画面が表示されます。



12. インストールする **Solaris** ソフトウェアグループを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「ディスクの選択 (Disk Selection)」画面が表示されます。



13. ファイルシステムを配置するディスク (1 つ以上) を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「必要なディスク容量を算出します (Gathering Disk Space Requirements)」画面が表示され、続いて「変更 (Modify)」ボタンが付いた「ファイルシステムの配置 (Lay Out File Systems)」画面が表示されます。



14. ディスクのファイルシステムの配置を

- 変更しない場合は、73ページの手順 19 に進みます。
- 変更する場合は、必要なディスクまたはファイルシステム (Disk/File System) を強調表示し、「変更 (Modify)」ボタンをクリックします。
「ディスク (Disk)」画面が表示されます。



注 - ディスク上の特定のファイルシステムを強調表示して「変更 (Modify)」ボタンをクリックした場合も「ディスク (Disk)」画面に表示されているファイルシステムはどれでも変更できます。

15. 指定するサイズの単位として

- シリンダを使用する場合は、「Cyl」をクリックします。
サイズはシリンダ単位で表示されます。
- メガバイト (デフォルト) を使用する場合は、次の手順に進みます。

注 - サイズがシリンダ単位で表示されているときに、サイズの変更をメガバイト単位で指定したい場合は「MB」をクリックします。

16. 「ディスク (Disk)」画面で必要な変更を行います。

注 - 変更の適用と保存を行い、さらに処理を継続する場合は、「適用 (Apply)」をクリックします。まだ適用していない変更をすべて破棄する場合は、「リセット (Reset)」をクリックします。変更の適用と保存を行い、画面を閉じる場合は、「了解 (OK)」をクリックします。

17. 変更を終了したら、「了解 (OK)」をクリックします。

「ディスク (Disk)」画面が閉じます。

18. ファイルシステムの配置を変更し終わったら、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「インストールの準備完了 (Ready to Install)」画面が表示されます。



19. 「インストールの準備完了 (Ready to Install)」画面で「インストール開始 (Install Now)」をクリックします。

「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。



ステータスメッセージと、Solaris ソフトウェアに追加されるパッケージ名が最初の進捗バー上の角かっこ内に表示されます。インストール全体のステータスが下の進捗バーに表示されます。

Solaris 8 パッケージの詳細なリストは、付録 A、付録 B、付録 C を参照してください。

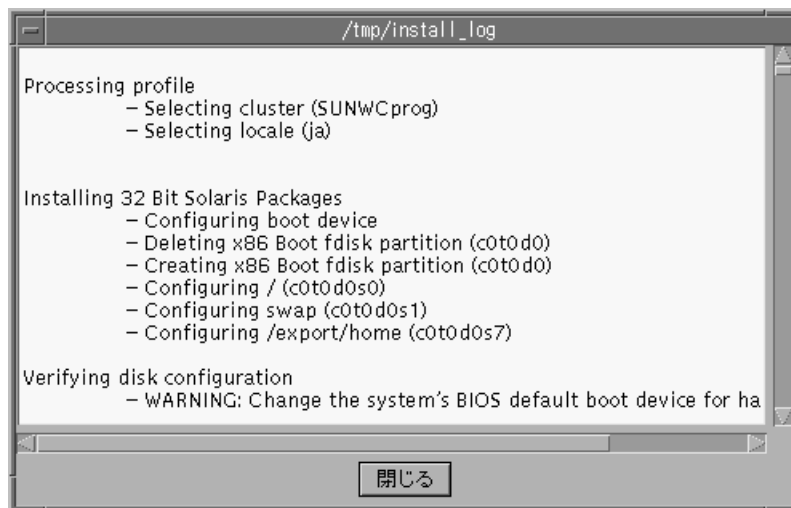
注 - インストールには時間がかかりますが、実際の時間はインストールするソフトウェアグループ、容量の再割り当てが必要な場合はその時間、ネットワークまたはローカルの CD-ROM ドライブの速度によって異なります。

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から Solaris 8 ソフトウェアをインストールし終わると CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。



20. システムに何がインストールされたかを示すログファイルを

- 参照しない場合は、76ページの手順 23 に進みます。
- 参照する場合は、製品の「詳細 (Details)」ボタンをクリックします。
「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面の上にログファイル表示用の新しい画面が表示されます。



21. ログファイルの確認が終了したら、「閉じる (Dismiss)」をクリックします。
ログファイル表示用画面が閉じます。

22. 「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面の「次へ > (Next >)」をクリックします。

- CD-ROM ドライブに CD が入っている場合は取り出されます。
- 追加ソフトウェアが必要な場合は、次のような「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。



- 追加ソフトウェアがない場合は、「リブート (Reboot)」画面が表示されます。



23. 追加ソフトウェアが

- 必要ない場合は、78ページの手順 26 に進みます。
- 必要な場合は、追加ソフトウェアの媒体を指定します。
 - 媒体が CD の場合は、「CD」をクリックし、「次へ> (Next >)」をクリックします。
「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。
 - 媒体がネットワークファイルシステムの場合は、「ネットワークファイルシステム (Network File System)」を選択し、「次へ> (Next >)」をクリックします。
「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面が表示されます。



24. 追加ソフトウェアの媒体として

- CD を選択した場合は、「CD を挿入 (Insert CD)」画面で指定された CD を挿入し、「了解 (OK)」をクリックします。
「CD を読み取り中... (Reading CD...)」、「インストールプログラムを起動中... (Launching Installer...)」、「抽出中... (Extracting...)」画面の順に表示された後、「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。CD からのインストールが終わると、CD-ROM ドライブから CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。

- ネットワークファイルシステムを選択した場合は、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面にファイルシステムへのパスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「CD を読み取り中... (Reading CD...)」、「インストールプログラムを起動中... (Launching Installer...)」、「抽出中... (Extracting...)」画面の順に表示された後、「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。CD からのインストールが終わると、CD-ROM ドライブから CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。

25. 76 ページの手順 22 から始まる手順を繰り返します。

26. 「リブート (**Reboot**)」画面の「リブートする (**Reboot Now**)」をクリックします。

27. リブート後、ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインします。
Solaris デスクトップ (CDE または OpenWindows™) を選択する画面が表示される場合があります。

28. 使用する **Solaris** デスクトップを選択し、「了解 (**OK**)」をクリックします。
数秒後に、選択した Solaris デスクトップが表示されます。

29. **Solaris 8** をインストールしたシステムで **Netscape Communicator** と **OpenWindows** を

- 使用しない場合は、これで手順は終了です。
- 使用する場合は、任意のテキストエディタを使ってシステムの `.cshrc` ファイルを開き、Netscape Communicator がインストールされているディレクトリを `PATH` 環境変数に追加します。
たとえば、Netscape Communicator がデフォルトディレクトリにインストールされている場合は、`PATH` 環境変数に `/opt/NSCPcom` を追加します。

注 - OpenWindows 上で Netscape Communicator を使用する場合は、そのバイナリファイルを見つけるために、`PATH` 環境変数に `NSCPcom` がインストールされているディレクトリが含まれていなければなりません。

インストールサーバーを使った **Solaris Web Start** の使用

Solaris Web Start を使って Solaris ソフトウェアをインストールする場合は、通常システムの CD-ROM ドライブを使用します。しかし、ネットワークを介して Solaris をインストールすることもできます。この場合には「インストールサーバー」という Solaris ソフトウェアのイメージを格納するマシンを設定する必要があります。このイメージがネットワークを介して他のコンピュータに転送されます。

インストールサーバーの設定とネットワークを介した Solaris のインストールについては、『Solaris 8 のインストール (上級編)』を参照してください。

既存のオペレーティングシステムとユーザーデータの保存

Intel 32 ビットプロセッサアーキテクチャ (IA) に基づくシステムには、Microsoft Windows、Microsoft Windows NT、OS/2、他の UNIX などのオペレーティングシステムが 1 つまたは複数プリインストールされていることがあります。

これらのプリインストールされたオペレーティングシステムは、普通ディスクのパーティションを使用します。パーティションには、壊されたくないデータを格納します。既存のオペレーティングシステムと Solaris オペレーティング環境を同じシステムに維持する場合は、Solaris ソフトウェアを格納するために fdisk パーティションを別に作成する必要があります。

注 - Solaris Web Start を使って、Solaris 7 やそれ以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start が、以前のバージョンとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです (10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です)。

したがって、Solaris Web Start の代わりに Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。このプログラムの詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。

パーティションへの Solaris のインストール

この章では、Solaris 8 対話式インストールプログラムを使って Solaris ソフトウェア用の `fdisk` パーティションを作成し、それによって、ディスクにある既存のオペレーティングシステムやユーザーデータを保存する方法について説明します。

Solaris 8 対話式インストールプログラムの使い方

Solaris 8 対話式インストールプログラム (および Device Configuration Assistant) は、2つの方法で使用できます。

- グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) では、ローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、ビデオアダプタ、キーボード、およびモニターが必要です。
- キャラクターユーザーインターフェース (CUI) では、ローカルかリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、キーボード、およびモニターが必要です。Solaris 8 対話式インストールプログラムのキャラクターユーザーインターフェースは、`tip(1)` 接続で実行できます。

手順の内容や順序は、わずかな違いを除けば、どちらのユーザーインターフェースでもほとんど同じです。

どちらのインターフェースが使用されるかの基準

Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムにビデオアダプタがあることを検出するとグラフィカルユーザーインターフェースを使用し、ビデオアダプタがないとキャラクターユーザーインターフェースを使用します。

▼ Solaris 用の `fdisk` パーティションを作成する方法 (構成)

1. インストールされているオペレーティングシステムのマニュアルを参照して、**Solaris** オペレーティング環境を同じシステムで使用できるか確認します。
2. **Solaris** オペレーティング環境をインストールするパーティションに、保存が必要なデータが
 - 含まれていない場合は、次の手順に進みます。

- 含まれている場合は、バックアップユーティリティを使ってデータを記憶媒体に保存します。

3. Linux オペレーティングシステムを

- 使用しない場合は、次の手順に進みます。
- 使用する場合は、Solaris fdisk パーティションと Linux swap パーティションは同じ識別子 (0x83) を使用するため、次の作業が必要です。
 - スワップ領域を使用しないように選択する (十分なメモリーがある場合)
 - Linux swap パーティションを別のドライブにおく
 - 記憶媒体上に保存したい Linux データをバックアップして、Solaris オペレーティング環境をインストールした後 Linux を再インストールする



注意 - Solaris オペレーティング環境の後に Linux をインストールする場合、Linux インストールプログラムが Linux swap パーティション (実際には Solaris fdisk パーティション) を swap ファイルとしてフォーマットするかどうかを尋ねられたら no と入力します。

4. tip(1) ラインで接続されているシステムに Solaris ソフトウェアを

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。
- インストールする場合は、ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あることを確認します。

注 - tip ウィンドウの現在のサイズを調べるには、stty(1) コマンドを使用してください。

5. システムの CD-ROM ドライブを使用して、システムに Solaris 8 のソフトウェアを

- インストールしない場合は、84ページの手順 8 に進みます。
- インストールする場合は、次の手順に進みます。

6. システムに CD からブートする機能が

- ある場合は、システムの BIOS 設定ツールを使用して機能が有効になっていることを確認します。

- ない場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをシステムのフロッピードライブに挿入します。

注 - <http://soldc.sun.com/support/drivers> にある Solaris Driver Connection から Solaris 8 Device Configuration Assistant (Intel 版のみ) をダウンロードできます。

注 - 1997 年以降製造されたほとんどの IA マザーボード上の BIOS は、E1 Torito 標準をサポートするため、CD-ROM ドライブをブートデバイスとして認識します。

7. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。
8. システムをシャットダウンし電源を切ってから、また入れ直してシステムをブートします。
メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。
 - Solaris 8 Device Configuration Assistant を使用してブートした場合、次のメッセージが画面の一番上に表示されます。

Solaris Boot Sector	Version 1
---------------------	-----------

下記のような情報が表示されます。

Solaris for x86 - FCS DCB	Version 1.242
loading /solaris/boot.bin	

画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
```

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) からブートした場合、次のメッセージが画面の一番上に表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

次に下記のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
```

9. 「**Solaris Device Configuration Assistant**」画面が表示されたら、F2 キーを押します。

「Bus Enumeration」画面が次のメッセージとともに表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「Scanning Devices」画面が表示され、システムデバイスが走査されます。走査が完了すると、「Identified Devices」画面が表示されます。

10. F2 キーを押します。

「Loading」画面とともに、システムをブートするためにロードされるドライバについてのメッセージが表示されます。数秒後、Boot Solaris 画面が表示されます。

11. 「**Boot Solaris**」画面で「**CD**」を選択し、F2 キーを押します。

「Running Driver」画面が表示され、その後、次のような情報が表示されます。

```

<<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/sd@0,0:a
Boot args: kernel/unix

Select the type of installation you want to perform:

    1 Solaris Interactive
    2 Custom JumpStart

Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.

If you enter anything else, or if you wait for 30 seconds,
an interactive installation will be started.

Select type of installation:
```

- 12.1 を入力して Enter キーを押すか、または 30 秒ほど待ちます。
次のような情報が表示されます。

```

<<< starting interactive installation >>>

Booting kernel/unix...
SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
Stand by...
```

数秒後、言語の選択メニューが表示されます。

13. プロンプト、メッセージ、およびその他のインストール情報を表示するための言語を示す番号を入力します。

ロケールのメニューが表示されます。

14. インストールに使用するロケールを示す番号を入力します。

数秒後、「The Solaris Installation Program」画面が表示されます。

15. F2 キーを押します。

「kdmconfig – Introduction」画面が表示されます。

16. F2 キーを押します。
「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示されま
す。
17. 「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面上の構成情
報を確認し、必要ならば変更を行います。
18. 変更が終了したら「No changes needed - Test/Save and Exit」を選択し、F2
キーを押します。
「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が表示されます。
19. F2 キーを押します。
画面が再表示され、ウィンドウ構成テスト用パレットとパターン画面が表示され
ます。
20. ポインタを移動したり、ボタンをクリックしたりしてパレットの上に表示された
色が正しく表示されることを確認します。
21. ウィンドウ構成テスト用パレットとパターン画面が
 - 正しく表示されなかった場合は、「No」をクリックする(可能な場合)、任意
のキーを押す、あるいは何もしないで、kdmconfig がウィンドウ構成テスト
用の画面を自動的に終了するまで待ちます。次に、87ページの手順 17 から 87
ページの手順 21 までを、色が正しく表示されポインタを自由に移動でき
るようになるまで繰り返します。
 - 正しく表示された場合は、「Yes」をクリックします。
OpenWindows デスクトップが起動し、「Solaris インストールコンソール
(Solaris Install Console)」ウィンドウには次のメッセージが表示されます。

```
The system is coming up. Please wait.
```

数秒後、「システムを確認してください (Identify This System)」画面が表示され
ます。
22. 「継続 (Continue)」をクリックします。
「セキュリティポリシーの構成 (Configure Security Policy)」画面が表示されま
す。
23. 使用するシステムで **Kerberos** セキュリティの構成を

- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
「Kerberos セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面が表示されます。
- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

24. 87ページの手順 23 で **Kerberos** セキュリティの構成を

- 選択しなかった場合は、次の手順に進みます。
- 選択した場合は、「Kerberos セキュリティの構成 (Configure Kerberos Security)」画面に入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

25. 「情報の確認 (**Confirm Information**)」画面の「継続 (**Continue**)」をクリックします。

- システムをすでにネットワークに接続して、Solaris 8 対話式インストールプログラムがシステムを完全に特定できる場合は、「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。
- システムを現在ネットワークに接続していないか、またはシステムを完全に特定できない場合、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、情報入力用の画面を表示します。はじめに表示されるのは「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面です。

26. **Solaris** 対話式インストールプログラムがシステムを完全に

- 特定できた場合は、93ページの手順 1 に進みます。
- 特定できなかった場合は、次の手順に進みます。

27. システムをネットワークに

- 接続していない場合は、「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、89ページの手順 30 に進みます。
- 接続している場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「DHCP」画面が表示されます。

28. DHCP を使用してネットワークインタフェースを

- 構成しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、89ページの手順 30 に進みます。
- 構成する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

29. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、90ページの手順 33 に進みます。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックし、90ページの手順 33 に進みます。

30. 「ホスト名 (Host Name)」画面で、ホスト名を入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

- システムをネットワークに接続している (つまり、88ページの手順 27 の「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「はい (Yes)」を選択した) 場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面が表示されます。
- システムをネットワークに接続していない場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

31. システムをネットワークに

- 接続していない場合は、91ページの手順 40 に進みます。
- 接続している場合、ネットワークインタフェースの構成に DHCP を使用するように指定した (つまり、89ページの手順 28 の「DHCP」画面で「はい (Yes)」を選択した) かを確認します。
 - DHCP を使用するよう指定した場合は、90ページの手順 33 に進みます。
 - DHCP を使用しないよう指定した場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面で、ネットワークに接続したシステムの IP アドレスを入力して「継続 (Continue)」をクリックします。

「IPv6」画面が表示されます。

32. IPv6 を

- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

33. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面の情報が

- 正しくない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、88ページの手順 27 からの手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ネームサービス (Name Service)」画面が表示されます。

34. 「ネームサービス (Name Service)」画面で、システムが使用するネームサービスまたは「なし (None)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。

- NIS、NIS+、または DNS を選択した場合は、「ドメイン名 (Domain Name)」画面が表示されます。
- 「なし (None)」を選択した場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

35. 90ページの手順 34 で「なし (None)」を

- 選択した場合は、91ページの手順 40 に進みます。
- 選択しなかった場合は、「ドメイン名 (Domain Name)」画面で、システムが存在するドメイン名を入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

 - NIS+ または NIS を選択した場合は、「ネームサーバー (Name Server)」画面が表示されます。
 - DNS を選択した場合は、「DNS サーバーアドレス (DNS Server Addresses)」画面が表示されます。

36. 使用するネームサービスが

- NIS+ または NIS の場合は、「検索 (Find one)」または「指定 (Specify one)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。

 - 「検索 (Find one)」を選択した場合は、「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

- 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、「ネームサーバー情報 (Name Server Information)」画面が表示されます。
- DNS の場合は、任意の DNS サーバーの IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「DNS 検索リスト (DNS Search List)」画面が表示されます。

37. 使用するネームサービスが

- NIS+ または NIS の場合、90ページの手順 36 で
 - 「検索 (Find one)」を選択した場合は、91ページの手順 40 に進みます。
 - 「指定 (Specify one)」を選択した場合は、サーバーのホスト名と IP アドレスを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「サブネット (Subnets)」画面が表示されます。
- DNS の場合は、DNS から問い合わせがあった時に検索する 1 つまたは複数のドメイン名を入力して「継続 (Continue)」をクリックし、91ページの手順 40 に進みます。

38. システムがサブネットの

- 一部である場合は、「はい (Yes)」を選択して「継続 (Continue)」をクリックします。
「ネットマスク (Netmask)」画面が表示されます。
- 一部ではない場合は、「いいえ (No)」を選択して 91ページの手順 40 に進みます。

39. 任意のネットマスクを入力して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

40. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に示された情報が

- 正しくない場合、システムがネットワークに
 - 接続していない場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、88ページの手順 27 からの手順を繰り返します。
 - 接続している場合は、「変更 (Change)」をクリックして情報が正しくなるまで、90ページの手順 34 からの手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。

41. 「時間帯 (Time Zone)」画面で、デフォルトの時間帯を指定する方法を選択して、「設定 (Set)」をクリックします。

選択した方法によって、「地域 (Geographic Region)」、「GMT との時差 (Offset From GMT)」、「時間帯ファイル (Time Zone File)」のいずれかの画面が表示されます。

42. 次の表に従って、次の作業を実行します。

選択した方法	作業
地域	左側のウィンドウで任意の地域、右側で時間帯を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
GMT との時差	スライダを左 (イギリスより西側の地域)、または右 (イギリスより東側の地域) にドラッグして、「継続 (Continue)」をクリックします。
時間帯ファイル	/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリ内のファイル名を指定するか、または「選択 (Select)」をクリックしてこのディレクトリ内のファイルを選択し、「継続 (Continue)」をクリックします。

「日付と時刻 (Date and Time)」画面が表示されます。

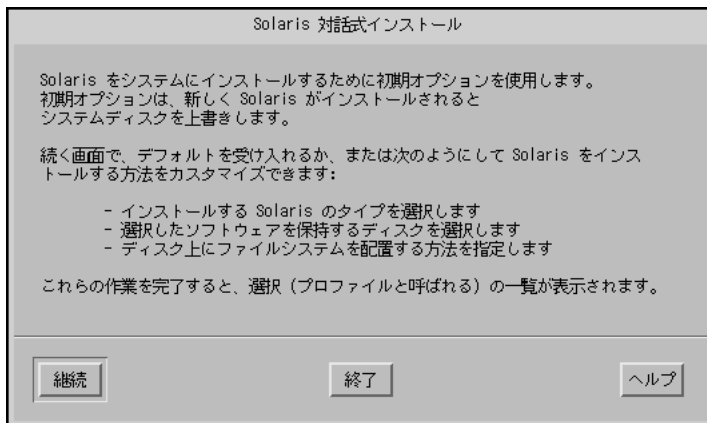
43. 必要であれば、日付と時刻を訂正して、「継続 (Continue)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。

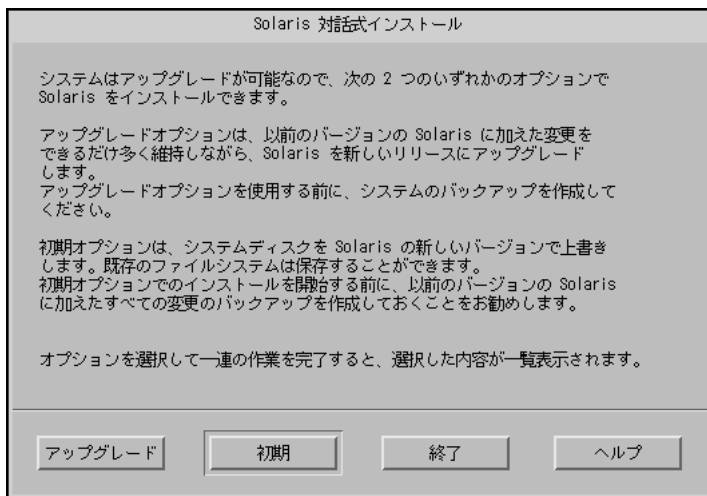
44. 「情報の確認 (Confirm Information)」画面に表示された情報が

- 正しくない場合は「変更 (Change)」をクリックして、情報が正しくなるまで、92ページの手順 41 から始まる手順を繰り返します。
- 正しい場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。

Solaris オペレーティング環境がシステムにインストールされていない場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。



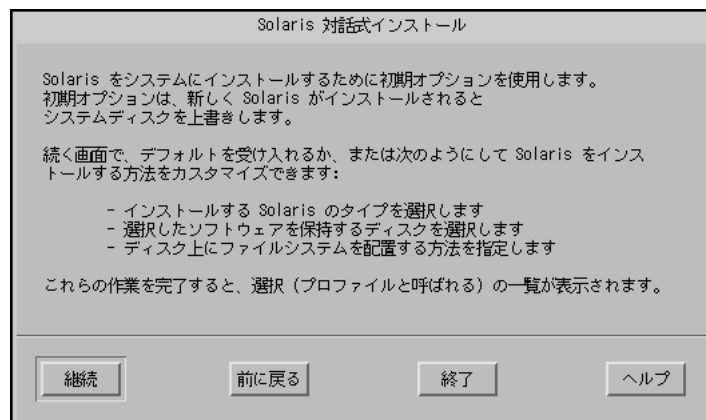
Solaris オペレーティング環境がシステムにすでにインストールされている場合は、次のような「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されます。



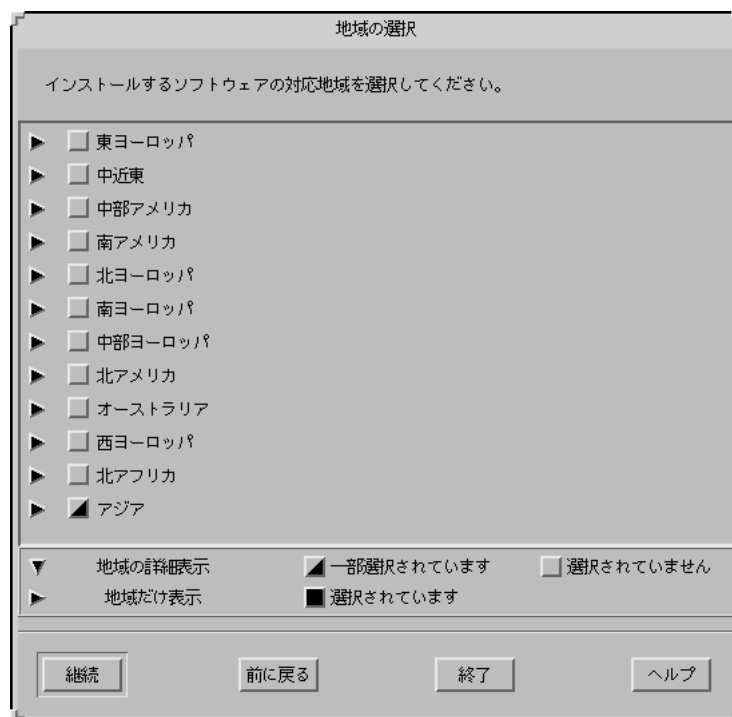
▼ Solaris 用の fdisk パーティションを作成する方法 (インストール)

1. 「Solaris 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面の「継続 (Continue)」か「初期 (Initial)」をクリックします。

- 「初期 (Initial)」 をクリックすると、同じ画面にさらに情報が表示されます。



- 「継続 (Continue)」 をクリックすると、「地域の選択 (Select Geographic Regions)」画面が表示されます。



2. 93ページの手順 1 で

- 「継続 (Continue)」 を選択した場合は、次の手順に進みます。

- 「初期 (Initial)」 を選択した場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
3. 「地域の選択 (Select Geographic Regions)」画面から、インストールするソフトウェアの地域 (1 つまたは複数) を選択し、「継続 (Continue)」をクリックします。
- 「ソフトウェアの選択 (Select Software)」画面が表示されます。

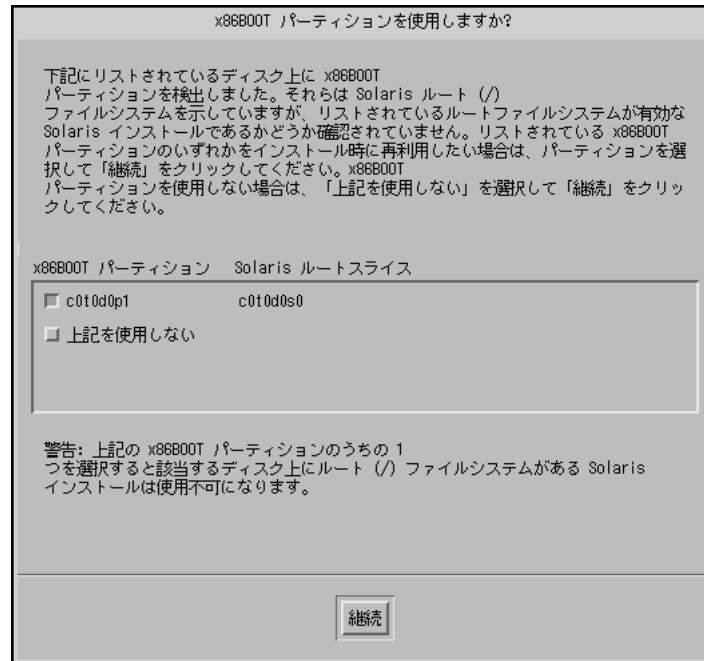


4. インストールするソフトウェアグループを選択します。
5. 手順 4 で選択したソフトウェアグループに対しソフトウェアクラスまたはパッケージの追加や削除を
- しない場合は、次の手順に進みます。

- する場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックし、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を使って、必要なソフトウェアクラスまたはパッケージの追加や削除を行います。

6. 「継続 (Continue)」をクリックします。

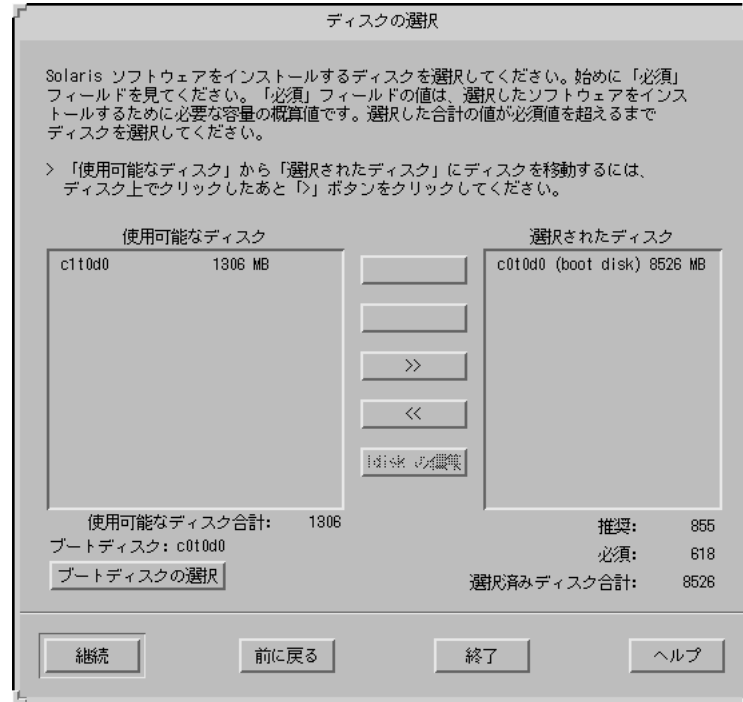
- システムディスクに IA ブートパーティションがあると、「x86BOOT パーティションを使用しますか? (Use x86boot partition?)」画面が表示されます。



注 - Solaris Web Start を使って、Solaris 7 やそれ以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start が、以前のバージョンとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです (10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です)。

したがって、Solaris Web Start の代わりに Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。このプログラムの詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。

- IA ブートパーティションがなければ、「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。



7. 96ページの手順 6 で、ディスクにブートパーティションがない場合は、次の手順に進みます。
 - ある場合は、再利用するブートディスクを選択するか「上記を使用しない (None of the above)」を選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。
8. 必要なディスクが「選択されたディスク (Selected Disks)」ウィンドウに表示されていない場合は、「使用可能なディスク (Available Disks)」ウィンドウで必要なディスクを強調表示して、「>」ボタンをクリックし、「選択されたディスク (Select Disks)」ウィンドウに表示します。
「fdisk の編集 (Edit fdisk)」ボタンが有効になります。
9. 「fdisk の編集 (Edit fdisk)」をクリックします。
「fdisk パーティションのカスタマイズ (Customize fdisk Partitions)」画面が表示されます。



10. 必要なパーティションについて、「パーティション (Partition)」の下のボタンを押して、プルダウンメニューから「Solaris」を選択します。

次のような警告メッセージが表示されます。

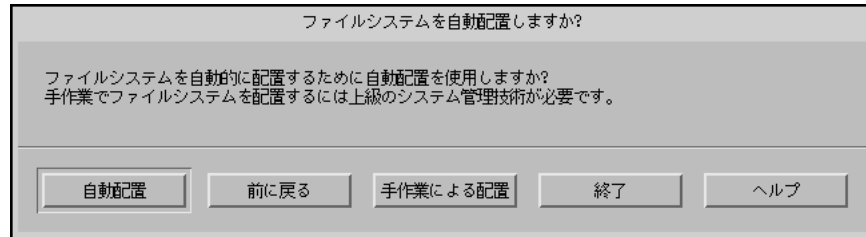
パーティションを変更すると、パーティション上の既存のデータが破棄されます。

11. 「了解 (OK)」をクリックします。

「fdisk パーティションのカスタマイズ (Customize fdisk Partitions)」画面が閉じ、「ディスクの選択 (Select Disks)」画面が表示されます。

12. 「継続 (Continue)」をクリックします。

- 選択したパーティションにすでにデータが含まれている場合は、「データを保存しますか? (Preserve Data?)」画面が表示されます。
- パーティションにデータがない場合は、「ファイルシステムを自動配置しますか? (Automatically Layout File Systems?)」画面が表示されます。

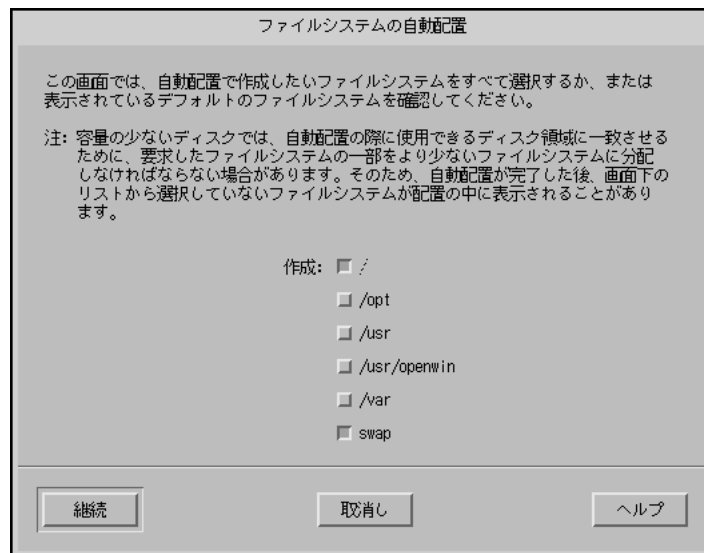


13. 「データを保存しますか? (Preserve Data?)」画面が

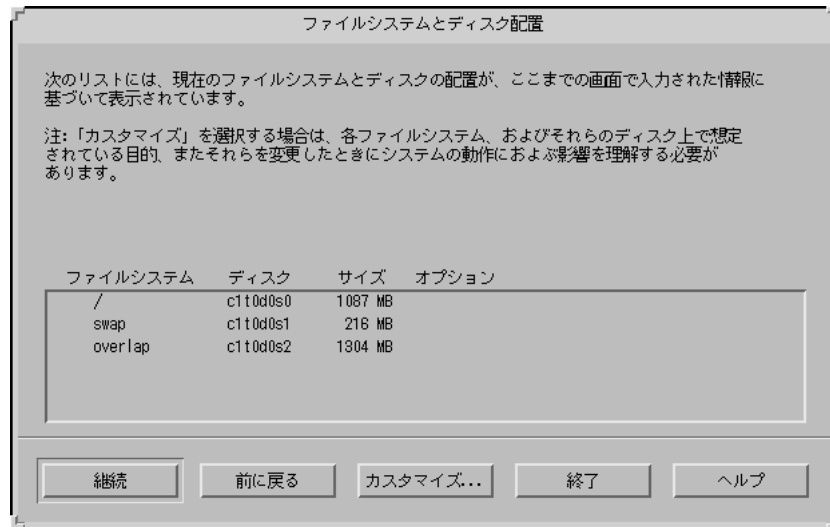
- 表示されていない場合は、99ページの手順 14 に進みます。
- 表示されている場合、パーティション内のデータを
 - 保存しない場合は、99ページの手順 14 に進みます。
 - 保存する場合は、「保存 (Preserve)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。

14. Solaris 8 対話式インストールプログラムで、ファイルシステムを自動的に

- 配置する場合は、「自動配置 (Auto Layout)」をクリックします。
「ファイルシステムの自動配置 (Automatically Layout File Systems)」画面が表示されます。



- 配置しない場合は、「手作業による配置 (Manual Layout)」をクリックします。
「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。

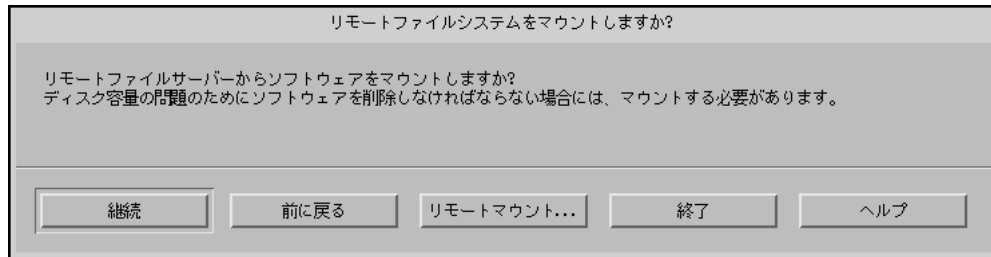


15. ファイルシステムを配置するために

- 「手作業による配置 (Manual Layout)」を選択した場合は、100ページの手順16に進みます。
- 「自動配置 (Auto Layout)」を選択した場合は、作成するファイルシステムを選択して、「継続 (Continue)」をクリックします。
「ファイルシステムとディスク配置 (File System and Disk Layout)」画面が表示されます。

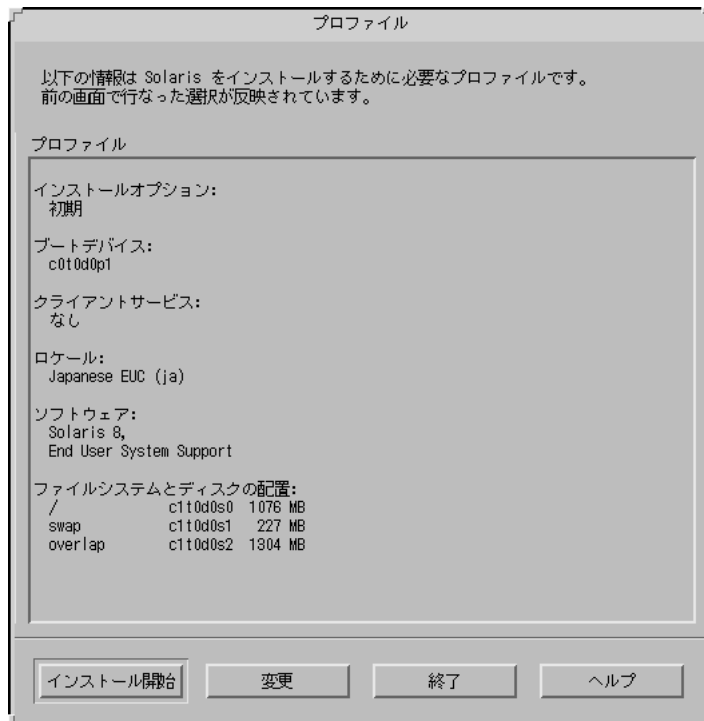
16. ファイルシステムおよびディスク配置を

- カスタマイズする場合は、「カスタマイズ (Customize)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- カスタマイズしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「リモートファイルシステムをマウントしますか? (Mount Remote File Systems?)」画面が表示されます。



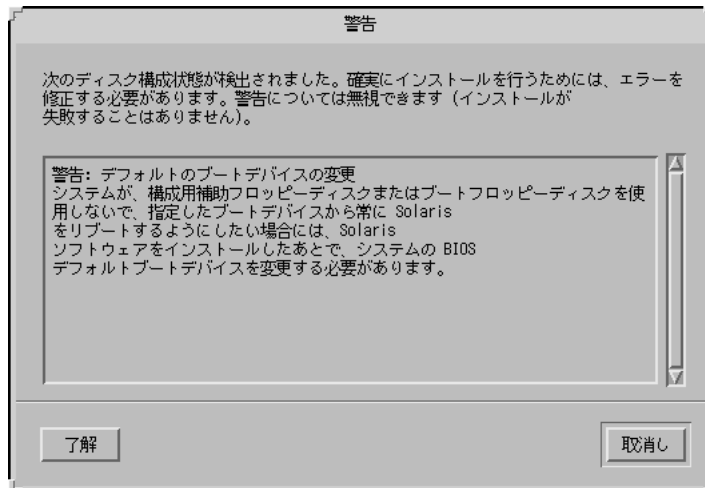
17. リモートファイルサーバーからソフトウェアを

- マウントする場合は、「リモートマウント (Remote Mounts)」をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。
- マウントしない場合は、「継続 (Continue)」をクリックします。
「プロファイル (Profile)」画面が表示されます。



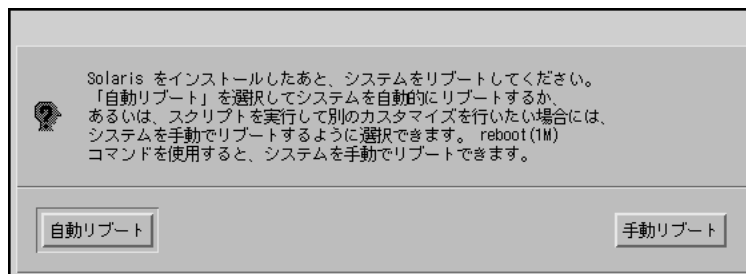
18. 「インストール開始 (Begin Installation)」をクリックします。

「警告 (Warning)」画面が表示され、Solaris のインストール後、システムの BIOS で指定されているデフォルトのブートデバイスを CD-ROM またはフロッピーディスクから、ハードドライブに変更する必要があることを報告します。



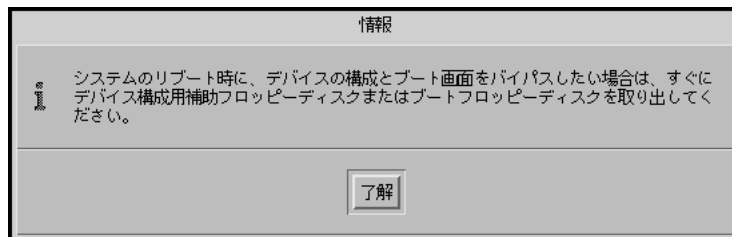
19. 「了解 (OK)」をクリックします。

「自動リブート (Auto Reboot)」と「手動リブート (Manual Reboot)」の 2 つのボタンを持つ画面が表示されます。



20. 「自動リブート (Auto Reboot)」または「手動リブート (Manual Reboot)」をクリックします。

「情報 (Information)」画面が表示され、場合によっては、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)、または Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを取り出す必要があることを知らせます。



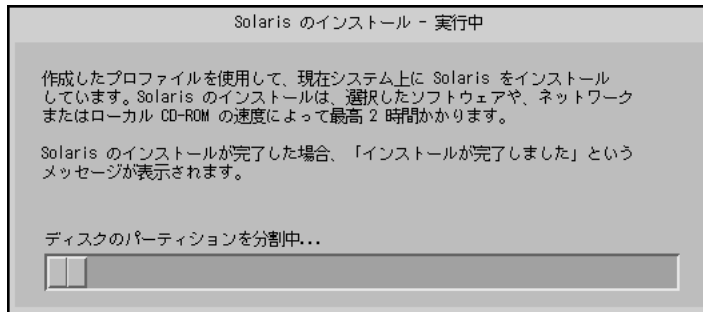
21. 83ページの手順 6 で **Solaris 8 Device Configuration Assistant (Intel 版のみ)** フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに

- 挿入しなかった場合は、次の手順に進みます。
- 挿入した場合は、取り出します。

22. **CD-ROM** ドライブから、**Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** または **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)** を取り出します。

23. 「情報 (Information)」画面で、「了解 (OK)」をクリックします。

「Solaris のインストール – 実行中 (Installing Solaris Software – Progress)」画面が表示されます。



Solaris 8 対話式インストールプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でのリブートが要求されます。

24. システムがリブートした後、またはシステムを手動でリブートした後、アクティブなパーティションが **Solaris** オペレーティング環境に設定されていることを確認します。

システムのアップグレード

この章では既存の Intel 版 Solaris システムのアップグレードについて説明します。

注 - Solaris Web Start を使ってシステムの更新やアップグレードをする前に、『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』と『Solaris 8 のインストール (追補)』を参照してください。

システムをアップグレードする

Solaris ソフトウェアの新しいバージョンを既存の Solaris システム上にインストールする場合、次の方法のどちらかを選択して、Solaris オペレーティング環境をインストールできます。

- アップグレード - このオプションは、Solaris オペレーティング環境の新しいバージョンを、システムディスク上の既存のファイルにマージします。このオプションは、Solaris オペレーティング環境の以前のバージョンで行なった変更をできるだけ保存します。
- 初期インストール - このオプションは、Solaris オペレーティング環境の新しいバージョンをシステムディスクに上書きします。Solaris オペレーティング環境の以前のバージョンで行なったローカルでの変更は、インストール開始前にバックアップを取り、インストール完了後に復元してください。

アップグレードについて頻繁に寄せられる質問

- 私のシステムではアップグレードオプションを使用できますか。

Solaris Web Start を使って、Solaris 7 やそれ以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start が、以前のバージョンとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです (10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です)。ただし、Solaris 8 から Solaris 8 Update へのアップグレードや Solaris 8 Maintenance Update を適用して Solaris 8 をアップグレードすることはできます。

以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードするには、Solaris Web Start の代わりに Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。このプログラムの詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。

Solaris オペレーティング環境のバージョンを知るには、次のように入力します。

```
$ uname -a
```

- システムをアップグレードできるかどうかは、どうすればわかりますか。

システムのアップグレードには、ディスク上に 10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です。Solaris Web Start は IA ブートパーティションを自動的に作成しますが、Solaris 8 対話式インストールプログラムは作成しません。

Intel システムをアップグレードするには、ディスク上にそのディスクのアップグレードに使用される以外のスライスもなければなりません。swap が適していませんがない場合は、/etc/vfstab に列挙されている「アップグレード可能な」root スライスのどれにも属していないスライスを使用します。このスライスのサイズは、必要な最小限のサイズ以上でなければなりません。最小限のサイズは一定ではありません。

Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) に必要な最小限のサイズを表 4-1 に示します。

表 4-1 各種のスライスに必要な最小限のサイズ

	64M バイトメモ リー	128M バイトメモ リー	256M バイト以上の メモリー
Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)	404M バイト	340M バイト	308M バイト

- アップグレードオプションを使用する前に、パッチを削除する必要がありますか。
パッチを削除する必要はありません。
- システムがアップグレード可能であるはずなのに、Solaris Web Start でアップグレードオプションを使用できない場合は、どうすればいいですか。
第 6 章を参照してください。
- システム上のファイルシステムがアップグレードに十分な容量を持っていない場合は、どうすればいいですか。
現在のファイルシステムがアップグレードの容量として不十分な場合は、Solaris Web Start を使ってディスク容量を再配置できます。アップグレードを行えるだけのディスク容量をどのように割り当てるかは、Solaris Web Start が決定します。しかし、Solaris Web Start が決定できない場合は、ユーザーがファイルシステムの配置を手作業で変更する必要があります。
- 自動的に他のソフトウェアグループにアップグレードできますか。
できません。たとえば、システムにエンドユーザシステムサポートソフトウェアグループをインストールしていた場合、開発者システムサポートソフトウェアグループにアップグレードするオプションはありません。ただし、現在インストールされているソフトウェアグループには含まれないソフトウェアについては、アップグレード時にパッケージ単位でシステムに追加できます。
- Solaris Web Start は、保存できなかったローカルでの変更をどこに記録しますか。
 - システムをリブートする前は、次のファイルです。
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
 - システムをリブートした後は、次のファイルです。
/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
- インストールプログラムは、アップグレードのログをどこに記録しますか。

- システムをリブートする前は、次のファイルです。
/a/var/sadm/system/logs/upgrade_log
- システムをリブートした後は、次のファイルです。
/var/sadm/system/logs/upgrade_log

システムのアップグレード

▼ 準備作業

1. 以下をマニュアルで確認します。
 - 『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』や製造元のリリースノートを参照して、使用するソフトウェアがこの新しいリリースでもサポートされていることを確認します。
 - 『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照して、使用するハードウェアが新しいリリースでもサポートされていることを確認します。
 - システムに添付されているマニュアルを参照して、使用するシステムやデバイスが新しいリリースでもサポートされていることを確認します。
 - 使用可能なすべてのパッチを調べます。最新のパッチリストは <http://sunsolve.sun.com> から入手できます。
 - 表 4-2 に示す既知の問題を検討します。このリストは完全なものではありません。Sun 以外のソフトウェアマニュアルも参照して、最新のアップグレード情報を入手してください。

表 4-2 アップグレード前に変更する必要があるソフトウェア

ソフトウェア	問題の要約
Prestoserve	init 0 を使ってシステムを停止することによってアップグレードを起動すると、データが失われることがあります。停止手順については、Prestoserve のマニュアルを参照してください。

2. Solaris のアップグレードに使用する言語を決めます。

プロンプトやメッセージなどのアップグレード情報を表示する言語を次の中から選択できます。

- 日本語
- 英語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- 韓国語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- スペイン語
- スウェーデン語

3. 次の **CD** が手元にあるか確認します。

- Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) と Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)

▼ システムをバックアップする方法



注意 - Solaris オペレーティング環境をアップグレードする前に既存のファイルシステムをバックアップしてください。バックアップにテープなどの取り外し可能な媒体を使用すると、データの損失、損傷、破壊など、万一の場合に備えることができます。

Solaris Web Start の「バックアップ用の媒体を指定 (Specify Backup Media)」画面を使用すれば、システムをローカルのディスクや、ローカルのテープ、リモートのファイルシステムにバックアップできます。

バックアップ手順が決められていない場合は、次の手順に従ってファイルシステムの完全バックアップをテープにとってください。システムのバックアップ方法やスケジュールバックアップの設定方法の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

1. スーパーユーザーになります。

2. システムをシャットダウンします。

```
# init 0
```

3. シングルユーザーモードでシステムをブートします。

```
ok boot -s
```

4. ファイルシステムの整合性を

注 - ファイルシステムの整合性を検査すれば、バックアップするデータが壊れていないことを確認できます。電源の障害などにより、ファイルが不整合の状態になっていることがあります。

- 検査しない場合は、次の手順に進みます。
- 検査する場合は、`fsck` コマンドに `-m` オプションを指定して実行します。

```
# fsck -m /dev/rdisk/device-name
```

5. ファイルシステムをリモートのテープドライブに

- バックアップしない場合は、次の手順に進みます。
- バックアップする場合は、以下の手順に従います。
 - a. バックアップを起動するシステムの `/.rhosts` ファイルに、次のエントリを追加します。

```
host root
```

- b. 上記の `/.rhosts` ファイルに追加したホスト名が、ローカルの `/etc/inet/hosts` ファイル経由で、あるいは **NIS** か **NIS+** ネームサーバー経由でアクセスできることを確認します

6. テープドライブのデバイス名を指定します。

デフォルトのテープドライブは /dev/rmt/0 です。

- 書き込み保護をしていないテープをテープドライブに挿入します。
- 表 4-3 の `ufsdump` コマンドのいずれかを使用して、ファイルシステムをバックアップします。

表 4-3 完全バックアップコマンド

完全バックアップの保存先	使用するコマンド
ローカルのカートリッジテープドライブ	<code>ufsdump 9ucf /dev/rmt files_to_backup</code>
リモートのカートリッジテープドライブ	<code>ufsdump 0ucf remote_host:/ files_to_backup</code>

- プロンプトが表示されたら、テープを取り出して、次のテープに交換します。
- 各テープには、ボリューム番号、レベル、日付、システム名、およびファイルシステムを記したラベルを付けておきます。
- `Control-D` キーを押して、レベル **3** でシステムをブートします。
- システムのバックアップが成功していることを確認します。

```
# ufsrestore -t
```

▼ アップグレードを計画する方法

- 次の表に従い、最初に行うべき手順に進みます。

Solaris のアップグレードに使用する装置	手順
使用するシステムに接続されたローカル CD-ROM ドライブ	次の手順
ネットワーク上のリモート CD-ROM ドライブ	『Solaris 8 のインストール (上級編)』

2. 使用するシステムがネットワークに接続されている場合は、**Solaris** オペレーティング環境をアップグレードするシステムについて次の情報を収集します。

情報	例	情報収集に使用するコマンド (Solaris がインストールされている場合)
ホスト名	crater	<code>uname -n</code>
ホスト IP アドレス	129.221.2.1	<code>ypmatch system_name hosts</code> または <code>nismatch system_name hosts.org_dir</code>
サブネットマスク	255.255.255.0	<code>more /etc/netmasks</code>
ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+)	<pre>passwd: files nis group: files nis hosts: xfn nis [NOTFOUND=return] files networks: nis [NOTFOUND=return] files protocols: nis [NOTFOUND=return] files rpc: nis [NOTFOUND=return] files ethers: nis [NOTFOUND=return] files netmasks: nis [NOTFOUND=return] files bootparams: nis [NOTFOUND=return] files publickey: nis [NOTFOUND=return] files netgroup: nis automount: files nis aliases: files nis services: files nis sendmailvars: files</pre>	<code>cat /etc/nsswitch.conf</code>

情報	例	情報収集に使用するコマンド (Solaris がインストールされている場合)
ドメイン名	lbloom.West.Arp.COM	<code>domainname</code>
ネームサーバーのホスト名	thor75	<code>ypwhich</code>
ネームサーバーのホスト IP アドレス	129.153.75.20	<code>ypmatch nameserver_name hosts</code> または <code>nismatch nameserver_name hosts.org_dir</code>

▼ アップグレードを設定する方法

1. Solaris ソフトウェアを tip(1) 接続を使用して

- インストールしない場合は、次の手順に進みます。
- インストールする場合は、ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あるか確認します。

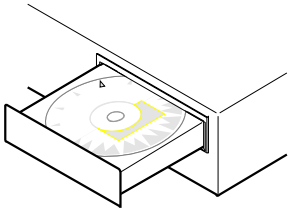
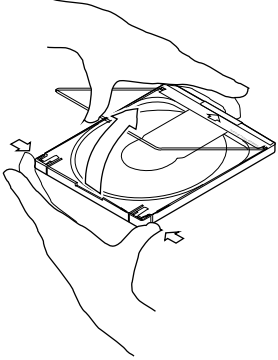
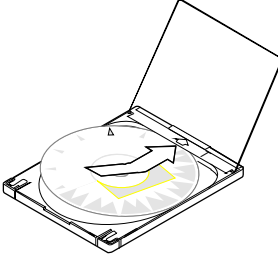
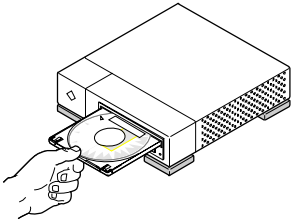
注 - tip ウィンドウの現在の大きさを調べるには、`stty(1)` コマンドを使用します。

2. システムが CD から

- ブートできる場合は、システムの BIOS 設定ツールでこの機能が有効になっているかどうかを確認します。
- ブートできない場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをシステムのプロッピーディスクドライブに挿入します。

注 - Solaris 8 Device Configuration Assistant は、<http://soldc.sun.com/support/drivers> からダウンロードすることもできます。

3. **Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** をシステムの **CD-ROM** ドライブに入れます。

トレイ式 CD-ROM ドライブの場合	キャディ式 CD-ROM ドライブの場合
<p>1. ドライブの正面パネルの取り出しボタンを押します。トレイが出てきます。</p>  <p>2. Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) をロゴの面を上にしてトレイにのせます。</p> <p>3. CD-ROM ドライブにトレイを押し戻します。</p>	<p>1. キャディの角をつかみながら中央の蓋を持ち上げて、キャディを開きます。</p>  <p>2. Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) をロゴの面を上にしてキャディに入れ、キャディを閉じます。</p>  <p>3. キャディの矢印が CD-ROM ドライブ方向に向くようにして、CD-ROM ドライブにキャディを挿入します。</p> 

4. システムを停止して電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。メモリーテストとハードウェア検出が実行され、画面が再表示されます。
 - Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクからブートしている場合には、画面に次のメッセージが表示されます。

```
Solaris Boot Sector                               Version 1
```

続いて次のような情報が表示されます。

```
Solaris for x86 - Generic DCB                       Version 1.234

loading /solaris/boot.bin
```

画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

- Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) からブートしている場合には、画面に次のメッセージが表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition   Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

続いて次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

5. 「Solaris Device Configuration Assistant」画面が表示されたら F2 キーを押します。

「Bus Enumeration」画面が表示され、次のメッセージが表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「Scanning Devices」画面が表示され、システムデバイスが走査されます。走査が完了すると、「Identified Devices」画面が表示されます。

6. F2 キーを押します。

「Loading」画面が表示され、システムをブートするためにロードされるドライバの情報が表示されます。数秒後に「Boot Solaris」画面が表示されます。

7. 「**Boot Solaris**」画面で「**CD**」を選択し、F2 キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
<<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ide@1/sd@0,0:a
Boot args: kernel/unix

<<< Starting Installation >>>

SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
Solaris Web Start 3.0 installer
The Solaris Installer can be run in English, or any of the following languages:

1) English           6) Japanese
2) German            7) Korean
3) Spanish           8) Swedish
4) French            9) Simplified_Chinese
5) Italian           10) Traditional_Chinese
Select the language you want to use to run the installer:
```

8. プロンプトやメッセージなどのインストール情報の表示に使用する言語の番号を入力します。共通デスクトップ環境が起動され、コンソールに次のような情報が、選択された言語で表示されます。

```
インストールを行う言語として日本語が選択されています。
Solaris Web Start 3.0 Installer を開始しています

Solaris Installer が、Solaris インストールプログラム
ソフトウェアを置くシステムハードディスクを検索中です。

システムはアップグレード可能のようです。
「初期インストール」と「アップグレード」のどちらを実行しますか?
```

(続く)

続き

- ```
1) 初期インストール
2) アップグレード
1 または 2 を入力してください >
```

9. プロンプトでアップグレードインストールの「2」を選択し、Enter キーを押します。

Solaris Web Start は、サイズ要件に合うスワップスライスがディスクにあるか確認します。次のような情報が表示されます。

```
swap スライスはリブートのたびに消去されるので、
Solaris Installer は Solaris のインストールイメージを
swap スライスに置くを試みます。
```

```
Solaris Installer は、swap ディスクスライス c0t0d0s1 を使用します。
```

```
警告: すべての情報が失われます。
```

```
Solaris Installer がこのスライスを使用してかまいませんか? [y,n,?]
```

10. 画面に表示されたディスクスライスを

- 使用する場合は、「y」を入力し、121ページの手順 18 に進みます。
- 使用しない場合は、「n」を入力し、Return キーを押します。

Solaris Web Start は、表 4-1 のサイズ要件に合うスライスがディスクにあるか確認します。これらのスライスは、`/etc/vfstab` に列挙されている「アップグレード可能な」root スライスのどれにも属していないスライスでなければなりません。次のような情報が表示されます。

- ```
1) c0d0s1
2) 他を検索
```

```
「他を検索」は、
Solaris インストールマニュアルに記載されている条件を満たす
他のスライスを、Solaris Installer に検索させます。
```

選択してください >

11. 画面に表示されたディスクスライスを

- 使用する場合は、「1」を入力し、121ページの手順 18 に進みます。
- 使用しない場合は、「2」を入力し、Return キーを押します。

Solaris Web Start は別のディスクスライスを探します。別のディスクスライスが見つからない場合は、画面に表示されている元のスワップをデフォルトで使用します。別のディスクスライスが見つかった場合は、次のような情報を表示しません。

Solaris インストールマニュアルに記載されている条件を満たす、以下のディスクスライスが見つかりました。

警告: 表示されたスライスのうちの 1 つが選択されて Solaris Installer が使用すると、そのスライス上の情報がすべて消去されます。

- 1) c0t0d0s7 は最後に /export/home 上にマウントされました
- 2) なし

「なし」は、これらのディスクスライスを省略して、システム上の全ディスクを一覧表示します。

上の選択肢から選択してください >

12. 表示されたスライスの 1 つを選択するか、「なし (None)」を選択します。

注 - 「なし (None)」を選択し、ディスクの識別番号を選択すると、システムをアップグレードできなくなります。この場合には、初期インストールを行う必要があります。

- 表示されたスライスの 1 つを使用する場合は、スライスの番号を入力し、121ページの手順 18 に進みます。

- 「なし (None)」を選択する場合は、「2」を入力し、Return キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
デフォルトのルートディスクは /dev/dsk/c0t0d0 です。  
Solaris Installer が Solaris をインストールするために  
/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットする必要があります。
```

```
警告: ディスク上の情報がすべて消去されます。
```

```
/dev/dsk/c0t0d0 をフォーマットしますか? [y,n,?,q]
```

13. プロンプトで「y」を入力し、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
注: ファイルシステムの配置中には swap サイズを変更できません。
```

```
swap スライスのサイズを 384MB から 1865MB の範囲で入力してください。デフォルト  
= 512MB [?]
```

14. プロンプトで Enter キーを押してデフォルトのスワップスライスサイズを使用するか、必要なスワップスライスサイズを入力して Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Solaris Installer は、ディスクの先頭に swap スライスを配置しようとしています。  
そのようにすると、これより後のインストール処理で、もっとも柔軟にファイル  
システムをパーティション分割することができます。
```

```
ディスクの先頭から swap スライスを作成しますか? [y,n,?,q]
```

15. スワップスライスをディスクのどこに置くかどうかを決めます。ディスクの先頭にスワップスライスを配置するとファイルシステムをパーティション分割するときの柔軟性が増し、ディスクをアクセスする効率が向上します。

- スワップスライスをディスクの先頭に置く場合は、「y」を入力し、Enter キーを押してから 121 ページの手順 18 に進みます。
- 先頭に置かない場合は、「n」を入力し、Return キーを押します。

次のような情報が表示されます。

警告: 3 以外のシリンダに swap スライスを配置するには、ディスク配置についての高度な知識が必要です。ここでどのシリンダを選択するかによって、これより後のインストール処理で選択するディスク配置に影響します。

3 から 687 の間で、開始シリンダを入力してください。デフォルトの開始シリンダは 3 です。 [?]

16. Enter キーを押してデフォルトの開始シリンダを使用するか、必要な開始シリンダを入力して Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

以下が Solaris Installer で使用されます:

```
ディスクスライス : /dev/dsk/c0t0d0
swap サイズ      : 512 MB
開始シリンダ     : 0
```

警告: ディスク上の情報がすべて消去されます。

これでよろしいですか? [y,n,?,q]

17. プロンプトで「y」を入力します。

18. Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

Solaris Installer はディスクスライス /dev/dsk/c0t0d0s1 を使用します。ファイルがコピーされた後にシステムが自動的にリブートされ、インストール処理が継続されます。
お待ちください...

ミニルートをローカルディスクにコピー中です。...完了しました。

プラットフォーム固有のファイルをコピー中です。...完了しました。

リブートとインストール処理の継続のために準備しています。
 インストールを継続するためにはリブートする必要があります。
 ブートメディア（フロッピーまたは CD-ROM）を取り出し、Enter キーを押してください。
 注：ブートメディアが CD-ROM である場合は
 システムがリセットされてから CD-ROM を取り出してください。

19. 113ページの手順 2 でシステムのコピーディスクドライブに **Solaris 8 Device Configuration Assistant** コピーディスクを

- 挿入した場合は、システムのコピーディスクドライブからコピーディスクを取り出し、Enter キーを押します。
- 挿入しなかった場合は、Enter キーを押します。

次のような情報が表示されます。

```
Syncing file systems... 49 done
rebooting...
```

システムがリセットされ、メモリーテストとハードウェア検出が行われます。

20. システムのメモリーテストとハードウェア検出が終了する前に、**Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel)** を **CD-ROM** ドライブから取り出します。

次のような情報が表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition                Primary Boot Subsystem, vsn 2.0

Current Disk Partition Information

Part#  Status  Type      Start      Length
-----
1      Active  DOS12     63         32193
2      Active  X86 BOOT  32256     36288
3      Active  SOLARIS   68544     3842496
4      Active  <unused>
```

(続く)

続き

```
Please select the partition you wish to boot:
```

数秒後に画面が再表示され、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
Autobooting from bootpath /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/cmdk@0,0:b

If the system hardware has changed, or to boot from a different
device, interrupt the autoboot process by pressing ESC.

Initializing system
Please wait...

<<< Current Boot Parameters >>>
Boot path: /pci@0,0/pci-ide@7,1/ata@1/cmdk@0,0:b
Boot args:

Type   b [file-name] [boot-flags] <ENTER>   to boot with options
or     i <ENTER>                          to enter boot interpreter
or     <ENTER>                            to boot with defaults

<<< timeout in 5 seconds >>>

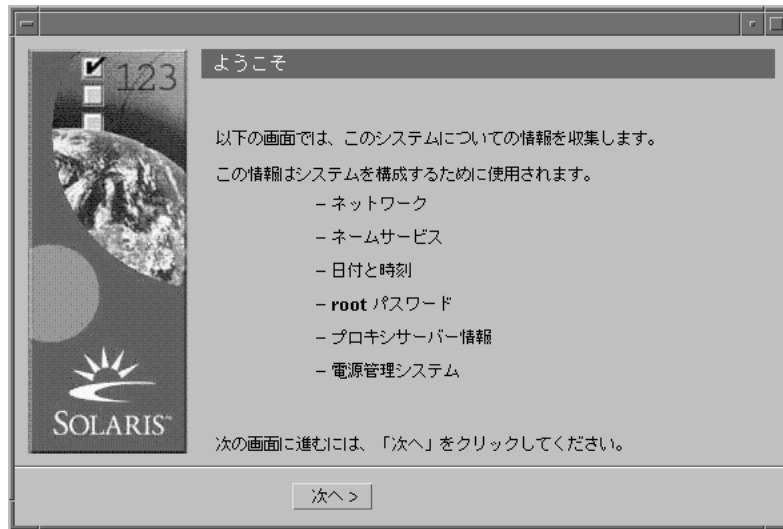
Select (b)oot or (i)nterpreter:
SunOS Release 5.8 Version Generic 32-bit
Copyright 1983-2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Configuring /dev and /devices
Using RPC Bootparams for network configuration information.
```

続いて「The Solaris Installation Program」画面が表示されます。

21. F2 キーを押します。

「kdmconfig - Introduction」画面が表示されます。

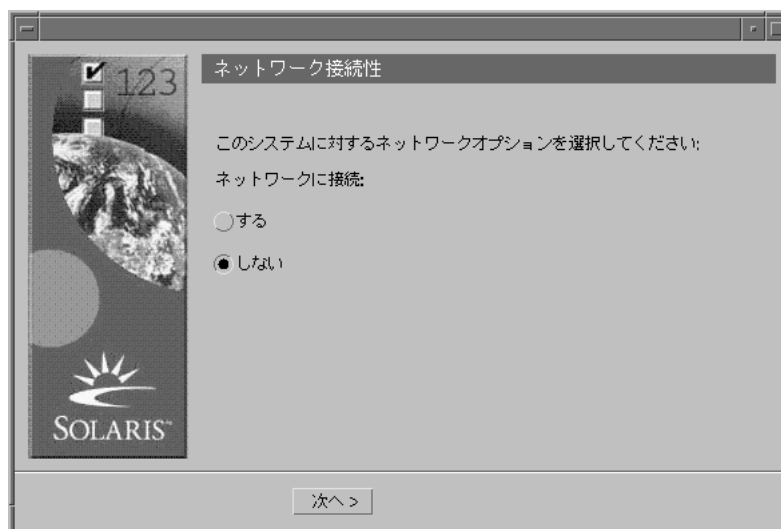
22. F2 キーを押します。
「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示されます。
23. この画面に表示された構成情報を調べ、必要な変更を行います。
24. 変更が終わったら「**No changes needed - Test/Save and Exit**」を選択し、F2 キーを押します。
ウィンドウ構成テスト用画面が表示されます。
25. F2 キーを押します。
26. 表示された画面でポインタを移動できるか確認し、さらにパレットの色が正しく表示されているか確認します。
27. 色が正しく表示されていて、ポインタを移動できるか確認します。
 - 色が正しくないか、ポインタを移動できない場合は、「No」をクリックするか (可能な場合)、キーボードの任意のキーを押すか、何もしないでウィンドウ構成テスト用画面が自動的に終了するのを待ちます。次に、色が正しく表示され、ポインタを正しく移動できるようになるまで、124ページの手順 23 から 124ページの手順 27 までを繰り返し行います。
 - 色が正しく表示され、ポインタを移動できる場合は、「Yes」をクリックします。
「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。



▼ アップグレード用にシステムを構成する方法

1. 「ようこそ (**Welcome**)」画面で「次へ > (**Next >**)」をクリックします。

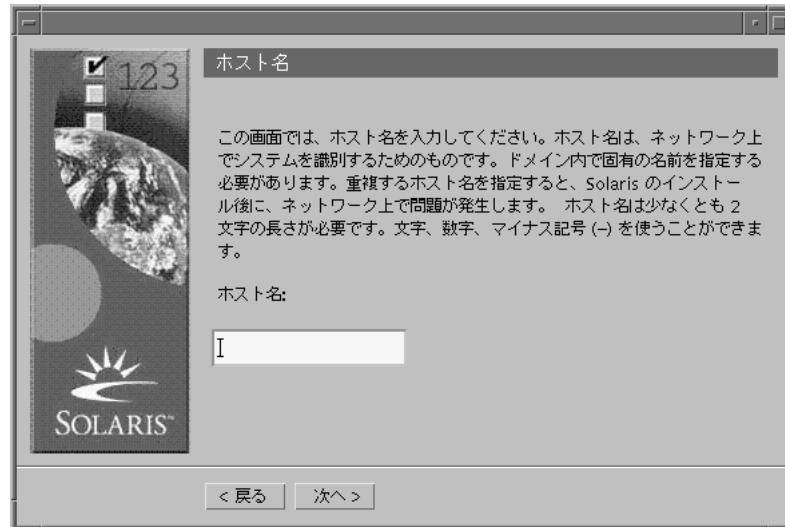
Solaris Web Start はシステムの情報を収集してから、「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面を表示します。



2. システムがネットワークに

- 接続されていない場合は、「しない (Non-networked)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「ホスト名 (Host Name)」画面が表示されます。



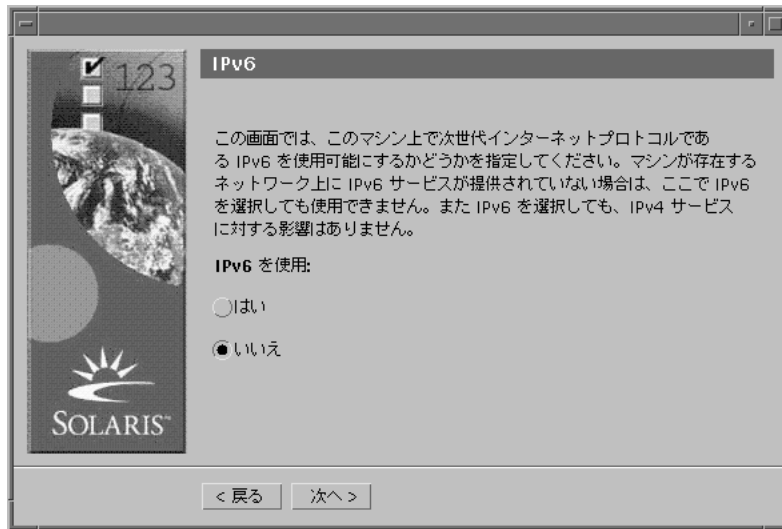
- 接続されている場合は、「する (Networked)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「DHCP」画面が表示されます。



3. 126ページの手順2で「する (**Networked**)」を
 - 選択しなかった場合は、128ページの手順6に進みます。
 - 選択した場合は、次の手順に進みます。

4. ネットワークインタフェースの構成に **DHCP** を
 - 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックし、128ページの手順6に進みます。
 - 使用する場合は、「はい (Yes)」をクリックし、「次へ > (Next >)」をクリックします。「IPv6」画面が表示されます。

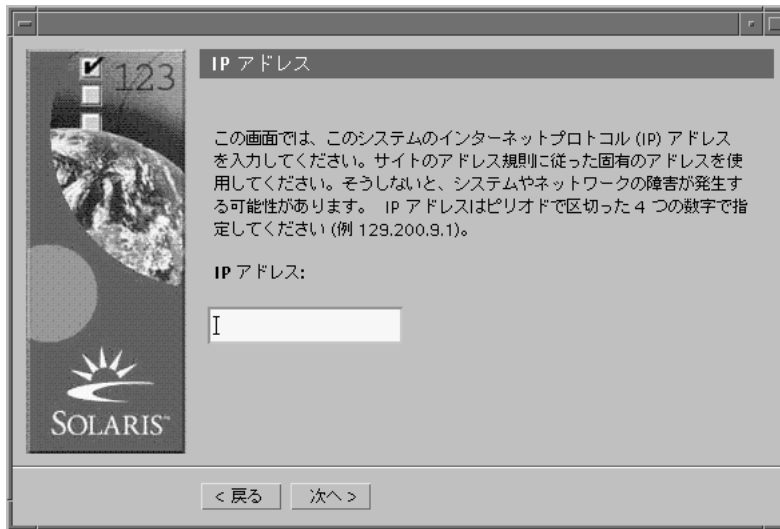


5. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し「次へ > (Next >)」をクリックし、132ページの手順 10 に進みます。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択し「次へ > (Next >)」をクリックし、132ページの手順 10 に進みます。

6. 「ホスト名 (Host Name)」画面に必要なホスト名を入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

126ページの手順 2 で「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面から「する (Networked)」を選択していると、「IP アドレス (IP Address)」画面が表示されます。

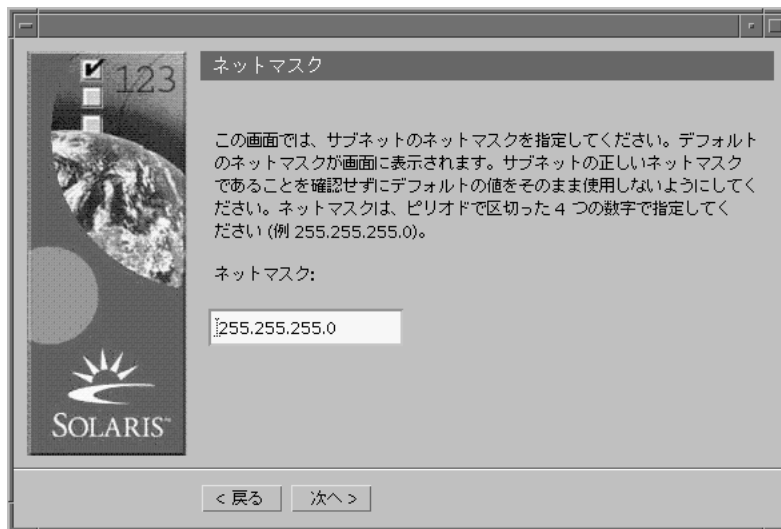


126ページの手順 2 で「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面から「しない (Non-networked)」を選択していると、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。

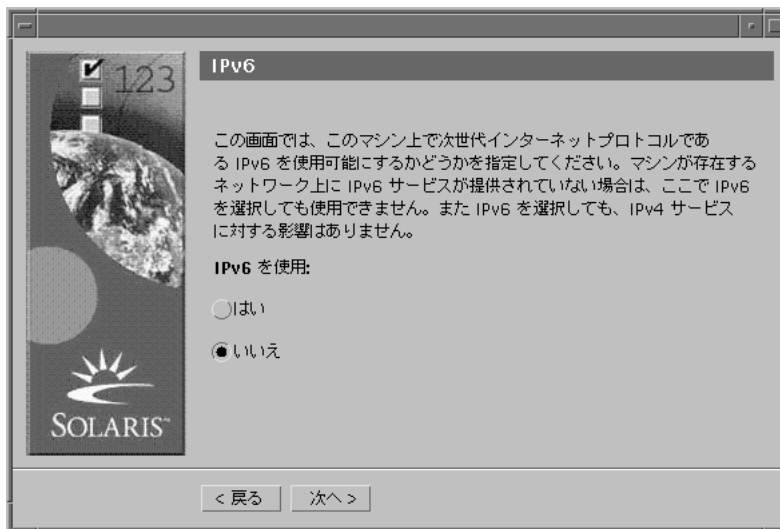


7. 使用するシステムはネットワークに接続されているか確認します。「ネットワーク接続性 (Network Connectivity)」画面で「する (Networked)」を

- 選択しなかった場合は、136ページの手順 14 に進みます。
 - 選択した場合は、ネットワークインタフェースの構成に DHCP を使用すると指定したか確認します。「DHCP」画面で「はい (Yes)」を
 - 選択した場合は、132ページの手順 10 に進みます。
 - 選択しなかった場合は、「IP アドレス (IP Address)」画面で、ネットワークに接続されているこのシステムの IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 「ネットマスク (Netmask)」画面が表示されます。



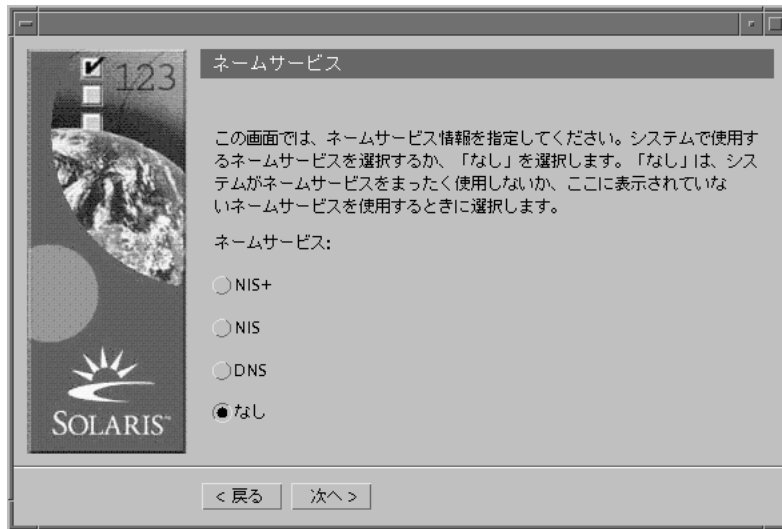
8. 必要なネットマスクを入力するか、デフォルトのネットマスクを変更せずに「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 「IPv6」画面が表示されます。



9. IPv6 を

- 使用しない場合は、「いいえ (No)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- 使用する場合は、「はい (Yes)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

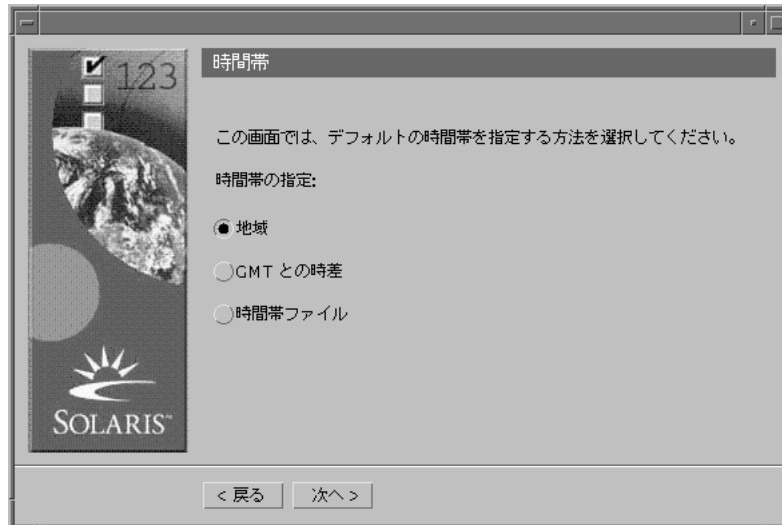
「ネームサービス (Name Service)」画面が表示されます。



10. そのシステムで使用するネームサービスを選択するか、ネームサービスを使用しない場合は「なし (None)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。NIS+、NIS、または DNS を選択すると、「ドメイン名 (Domain Name)」画面が表示されます。



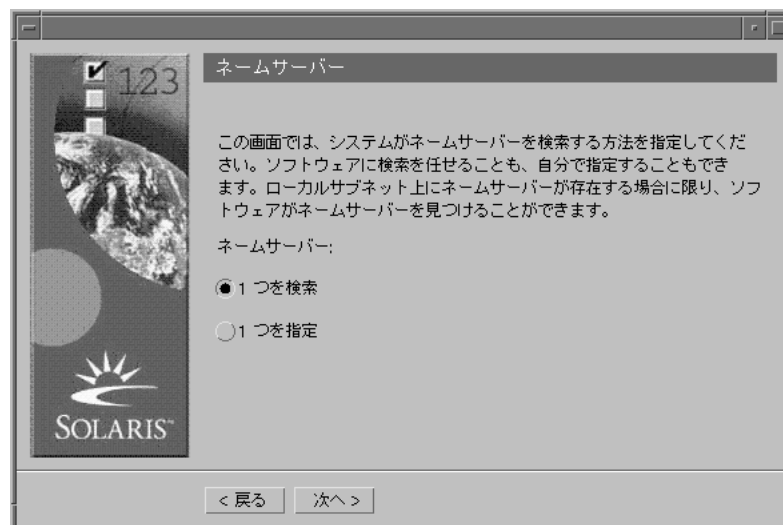
「なし (None)」を選択すると、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。



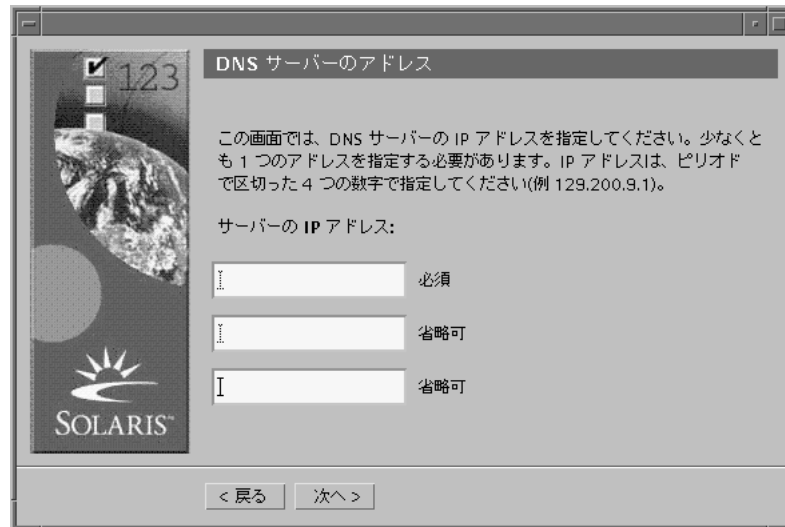
11. 132ページの手順 10 で「なし (None)」を

- 選択した場合は、136ページの手順 14 に進みます。
- 選択しなかった場合は、そのシステムが属するドメイン名を入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

NIS+ か NIS を選択した場合は、「ネームサーバー (Name Server)」画面が表示されます。

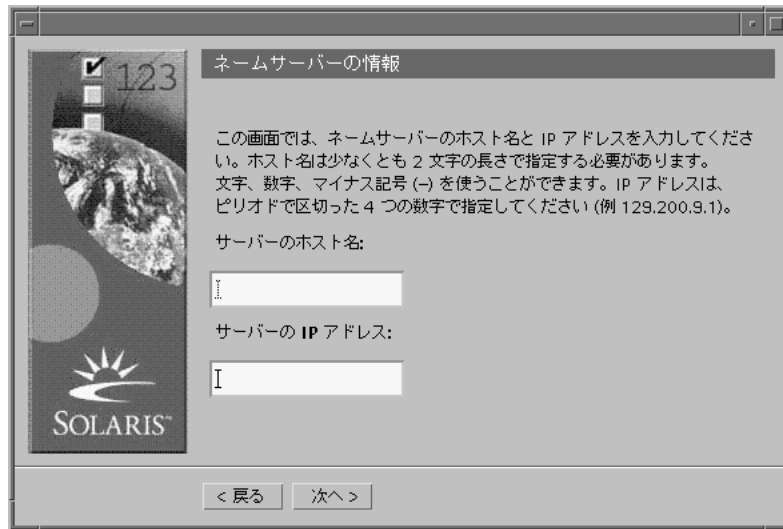


DNS を選択した場合は、「DNS サーバーのアドレス (DNS Server Address)」画面が表示されます。

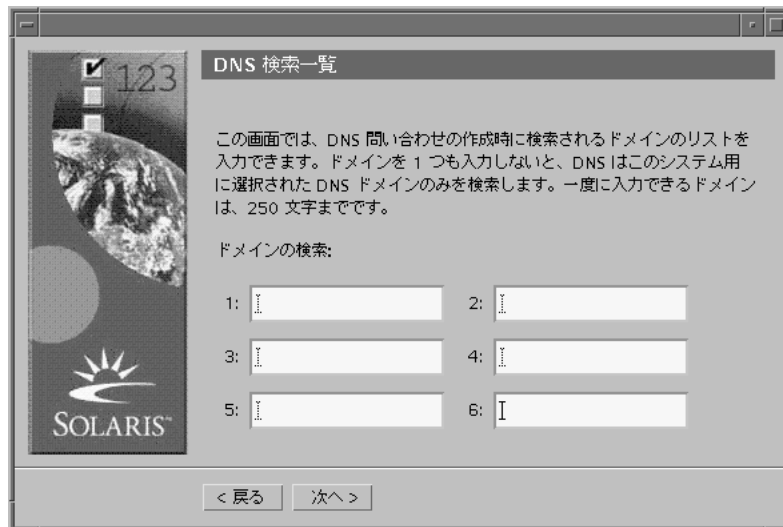


12. 使用するネームサービスとして

- NIS+ か NIS を選択した場合は、「1つを検索 (Find one)」または「1つを指定 (Specify one)」を選択し、「次へ> (Next >)」をクリックします。
 - 「1つを検索 (Find one)」を選択した場合は、「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。
 - 「1つを指定 (Specify one)」を選択した場合は、「ネームサーバーの情報 (Name Server Information)」画面が表示されます。



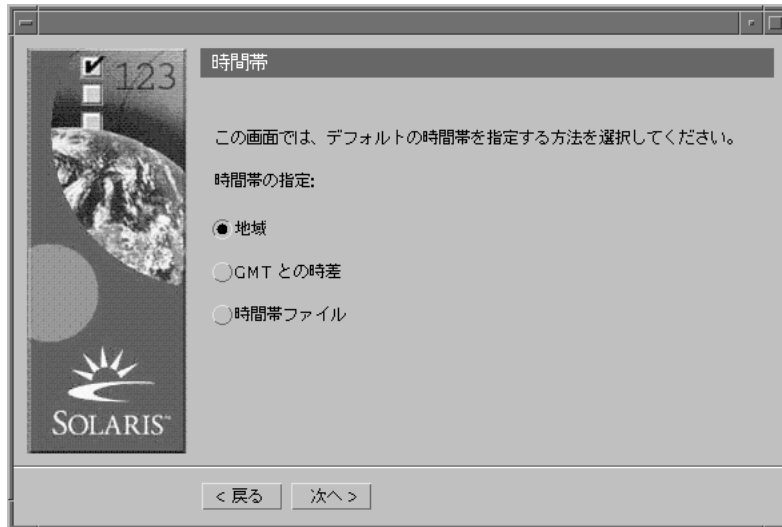
- DNS を選択した場合は、必要な DNS サーバー (1 つまたは複数) の IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
「DNS 検索一覧 (DNS Search List)」画面が表示されます。



13. 使用するネームサービスとして

- NIS+ か NIS を選択した場合は、「ネームサーバーの情報 (Name Server Information)」画面にネームサーバーのホスト名と IP アドレスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

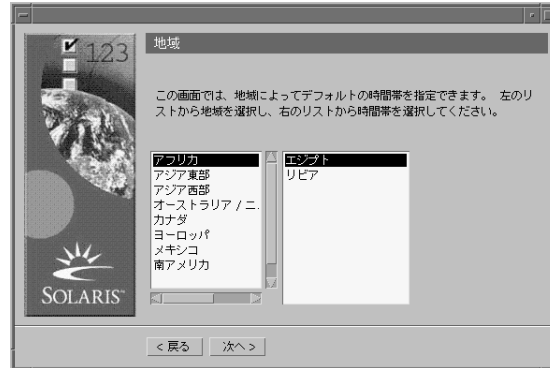
- DNS を選択した場合は、DNS 問い合わせの作成時に検索されるドメイン (1 つまたは複数) 名を入力し (ある場合)、「次へ > (Next >)」をクリックします。「時間帯 (Time Zone)」画面が表示されます。



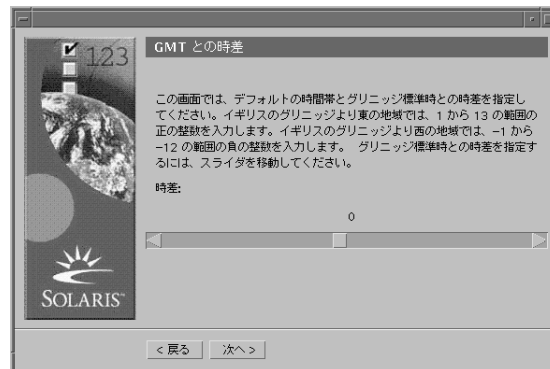
14. デフォルトの時間帯を指定する方法を「時間帯 (Time Zone)」画面で選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
選択に従って、「地域 (Geographic Region)」、「GMT との時差 (Offset From GMT)」、「時間帯ファイル (Time Zone File)」のどれかの画面が表示されます。
15. 次の表に従い、デフォルトの時間帯を指定します。

選択した時間帯

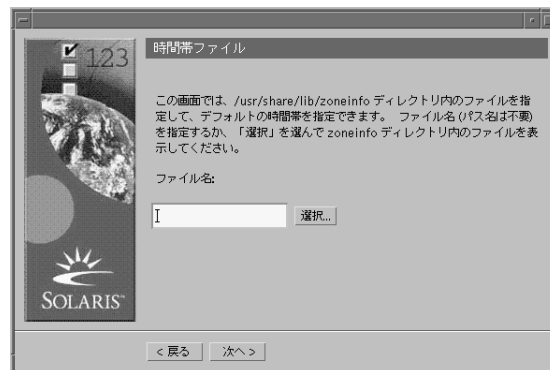
指定方法



左のリストから地域を選択し、右のリストから時間帯を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。



スライダを左 (イギリスのグリニッジより西の地域) へ動かすか、右 (イギリスのグリニッジより東の地域) へ動かす、「次へ > (Next >)」をクリックします。

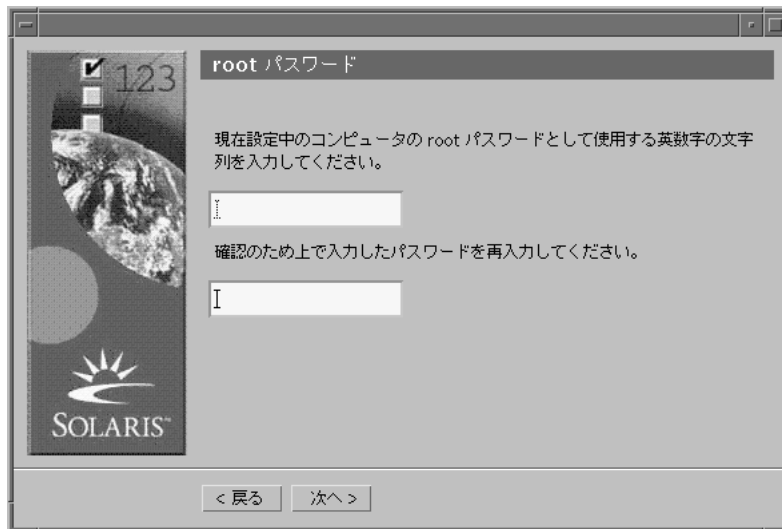


`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリにあるファイル名を指定するか、「選択 (Select)」を選択してこのディレクトリからファイルを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「日付と時刻 (Date and Time)」画面が表示されます。

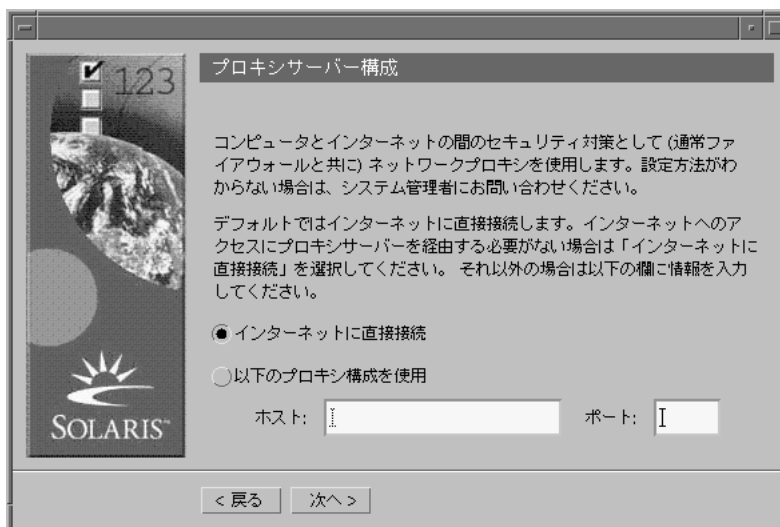


16. 必要なら日付と時刻を変更し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
「root パスワード (Root Password)」画面が表示されます。



17. スーパーユーザーのパスワードに使用する英数字の文字列を両フィールドに入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「プロキシサーバー構成 (Proxy Server Configuration)」画面が表示されます。



18. インターネットへのアクセスに

- プロキシサーバーを経由しない場合は、「インターネットに直接接続 (Direct connection to the Internet)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
- プロキシサーバーを経由する場合は、「以下のプロキシ構成を使用 (Use Proxy Configuration Below)」を選択し、このシステムが使用するプロキシサーバーのホスト名とポートを指定し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面が表示されます。



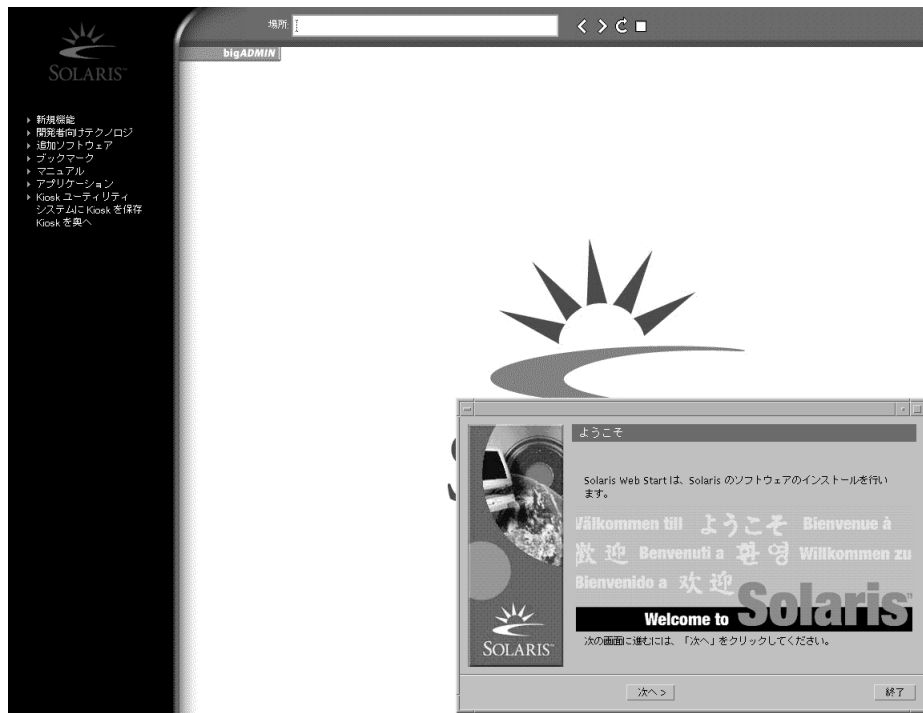
19. 「情報を確認 (Confirm Information)」画面の情報が

- 正しくない場合は、情報を訂正できる画面が表示されるまで「< 戻る (< Back)」をクリックします。
- 正しい場合は、「確認 (Confirm)」をクリックします。

「情報の確認 (Confirm Information)」画面に次のメッセージが表示されます。

指定した設定でシステムが構成されるのをお待ちください...

「Solaris Web Start の Kiosk」が起動し、「抽出中 (Extracting)」画面が表示されてから、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。



注 - これ以降、「Kiosk」メニューに表示されているリンクはどれでもクリックできます。

場合によっては、「Kiosk」によって画面が隠れてしまうことがあります。

「Kiosk」メニューの上に画面を表示するには、「Kiosk を奥へ (Send Kiosk to Background)」をクリックします。

▼ Solaris をアップグレードする方法

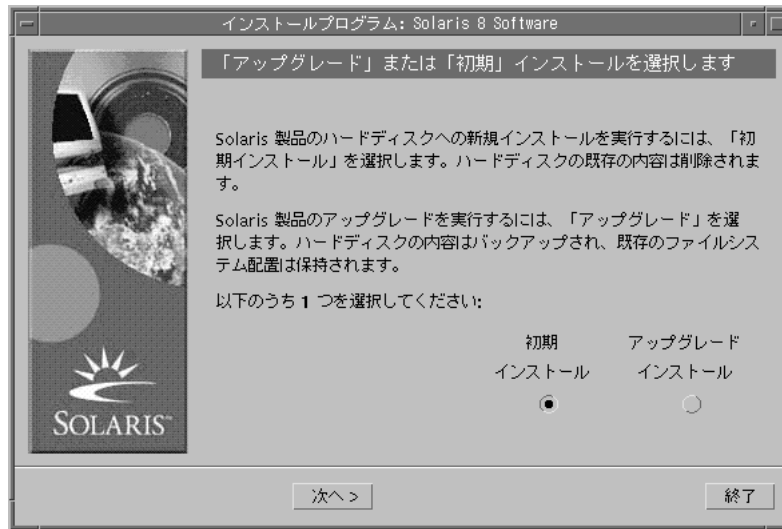
1. 「ようこそ (Welcome)」画面で「次へ > (Next >)」をクリックします。

Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) が取り出され、「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。



2. トレイまたはキャディ式 **CD-ROM** ドライブから **CD** を取り出し、アップグレードする **Solaris 8** ソフトウェアを含む **CD** を置きます。
3. トレイまたはキャディを挿入して、「**CD を挿入 (Insert CD)**」画面の「**了解 (OK)**」をクリックします。

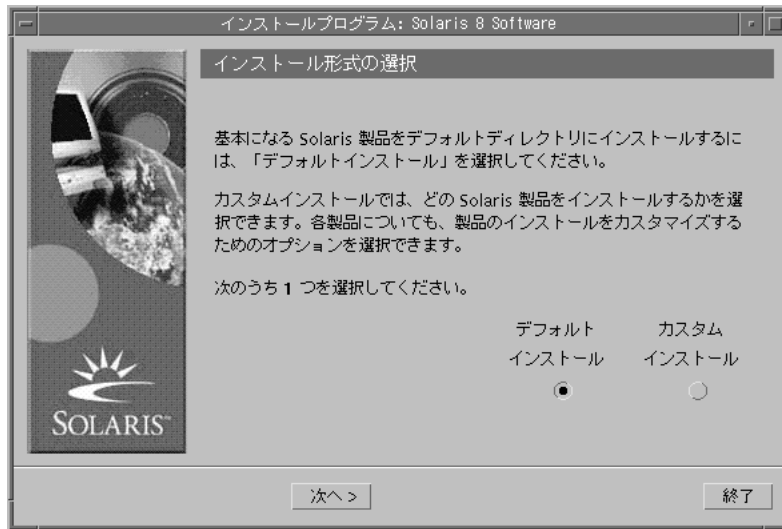
「CD を読み取り中... (Reading CD...)」画面が表示され、次に「初期化中... (Initializing...)」画面が表示され、「**アップグレード**」または「**初期**」インストールを選択します (Select Upgrade or Initial Install) 画面が表示されます。



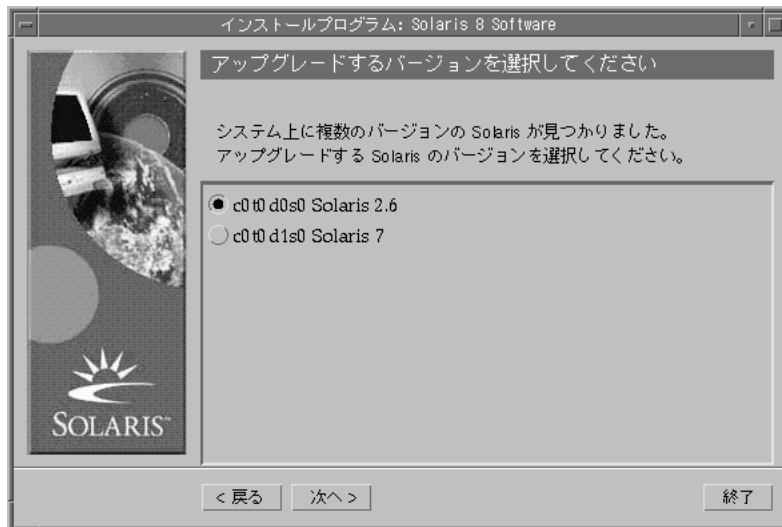
4. インストールの種類を選択します。

- 初期インストールを行う場合は、「初期インストール (Initial Install)」を選択して「次へ > (Next >)」をクリックします。
- アップグレードを行う場合は、「アップグレードインストール (Upgrade Install)」を選択して「次へ > (Next >)」をクリックします。

「初期インストール (Initial Install)」を選択すると、「初期化中... (Initializing...)」画面が表示された後に「インストール形式の選択 (Select Type of Install)」画面が表示されます。

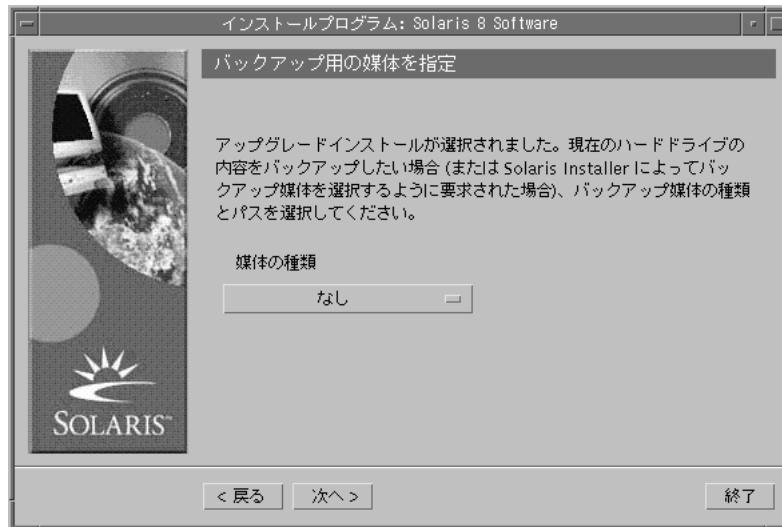


「アップグレードインストール (Upgrade Install)」を選択すると、複数のバージョンの Solaris オペレーティング環境がシステムにインストールされている場合は、「アップグレードするバージョンを選択してください (Select Version To Upgrade)」画面が表示されます。



「アップグレードインストール (Upgrade Install)」を選択し、Solaris オペレーティング環境のバージョンが 1 つだけシステムにインストールされている場合

は、「バックアップ用の媒体を指定 (Specify Backup Media)」画面が表示されま
す。



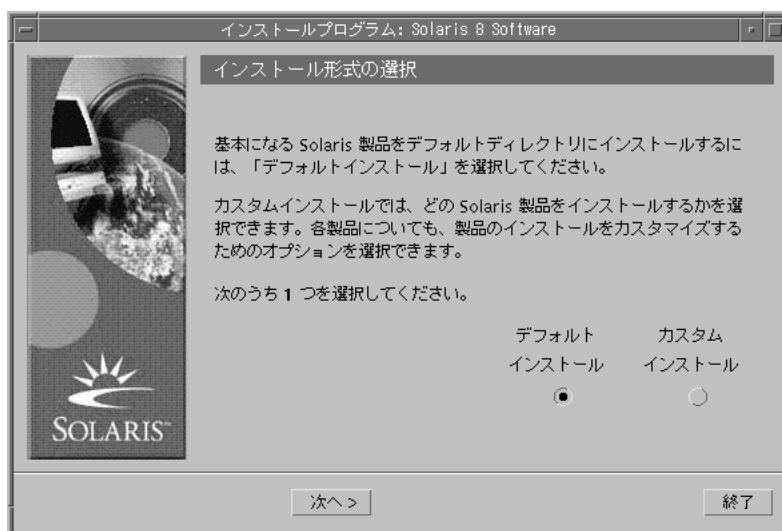
5. システム上にインストールされている **Solaris** のバージョンが
 - 1 つもない場合は、146ページの手順7に進みます。
 - 1 つだけインストールされている場合は、次の手順に進みます。
 - 複数ある場合は、「アップグレードするバージョンを選択します (Select Version To Upgrade)」画面からアップグレードするバージョンを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「バックアップ用の媒体を指定 (Specify Backup Media)」画面が表示されま
す。
6. 「バックアップ用の媒体を指定 (**Specify Backup Media**)」画面から媒体の種類を選択し、「次へ > (**Next >**)」をクリックします。媒体の種類を選択するには、「媒体の種類 (**Media Type**)」メニューから、「ローカルのディスク (**Local Disk**)」、「ローカルのテープ (**Local Tape**)」、「リモートのファイルシステム (**Remote Filesystem**)」のどれかを選択し、そのパス名を指定します。

「アップグレードのプロファイルをテスト中... (**Testing Upgrade Profile...**)」画面が表示されます。

注 - この時点で Solaris Web Start は、アップグレードするシステムを調べ、Solaris ソフトウェアのアップグレードに必要なディスク容量があるかを確認します。必要なディスク容量がないと、Solaris Web Start は初期インストールを奨めるメッセージを表示します。

「インストール形式の選択 (Select Type of Install)」画面が表示されます。



7. インストールの種類を選択します。

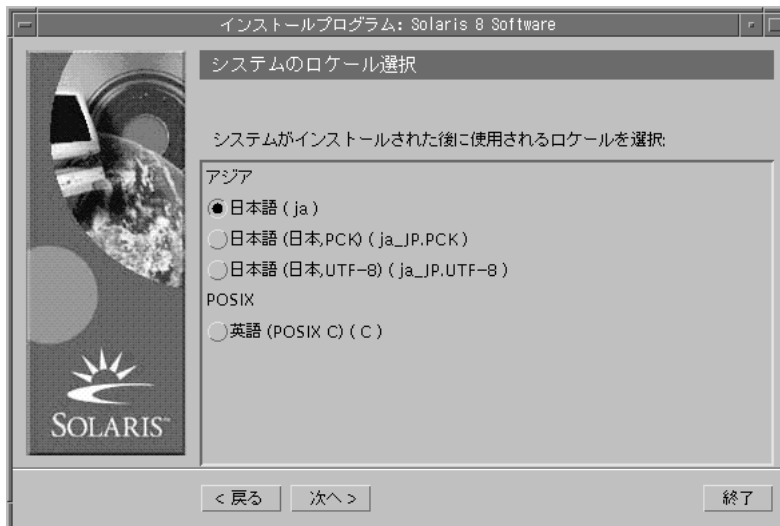
- デフォルトインストールを行う場合は、「デフォルトインストール (Default Install)」を選択して「次へ> (Next >)」をクリックし、152ページの手順 16 に進みます。
- カスタムインストールを行う場合は、「カスタムインストール (Custom Install)」を選択し、「次へ> (Next >)」をクリックします。

「ソフトウェアのロケール選択 (Select Software Localizations)」画面が表示されます。



8. 英語に加えてインストールする地域とロケールを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「システムのロケール選択 (Select System Locale)」画面が表示されます。



9. システムをアップグレードした後、最初に使用するロケールを選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

注 - インストールする言語として Japanese (日本語) を選択した場合、デフォルトでは日本語 (ja) が選択されます。

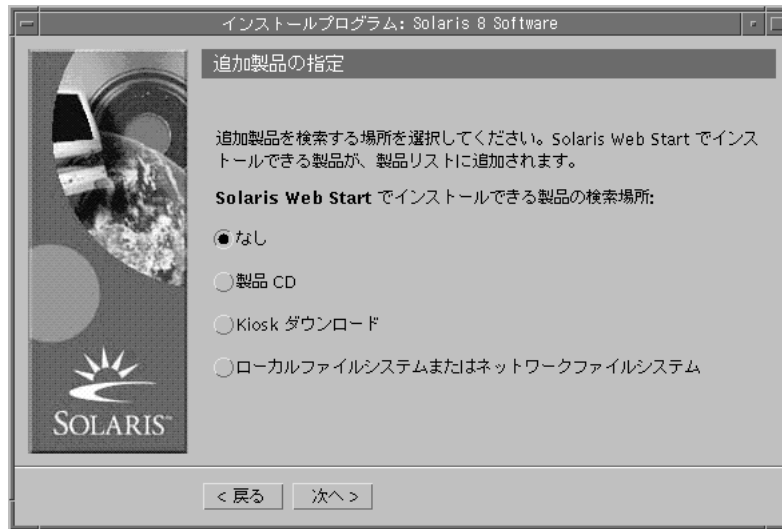
「製品の選択 (Select Products)」画面が表示されます。



10. Solaris 8 へのアップグレードに加えてインストールする製品を選択 (複数選択可) し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

注 - 製品を選択すると、製品の説明がある場合には表示されます。

「追加製品の指定 (Additional Products)」画面が表示されます。



11. 同梱のソフトウェア製品や **Sun** 以外のソフトウェア製品をインストールするかどうかを指定します。これらの製品は、**Solaris Web Start** を使ってインストールできなければなりません。

- インストールしない場合は、「なし (None)」を選択して「次へ > (Next >)」をクリックし、152ページの手順 16 に進みます。
- インストールする場合は、「製品 CD (Product CD)」、「Kiosk ダウンロード (Kiosk Download)」、または「ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム (Local or Network File System)」を選択し、「次へ > (Next >)」をクリックします。
 - 「製品 CD (Product CD)」を選択すると、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) が取り出され、「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。
 - 「Kiosk ダウンロード (Kiosk Download)」を選択すると、「Kiosk ダウンロード領域を走査して、Solaris Web Start でインストールできる製品を検索しています... (Scanning Kiosk download area looking for Solaris Web Start Ready products...)」画面が表示されます。Solaris Web Start が Kiosk ダウンロード領域 (/webstart/kiosk/download) の走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示され、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

- 「ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム (Local or Network File System)」を選択すると、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面が表示されます。



12. 149ページの手順 11 で選択した追加製品のソースが

- 製品 CD の場合は、トレイまたはキャディから Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を取り出し、必要な製品 CD を入れ、「CD を挿入 (Insert CD)」画面の「了解 (OK)」をクリックします。

「CD を走査中... (Scanning CD...)」画面が表示されます。Solaris Web Start が製品 CD の走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示され、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

- Kiosk ダウンロードの場合は、次の手順に進みます。
- ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステムの場合は、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面にファイルシステムへのパスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「Kiosk ダウンロード領域を走査して、Solaris Web Start でインストールできる製品を検索しています... (Scanning Kiosk download area looking for Solaris Web Start Ready products...)」画面が表示され、Solaris Web Start がファイルシステムの走査を終えると、「製品の選択 (Select Products)」画面が表示さ

れ、Solaris Web Start を使ってインストールできる製品がリストに表示されます。

13. 「製品の選択 (**Select Products**)」画面で、インストールする製品を選択し、「次へ > (**Next >**)」をクリックします。

注 - 製品を選択すると、製品の説明がある場合は表示されます。

「追加製品の指定 (**Additional Products**)」画面が表示されます。

14. 同梱のソフトウェア製品や **Sun** 以外のソフトウェア製品をインストールするかどうかを指定します。これらの製品は、**Solaris Web Start** を使ってインストールできなければなりません。
 - インストールする場合は、「製品 CD (**Product CD**)」、「Kiosk ダウンロード (**Kiosk Download**)」、または「ローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム (**Local or Network File System**)」を選択し、「次へ > (**Next >**)」をクリックし、150ページの手順 12 から始まる各手順を繰り返します。
 - インストールしない場合は、「なし (**None**)」を選択し、「次へ > (**Next >**)」をクリックします。

前に走査した追加の製品 CD が挿入されている場合は取り出され、「CD を挿入 (**Insert CD**)」画面に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の挿入を求めるプロンプトが表示されます。

15. 追加製品を製品 **CD** からインストールすると

- 指定しなかった場合は、次の手順に進みます。
- 指定した場合は、トレイまたはキャディから製品 CD を取り出し、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を入れ、「了解 (**OK**)」をクリックします。

「CD を読み取り中... (**Reading CD...**)」画面が表示されます。アップグレードが指定されていると、さらに「アップグレードのプロファイルをテスト中... (**Testing Upgrade Profile...**)」画面が数秒間表示されます。続いて「インストールの準備完了 (**Ready to Install**)」画面が表示されます。



16. 「インストールの準備完了 (Ready to Install)」画面で「インストール開始 (Install Now)」をクリックします。

「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。

ステータスメッセージと、Solaris ソフトウェアに追加されるパッケージ名が最初の進捗バー上の角かっこ内に表示されます。インストール全体のステータスが下の進捗バーに表示されます。

Solaris 8 パッケージの詳細なリストは、付録 A、付録 B、付録 C を参照してください。

注 - アップグレードには時間がかかりますが、実際の時間はインストールするソフトウェアグループ、容量の再割り当てが必要な場合はその時間、ネットワークまたはローカルの CD-ROM ドライブの速度によって異なります。

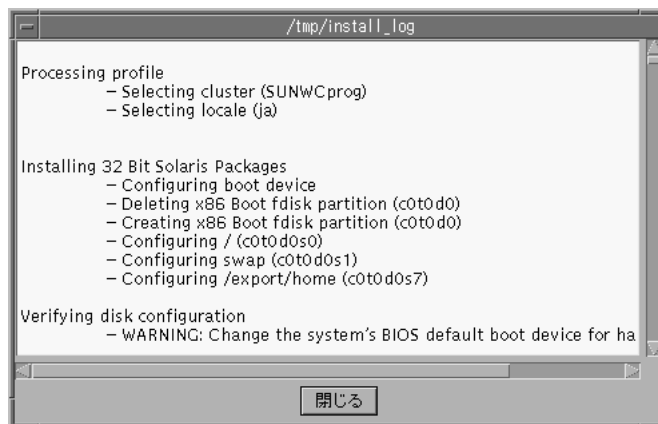
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から Solaris 8 ソフトウェアをインストールし終わると CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。



17. システムに何がインストールされたかを示すログファイルを

- 参照しない場合は、154ページの手順 20 に進みます。
- 参照する場合は、製品の「詳細 (Details)」をクリックします。

「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面の上にログファイル表示用の新しい画面が表示されます。



18. ログファイルの確認が終了したら、「閉じる (Dismiss)」をクリックします。
ログファイル表示用画面が閉じます。

19. 「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面の「次へ > (Next >)」をクリックします。

- CD-ROM ドライブに CD が入っている場合は、取り出されます。
- 追加ソフトウェアが必要な場合は、次のような「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。



- 追加ソフトウェアがない場合は、「リブート (Reboot)」画面が表示されます。



20. 追加ソフトウェアが

- 必要ない場合は、156ページの手順 23 に進みます。
- 必要な場合は、追加ソフトウェアの媒体を指定します。
 - 媒体が CD の場合は、「CD」をクリックし、「次へ> (Next >)」をクリックします。
「CD を挿入 (Insert CD)」画面が表示されます。
 - 媒体がネットワークファイルシステムの場合は、「ネットワークファイルシステム (Network File System)」を選択し、「次へ> (Next >)」をクリックします。
「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面が表示されます。



21. 追加ソフトウェアの媒体として

- CD を選択した場合は、「CD を挿入 (Insert CD)」画面で指定された CD を挿入し、「了解 (OK)」をクリックします。
「CD を読み取り中... (Reading CD...)」、「インストールプログラムを起動中... (Launching Installer...)」、「抽出中... (Extracting...)」画面の順に表示された後、「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。CD からのインストールが終わると、CD-ROM ドライブから CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。

- ネットワークファイルシステムを選択した場合は、「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network File System Path)」画面にファイルシステムへのパスを入力し、「次へ > (Next >)」をクリックします。

「CD を読み取り中... (Reading CD...)」、「インストールプログラムを起動中... (Launching Installer...)」、「抽出中... (Extracting...)」画面の順に表示された後、「インストール中... (Installing...)」画面が表示されます。CD からのインストールが終わると、CD-ROM ドライブから CD が取り出され、「インストールの一覧 (Installation Summary)」画面が表示されます。

22. 154 ページの手順 19 から始まる手順を繰り返します。

23. 「リブート (**Reboot**)」画面の「リブートする (**Reboot Now**)」をクリックします。

24. リブート後、ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインします。
Solaris デスクトップ (CDE または OpenWindows) を選択する画面が表示される場合があります。

25. 使用する **Solaris** デスクトップを選択し、「了解 (**OK**)」をクリックします。
数秒後に、選択した Solaris デスクトップが表示されます。

26. **Solaris 8** をインストールしたシステムで **Netscape Communicator** と **OpenWindows** を

- 使用しない場合は、これで手順は終了です。
- 使用する場合は、任意のテキストエディタを使ってシステムの `.cshrc` ファイルを開き、Netscape Communicator がインストールされているディレクトリを `PATH` 環境変数に追加します。
たとえば、Netscape Communicator がデフォルトディレクトリにインストールされている場合は、`PATH` 環境変数に `/opt/NSCPcom` を追加します。

注 - OpenWindows 上で Netscape Communicator を使用する場合は、そのバイナリファイルを見つけるために、`PATH` 環境変数に `NSCPcom` がインストールされているディレクトリが含まれていなければなりません。

注 - アップグレードのログファイルは次の場所にあります。

- リブートの前: /a/var/sadm/system/logs/upgrade_log
 - リブートの後: /var/sadm/system/logs/upgrade_log
-

▼ アップグレード後の整理作業をする方法

アップグレードした後にシステムを整理したい場合があります。Solaris Web Start は、アップグレード時に既存システムのローカルなソフトウェア変更と新しい Solaris ソフトウェアをマージします。しかし、場合によっては、マージできないことがあります。

1. 次のファイルの内容を調べ、**Solaris Web Start** によって保存されなかったローカル変更を行う必要があるかどうかを調べます。

/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup



注意 - upgrade_cleanup のすべての内容を慎重に検査してください。保存されなかったローカル変更を訂正しないと、システムをブートできない場合があります。

2. 必要なら、保存されなかったローカル変更を行います。
3. システムをリブートします。

```
# reboot
```


Solaris 8 をインストールした後のソフトウェアの追加と削除

この章では、Solaris 8 のインストールやアップグレードをした後に Solaris ソフトウェアをカスタマイズする方法を説明します。

ソフトウェアの追加や削除には次の方法を使用できます。

使用するツール	追加、削除、または変更できるソフトウェア
Solaris Web Start	製品 (たとえば、Solaris 8 SOFTWARE、Solaris 8 LANGUAGES (Intel)、Solaris 8 DOCUMENTATION (SPARC/Intel) の各 CD の製品)、ソフトウェアグループ、追加ソフトウェア。ただし、ソフトウェアの個々のパッケージは対象外
Solaris Product Registry	Solaris Web Start 3.0 や Solaris パッケージ管理コマンド (pkgadd など) を使ってインストールしたすべてのソフトウェア

使用するツール	追加、削除、または変更できるソフトウェア
Admintool	製品、グループ、およびソフトウェアのパッケージ (たとえば、Solaris 8 SOFTWARE、Solaris 8 LANGUAGES (Intel)、Solaris 8 DOCUMENTATION (SPARC/Intel) の各 CD) 注 - Admintool を使って追加や削除できるのは、ローカルシステムのソフトウェアだけです。ローカルシステムとは、Admintool を実行しているシステムです。Admintool は分散環境で使用するものではありません。
pkgadd(1M) や pkgrm(1M) コマンド	ソフトウェアの個々のパッケージ

注 - いろいろなコンピューティング環境のクライアントシステムでソフトウェアパッケージの追加や削除を行う方法については、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

Solaris Web Start によるソフトウェアの追加

この節では、Solaris オペレーティング環境がすでにインストールされているシステムに、Solaris Web Start を使ってソフトウェアを追加する方法を説明します。

▼ Solaris Web Start を使ってソフトウェアを追加する方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャがすでに動作しているものとします。ボリュームマネージャを使ってフロッピーディスクや CD を管理しない場合は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。ボリュームマネージャを使用せずに取り外し可能な媒体を管理する方法を詳しく説明しています。

1. インストールやアップグレードが終了しているシステムにログインします。

- インストールするソフトウェアのイメージをネットワーク上に置くか、または、追加するソフトウェアが含まれている **CD** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

CD を挿入すると、ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。

注 - Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を挿入すると、Solaris Web Start が自動的に起動されます。

- 追加するソフトウェアが含まれているディレクトリを見つけます。

表 5-1 に、Solaris Web Start Installer とそれを使って追加できるソフトウェアが含まれている Solaris 8 CD のディレクトリを示します。

表 5-1 追加できるソフトウェアの場所

CD	ソフトウェア	ディレクトリ
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	開発者システムサポート、全体ディストリビューション、または全体ディストリビューションと OEM サポートソフトウェアグループを構成するパッケージ	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 例: sol_8_ia_2
	注 - Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) の Solaris Web Start Installer では、システムに Solaris 8 オペレーティング環境を最初にインストールしたときにこの CD のインストールを省略した場合のみ、ソフトウェアグループを構成するパッケージがインストールされます。Solaris 8 オペレーティング環境のインストールやアップグレードをした後に別のソフトウェアグループへアップグレードすることはできません。	
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	同梱されていないアーリーアクセス・ソフトウェア	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 配下の Solaris_8/EA 例: sol_8_ia_2/Solaris_8/EA

表 5-1 追加できるソフトウェアの場所 続く

CD	ソフトウェア	ディレクトリ
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	開発者システムサポート、全体ディストリビューション、および全体ディストリビューションと OEM サポートソフトウェアグループを構成する個々の Solaris 8 パッケージ。これらのパッケージは pkgadd(1M) で個別にインストールできます。	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 配下の Solaris_8/Product 例： sol_8_ia_2/Solaris_8/Product
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	Solaris 8 とともに含まれている Sun 以外のパブリックドメインソフトウェアのソースコード	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 配下の Solaris_8/Tools 例： sol_8_ia_2/Solaris_8/Tools 注 - このディレクトリにあるインストーラは install_source です。
Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) 注 - この CD を CD-ROM ドライブに入れると、Solaris Web Start が自動的に起動されます。	言語に対応したインタフェースのソフトウェアとマニュアル。サポートされる言語は、日本語、韓国語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語です。 注 - Solaris 8 SOFTWARE CD には、マルチバイトロケールなどのターゲット言語を使ってテキストを入力、表示、および印刷できるようにするインタフェースが含まれています。	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 例：sol_8_lang_ia
Solaris 8 DOCUMENTATION CD (SPARC/Intel)	Solaris AnswerBook2 文書サーバー、Solaris 8 の AnswerBook2 Collection、『ご使用にあたって』、またはその他のマニュアル	CD の一番上のディレクトリ (ボリューム識別子) 例：jckt_sol_8_doc

4. **Installer** または **installer** をダブルクリックします。

Installer ウィンドウが表示され、続いて Solaris Web Start の画面が表示されま
す。

5. 画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。
6. インストールが終了したら、「終了 (Exit)」をクリックします。
Solaris Web Start が終了します。
7. ソフトウェアのインストールに **CD** を
 - 使用しなかった場合は、これで終了です。
 - 使用した場合は、使用しているデスクトップが
 - CDE の場合は、CD を表示している「ファイル・マネージャ (File Manager)」ウィンドウで「ファイル (File)」メニューから「取り出し (Eject)」を選択します。
 - OpenWindows の場合は、CD を表示している「ファイルマネージャ (File Manager)」ウィンドウで「ディスクの取り出し (Eject Disk)」ボタンをクリックします。CD が取り出されます。

Solaris Product Registry によるソフトウェアの追加と削除

目的

Solaris Product Registry は、インストールされているソフトウェアをユーザーが管理するためのツールです。Solaris Product Registry は、Solaris Web Start 3.0 や Solaris パッケージ管理コマンド (pkgadd など) を使ってインストールしたすべてのソフトウェアの一覧を提供します。

Solaris Product Registry では、次のことができます。

- インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧表示
- インストーラの選択と起動
- 追加のソフトウェア製品のインストール

- ソフトウェアのアンインストール

Solaris Product Registry の使い方

図 5-1 に示す Solaris Product Registry のメインウィンドウは、次の情報を表示する 3 つの領域からなります。

- インストールおよび登録されたソフトウェア
- 選択されているソフトウェアの標準属性
- カスタマイズされた属性と登録されているソフトウェアの内部属性



図 5-1 Solaris Product Registry の初期画面

Solaris Product Registry で項目を表示するには、「システムレジストリ (System Registry)」の左側にあるアイコンをクリックします。右を向いていたアイコンが下を向きます。

Solaris Product Registry の項目は、左側にテキストファイルアイコンがあるものを除き、どの項目も展開または短縮できます。

図 5-2 に示すように、「インストールされているソフトウェア (Software Installed in Solaris Registry)」の「Solaris 8」には、Solaris のインストール時に選択したソフトウェアグループと「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」という 2 つの項目が常にあります。

ソフトウェアグループは、「Core System Support」、「End User System Support」、「Developer System Support」、「Entire Distribution」、「Entire Distribution plus OEM Support」のいずれかです。

「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」項目には、選択したソフトウェアグループに属していない Solaris 製品が含まれています。さらに、「その他のソフトウェア (unclassified software)」には、pkgadd コマンドを使ってインストールした、Solaris 製品やソフトウェアグループに属さないパッケージが含まれます。



図 5-2 システムレジストリが展開された画面

Solaris Product Registry の属性は「詳細情報 (More Information)」ボックスに表示されます。Solaris Web Start でインストールした製品の場合、少なくとも「タイトル (Title)」、「バージョン (Version)」、「インストール位置 (Location)」、「インストール日時 (Installed on)」の属性が表示されます。製品またはソフトウェアグループの下で展開されているリスト内の項目の場合、その製品のバージョン情報が表示されます。項目をクリックすると、その項目の属性値が表示されます。

項目が Solaris Product Registry ウィンドウに表示されても、対応するソフトウェアが pkgrm コマンドで削除されていることがあります。

この場合には、「インストール媒体 (Installed from)」の属性の後に「1 つまたは複数のコンポーネント中のファイルがありません (Missing files in one or more components)」というメッセージが表示されます (図 5-3 を参照)。pkgadd コマンドを使ってソフトウェアをインストールし直すことも、Solaris Product Registry でソフトウェアを削除することもできます。

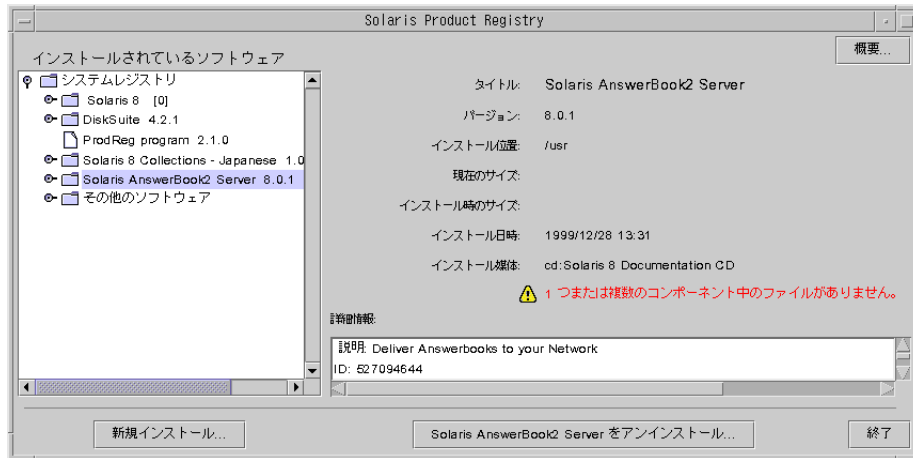


図 5-3 Solaris Product Registry でファイルがないことを示すメッセージ

▼ インストール済み製品の情報を表示する方法

1. システム上にあるすべてのインストール済みソフトウェア製品の情報を
 - 表示しない場合は、これで終了です。
 - 表示する場合は、次の手順に進みます。
2. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合は、パス /usr/bin/ を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

3. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
4. ソフトウェア属性を
 - 表示しない場合は、次の手順に進みます。

- 表示する場合は、「インストールされているソフトウェア (Software Installed in Solaris Registry)」内のソフトウェアの名前をクリックします。
選択したソフトウェアの属性情報が Solaris Product Registry に表示されます。

▼ インストール済み製品の整合性を検査する方法

1. システムにインストールされているソフトウェア製品の整合性を
 - 検査しない場合は、これで終了です。
 - 検査する場合は、次の手順に進みます。
2. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合は、パス /usr/bin/ を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

3. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
4. 「インストールされているソフトウェア (**Software Installed in Solaris Registry**)」内のソフトウェアの名前をクリックします。
製品のすべてまたは一部が pkgrm コマンドで削除されている場合は、「インストール媒体 (Installed from)」の属性の後に「1 つまたは複数のコンポーネント中のファイルがありません (Missing files in one or more components)」というメッセージが表示されます。

▼ Solaris Product Registry を使ってソフトウェアをインストールする方法

1. インストール済みの **Solaris 8** ソフトウェアにソフトウェア製品を
 - 追加しない場合は、これで終了です。
 - 追加する場合は、次の手順に進みます。
2. インストールまたはアップグレードされたシステムにログインします。
3. インストールするソフトウェアのイメージをネットワーク上に置くか、または追加するソフトウェアが含まれている **CD** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。
CD を挿入すると、ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
4. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合は、パス `/usr/bin/` を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

5. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
6. **Solaris Product Registry** ウィンドウの下にある「新規インストール (**New Install**)」ボタンをクリックします。

Solaris Product Registry は「インストーラを選択 (Select Installer)」画面を表示します。この画面では、デフォルトで `/cdrom` ディレクトリが指定されています。

注 - ソフトウェアは、ローカルな媒体またはネットワークを介してインストールできます。

7. 起動したいインストーラを見つけたら、「ファイル (**Files**)」ボックスでそのインストーラの名前をクリックします。

注 - Solaris Web Start のインストーラは、Installer または installer という名前です。

8. 「了解 (**OK**)」をクリックします。
選択したインストーラが起動されます。
9. インストーラの指示に従ってソフトウェアをインストールします。

▼ 製品をアンインストールする方法

1. システムにインストールされているソフトウェア製品を
 - アンインストールしない場合は、これで終わりです。
 - アンインストールする場合は、次の手順に進みます。
2. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合は、パス /usr/bin/ を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

3. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
4. 「インストールされているソフトウェア (**Software Installed in Solaris Registry**)」内のソフトウェアの名前をクリックします。

5. ソフトウェア属性を読んで、このソフトウェアがアンインストールしたいソフトウェアであるかどうかを確認します。
6. 「**Solaris Product Registry**」ウィンドウの下にある「アンインストール (**Uninstall**)」ボタンをクリックします。
選択したソフトウェアがアンインストールされます。

Admintool によるパッケージの追加と削除

ここでは、Admintool のグラフィカルユーザーインターフェースを使用してソフトウェアパッケージを追加または削除する方法を説明します。

▼ Admintool でパッケージを追加する方法

注 - UNIX sysadmin グループ (グループ 14) のメンバーでない場合は、Admintool でソフトウェアパッケージをシステムに追加または削除するにはスーパーユーザーになる必要があります。

1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. システムに追加するソフトウェアが含まれている **CD** をシステムに接続されている **CD-ROM** ドライブに入れます。

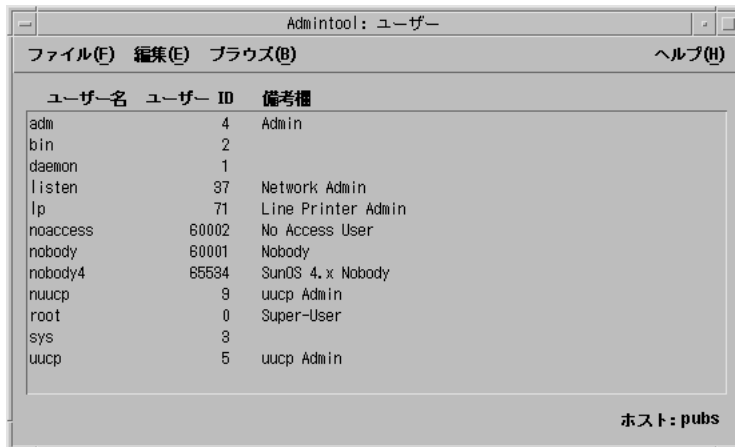
ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。

3. 追加するソフトウェアの **CD** 上のディレクトリパスを記録します。

4. **Admintool** を起動します。

```
# admintool &
```

「ユーザー (Users)」ウィンドウが表示されます。



- 「ブラウズ (Browse)」メニューから「ソフトウェア (Software)」を選択します。
「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。



- 「編集 (Edit)」メニューから「追加 (Add)」を選択します。
- 「ソース媒体の設定 (Set Source Media)」ウィンドウが



- 表示されなかった場合は、次の手順に進みます。
- 表示された場合は、「CD のパス (CD Path)」フィールドに CD へのディレクトリパスが表示されていない場合は、170ページの手順3で記録したパスを入力し、「了解 (OK)」をクリックします。

「ソフトウェアの追加 (Add Software)」ウィンドウが表示されます。



- このウィンドウの「ソフトウェア (Software)」部分で、ローカルのシステムにインストールしたいソフトウェアを選択します。



ベース (親) パッケージとそれに依存する日本語 (子) パッケージがソフトウェアリストに表示されます。依存関係のある日本語パッケージは、次のように末尾に (<ロケール名> ローカリゼーション) と表示されます。

末尾の表示	パッケージの種類
(ja ローカリゼーション)	ja ロケール固有パッケージ
(ja_JP.PCK ローカリゼーション)	ja_JP.PCK ロケール固有パッケージ
(ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)	ja_JP.UTF-8 ロケール固有パッケージ
(ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)	日本語ロケール共有パッケージ

ベース (親) パッケージを選択しても、依存関係のある日本語パッケージが自動的に選択されるわけではありません。システムのロケールに合った適切な依存関係にある日本語パッケージを選択する必要があります

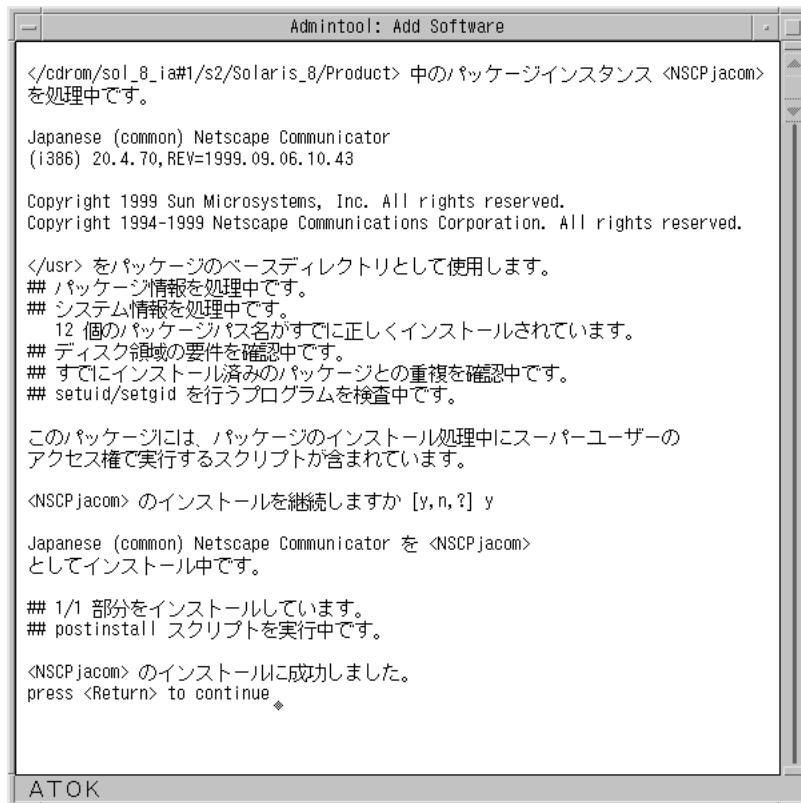
たとえば、ja ロケールだけがインストールされているシステムに「CDE HELP VOLUMES」を追加する場合は、それに対応する次の日本語パッケージも選択する必要があります。

- Japanese (EUC) CDE HELP VOLUMES 2.8 (ja ローカリゼーション)
- Japanese CDE HELP VOLUMES 2.8 (ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)

パッケージについては、『Solaris 8 インストールガイド (SPARC 版)』または『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』の付録 A～C を参照してください。

9. 「追加 (Add)」をクリックします。

「Add Software」ウィンドウが表示され、ソフトウェアの構成要素が追加されるたびにメッセージが表示されます。



選択したソフトウェアに属するすべての構成要素が追加されると、次のメッセージが表示されます。

```
<name_of_software> のインストールに成功しました。  
press <Return> to continue
```

10. Return キーを押します。

「Add Software」ウィンドウが閉じ、「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。引き続きソフトウェアを追加できます。

11. ソフトウェアの追加が終了したら、「ファイル (File)」メニューから「終了 (Exit)」を選択します。

▼ Admintool でパッケージを削除する方法

注 - UNIX sysadmin グループ (グループ 14) のメンバーでない場合は、Admintool でソフトウェアパッケージをシステムに追加または削除するにはスーパーユーザーになる必要があります。

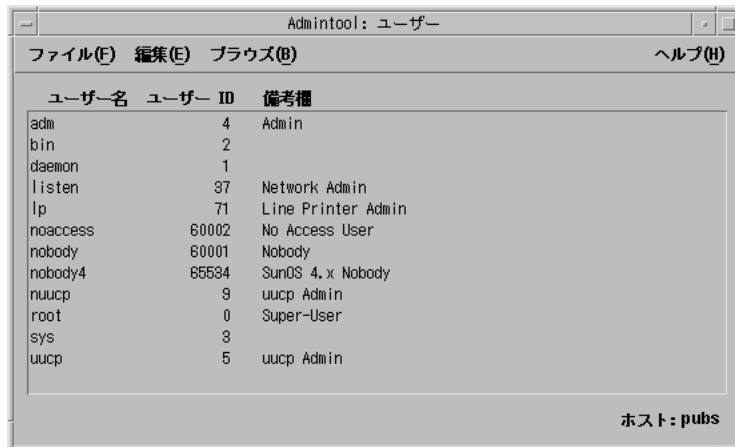
1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. **Admintool** を起動します。

```
# admintool &
```

「ユーザー (User)」ウィンドウが表示されます。

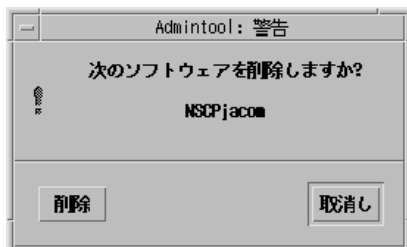


- 「ブラウザ (**Browse**)」メニューから「ソフトウェア (**Software**)」を選択します。
「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。

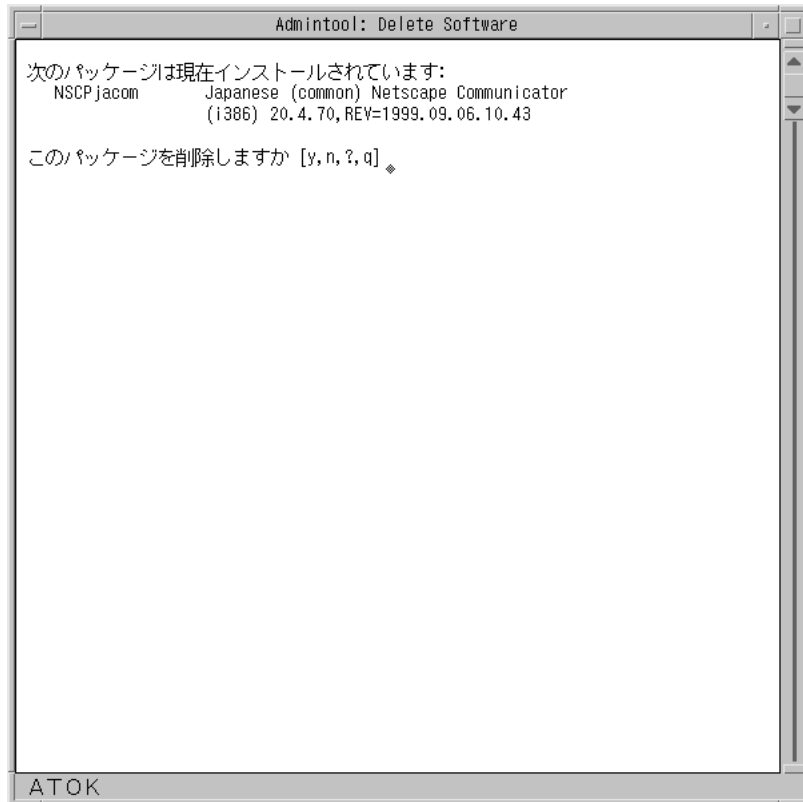


- 削除したいソフトウェアを選択して強調表示します。
- 「編集 (**Edit**)」メニューから「削除 (**Delete**)」を選択します。

「警告 (Warning)」画面にソフトウェアの削除を確認するメッセージが表示されます。



6. 「警告 (Warning)」画面で「削除 (Delete)」をクリックします。
「Delete Software」ウィンドウが表示され、削除するソフトウェアごとにメッセージが表示されます。



選択したソフトウェアパッケージごとに削除を確認するプロンプトが表示されます。

7. プロンプトが表示されるごとに「y」、「n」、または「q」を入力します。
ソフトウェアの構成要素が削除されるたびにメッセージが表示されます。選択したソフトウェアに属するすべての構成要素が削除されると、次のメッセージが表示されます。

```
<name_of_software> の削除に成功しました。  
press <Return> to continue
```

8. Return キーを押します。

「Delete Software」ウィンドウが閉じ、「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。引き続きソフトウェアを削除できます。

9. ソフトウェアの削除が終了したら、「ファイル (File)」メニューから「終了 (Exit)」を選択します。

pkgadd と pkgrm によるパッケージの追加と削除

▼ pkgadd でパッケージを追加する方法

1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. システムに追加するソフトウェアが含まれている **CD** をシステムに接続されている **CD-ROM** ドライブに入れます。
ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
3. 追加するソフトウェアの **CD** 上のディレクトリパスを記録します。
4. **1** つまたは複数のパッケージをシステムに追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

device_name インストール済みのシステムに追加するソフトウェアが含まれている CD へのディレクトリパス名

pkgid インストール済みのシステムに追加するソフトウェアパッケージ名 (たとえば、SUNWaudio)

5. 一連の手順が終了したら、pkgchk (1M) コマンドを使って、パッケージが正しくインストールされているかを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

エラーがなければ、pkgchk はインストール済みファイルのリストを表示します。エラーがあると、pkgchk はエラーの内容を示すメッセージを表示します。

例：pkgadd コマンドによるパッケージの追加

次の例では、pkgadd を使って、マウントされている Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から SUNWaudio パッケージをインストールします。

注 - 今回の Solaris リリースの名称は「Solaris 8」ですが、コード、パス名、パッケージパス名などで、「Solaris_2.8」または「SunOS_5.8」という名称が使用されていることがあります。コード、パス、パッケージパスなどを実際に入力または使用するときには、必ずマニュアル中に記述されている名称に従ってください。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d /cdrom/sol_8_ia/Solaris_8/Product SUNWaudio
.
.
<SUNWaudio> のインストールに成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
/usr
/usr/bin
/usr/bin/audioconvert
/usr/bin/audioplay
/usr/bin/audiorecord
#
```

▼ pkgrm でパッケージを削除する方法

1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. 1 つまたは複数のパッケージをシステムから削除します。

```
# /usr/sbin/pkgrm pkgid
```

pkgid は、インストール済みのシステムから削除するソフトウェアパッケージ名 (たとえば、SUNWaudio) です。

3. プロンプトが表示されるごとに「y」、「n」、または「q」を入力して、パッケージを削除するか、削除しないか、終了するかをそれぞれ指定します。
4. 一連の手順が終了したら、`pkgchk (1M)` コマンドを使って、パッケージが正しく削除されているか確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

パッケージが正しく削除されていないと、`pkgchk` は警告メッセージを表示します。

例：pkgrm コマンドによるパッケージの削除

次の例は、`pkgrm` を使用して `SUNWaudio` パッケージをシステムから削除する方法を示しています。

```
# /usr/sbin/pkgrm SUNWaudio
次のパッケージは現在インストールされています:
  SUNWaudio          Audio applications
                    (Intel) 3.6.20,REV=1.2000.11.7
このパッケージを削除しますか [y, n, ? q] y
.
.
.
<SUNWaudio> の削除に成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
警告: <SUNWaudio> に関連するパス名がありません。
#
```


インストール時の問題解決

この章では、Solaris ソフトウェアのインストール時に発生する可能性のあるエラーメッセージと一般的な問題について説明します。これらのエラーメッセージや問題は、Solaris Web Start 固有のものもあれば、そうでないものもあります。インストール処理で問題が発生している場所を知るには、まず次のリストを調べてください。

システムのブート

エラーメッセージ

```
le0: No carrier - transceiver cable problem
```

問題	対処方法
システムがネットワークに接続されていない。	ネットワークに接続されていないシステムの場合、このメッセージは無視してください。ネットワークに接続されているシステムの場合は、イーサネットケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。

```
The file just loaded does not appear to be executable
```

問題	対処方法
ブート用の適切な媒体が見つからない。	<p>インストールサーバーからネットワーク上でインストールできるようにシステムが正しく設定されているか確認してください。たとえば、システムに合ったプラットフォームグループを指定しているか確認します。</p> <p>また、Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) のイメージがインストールサーバーに格納されていない場合は、この CD をインストールサーバーにマウントし、アクセスできるようにします。</p>

Can't boot from file/device

問題	対処方法
システムの CD-ROM ドライブに Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) がない。	<p>次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CD-ROM ドライブが正しく取り付けられていて、電源が入っている。 ■ Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) が CD-ROM ドライブに挿入されている。

Not a UFS filesystem

問題	対処方法
対話式 JumpStart かカスタム JumpStart による Solaris ソフトウェアのインストールでデフォルトのブートドライブが選択されなかった。別のブートディスクが選択されている場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant を使ってシステムをその時点からブートする必要がある。	<p>Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクか Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) をシステムのブートフロッピーディスクドライブ (通常は A: ドライブ) か CD-ROM ドライブに挿入します。</p>

一般的な問題

問題	対処方法
メモリー増設用以外の PC カードを挿入すると、システムがハングまたは異常動作する。	<p>メモリー増設用以外の PC カードは、他のデバイスが使用するのと同じメモリー資源を使用できません。この問題を解決するには、DOS デバッガを使ってデバイスのメモリー使用量を判定し、次の手順でメモリー資源を PC カードデバイスに手動で割り当てる必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Solaris 8 Device Configuration Assistant (構成用補助) を使ってシステムをブートします。2. 「Solaris Device Configuration Assistant」画面が表示されたら F2 キーを押します。 「Bus enumeration」画面が表示され、続いて「Scanning Devices」画面が表示されます。システムが走査され、システムのハードウェアが識別されます。走査が終わると、「Identified Devices」画面が表示されます。3. F4 キーを押します。 「Device Tasks」画面が表示されます。4. 「View/Edit Devices」を選択し、F2 キーを押します。 「View/Edit Devices」画面が表示されます。5. F3 キーを押します。 「Add ISA Device」画面が表示されます。6. 「Unsupported ISA device」を選択し、F2 キーを押します。 「Select Resource Types」画面が表示されます。7. 「Memory」を選択し、F2 キーを押します。 「Specify Memory Resource」画面が表示されます。8. 予約するアドレス範囲 (たとえば、CA800-CFFFF) を入力し、F2 キーを押します。 「Select Resource Types」画面が表示されます。9. F4 キーを押します。 「View/Edit Devices」画面が表示されます。10. F2 キーを押します。 「Device Tasks」画面が表示されます。11. 「Save Configuration」を選択し、F2 キーを押します。 「Save Configuration」画面が表示されます。12. 構成に割り当てる名前を指定し、F2 キーを押します。 「Device Tasks」画面が表示されます。13. F3 キーを押します。 「Identified Devices」画面が表示されます。14. F3 キーを押します。 「Solaris Device Configuration Assistant」画面が表示されます。15. F2 キーを押してシステムのブートを続けます。

問題	対処方法
<p>事前ブート段階では、Solaris 8 Device Configuration Assistant (構成用補助) プログラムが、システム上の IDE BIOS 一次ドライブを検出しなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古いドライブを使用している場合、サポートされていないことがあります。『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』で確認してください。 ■ リボンと電源ケーブルが正しく接続されているか確認します。ハードウェアのマニュアルで確認してください。 ■ 1 台のドライブだけがコントローラに接続されている場合、ジャンパを設定して、そのドライブをマスタードライブとして指定します。一部のドライブでは、単一マスター用のジャンパ設定が、スレーブといっしょに動作するマスター用のジャンパ設定と異なる場合があります。未使用のコネクタがケーブルの終端にあるときに発生する信号障害を抑制するために、ケーブルの終端にあるコネクタにドライブを接続します。 ■ 2 台のドライブがコントローラに接続されている場合、1 台目のドライブをマスター (またはスレーブといっしょに動作するマスター) としてジャンパ設定して、2 台目のドライブをスレーブとしてジャンパ設定します。 ■ 1 台目のドライブがハードディスクで、2 台目のドライブが CD-ROM ドライブの場合、ジャンパを設定して、そのドライブをスレーブドライブとして指定します。ドライブがケーブルのどのドライブコネクタに接続されていてもかまいません。 ■ 1 つのコントローラと 2 台のドライブの組み合わせで問題が残る場合、1 台ずつドライブを接続して、各ドライブが動作していることを確認します。ドライブをマスターまたは単一マスターとしてジャンパ設定して、IDE リボンケーブルの終端にあるドライブコネクタを使用してドライブを接続します。各ドライブが動作することを確認して、次にドライブをもう一度マスターとスレーブの構成にジャンパ設定します。 ■ ドライブがディスクドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプ (シリンダ、ヘッド、セクターの数を示す) が正しく構成されていることを確認します。一部の BIOS ソフトウェアは、ドライブタイプを自動的に検出する機能を持っています。 ■ ドライブが CD-ROM ドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプを CD-ROM ドライブとして構成します (BIOS ソフトウェアがこの機能を持っている場合のみ)。 ■ MS-DOS がドライブを認識しない場合、ハードウェアまたは BIOS 構成の問題が考えられます。ほとんどのシステムでは、MS-DOS CD-ROM ドライバがインストールされている場合、IDE の CD-ROM ドライブは MS-DOS でしか認識されません。

問題	対処方法
ブート前フェーズで Solaris Device Configuration Assistant がシステムの IDE ディスクまたは CD-ROM ドライブを検出できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ■ BIOS の中で IDE ディスクが無効になっている場合は、Solaris Device Configuration Assistant を使ってハードディスクからブートします。 ■ システムに IDE ディスクがない場合は、ディスクレスクライアントの可能性がります。

問題	対処方法
プロンプトを表示する前にシステムがハングする。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照してください。

Solaris オペレーティング環境のインストール

問題	解決方法
IDE ディスクドライブは、Solaris ソフトウェアがサポートする他のドライブのように、不良ブロックを自動的に無効にしない。IDE ディスク上に Solaris 8 をインストールする前に、ディスクの検査を行う必要がある。	<p>IDE ディスクの検査を行うには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Solaris 8 対話式インストールプログラムを起動します。この対話式インストールプログラムは、グラフィックスモニターであるかどうかによって、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) とキャラクタユーザーインタフェース (CUI) のどちらかを起動します。2. GUI または CUI プログラムが起動したら、最初の 2、3 の画面で情報を入力し、「継続 (Continue)」オプションを選択します。3. 「Solaris 8 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されたら、「終了 (Exit)」オプションを選択して、インストールを終了します。4. GUI インストールプログラムを使用している場合は、この後の手順のためにコマンドツールウィンドウを開きます。また、CUI インストールプログラムを使用している場合は、システムのシェルを使用します。5. format と入力して、format プログラムを起動します。6. ディスク面の検査をする IDE ディスクドライブを指定します。 <hr/> <p>注 - IDE ドライブはターゲット番号を含みません。IDE ドライブ名は <code>cx</code>dy 形式です。cx はコントローラ番号、dy はデバイス番号です。</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none">7. <code>format></code> プロンプトで、fdisk と入力します。fdisk プログラムを使用して、ディスク上に Solaris パーティションを作成します (Solaris fdisk パーティションがすでに存在する場合は、そのまま残しておいてください)。8. <code>format></code> プロンプトで、analyze と入力します。9. <code>analyze></code> プロンプトで、config と入力します。ディスク検査の現在の設定が表示されます。設定を変更するには、setup と入力します。10. <code>analyze></code> プロンプトで、実行する検査内容によって read、write、compare のいずれかを入力します。format が不良ブロックを発見すると、それらの再マッピングを実行します。11. <code>analyze></code> プロンプトで、quit と入力します。12. 再マップするブロックを指定する場合は、<code>format></code> プロンプトで repair と入力します。13. quit と入力して、format プログラムを終了します。14. GUI インストールを再開するには、ワークスペースメニューから「インストールの再起動 (Restart Install)」を選択し、CUI インストールを再開するには、suninstall と入力します。

WARNING: CHANGE DEFAULT BOOT DEVICE

問題	対処方法
システムの BIOS に設定されているデフォルトのブートデバイスが、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用しないとシステムをブートできないデバイスに設定されている可能性がある。 これは情報を伝えるメッセージです。	インストールを続けてください。必要なら、Solaris ソフトウェアのインストール後に BIOS に指定したシステムのデフォルトブートデバイスを、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを必要としないデバイスに変更してください。

Solaris 8 のインストール (アップグレード)

この節では、Solaris のアップグレード時に生じる問題を解決する方法について説明します。

エラーメッセージ

No upgradeable disks

問題	対処方法
/etc/vfstab ファイルのスワップエントリが原因でアップグレードに失敗した。	/etc/vfstab ファイルの以下の行をコメントにしてください。 <ul style="list-style-type: none">■ アップグレードしないディスク上のスワップファイルとスライスの指定行■ 存在しないスワップファイルの指定行■ 使用していないスワップスライスの指定行

一般的な問題

問題	対処方法
<p>Solaris Web Start が IA ブートパーティションを検出できなかったため、アップグレードに失敗した。そのため、Solaris Web Start は初期アップグレードの実行を試る。Solaris Web Start は最終的に次のメッセージを出して終了する。</p> <pre>Please choose another installation option, see the Solaris install Documentation for more details. #</pre>	<p>システムの BIOS によって、デフォルトのブートデバイスを別のデバイスに変更することがサポートされている場合は、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none">2 つ目のディスクをシステムに追加し、このディスクに Solaris fdisk パーティションと、10M バイト以上の容量をもつ IA ブートパーティションを手動で作成します。
<p>注 - Solaris Web Start を使って、Solaris 7 やそれ以前のバージョンの Solaris オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start が、以前のバージョンとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです (10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です)。</p>	<p>注 - 2 つ目のディスクは LBA 対応 (論理ブロックアドレス対応) のディスクか、容量が 1024 シリンダより少ないディスクでなければなりません。LBA 対応のディスクでは、セクターが線形にマップされ、アドレス指定されます。2 つ目のディスクが LBA 対応か CHS 対応 (シリンダ/ヘッド/セクター対応) かを判定するには、次のように入力します。CHS 対応のディスクでは、ディスクのアドレス指定はシリンダ、ヘッド、セクターの番号順で行われます。</p>
<p>したがって、Solaris Web Start の代わりに Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。このプログラムの詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用方法」を参照してください。</p>	<pre># prtconf -pv grep lba</pre> <p>「lba-access-ok」と表示されたら、ディスクは LBA 対応です。「lba-access-ok」が表示されなかったら、ディスクは CHS 対応です。</p>
	<ol style="list-style-type: none">システムの BIOS 設定ツールを使って 2 つ目のディスクをデフォルトのブートディスクに指定します。Solaris ソフトウェアを格納できるだけの大きさをもつ swap スライスが入るような Solaris パーティションをフォーマットします。必要な最小容量は 320M バイトですが、512M バイトをお奨めします。2 つ目のディスクからブートして、1 つ目のディスクにある Solaris ソフトウェアをアップグレードします。

問題	対処方法
Solaris インストールプログラムがシステムにメタデバイスをマウントできなかったため、アップグレードに失敗した。	メタデバイスは自動的にアップグレードできません。詳細は、『 <i>Solstice DiskSuite 4.2.1</i> リファレンス』を参照してください。

問題	対処方法
システム上にアップグレード可能なバージョンの Solaris ソフトウェアが存在するにもかかわらず、アップグレードオプションが提供されない。次の原因が考えられる。	
原因 1: /var/sadm ディレクトリがシンボリックリンクであるか、別のファイルシステムからマウントされたディレクトリである。	原因 1 の対処方法: /var/sadm ディレクトリをルート (/) または /var ファイルシステムに移動します。
原因 2: /var/sadm/softinfo/INST_RELEASE ファイルが存在しない。	原因 2 の対処方法: 以下の形式で INST_RELEASE ファイルを作成します。 <pre>OS=Solaris VERSION=2.x REV=0</pre> x は、システム上の Solaris ソフトウェアのバージョン番号です。

問題	対処方法
電源障害あるいはネットワーク接続障害などの、自分では解決できないことが原因でアップグレードに失敗し、システムがブート不可能な状態になっている。	<ol style="list-style-type: none"> 1. Solaris 8 INSTALLATION MULTILINGUAL CD (Intel) またはネットワークからシステムをリブートします。 2. インストールオプションとしてアップグレードを選択します。 Solaris Web Start は、システムが一部アップグレードされているかどうかを判断し、そこからアップグレードを継続します。

問題	対処方法
<p>Solaris インストールプログラムがファイルシステムをマウントできないため、アップグレードに失敗した。アップグレード中、インストールプログラムは、システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイルに含まれているすべてのファイルシステムを、アップグレードするルート (<code>/</code>) ファイルシステムにマウントしようとする。ファイルシステムをマウントできない場合、インストールプログラムは動作を継続できず終了する。</p>	<p>システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイル内に含まれているすべてのファイルシステムがマウント可能であるかどうかを調べます。マウントできない、あるいは問題の原因になっていると思われるファイルシステムがあればそれらの指定をコメントにして、インストールプログラムがマウントしないようにしてください。</p> <p>注 - アップグレードされるソフトウェアを含むシステムベースのファイルシステム (たとえば、<code>/usr</code>) は、コメントにできません。</p>

問題	対処方法
<p>アップグレードに必要な容量がない。この問題の原因として以下のことを調べ、自動レイアウト機能を使用して容量を再編成しなくても問題を解決できるかどうか判断する。</p>	
<p>原因 1: アップグレード時は自動マウンタが有効でないため、インストールプログラムは、自動マウントされたファイルシステムへのシンボリックリンクとなっている、パッケージのすべてのファイルとディレクトリをインストールする。シンボリックリンクが上書きされると、ディスク容量が不足するためにアップグレードが失敗することがある。</p>	<p>原因 1 の対処方法: アップグレード時、自動マウントされたファイルシステム内にファイルやディレクトリを作成するソフトウェアパッケージを削除してください。そうすることによって、既存のシンボリックリンクがパッケージのファイルまたはディレクトリで上書きされません。</p>
<p>注 - 通常、自動マウントされたファイルシステムに置かれる <code>/var/mail</code> と <code>/var/news</code> ディレクトリがアップグレードの影響を受けることはない。</p>	
<p>原因 2: アップグレードするソフトウェアグループに新しいソフトウェアが追加されているか、既存の一部のソフトウェアのサイズが大きくなっている可能性がある。アップグレードでは、インストールプログラムは、以前システムにインストールされたソフトウェアグループに新たに追加されたソフトウェアをすべてインストールし、同時にシステムの既存のパッケージもアップグレードする。</p>	<p>原因 2 の対処方法: アップグレード時、大きな容量を必要とするソフトウェアパッケージを削除してください。特に今回の Solaris ソフトウェアで新たに追加されたパッケージで、不要なものを削除してください。</p>

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

この付録では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
AMImega	MEGA ファミリ SCSI ホストバスアダプタ
CPQcnft	Compaq NetFlex ファミリ NIC
CPQncr	Compaq ファミリ SCSI HBA
CPQsmii	アレイコントローラの Compaq SMART-2/E ファミリ
MADGFmt	NIC の Madge トークンリングファミリ
MYLXflp	Buslogic FlashPoint Ultra PCI SCSI
NCRos86r	NCR プラットフォームサポート、OS 機能 (root)
NSCPcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 のアプリケーションと構成ファイル
NSCPcpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (簡体字) の部分バージョン

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
NSCPphpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (繁体字) の部分バージョン
NSCPjacom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の日本語 (共通) 版
NSCPkpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の韓国語 の部分バージョン
SUNW1251f	ロシア語追加ロケールフォント (1251)
SUNW5dt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5leu	中国語 (繁体字) 環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNW5ttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNW5xmft	中国語/台湾語 (BIG5) X Window System プラットフォームに必要なフォントパッケージ
SUNW5xplt	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWadmap	システム管理作業の実行に使用するソフトウェア
SUNWadmc	システム管理に使用するコアソフトウェアライブラリ
SUNWadmfw	システムおよびネットワーク管理ライブラリとサービス
SUNWadmj	システム管理ツールに使用する Java ライブラリ
SUNWadmr	システムインストールの初期化用 root プログラムとスクリプト
SUNWadp	SCSI HBA の Adaptec 29xx/39/xx/78xx ファミリ
SUNWale	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有する共通ファイル。アジア言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWaled	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有するマニュアルページ

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWami	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWamir	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - 構成ファイル
SUNWarrf	アラビア語文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWatfsr	autoFS ファイルシステム用構成と起動ファイル
SUNWatfsu	autoFS ファイルシステム用ユーティリティとデーモン (automountd)
SUNWauadt	Australasia CDE サポート
SUNWauaos	Australasia OS サポート
SUNWauaow	Australasia OW サポート
SUNWaudd	新しいオーディオドライバアーキテクチャを使用する SunOS オーディオデバイスドライバ
SUNWaudio	オーディオバイナリ
SUNWcadp	Adaptec AHA-29xx/39xx、AIC-78xx Ultra 2 SCSI HBA
SUNWcamdt	中央アメリカ CDE サポート
SUNWcamos	中央アメリカ OS サポート
SUNWcamow	中央アメリカ OW サポート
SUNWcar.i	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcdt	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWceudt	中央ヨーロッパ CDE サポート
SUNWceuos	中央ヨーロッパ OS サポート
SUNWceuow	中央ヨーロッパ OW サポート
SUNWciu8	UTF-8 用中国語 (簡体字) (EUC) iconv モジュール

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWcleu	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcor	Corollary PSMI MP モジュール
SUNWcpmp	Compaq PSMI MP モジュール
SUNWcqhpc	COMPAQ ホットプラグ PCI コントローラ用ドライバ
SUNWcsd	Solaris の初期ブートに必要な /dev および /devices のコアエントリ
SUNWcs1	特定の命令セットアーキテクチャ用コア共有ライブラリ
SUNWcsr	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWcsu	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWctlu	CTL ロケール用印刷ユーティリティ
SUNWctpls	言語エンジン用配置インタフェース
SUNWcttf	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント
SUNWcudt	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWculeu	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcuplt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcxmft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWcxplt	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWdeis	ドイツ語版インストールソフトウェア

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdespl	スペルチェックエンジン - ドイツ語辞書
SUNWdfb.i	ダムフレームバッファ用デバイスドライバ
SUNWdoc	マニュアルページなどの文書の開発、表示、生産用ユーティリティとフロント (nroff/troff)
SUNWdtbas	CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWdtcor	Solaris デスクトップ /usr/dt ファイルシステムアンカー
SUNWdtct	UTF-8 コード変換ツール
SUNWdtcsm	共通デスクトップ環境 (CDE) 用デーモン
SUNWdtcst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdtcte	Solaris デスクトップログイン環境
SUNWdtezt	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パフォーマンスメータ、ワークステーション情報
SUNWdthe	CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdthev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdthez	デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWdticn	共通デスクトップ環境 CDE 用アイコン
SUNWdtim	Solaris CDE イメージビューア
SUNWdtjxt	Java エクステンション
SUNWdtlog	デスクトップログイン用システムブート
SUNWdtnsc	CDE 用 Netscape コンポーネント化サポート
SUNWdtrme	共通デスクトップ環境 (CDE) リリースマニュアル
SUNWdtscm	CDE Dtpower スキーム

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdtwm	CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeeudt	東ヨーロッパ CDE サポート
SUNWeeuos	東ヨーロッパ OS サポート
SUNWeeuow	東ヨーロッパ OW サポート
SUNWesis	ラテンスペイン語版インストールソフトウェア
SUNWesspl	スペルチェックエンジン - スペイン語辞書
SUNWesu	追加 UNIX システムユーティリティ。 awk、bc、cal、compress、diff、dos2unix、last、rup、 sort、spell、sum、uniq、および uuencode を含む
SUNWeudba	米国英語 UTF-8 版 CDE ベース機能
SUNWeudbd	米国英語/UTF-8 版 CDE Dtbuilder
SUNWeudda	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWeudhr	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudhs	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudis	米国英語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWeudiv	米国英語/UTF-8 版デスクトップイメージツール
SUNWeudlg	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWeudmg	米国英語/UTF-8 版デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeuezt	米国英語/UTF-8 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWeugrf	sun_eu_greek 文字セット用 X11 フォント
SUNWeuluf	米国英語/UTF-8 環境ユーザーファイル
SUNWeuodf	米国英語/UTF-8 コア OPEN LOOK デスクトップファイル

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWeusru	米国英語/UTF-8 版 Solaris ユーザー登録
SUNWeuxwe	米国英語/UTF-8 X Window System 環境
SUNWfdl	Adobe PostScript プリンタ用 Solaris デスクトップフォントダウンローダー
SUNWfns	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWfris	フランス語版インストールソフトウェア
SUNWfrspl	スペルチェックエンジン - フランス語辞書
SUNWftpr	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWftpu	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWgdt	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgleu	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgss	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - ユーザー
SUNWgssc	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - 構成
SUNWgssdh	NIS+ 拡張 Diffie-Hellman 用 GSS-API 機構ライブラリ
SUNWgssk	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - カーネル
SUNWgttf	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント
SUNWgxfont	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWgxplt	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhdt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWhiu8	UTF-8 用中国語 (繁体字) iconv モジュール
SUNWhler	中国語 (繁体字) 言語環境用ストリームモジュール。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhleu	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNWhudt	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWhuleu	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) UTF-8 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhuplt	中国語 (繁体字) UTF-8 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhxfnt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWhxplt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWi13cs	X11 ISO-8859-13 コードセットサポート
SUNWi13rf	ISO-8859-13 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi15cs	X11 ISO-8859-15 コードセットサポート
SUNWi15rf	ISO-8859-15 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi1cs	X11 ISO-8859-1 コードセットサポート
SUNWi1of	ISO-8859-1 (Latin-1) オプションフォント
SUNWi2cs	X11 ISO-8859-2 コードセットサポート
SUNWi2of	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWi2rf	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi4of	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi4rf	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi5cs	X11 ISO-8859-5 コードセットサポート
SUNWi5of	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi5rf	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi7cs	X11 ISO-8859-7 コードセットサポート
SUNWi7of	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi7rf	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi8rf	ISO-8859-8 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi9cs	X11 ISO-8859-9 コードセットサポート
SUNWi9of	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi9rf	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWiimr	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (root)
SUNWiimu	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (usr)
SUNWinst	Sun インストールソフトウェア
SUNWipc	プロセス間通信用にメッセージ、セマフォ、または共有メモリーを監視または削除するユーティリティ
SUNWislcc	東ヨーロッパロケール用 XSH4 変換
SUNWisolc	ISO ラテン文字セット用 XSH4 変換
SUNWitis	イタリア語版インストールソフトウェア

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWitspl	スペルチェックエンジン - イタリア語辞書
SUNWj2dem	デモアプリケーションとアプレット
SUNWj2pi	Java Plug-in 1.2.2 用構成ファイル
SUNWj2rt	Java Virtual Machine とコアクラスライブラリ
SUNWjc0r	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 root ファイル
SUNWjc0u	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザーファイル
SUNWjedt	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjeuc	usr 用 Japanese (EUC) Feature Package (JFP) 固有ファイル。EUC 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjexpl	日本語 (EUC) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjfpr	Japanese Feature Package (JFP) 用ストリームモジュール。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjfpu	usr 用 Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjiu8	{eucJP PCK} および UTF-8 日本語間でのデータ変換用 iconv モジュール
SUNWjman	SUNWjfpr および SUNWjfpu 用英文マニュアルページを表示するための Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ
SUNWjmfpl	JMF プレイヤ
SUNWjpck	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package (JFP) 固有ファイル。PCK 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjpdtd	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpxpl	日本語 (PCK) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWju8	Japanese (UTF-8) Feature Package (JFP) 固有ファイル。日本語 UTF-8 環境のサポートに必要なパッケージ

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWjudt	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuxpl	日本語 (UTF-8) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjvjit	Java JIT コンパイラ
SUNWjvrt	JavaVM ランタイム環境。java、appletviewer、classes.zip を含む
SUNWjxcft	日本語 JISX212 TrueType およびビットマップフォント
SUNWjxmft	日本語 X Window System 最小限必須フォント - gothic medium
SUNWkdt	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkey	各キーの現地仕様化された意味などのキーボード属性を指定する構成テーブル
SUNWkiu8x	UTF-8 用韓国語 (UTF-8) iconv モジュール (64 ビット)
SUNWkler	韓国語言語環境に必要なストリームモジュール
SUNWkleu	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語の環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkoi8f	KOI8-R 文字セット用 X11 フォント
SUNWkttf	韓国語 True Type フォント
SUNWkudt	韓国語 UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkuleu	韓国語 UTF-8 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkuxpl	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkvm.i	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkxfnt	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxmft	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォーム必須フォント

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWkxplt	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWlccom	現地仕様化共通ファイル
SUNWlcl	ロケール変換ライブラリ
SUNWlibC	Sun Workshop コンパイラバンドル libC
SUNWlibCf	Sun WorkShop バンドル libC (cfront バージョン)
SUNWlibms	Sun WorkShop バンドル共有 libm
SUNWllc	IEEE 802.2 Logical Link Control 2 (LLC2) サービスを実装する LLC2 ドライバ
SUNWllcr	LLC2 ドライバ用構成および起動ファイル
SUNWloc	現地仕様化ユーティリティおよび C ロケール (POSIX デフォルト) 定義
SUNWlpmsg	プリンタ警告を転送する ToolTalk プログラム
SUNWmeadt	中東 CDE サポート
SUNWmeaos	中東 OS サポート
SUNWmeaow	中東 OW サポート
SUNWmfrun	Motif 2.1.1 ライブラリ、ヘッダー、xmbind、およびバインディング
SUNWmgapp	Solaris 管理アプリケーション
SUNWmibii	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 snmp デーモン
SUNWmlx	RAID デバイスの Mylex DAC960 ファミリ
SUNWmp	MP 印刷フィルタ
SUNWnafdt	北アフリカ CDE サポート
SUNWnafos	北アフリカ OS サポート

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWnafow	北アフリカ OW サポート
SUNWnamdt	北米 CDE サポート
SUNWnamos	北米 OS サポート
SUNWnamow	北米 OW サポート
SUNWneudt	北欧 CDE サポート
SUNWneuos	北欧 OS サポート
SUNWneuow	北欧 64 ビット OS サポート
SUNWnistr	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用構成ファイルとディレクトリ
SUNWnису	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用ユーティリティ
SUNWntpr	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)
SUNWntpu	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)
SUNWolaud	オーディオおよび他の補助オーディオサポート
SUNWolbk	OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWoldcv	OPEN LOOK 文書およびヘルプ表示アプリケーション
SUNWoldst	OPEN LOOK デスクトップツール
SUNWoldte	OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)
SUNWolimt	OPEN LOOK imagetool
SUNWolrte	OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWos86r	プラットフォームサポート、OS 機能 (root)

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWos86u	プラットフォームサポート、OS 機能 (root)
SUNWpcelx	3COM EtherLink III PCMCIA Ethernet ドライバ
SUNWpcmci	PCMCIA カードサービス用カーネルモジュールおよび起動ファイル
SUNWpcmdu	PCMCIA カードサービスを提供するデーモン
SUNWpcmem	PCMCIA メモリーカードドライバ
SUNWpcer	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpcser	PCMCIA シリアルカードドライバ
SUNWpcu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpdas	Palm Pilot PDA でデスクトップアプリケーションを同期させるツール
SUNWpe10	Xircom パラレルポート Ethernet アダプタ
SUNWp15u	Perl 5 プログラミング言語
SUNWp1ow	部分ロケールを有効にする OpenWindows
SUNWp1ow1	補助部分ロケールを有効にする OpenWindows
SUNWp1mi	X サーバー VESA PMI ファイル
SUNWp1mowr	電源管理システム OW ユーティリティ (root)
SUNWp1mowu	電源管理システム OW ユーティリティ (usr)
SUNWp1mr	電源管理システム構成ファイルおよび rc スクリプト
SUNWp1mu	電源管理システムバイナリ
SUNWp1ppm	Solaris でプリンタを管理するグラフィカルツール
SUNWp1psdcr	プラットフォームサポート、バス非依存型デバイスドライバ (root)

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWpsdir	プラットフォームサポート、ISA バスデバイスドライバ (root)
SUNWpsdpr	PCMCIA ATA カードドライバ
SUNWpsf	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpsr	印刷サービス用構成および起動ファイル
SUNWpsu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWrmdm	OILBN README ディレクトリ
SUNWrmodr	Realmode モジュール (root)
SUNWrmodu	Realmode モジュール (usr)
SUNWrsg	ONC RPC 用 GSS-API サービス
SUNWrsgk	ONC RPC 用 カーネル GSS-API サービス
SUNWsacom	root ファイルシステム用 Solstice Enterprise Agents 1.0.3 ファイル
SUNWsadmi	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 デスクトップ管理インタフェース
SUNWsamdt	南米 CDE サポート
SUNWsamos	南米 OS サポート
SUNWsamow	南米 OW サポート
SUNWsasnm	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 Simple Network Management Protocol
SUNWscplp	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用印刷ユーティリティ
SUNWscpr	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ
SUNWscpu	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWseudt	南ヨーロッパ CDE サポート
SUNWseuos	南ヨーロッパ OS サポート
SUNWseuow	南ヨーロッパ OW サポート
SUNWslpr	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの root ファイルシステム部分。SLP 構成ファイルと SLP デーモン起動スクリプトを含む
SUNWslpu	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの usr ファイルシステム部分。C と Java 開発ライブラリ、およびディレクトリエージェント (DA) として機能できるデーモンを含む
SUNWsndmr	Sendmail root
SUNWsndmu	Sendmail ユーザー
SUNWsolnm	/etc/release ファイル内の Solaris 名を有効にする
SUNWspl	スペルチェックエンジン - ベースリリース (英語)
SUNWsgregu	ユーザー登録情報を入力するためのデスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWsvvis	スウェーデン語版インストールソフトウェア
SUNWsvspl	スペルチェックエンジン - スウェーデン語辞書
SUNWswmt	Solaris 2.x インストールおよびパッチユーティリティ
SUNWtdbas	タイ語版 CDE ベース機能
SUNWtddst	タイ語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWtddte	タイ語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWtdft	タイ語版 CDE フォント
SUNWtdwm	タイ語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWtiu8	UTF-8 用タイ語 UTF-8 iconv モジュール

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWtleu	タイ言語環境固有ファイル。タイ言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWtltk	共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要な ToolTalk バイナリと共有ライブラリ
SUNWtoo	ソフトウェア開発用ユーティリティ。ld、ldd、od、および truss を含む
SUNWtxfnt	タイ語 X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWtxodt	タイ語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWtxplt	X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWudf	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム (usr)
SUNWudfr	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム
SUNWuiu8	UTF-8 ロケール用 iconv モジュール
SUNWuium	UTF-8 ロケール用 iconv マニュアルページ
SUNWulcf	UTF-8 ロケール環境共通ファイル
SUNWulocf	UTF-8 ロケール環境共通 OpenWindows 共通ファイル
SUNWusb	USBA (USB フレームワーク) および USB デバイスドライバ
SUNWuxlcf	UTF-8 X ロケール環境共通ファイル
SUNWvolg	ボリューム管理グラフィカルユーザーインターフェース
SUNWvolr	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用構成および起動ファイル
SUNWvolu	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用ユーティリティおよびデーモン (vold)
SUNWwbapi	Solaris WBEM API
SUNWwbcor	Solaris WBEM Services (root)

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWwbcou	Solaris WBEM Services (usr)
SUNWweudt	西ヨーロッパ CDE サポート
SUNWweuos	西ヨーロッパ OS サポート
SUNWweuow	西ヨーロッパ OW サポート
SUNWwsr	Solaris Product Registry、ビューア、および Web Start サポート
SUNWxcu4	XCU4 仕様への準拠を提供するユーティリティ
SUNWxi18n	libX11.so によりロードされるランタイムライブラリ。国際化 X Window System アプリケーション用入出力機能を提供する
SUNWxildh	XIL ロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilow	XIL デスクセットロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilr1	XIL ランタイム環境
SUNWxim	複数の入力システムを提供する X 入力システムサーバー
SUNWxsvc	Xinside Xserver 疑似ドライバ
SUNWxwacx	AccessX クライアントプログラム
SUNWxwcfnt	X Window System オプションフォント
SUNWxwctl	Type1/CID フォント用フォントサポートライブラリ
SUNWxwdv	X Window System 用カーネルデバイスドライバ
SUNWxwfnt	X Window System フォント (必須フォント)
SUNWxwfs	OpenWindows フォントサーバー
SUNWxwice	OpenWindows ICE ライブラリおよび iceauth
SUNWxwmod	OpenWindows 製品の実行に必要なカーネルモジュール

表 A-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxwofc	X Window System オプションフォント
SUNWxwopt	基本以外の MIT コアクライアントおよびサーバー拡張
SUNWxwpls	X サーバープラットフォームソフトウェア
SUNWxwplt	X Window System プラットフォームソフトウェア (サーバー、DPS、拡張、Xlib、必須および共通 MIT クライアント)
SUNWxwrtl	X Window System およびグラフィックスランタイムライブラリリンク
SUNWxwscf	X サーバー検証と構成
SUNWxwssu	X サーバープラットフォーム固有、構成起動ソフトウェア
SYMhis1	Symbios 8XX 高性能 SCSI HBA

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

この付録では、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
SUNWaccr	システム動作のアカウントिंगと報告のためのユーティリティ
SUNWaccu	システム動作のアカウントिंगと報告のためのユーティリティ
SUNWapchS	Apache HTTPD サーバー用ソース
SUNWapchd	Apache HTTP サーバー (文書)
SUNWapchr	Apache HTTP サーバープログラム (root 構成要素)
SUNWapchu	Apache HTTP サーバープログラム (usr 構成要素)
SUNWapppr	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用構成ファイル
SUNWapppu	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用ロゲインサービス
SUNWarc	静的にリンクされた実行可能ファイルのシステム開発用システムライブラリ (アーカイブ ar 形式)

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWast	システムファイルとディレクトリへのアクセスを監視または制限することでシステムセキュリティを改善する管理ユーティリティ
SUNWaudh	オーディオドライバとアプリケーション用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWaudmo	オーディオデモプログラム、ライブラリ、サウンド
SUNWbash	GNU Bourne-Again シェル (bash)
SUNWbashS	GNU Bourne-Again シェル (bash) 用ソース
SUNWbnur	UUCP ユーティリティ用構成および起動ファイル
SUNWbnuu	UUCP ユーティリティおよびデーモン
SUNWbtool	システム開発 ユーティリティ。ar、dis、dump、elfdump、lex、lorder、mcs、nm、prof、ranlib、rpcgen、size、strip、tsort、および yacc を含む。
SUNWbzip	bzip 圧縮ユーティリティ
SUNWbzipS	bzip 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWcoff	UNIX System V、リリース 3.x バイナリ互換
SUNWcpc.i	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート
SUNWcpcu	CPU 性能カウンタライブラリおよびユーティリティ
SUNWcstl	アプリケーション追跡用 Apptrace ユーティリティ。共有オブジェクトを含む
SUNWdfbh	ダムフレームバッファのソフトウェア開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWdhcm	DHCP サーバー用グラフィカル管理インタフェース
SUNWdhcsr	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdhcsu	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分。そのサービスの管理ユーティリティが含まれる
SUNWdpl	システム開発性能計測用プロファイルでコンパイルされたシステムライブラリ
SUNWdtab	CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWdtm	CDE デモ
SUNWdthed	CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdtinc	CDE インクルードファイル
SUNWdtma	共通デスクトップ環境 (CDE) 用マニュアルページ
SUNWdtmad	共通デスクトップ環境 (CDE) 開発者マニュアルページ
SUNWdtmaz	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パフォーマンスメータ、ワークステーション情報用マニュアルページ
SUNWebnfs	WebNFS 用 Java パッケージ
SUNWfac	Form and Menu Language Interpreter (FMLI) 実行環境用ユーティリティとリソース
SUNWfnsx5	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - X.500 Directory サポート
SUNWglt	レイアウトテーブル生成ユーティリティ
SUNWgpch	GNU パッチユーティリティ
SUNWgpchS	GNU パッチユーティリティ用ソース
SUNWgzip	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ
SUNWgzipS	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ用ソース

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWhea	ソフトウェア一般開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWj2dev	ツールとユーティリティ。javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む
SUNWj2man	マニュアルページ
SUNWjvdem	JavaVM デモプログラム
SUNWjvdev	JavaVM 開発者パッケージ。javac、javah、javap を含む
SUNWjvman	JavaVM マニュアルページ
SUNWkcspf	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWkcspg	Kodak Color Management System ランタイム環境デモ
SUNWkcsrt	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWless	GNU ページャ (less)
SUNWlessS	GNU ページャ (less) 用ソース
SUNWlibm	Sun WorkShop バンドル libm
SUNWlldap	動的にリンクされた実行可能ファイルのシステム開発用 LDAP ライブラリ
SUNWman	システムリファレンスマニュアルページ
SUNWmdb	モジュールデバッカ (MDB)
SUNWmdbdm	モジュールデバッガ (MDB) デモ用モジュールとソースコード
SUNWmfdev	Motif UIL コンパイラ
SUNWmfman	CDE Motif マニュアル
SUNWmkcd	CD 作成ユーティリティ
SUNWmkcdS	CD 作成ユーティリティ用ソース

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWncar	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にするコア構成要素
SUNWncau	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にする構成要素
SUNWoladd	OPEN LOOK 代替デスクトップデモ
SUNWoldem	OPEN LOOK デモプログラム
SUNWoldim	さまざまな形式のグラフィックスファイル
SUNWolinc	OPEN LOOK インクルードファイル
SUNWolman	OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ
SUNWolslb	プログラマ用 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップ静的および lint ライブラリ
SUNWolsrc	プログラマ用 OPEN LOOK サンプルソースコード
SUNWosdem	OS インタフェースの使用をデモするソースコード: ELF
SUNWp15m	Perl 5 リファレンスマニュアルページ
SUNWp15p	Perl 5 プログラミング言語用 POD 文書
SUNWpmowm	電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWpppk	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するカーネルデバイスドライバ
SUNWpsh	バスとプラットフォーム固有のデバイスドライバ用ソフトウェア開発のための SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWrpm	RPM アーカイブを処理するユーティリティ
SUNWs53	UNIX System V、リリース 3 ファイルシステム用カーネルモジュールおよび関連ユーティリティ
SUNWsadml	Solstice ランチャーと関連ライブラリ
SUNWsprot	Solaris バンドルツール

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsrar	SunOS 4.x とのソースビルド互換性のためのライブラリ (アーカイブ ar 形式)
SUNWsrh	SunOS 4.x とのソースビルド互換性のための SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWsutl	システムの障害復旧のための SunOS 4.x とのソースビルド互換性用静的リンクユーティリティ
SUNWtcsh	Tenex C - シェル (tcsh)
SUNWtcshS	Tenex C - シェル用ソース (tcsh)
SUNWter	端末および疑似端末の機能を記述した拡張 terminfo データベース
SUNWtltkd	プログラマ用 ToolTalk 静的ライブラリとインクルードファイル
SUNWtltkm	ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用 ToolTalk マニュアルページ
SUNWtnfc	追跡ファイルに Trace Normal Format (TNF) レコードを生成できる、カーネルとアプリケーションにある、検証ポイントを有効にするのに必要なユーティリティ
SUNWtnfd	Trace Normal Format (TNF) 機能を使用する開発者に必要なユーティリティ
SUNWucbt	UCB 互換ライブラリ用 Apptrace 共有オブジェクト
SUNWusbu	USB ヘッダー
SUNWxcu4t	make および sccs ユーティリティ XCU4 準拠バージョン
SUNWxilh	XIL API ヘッダーファイル
SUNWxwdem	X Window System デモプログラム
SUNWxwdim	さまざまな形式のグラフィックスファイル
SUNWxwdxm	DPS MOTIF ライブラリ
SUNWxwfa	Solaris プラットフォーム用フォント管理アプリケーション

表 B-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxwhl	/usr/include にある X Window System およびグラフィックスヘッダーリンク
SUNWxwinc	X Window System インクルードファイル
SUNWxwman	X Window System オンラインユーザーマニュアルページ
SUNWxwpmn	X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWxwslb	プログラマ用 X Window System 静的および lint ライブラリ
SUNWxwsrc	プログラマ用 X Window System サンプルソースコード
SUNWypr	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー
SUNWypu	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー
SUNWzip	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ
SUNWzipS	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWzlib	Zip 圧縮ライブラリ
SUNWzlibS	Zip 圧縮ライブラリ用ソース
SUNWzsh	Z シェル (zsh)
SUNWzshS	Z シェル (zsh) 用ソース

Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ

この付録では、Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を言語ごとに示します。

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語

パッケージ	内容
JSat8xw	日本語入力システム ATOK8 - 日本語 Solaris 用
JSatsvr	日本語入力システム ATOK12 root ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvu	日本語入力システム ATOK12 usr ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvw	日本語入力システム ATOK12 X11 サポートファイル - 日本語 Solaris 用
NSCPjecom	日本語 (EUC) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjpcom	日本語 (PCK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjucom	日本語 (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWjadis	日本語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjadma	日本語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと日本語 (EUC) 版 SUNWjadis パッケージが必要
SUNWjaj2p	日本語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWjc0d	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - CDE Motif 用
SUNWjc0w	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - OPEN LOOK 用。このパッケージは、X Window System 上で X 入力システムサーバーを使用するのに必要
SUNWjcs3f	日本語 JIS X0212 Type1 フォント - 印刷用
SUNWjdab	日本語 (共通) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjdbas	日本語 (共通) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjddst	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjddte	日本語 (EUC) 版 Solaris デスクトップログイン環境
SUNWjdhcm	日本語版 DHCP Manager
SUNWjdhe	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjdhed	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjdhev	日本語 (共通) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjdhez	日本語 (共通) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjdim	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjdrme	日本語 (EUC) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjdwmm	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjeab	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjebas	日本語 (EUC) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWject	日本語 (EUC) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjedef	日本語 (EUC) 開発環境パッケージ固有ファイル
SUNWjeezt	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWjehev	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjehez	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjej2m	日本語 (EUC) マニュアルページ
SUNWjejmn	日本語 (EUC) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマーとユーザー用
SUNWjeman	Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ - SUNWjfpr と SUNWjfpv 用日本語 (EUC) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語 マニュアルページの表示に必要
SUNWjepmm	日本語 (EUC) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjepmw	日本語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjeuce	Japanese (EUC) Feature Package 固有ファイル (usr 用)。EUC 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjeudc	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjewnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (EUC)
SUNWjexfa	日本語 (EUC) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjexir	日本語 (EUC) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjfd1	日本語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript プリンタ用

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjfpref	ストリームモジュール - Japanese Feature Package (JFP) 用。JFP 環境を実行する拡張パッケージ
SUNWjfpue	Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル (usr 用)。JFP 環境を実行する拡張パッケージ
SUNWjfxmn	日本語機能のマニュアルページ - X Window System 用
SUNWjj2dv	日本語 Java Virtual Machine ツールとユーティリティ。javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む
SUNWjj2rt	日本語 Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ
SUNWjjmfp	日本語版 JMF プレイヤー
SUNWjjvdv	日本語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWjjvrt	日本語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWjkcsr	日本語 (EUC) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjlibj	日本語固有ライブラリ (/usr/lib/libjapanese.a)、ヘッダー、移行キットを含む
SUNWjmane	Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ (拡張) - SUNWjfpref と SUNWjfpue 用英文マニュアルページの表示用
SUNWjmfrn	日本語 (EUC) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjoaud	日本語 (EUC) 版オーディオツールとその他の補助オーディオサポート
SUNWjodcv	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWjodem	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWjodst	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWjodte	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjoimt	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK imagetool
SUNWjorte	日本語 (EUC) 現地仕様化 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWjoumn	日本語 (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ
SUNWjpab	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjpacx	日本語 (PCK) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjpadi	日本語 (PCK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjpadm	日本語 (PCK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと日本語 (PCK) 版 SUNWjpadi パッケージが必要
SUNWjpbas	日本語 (PCK) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjpcke	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package (JFP) 固有ファイル。PCK 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjpct	日本語 (PCK) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 日本語版
SUNWjpdst	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjpdte	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpez	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWjphe	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjphed	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjphev	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプボリューム

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjphhez	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjpim	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjppj2m	日本語 (PCK) マニュアルページ
SUNWjppjmn	日本語 (PCK) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマとユーザー用
SUNWjpkcs	日本語 (PCK) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjppman	Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ - SUNWjfpjr と SUNWjfpur 用日本語 (PCK) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要
SUNWjppmfr	日本語 (PCK) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjppmm	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjppmw	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjpprdm	日本語 (PCK) OILBN README ディレクトリ
SUNWjpprme	日本語 (PCK) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjppsal	日本語 (PCK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjppslm	日本語 (PCK) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjppslt	日本語 (PCK) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWjppudc	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjppwm	日本語 (PCK) CDE デスクトップウィンドウマネージャ用
SUNWjppwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (PCK)

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjpxfa	日本語 (PCK) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjpxir	日本語 (PCK) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjpxpm	日本語 (PCK) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjpxum	日本語 (PCK) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjrdm	日本語 (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWjreg	日本語版 Solaris ユーザー登録
SUNWjsadl	日本語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjtlmn	日本語 (EUC) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjtltk	日本語 (EUC) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWju8e	Japanese (UTF-8) Feature Package (JFP) 固有ファイル。日本語 UTF-8 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjuab	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjuacx	日本語 (UTF-8) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjuadi	日本語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjuadm	日本語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと日本語 (UTF-8) 版 SUNWjuadi パッケージが必要
SUNWjubas	日本語 (UTF-8) CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjuct	日本語 (UTF-8) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjudst	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjudte	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuezt	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWjuhe	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjuhed	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjuhev	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjuhez	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjuim	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjuj2m	日本語 (UTF-8) マニュアルページ
SUNWjujmn	日本語 (UTF-8) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマとユーザー用
SUNWjukcs	日本語 (UTF-8) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjulcf	日本語 (UTF-8) 版 xutops コマンド
SUNWjuman	Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ - SUNWjfpf と SUNWjfpfpu 用日本語 (UTF-8) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要な
SUNWjumfr	日本語 (UTF-8) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjupmm	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjupmw	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjurdm	日本語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWjurme	日本語 (UTF-8) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjusal	日本語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjutlm	日本語 (UTF-8) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjutlt	日本語 (UTF-8) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWjuudc	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjuwm	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjuwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (UTF-8)
SUNWjuxfa	日本語 (UTF-8) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjuxir	日本語 (UTF-8) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjuxpm	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjuxum	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjwacx	日本語 (EUC) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjwbc	日本語版 Solaris WBEM Services
SUNWjwbk	日本語 (EUC) 版 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWjwncr	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (root)
SUNWjwncu	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (usr)
SUNWjwncx	日本語入力システム - Wnn6 クライアント X Window System
SUNWjwndt	日本語入力システム - Wnn6 クライアント - CDE 用
SUNWjwnsr	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (root)

表 C-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjwnsu	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (usr)
SUNWjwsr	日本語 Solaris Product Registry
SUNWjxfa	日本語 (共通) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjxfnt	日本語 X Window System フォント (必須フォント) - ゴシックボールドフォントと TrueType マップファイル
SUNWjxoft	Sun Minchou ビットマップフォント
SUNWjxplt	日本語版 X Window System プラットフォームソフトウェア (拡張)
SUNWjxpmn	日本語 (EUC) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjxumn	日本語 (EUC) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字)

パッケージ	内容
NSCPccom	中国語 (簡体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPcucom	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPgcom	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWcadis	中国語 (簡体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcadma	中国語 (簡体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと中国語 (簡体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要
SUNWcdab	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcdbas	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ベース機能
SUNWcddst	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcddte	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcdezst	中国語 (簡体字) (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcdft	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE フォント
SUNWcdhe	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcdhev	中国語 (簡体字) (EUC) CDE ヘルプボリューム
SUNWcdhez	中国語 (簡体字) (EUC) (共通) デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcdicn	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE アイコン
SUNWcdim	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE イメージツール
SUNWcdwm	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWcepmw	中国語 (簡体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcexir	中国語 (簡体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWcfd1	中国語 (簡体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWcj2p	中国語 (簡体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWcj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (簡体字) 補遺)
SUNWcjvdv	中国語 (簡体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWcjvrt	中国語 (簡体字) 版 JavaVM ランタイム環境

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWckcsr	中国語 (簡体字) (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWcleue	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcoaud	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWcodcv	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWcodem	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWcodst	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWcodte	中国語 (簡体字) (EUC) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcoimt	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWcoman	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcorte	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWcpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (簡体字) 版
SUNWcrdm	中国語 (簡体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWcreg	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcsadl	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWctltk	中国語 (簡体字) (EUC) ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWcttfe	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcuada	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 SUNWgadis パッケージが必要
SUNWcuadi	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcubas	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWcudab	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWcudc	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris CDE 用ユーザー定義文字ツール
SUNWcudez	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcudft	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWcudhe	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcudhv	中国語 (簡体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWcudhz	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcudic	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWcudim	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWcudst	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcudte	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcudwm	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWculee	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcuman	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcuodt	中国語 (簡体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcupmw	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcurdm	中国語 (簡体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWcureg	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcusad	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWcuudc	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWcuxe	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcwsr	中国語 (簡体字) (EUC) Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストソース
SUNWcxex	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcxfont	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWcxman	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcxoft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オプションフォントパッケージ
SUNWgadis	中国語 (簡体字) (GBK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWgadma	中国語 (簡体字) (GBK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと中国語 (簡体字) (GBK) 版 SUNWgadis パッケージが必要
SUNWgdab	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWgdbas	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ベース機能

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWgddst	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWgddte	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgdezt	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWgdft	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE フォント
SUNWgdhe	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWgdhev	中国語 (簡体字) (GBK) CDE ヘルプボリューム
SUNWgdhez	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWgdicn	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE アイコン
SUNWgdim	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWgdwm	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWgleue	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgodte	中国語 (簡体字) (GBK) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWgpmw	中国語 (簡体字) (GBK) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWgrdm	中国語 (簡体字) (GBK) OILBN README ディレクトリ
SUNWgreg	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWgsadl	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWgttfe	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント
SUNWgudc	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール

表 C-2 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWgxe	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ
SUNWgxman	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System オンラインユーザーマニュアル ページパッケージ

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字)

パッケージ	内容
NSCP5com	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCP5com	中国語 (繁体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCP5com	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNW5adi	中国語 (繁体字) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNW5adma	中国語 (繁体字) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこの パッケージと SUNW5adi パッケージが必要
SUNW5dab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNW5dbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能
SUNW5ddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNW5ddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5dezt	中国語 (繁体字) (BIG5) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNW5dft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNW5dhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNW5dhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNW5dhez	中国語 (繁体字) (共通 BIG5) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNW5dicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNW5dim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNW5dwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNW5leue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNW5odte	中国語 (繁体字) (BIG5) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNW5pmw	中国語 (繁体字) (BIG5) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNW5rdm	中国語 (繁体字) (BIG5) OILBN README ディレクトリ
SUNW5sadl	中国語 (繁体字) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNW5ttfe	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ拡張
SUNW5udc	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNW5xfnt	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWhadis	中国語 (繁体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWhadma	中国語 (繁体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと中国語 (繁体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要
SUNWhdab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhdbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWhddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhdezt	中国語 (繁体字) (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWhdft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNWhdhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWhdhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNWhdhez	中国語 (繁体字) (共通) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWhdicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNWhdim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNWhdwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhepmw	中国語 (繁体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWhexir	中国語 (繁体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWhfdl	中国語 (繁体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWhj2p	中国語 (繁体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWhj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (繁体字) 補遺)
SUNWhjvdv	中国語 (繁体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWhjvrt	中国語 (繁体字) 版 JavaVM ランタイム環境
SUNWhkcsr	中国語 (繁体字) (EUC) KCMS ランタイム環境

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhleue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhoaud	中国語 (繁体字) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWhodcv	中国語 (繁体字) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWhodem	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWhodst	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWhodte	中国語 (繁体字) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhoimt	中国語 (繁体字) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWhoman	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWhorte	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWhpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (繁体字) 版
SUNWhrdm	中国語 (繁体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWhreg	中国語 (繁体字) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWhsadl	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhtltk	中国語 (繁体字) ToolTalk ランタイムパッケージ
SUNWhttfe	中国語 (繁体字) True Type オプションフォントパッケージ拡張
SUNWhuada	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと SUNW5adi パッケージが必要
SUNWhuadi	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhubas	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWhuccd	中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境固有ファイル。中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhudab	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhudc	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhudez	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWhudft	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWhudhe	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWhudhv	中国語 (繁体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWhudhz	中国語 (繁体字) (共通 UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWhudic	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWhudim	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE イメージツール
SUNWhudst	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWhudte	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhudwm	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhulee	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhuodt	中国語 (繁体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhupmw	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWhurdm	中国語 (繁体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ

表 C-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhusad	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhuudc	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhwsr	中国語 (繁体字) Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWhxe	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhxman	中国語 (繁体字) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 C-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語

パッケージ	内容
NSCPkocom	韓国語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPkucom	韓国語 UTF-8 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWkadis	韓国語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkadma	韓国語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのソフトウェアと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要
SUNWkcoft	韓国語 UTF-8 共通オプションフォントパッケージ
SUNWkdab	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkdbas	韓国語版 CDE ベース機能
SUNWkdcst	韓国語版ツールパッケージ
SUNWkddst	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーション

表 C-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkddte	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkdezt	韓国語 (EUC) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWkdfst	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語版 CDE 用
SUNWkdhe	韓国語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkdhev	韓国語 CDE ヘルプボリューム
SUNWkdhez	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWkdicn	韓国語版 CDE アイコン
SUNWkdim	韓国語版 CDE イメージツール
SUNWkdwmm	韓国語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWkcpmw	韓国語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkexir	韓国語 (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWkfdl	韓国語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWkj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (韓国語補遺)
SUNWkjvdv	韓国語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWkjvrt	韓国語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWkkcsr	韓国語 (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWkleue	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkoaud	韓国語 OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ

表 C-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkodcv	韓国語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWkodem	韓国語 OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWkodst	韓国語 OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWkodte	韓国語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkoimt	韓国語 OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWkoj2p	韓国語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWkoman	韓国語 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWkorte	韓国語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWkpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 韓国語版
SUNWkrdm	韓国語 (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWkreg	韓国語版 Solaris ユーザー登録
SUNWksadl	韓国語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWktltk	韓国語 ToolTalk ランタイムパッケージ
SUNWkttfe	韓国語 True Type フォント拡張
SUNWkuadi	韓国語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkuadm	韓国語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはのソフトウェアと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要
SUNWkudab	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkudbs	韓国語/UTF-8 CDE ベース機能

表 C-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkudc	韓国語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkudda	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWkuddt	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkudft	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語/UTF-8 版 CDE
SUNWkudhr	韓国語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkudhv	韓国語/UTF-8 CDE ヘルプボリューム
SUNWkudhz	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWkudic	韓国語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWkudim	韓国語/UTF-8 版 CDE イメージツール
SUNWkudwm	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWkudzt	韓国語 (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWkulee	韓国語 UTF-8 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkuodf	韓国語 UTF-8 コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkupmw	韓国語 UTF-8 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkurdm	韓国語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWkusal	韓国語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWkuudc	韓国語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkuxe	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ

表 C-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkuxft	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkwsr	韓国語 Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWkxe	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkxfte	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxman	韓国語 X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 C-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語

パッケージ	内容
NSCPfrcdo	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPfrcdm	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWf8bas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWf8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8dte	CDE デスクトップ環境
SUNWf8he	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWf8im	フランス語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8wm	フランス語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWffdl	フォントダウンローダー用現地仕様化可能文字列
SUNWfj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (フランス語補遺)
SUNWfjmfpl	現地仕様化可能 JMF プレイヤー - オーディオおよびビデオファイルの再生用

表 C-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfjvdv	フランス語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWfjvrt	フランス語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWfoaud	フランス語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWfobk	フランス語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWfodcv	フランス語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWfodem	フランス語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWfodst	フランス語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWfodte	フランス語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWfoimt	フランス語 OPEN LOOK imagetool
SUNWforte	フランス語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWfpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - フランス語版
SUNWfrbas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWfrdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWfrdte	CDE デスクトップ環境
SUNWfrhe	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWfrhed	フランス語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWfrhev	CDE ヘルプボリューム
SUNWfrim	CDE デスクトップアプリケーション

表 C-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfrj2p	フランス語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWfros	フランス語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWfrpmw	フランス語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWfrreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWfrwm	フランス語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWftltk	フランス語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWfwacx	フランス語 OPEN LOOK AccessX
SUNWfwsr	Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWfxplt	フランス語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 C-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語

パッケージ	内容
NSCPdecom	ドイツ語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWd8bas	ドイツ語版 UTF-8 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要
SUNWd8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWd8he	ドイツ語版 CDE ヘルプ UTF-8 ランタイム環境
SUNWd8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8wm	ドイツ語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ

表 C-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdebas	ドイツ語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWdedst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdedte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWdehe	ドイツ語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdehed	ドイツ語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdehev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdeim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdej2p	ドイツ語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWdeos	ドイツ語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWdepmw	ドイツ語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWdereg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWdewm	ドイツ語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWdfd1	フォントダウンローダー用現地仕様化可能文字列
SUNWdj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (ドイツ語補遺)
SUNWdjmfj	現地仕様化可能 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWdjvdv	ドイツ語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWdjvrt	ドイツ語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWdoaud	ドイツ語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWdobk	ドイツ語 OpenWindows オンラインハンドブック

表 C-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdodcv	ドイツ語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWdodem	ドイツ語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWdodst	ドイツ語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWdodte	ドイツ語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWdoimt	ドイツ語 OPEN LOOK imagetool
SUNWdorte	ドイツ語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWdpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - ドイツ語版
SUNWdtltk	ドイツ語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWdwacx	ドイツ語 OPEN LOOK AccessX
SUNWdwsr	Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWdxplt	ドイツ語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 C-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語

パッケージ	内容
NSCPitcom	イタリア語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWi8bas	イタリア語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWi8dst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWi8dte	イタリア語 UTF-8 CDE デスクトップログイン環境
SUNWi8he	イタリア語版 CDE ヘルプランタイム環境

表 C-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWi8im	イタリア語 UTF-8 CDE デスクトップイメージエディタ
SUNWi8wm	イタリア語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWifdl	フォントダウンローダー用現地仕様化可能文字列
SUNWij2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (イタリア語補遺)
SUNWijmfp	現地仕様化可能 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWijvdv	イタリア語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWijvrt	イタリア語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWioaud	イタリア語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWiobk	イタリア語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWiodcv	イタリア語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWiodem	イタリア語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWiodst	イタリア語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWiodte	イタリア語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWioimt	イタリア語 OPEN LOOK imagetool
SUNWiorte	イタリア語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWipdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - イタリア語版
SUNWitbas	イタリア語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWitdst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ

表 C-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWitdte	イタリア語 CDE デスクトップログイン環境
SUNWithe	イタリア語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWithed	イタリア語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWithev	CDE ヘルプボリューム
SUNWitim	イタリア語版 CDE デスクトップイメージエディタ
SUNWitj2p	イタリア語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWitltk	イタリア語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWitos	イタリア語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWitpmw	イタリア語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWitreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWitwm	イタリア語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWiwacx	イタリア語 OPEN LOOK AccessX
SUNWiwsr	Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWixplt	イタリア語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 C-8 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 共有

パッケージ	内容
SUNWerdm	OILBN README ディレクトリ
SUNWudct	Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール環境

表 C-8 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 共有 続く

表 C-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語

パッケージ	内容
NSCPescom	スペイン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWe8bas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWe8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWe8he	スペイン語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWe8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8wm	スペイン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWefd1	フォントダウンローダー用現地仕様化可能文字列
SUNWej2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スペイン語補遺)
SUNWejmfj	現地仕様化可能 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWejvdv	スペイン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWejvrt	スペイン語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWeoaud	スペイン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWeobk	スペイン語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWeodcv	スペイン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWeodem	スペイン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWeodst	スペイン語 OPEN LOOK デスクセットツール

表 C-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWeodte	スペイン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWeoimt	スペイン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWeorte	スペイン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWepdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スペイン語版
SUNWesbas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWesdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesdte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWeshe	スペイン語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeshed	スペイン語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWeshev	CDE ヘルプボリューム
SUNWesim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesj2p	スペイン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWesos	スペイン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWespmw	スペイン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWesreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWeswm	スペイン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWetltk	スペイン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWewacx	スペイン語 OPEN LOOK AccessX

表 C-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWewsr	Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWexplt	スペイン語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 C-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語

パッケージ	内容
NSCPSvcom	スウェーデン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWs8bas	スウェーデン語 UTF-8 CDE ベース機能のメッセージ
SUNWs8dst	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWs8dte	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWs8he	スウェーデン語 UTF-8 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWs8im	スウェーデン語 UTF-8 CDE イメージエディタメッセージ
SUNWs8wm	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWsfdl	フォントダウンローダー用現地仕様化可能文字列
SUNWsj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スウェーデン語補遺)
SUNWsjmfp	現地仕様化可能 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWsjvdv	スウェーデン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWsjvrt	スウェーデン語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWsoaud	スウェーデン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWsobk	スウェーデン語 OpenWindows オンラインハンドブック

表 C-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWsodcv	スウェーデン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWsodem	スウェーデン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWsodst	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWsodte	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWsoimt	スウェーデン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWsorte	スウェーデン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWspdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スウェーデン語版
SUNWstltk	スウェーデン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWsvbas	スウェーデン語 CDE ベース機能のメッセージ
SUNWsvdst	スウェーデン語 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWsvdte	スウェーデン語 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWsvhe	スウェーデン語 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWsvhed	スウェーデン語 CDE ヘルプ開発者環境メッセージ
SUNWsvhev	CDE ヘルプボリューム
SUNWsvim	スウェーデン語 CDE イメージエディタメッセージ
SUNWsvj2p	スウェーデン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWsvos	スペイン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWsvpmw	スウェーデン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ

表 C-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWsvreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWsvwm	スウェーデン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWswacx	スウェーデン語 OPEN LOOK AccessX
SUNWswsr	Solaris Product Registry 2.0 現地仕様化可能テキストリソース
SUNWsxplt	スウェーデン語 X Window System プラットフォームソフトウェア

CUI インストールの日本語訳

GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) インストールでは日本語翻訳された画面を使用してインストールを行えますが、CUI (キャラクタユーザーインターフェース) インストールの画面は英語で表示されます。CUI インストールの画面・ヘルプの日本語訳をこの付録に収録しましたので、必要に応じて参照してください。

次の場合に、GUI ではなく CUI インストールが起動します。

- システムがグラフィカルモニターを搭載していない
- IA のシステムで、ウィンドウシステムのためのデバイス設定 (`kdmconfig`) を省略した

この付録の構成は次のとおりです。

1. インストールの概要
2. インストール画面
 - a. 全体の流れ図
 - b. Configuration Assistant
 - c. `kdmconfig`
 - d. `sysidtty`
 - e. `ttinstall`
3. ヘルプ画面
 - a. ヘルプ一覧表
 - b. `kdmconfig`
 - c. `sysidtty`

d. ttinstall

インストールの概要

Solaris 8 オペレーティングシステムのインストールは次のフェーズから構成されています。

- Configuration Assistant (Intel 版 Solaris のみ)

Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) は、システムの各ハードウェアデバイスを認識、設定し、Solaris がブートできるようにします。

- kdmconfig (Intel 版 Solaris のみ)

キーボード、ディスプレイ、マウスのタイプをウィンドウシステムに認識させるための設定を行います。なお、この時点で kdmconfig の設定を省略することもできますが、その場合は以降に起動されるインストールのユーザーインターフェースは CUI になります。またこの場合、インストールが完了して最初にシステムが起動したときに再度 kdmconfig が起動されますので、ウィンドウシステムを使用するには、その時に設定するようにします。

- sysidtty

ホストネーム、IP アドレス、タイムゾーンなどのシステム認識を行う CUI 用のプログラムです。システムがネットワークに接続されている場合、sysidtty プログラムはネームサービスデータベースからそのシステムの情報を自動的に取得し、取得できなかった情報に関してのみプロンプトを表示します。

- ttinstall

ソフトウェアの選択、ディスクの設定、ファイルシステムの配置、クライアントのための領域割り当て、などの設定を行う CUI 用のプログラムです。

インストール画面

インストールが始まると、図 D-1 ~ 図 D-13 の流れに従って画面が進みます。実際にディスプレイに表示されている画面の翻訳を参照するには、この流れ図中の画面タイトルと番号を利用すると便利です。なお、この流れ図および画面翻訳では、実際に表示される画面をすべて記載しているわけではありません。文章の比較的小さいものは省略されています。

各画面翻訳にはインストール画面の縮小図が示してありますが、これは画面の外観をおおよそに認識するためのものです。画面の内容については、実際のディスプレイ上で確認してください。

全体の流れ図

流れ図の表記方法は次のとおりです。

- (:): キーによる選択
- <>: 選択肢
- {}: 警告 (場合によって表示される)

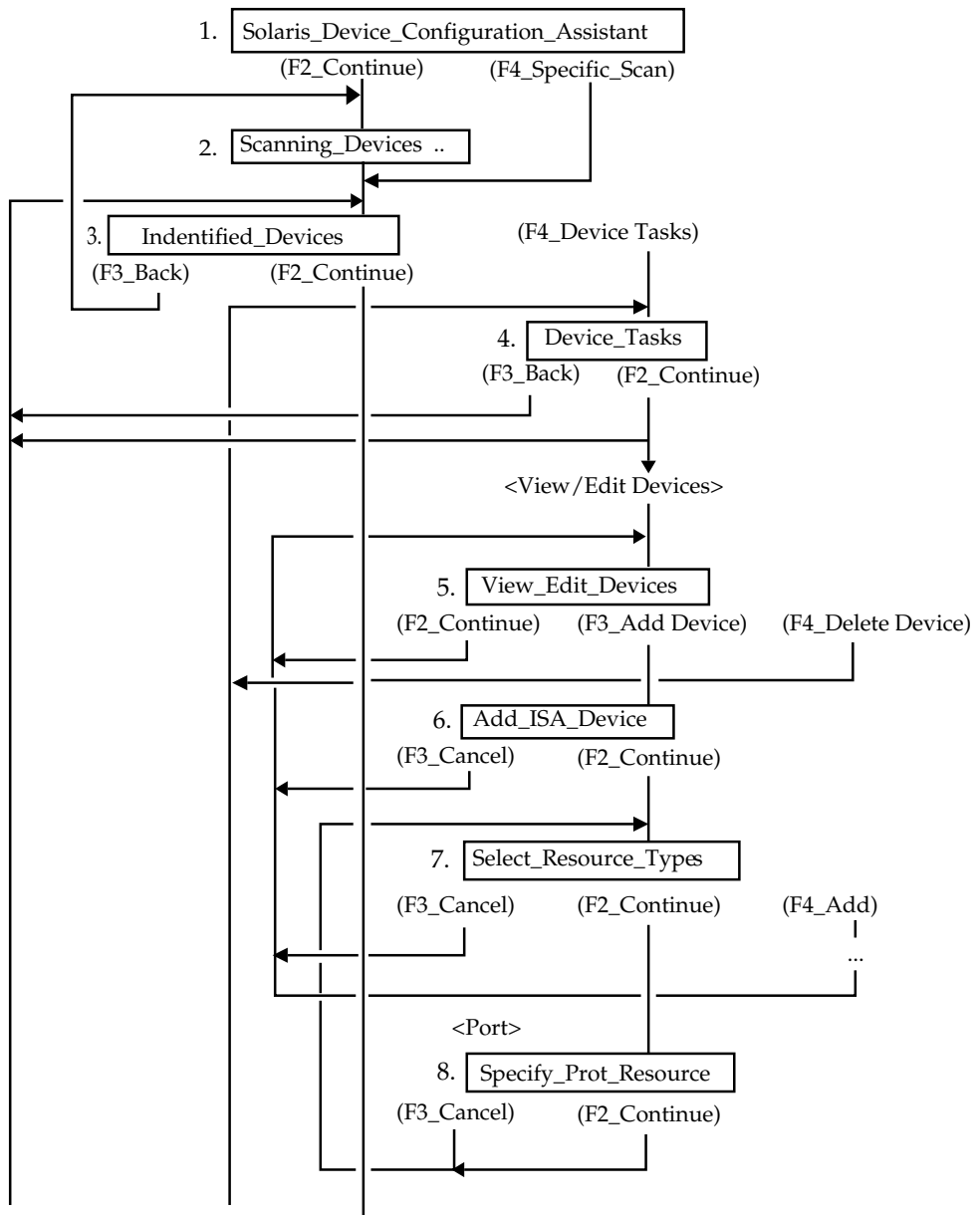


図 D-1 Configuration Assistant の流れ図 - パート 1

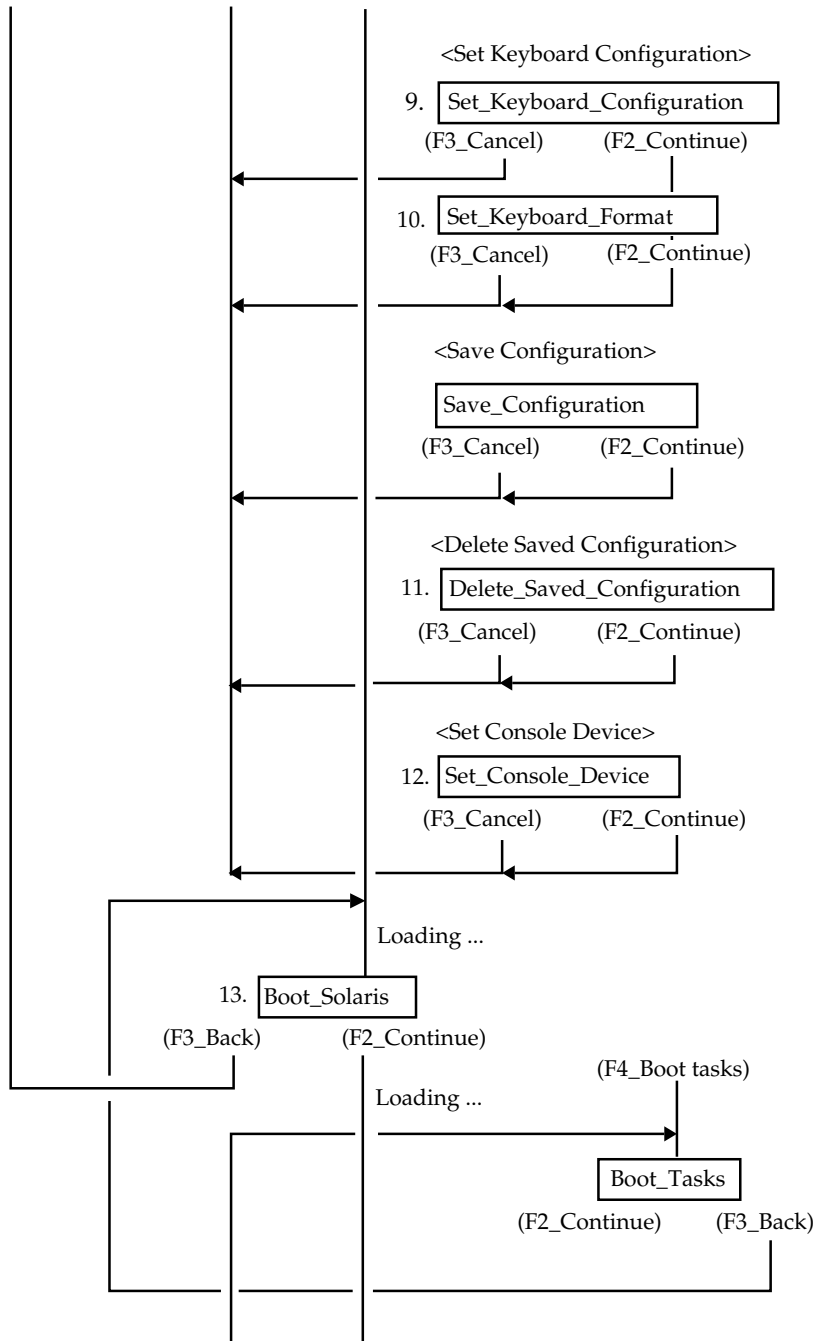


図 D-2 Configuration Assistant の流れ図 - パート 2

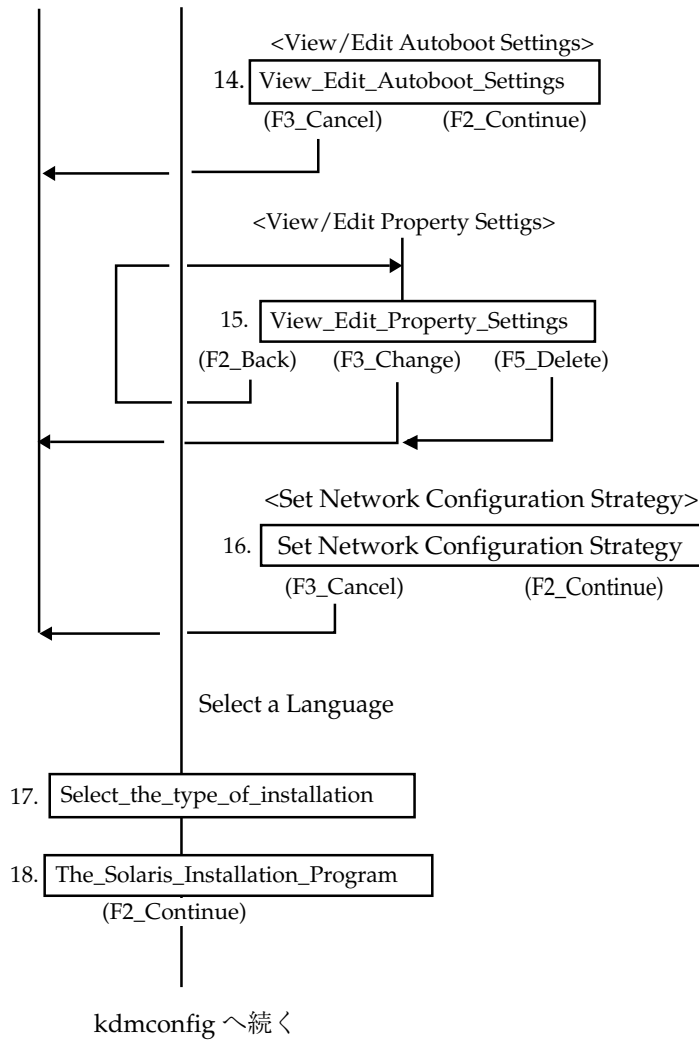


図 D-3 Configuration Assistant の流れ図 - パート 3

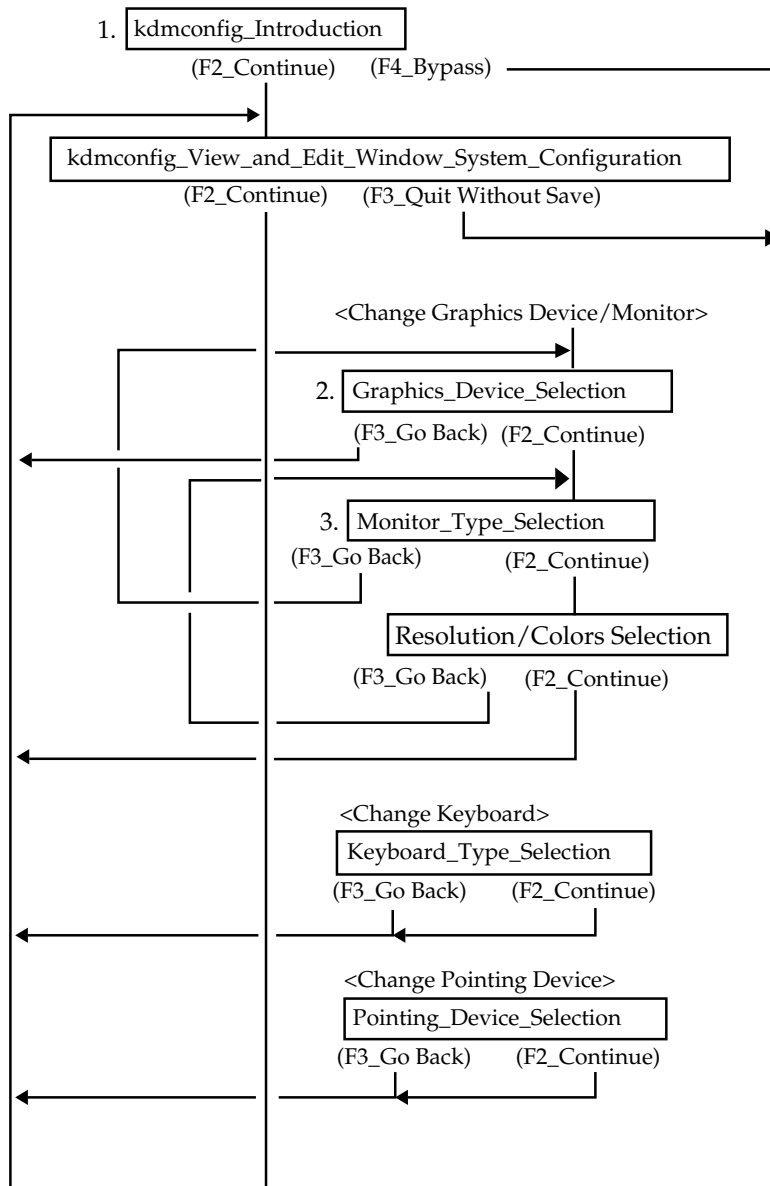
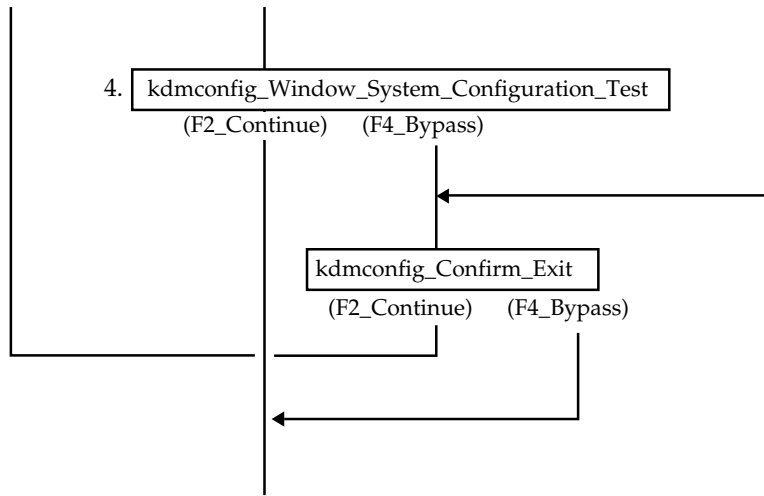


図 D-4 kdmconfig の流れ図 - パート 1



sysidtty へ続く (CUI install 開始)

図 D-5 kdmconfig の流れ図 - パート 2

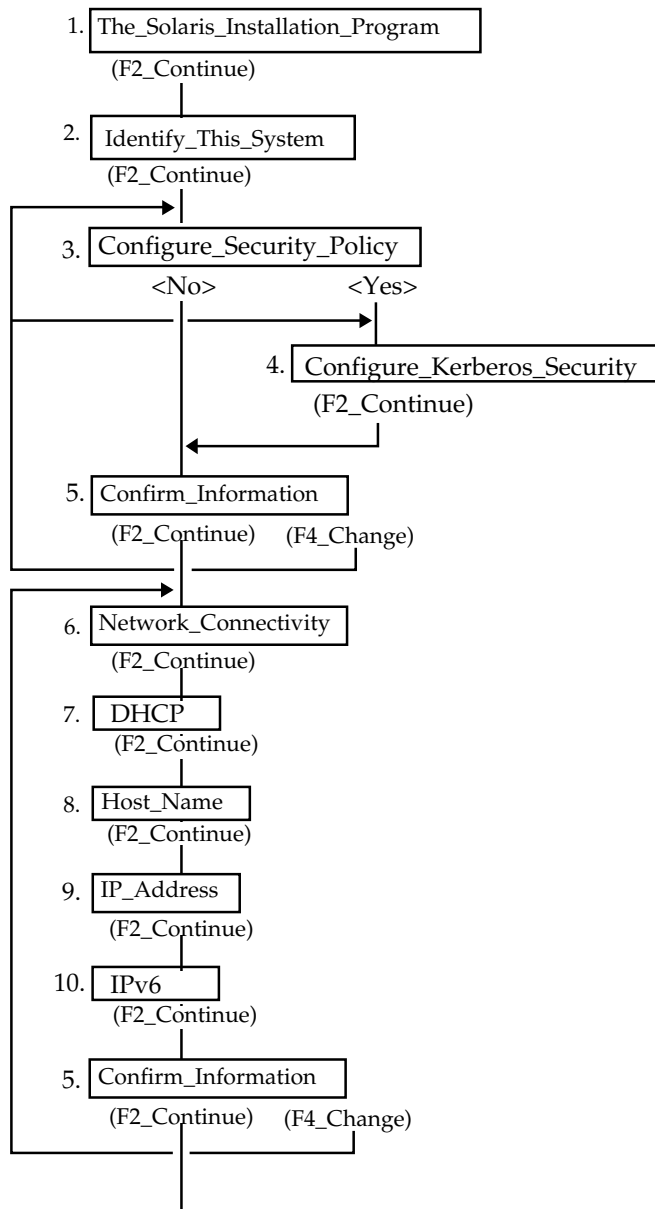


図 D-6 sysidtty の流れ図 - パート 1

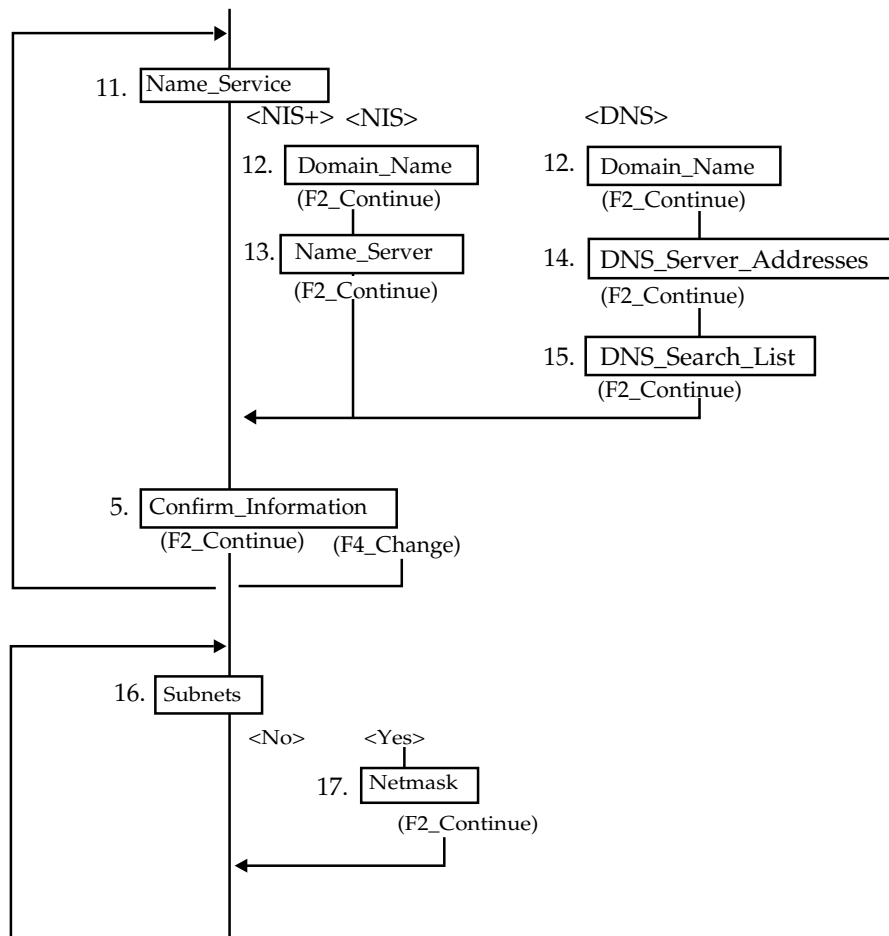


図 D-7 sysidtty の流れ図 - パート 2

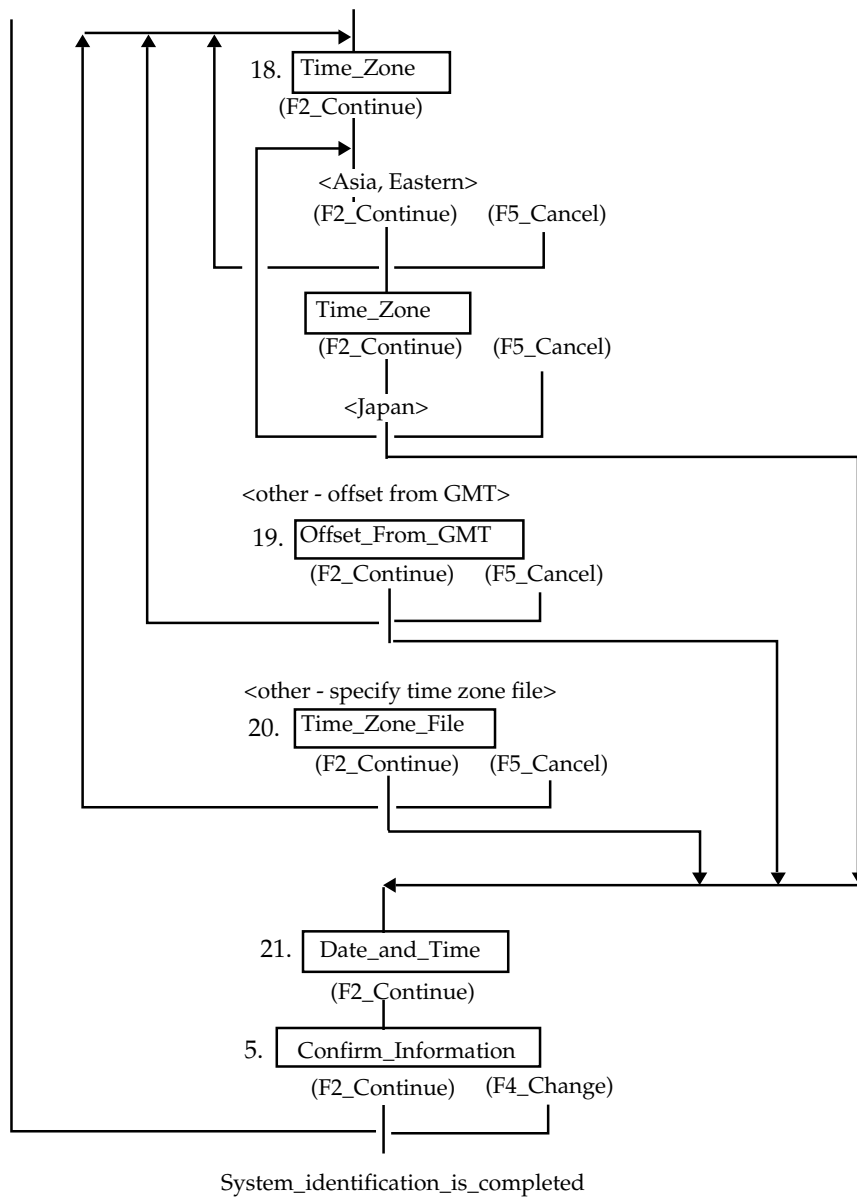


図 D-8 sysidtty の流れ図 - パート 3

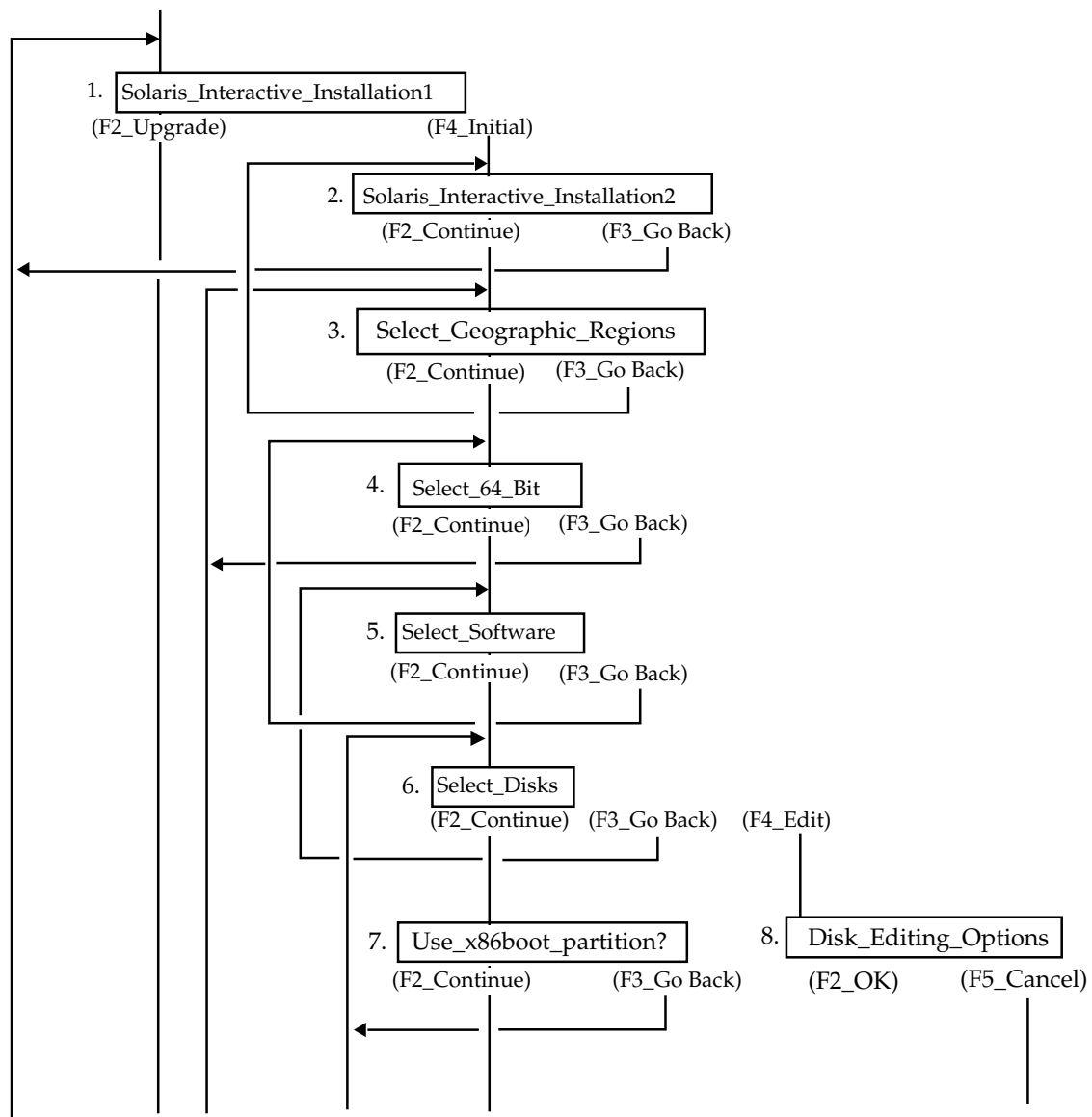


図 D-9 ttinstall の流れ図 - パート 1

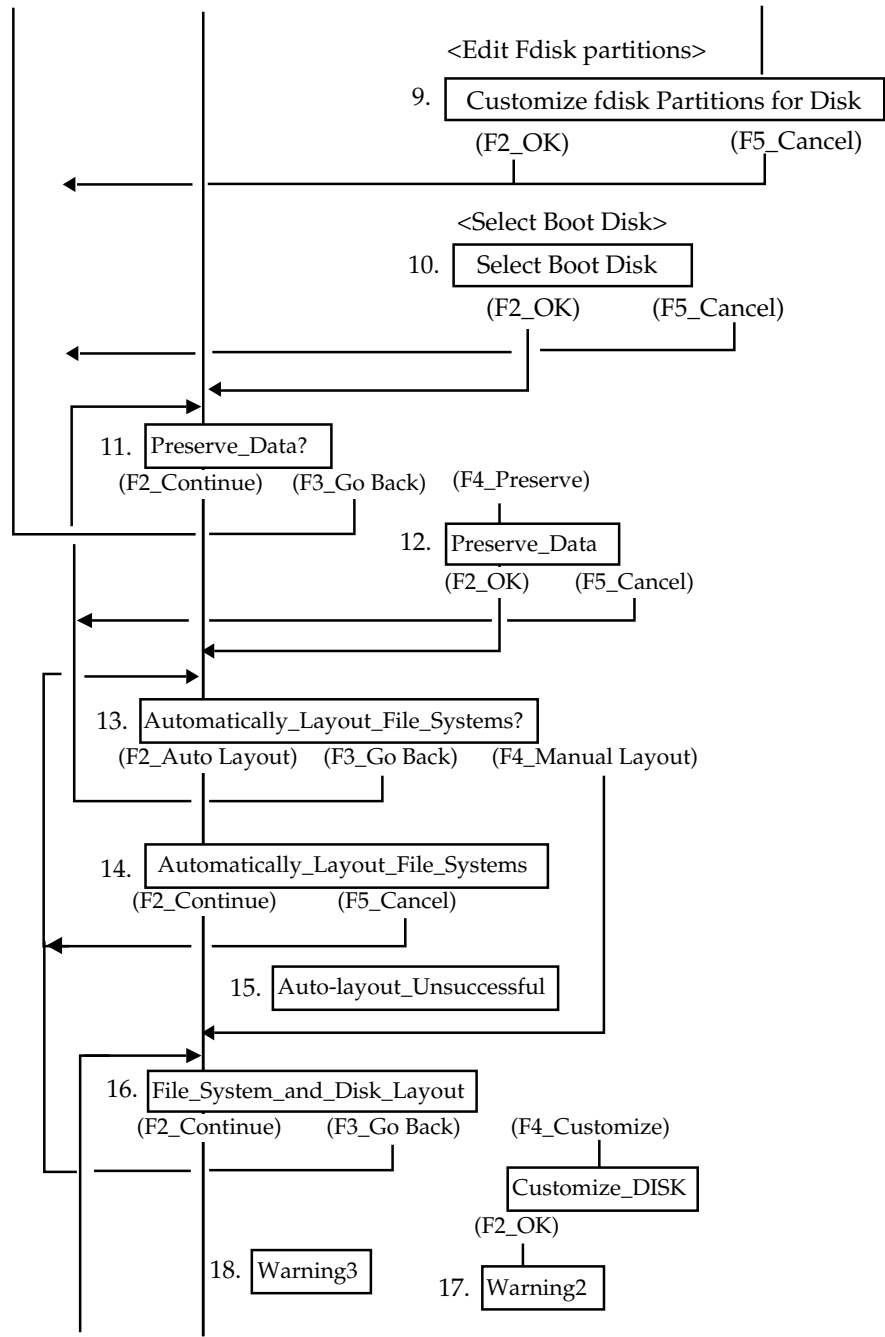


図 D-10 ttinstall の流れ図 - パート 2

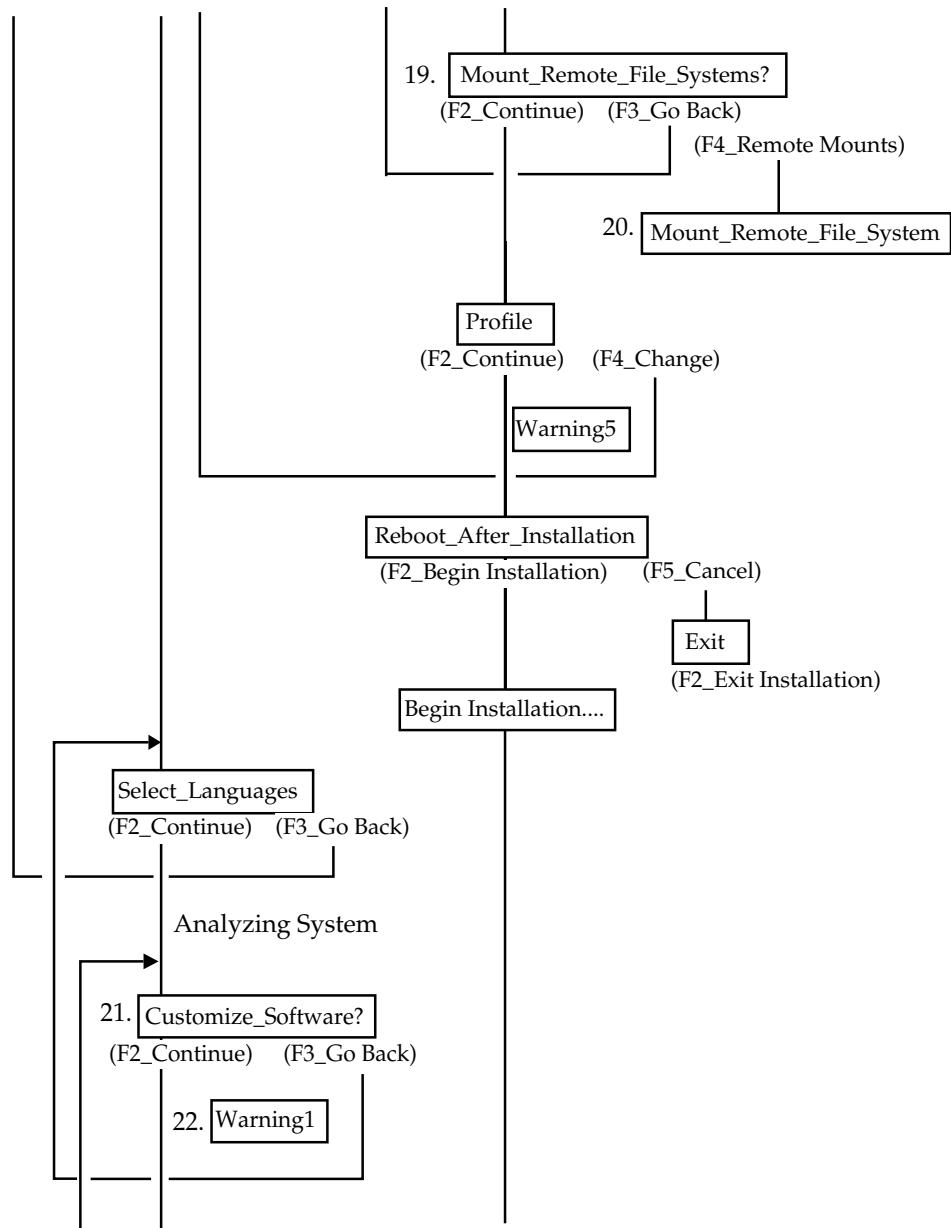


図 D-11 ttinstall の流れ図 - パート 3

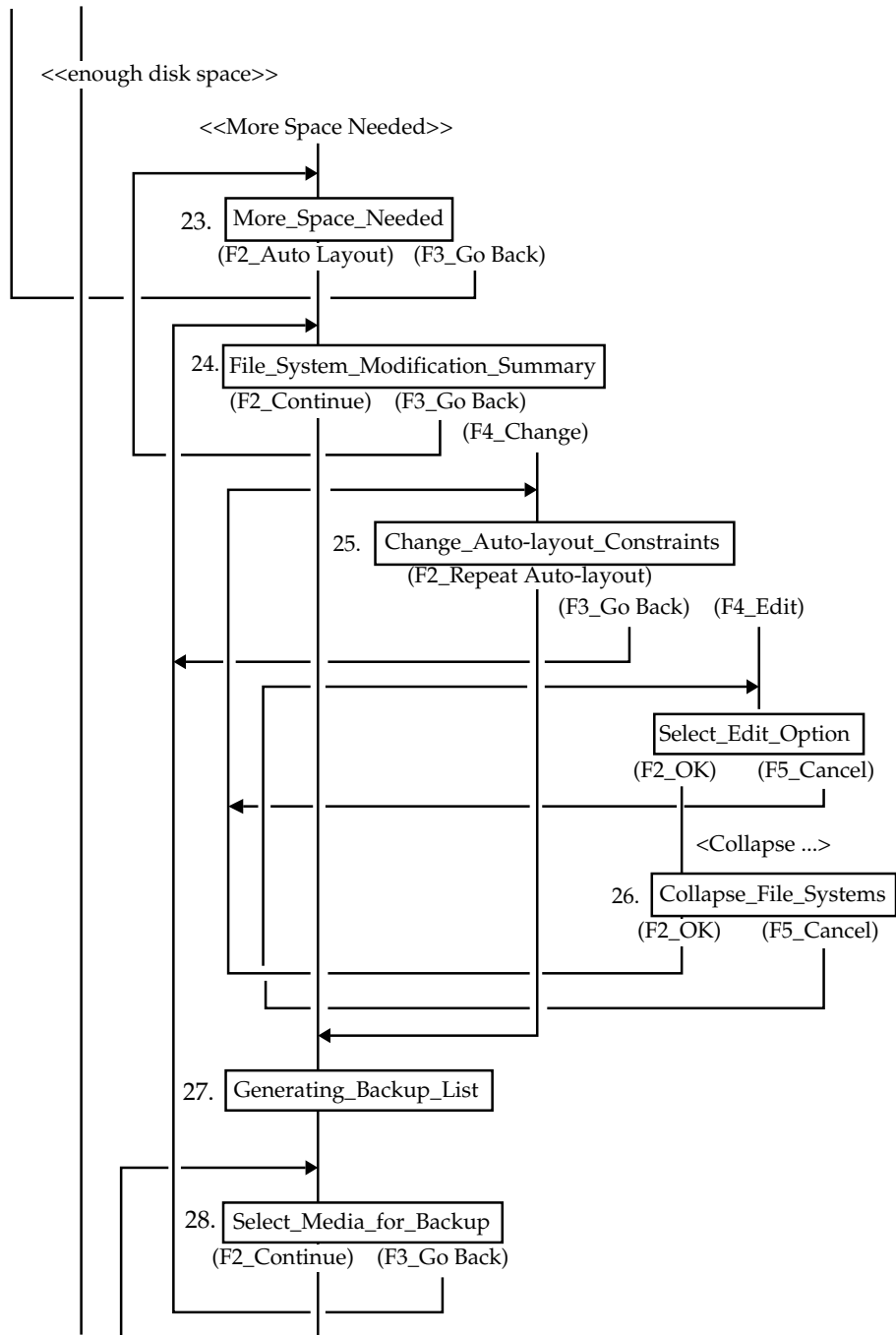


図 D-12 ttinstall の流れ図 - パート 4

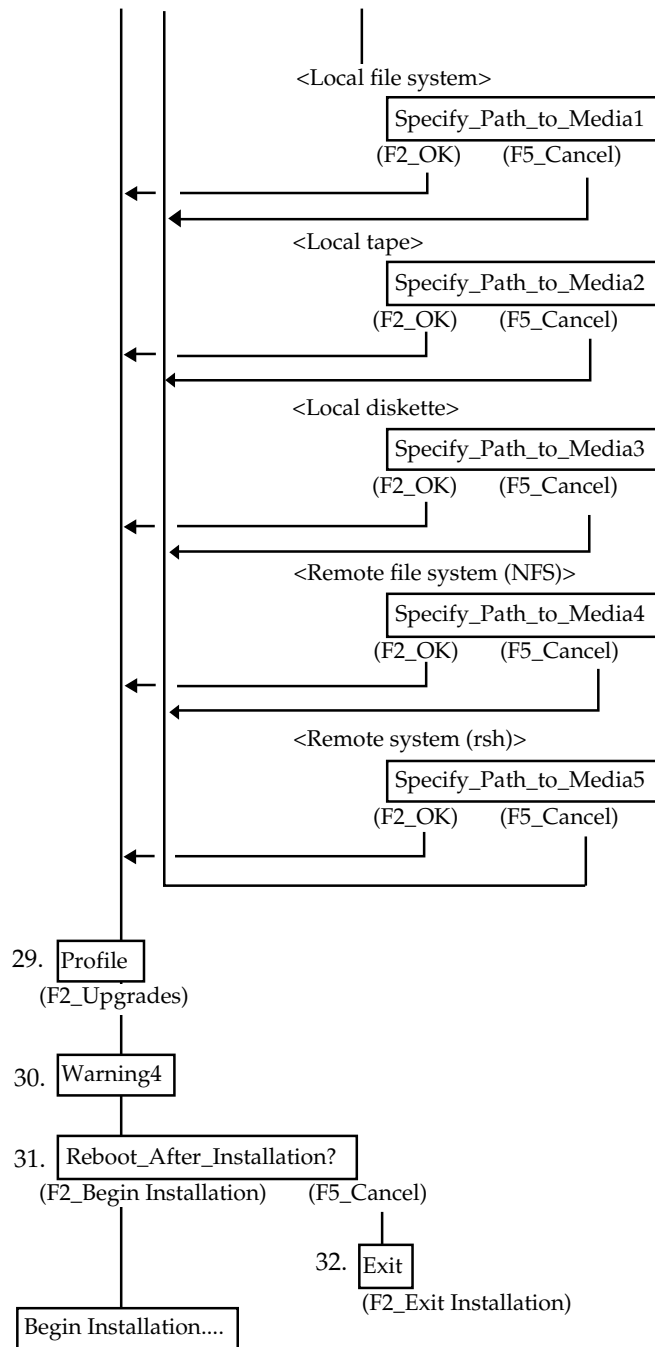
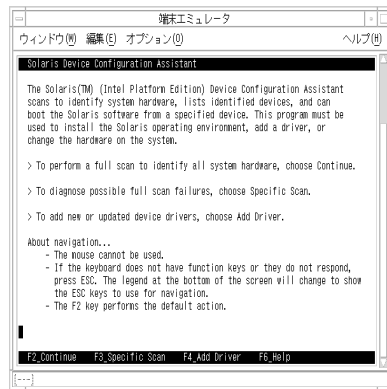


図 D-13 ttinstall の流れ図 - パート 5

IA - Configuration Assistant

1. Solaris Device Configuration Assistant [Solaris デバイス構成用補助]



Solaris (Intel 版) Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) プログラムは、システム上にあるデバイスを検索して認識し、それらのデバイスを表示して、ユーザーが指定するデバイスから Solaris ソフトウェアをブートできるようにします。Solaris オペレーティング環境をインストールしたとき、あるいはシステム上のハードウェアを変更したときに、このプログラムを使用しなければなりません。

システム上のすべてのデバイスを検索して認識するには、「Continue」を選択します。

自動的に検出したデバイスだけを部分的に検索して認識するには、「Specific Scan」を選択します。(以前に全体検索が失敗した場合、「Specific Scan」を選択します。)

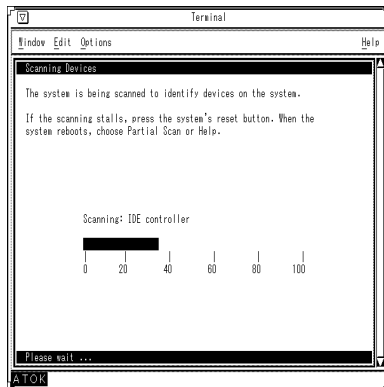
新しく追加あるいは更新されたデバイスドライバをシステムに追加するには、「Add Driver」を選択します。

ナビゲートについて

- マウスは使用できません。
- キーボードにファンクションキーがない場合、または機能しない場合、ESC キーを押してください。ESC キーで画面を移動する方法が画面下に示されます。

- F2 キーはデフォルトの動作を実行します。

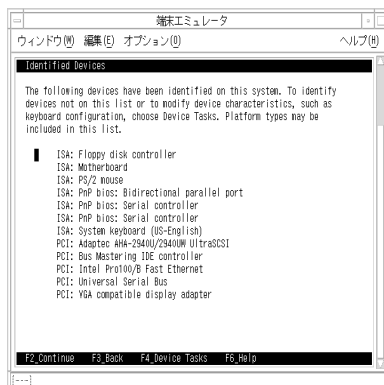
2. Scanning Devices [デバイスの検索]



システム上のデバイスを認識するために、システムを検索しています。

検索が中断した場合は、システムのリセットボタンを押してください。システムがレポートしたら、「Specific Scan」または「Help」を選択してください。

3. Identified Devices [認識されたデバイス]



次のデバイスがこのシステム上で認識されました。このリストにないデバイスを認識させたり、デバイス特性 (キーボード構成など) を変更するには、「Device Tasks」を選択します。

4. Device Tasks [デバイス作業]



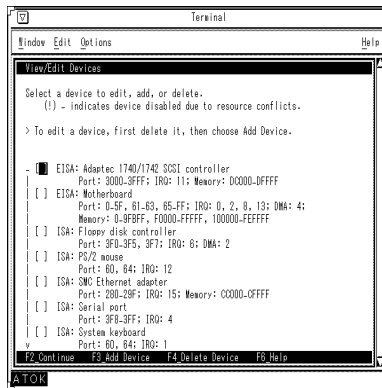
デバイス作業を選択して、「Continue」を選択します。

■ ヒント

認識されないデバイスがある場合、手作業でそのデバイスを編集する前に、そのデバイスを走査してください。

選択するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示させ、Enter キーを押して [X] マークを付けます。

5. View/Edit Devices [デバイスの編集]

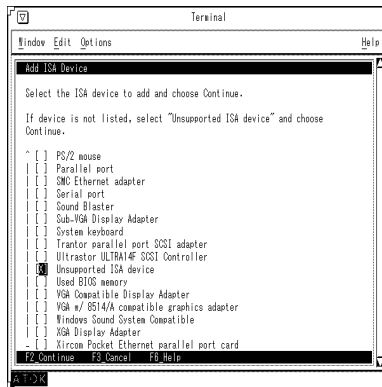


編集、追加、または削除するデバイスを選択します。

(!) は、リソースの衝突のためにデバイスが無効であることを示します。

デバイスを編集するには、まず、そのデバイスを削除して、次に、「Add Device」を選択します。

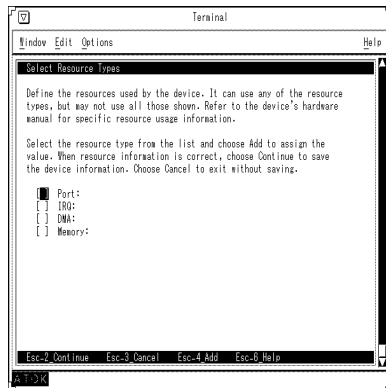
6. Add ISA Device [ISA デバイスの追加]



追加する ISA デバイスを選択して、「Continue」を選択します。

デバイスが表示されていない場合は、「Unsupported ISA device」(サポートされていない ISA デバイス) を選択して、「Continue」を選択します。

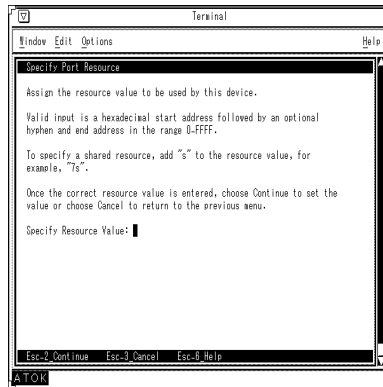
7. Select Resource Types [リソースタイプの選択]



デバイスが使用するリソースを定義します。どのようなリソースタイプでも使用できますが、表示されているすべてのタイプを使用できるわけではありません。特定のリソースの使い方については、デバイスのハードウェアマニュアルを参照してください。

リストからリソースタイプを選択して、「Add」を選択し、値を割り当てます。リソース情報が正しいときは、「Continue」を選択して、デバイス情報を保存します。保存せずに終了するには、「Cancel」を選択します。

8. Specify Port (IRQ, DMA, Memory) Resource [ポート (IRQ、DMA、メモリー) リソースの指定]



このデバイスが使用するリソース値を割り当てます。

■ ポートリソースの場合

有効な入力、16 進数の開始アドレスと、それに続くオプションのハイフンと終了アドレスです。アドレスの範囲は 0 から FFFF までです。

■ IRQ の場合

有効な入力、0 以上、15 以下の 10 進数です。

■ DMA の場合

有効な入力、0 以上、7 以下の 10 進数です。

■メモリーの場合

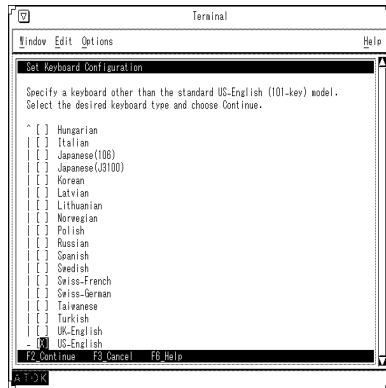
有効な入力、16 進数の開始アドレスと、それに続くオプションのハイフンと終了アドレスです。アドレスの範囲は A0000 から FFFFF までです。

共有リソースを指定するには、リソース値に「s」を追加します (たとえば、「7s」)。

正しいリソース値を入力した後に、「Continue」を選択すると、その値が設定されます。以前のメニューに戻るには、「Cancel」を選択します。

■ リソース値を指定します

9. Set Keyboard Configuration [キーボード構成の設定]



標準 US-English (101 キー) モデル以外のキーボードを選択します。希望するキーボードタイプを選択して、「Continue」を選択します。

10. Set Keyboard Format [キーボード形成の設定]

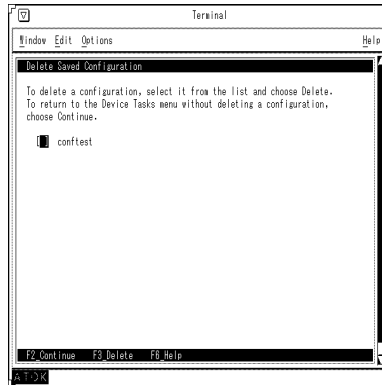


標準の 101 または 102 形式のキーボードを選択するには、「without Windows keys」を選択します。Windows キーを持つ 104 または 105 形式のキーボードを選択するには、「with Windows keys」を選択します。



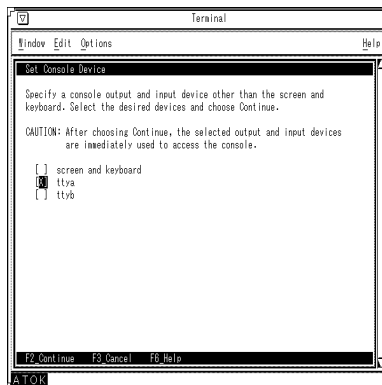
注意 - 日本語 106 キーボードの場合は「Continue」を、日本語 109 キーボードの場合は「Cancel」を選択してください。

11. Delete Saved Configuration [構成の削除]



構成を削除するには、その構成をリストから選択して、「Delete」を選択します。構成を削除せずに「Device Tasks」メニューに戻るには、「Continue」を選択します。

12. Set Console Device [コンソールデバイスの設定]

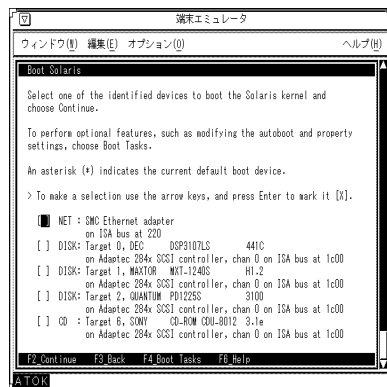


画面とキーボード以外のコンソール出力と入力デバイスを指定します。希望するデバイスを選択して、「Continue」を選択します。



注意 - 「Continue」を選択した直後から、選択した出力デバイスと入力デバイスがコンソールにアクセスするために使用されます。

13. Boot Solaris [Solaris のブート]



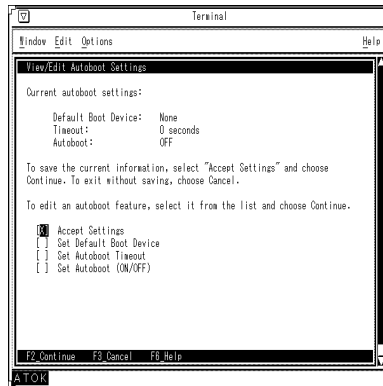
認識されたデバイスの 1 つを Solaris カーネルのブート用を選択して、「Continue」を選択します。

オプションの機能 (自動ブートやプロパティの設定を変更するなど) を実行するには、「Boot Tasks」を選択します。

アスタリスク (*) は、現在のデフォルトのブートデバイスを示しています。

矢印キーを使ってオプションを反転表示させ、Enter を押して [X] マークを付けます。

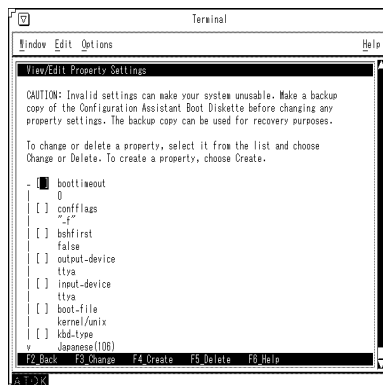
14. View/Edit Autoboot Settings [自動ブート設定の編集]



- 現在の自動ブートの設定:
- デフォルトのブートデバイス:
- タイムアウト:
- 自動ブート:

現在の情報を保存するには、「Accept Settings」(設定を使用)を選択して、「Continue」を選択します。保存せずに終了するには、「Cancel」を選択します。自動ブート機能を編集するには、その機能をリストから選択して、「Continue」を選択します。

15. View/Edit Property Settings [プロパティ設定の編集]





注意 - 設定が不正だと、システムが使用不可能になる場合があります。プロパティの設定を変更する前に、**Configuration Assistant Boot** (構成用補助) フロッピーディスクのバックアップコピーを作成しておいてください。バックアップコピーは回復のために使用できます。

プロパティを変更または削除するには、そのプロパティをリストから選択して、「Change」または「Delete」を選択します。プロパティを作成するには、「Create」を選択します。

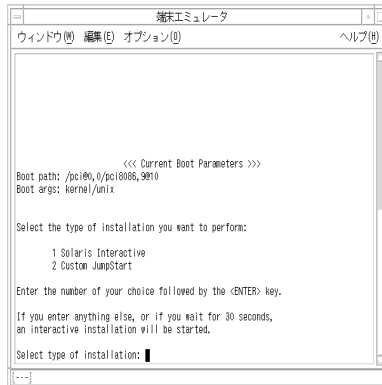
16. Set Network Configuration Strategy [ネットワーク構成の設定]



Solaris システムをブートするプロトコルを選択して、「Continue」を選択します。

注 - DHCP または RARP/BOOTPARAMAS サーバーが存在し、ネットワークデバイスからのブートよりも優先されるように構成されている必要があります。

17. Select the Type of Installation [インストール方法の選択]



現在のブートパラメタ

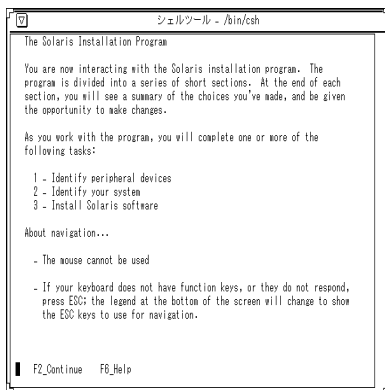
- ブートパス :
- ブート引き数 :
- 実行するインストールのタイプを選択します。 :

選択するインストールのタイプの番号を入力して、Enter キーを押します。

上記番号以外を入力したり、30 秒間入力がない場合は、対話式インストール (Solaris Interactive) が始まります。

- インストールのタイプを選択します。

18. The Solaris Installation Program [Solaris インストールプログラム]



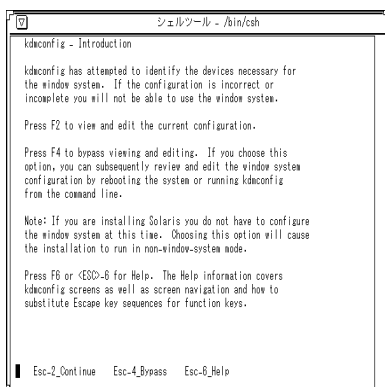
Solaris インストールプログラムはいくつかの短いセクションに別れていて、各セクションでインストールのための情報を入力します。各セクションの最後で選択結果を確認し、選択の変更を行うこともできます。

このプログラムでは、次の作業の少なくとも一つを行います。

1. 周辺デバイスの認識
2. システムの認識
3. Solaris ソフトウェアのインストール

IA – kdmconfig

1. kdmconfig Introduction [kdmconfig の実行]



kdmconfig はウィンドウシステムに必要なデバイスを認識しようとしてきました。構成が正しくないか不完全な場合は、ウィンドウシステムを使用できません。

現在の構成を確認・編集するには、F2 キーを押してください。

確認・編集を省略する場合は、F4 キーを押します。このオプションを選択しても、システムをリブートしたり、コマンド行から `kdmconfig` を実行したりすることで、引き続きウィンドウシステムの構成を確認、編集できます。

注 - Solaris をインストール中であれば、この時点でウィンドウシステムを構成する必要はありません。このオプションを選択するとインストールは非ウィンドウシステムモード (CUI) で実行されます。

ヘルプを表示する場合は、F6 または、Esc-6 キーを押します。ヘルプによって、画面の内容やファンクションキーにエスケープキーを代用する方法がわかります。

ナビゲートについて

- マウスは使用できません。
- キーボードにファンクションキーがない場合、または機能しない場合、ESC キーを押してください。ESC キーで画面を移動する方法が画面下に示されます。

2. Graphics Device Selection [グラフィックスデバイスの選択]

```
シェルツール - /bin/csh
Graphics Device Selection

You must select the graphics device that is installed in your machine.

To select an entry, use the up and down arrow keys, or type the first
few letters of the graphics device name.

Press <ENTER> to mark your selection [X].

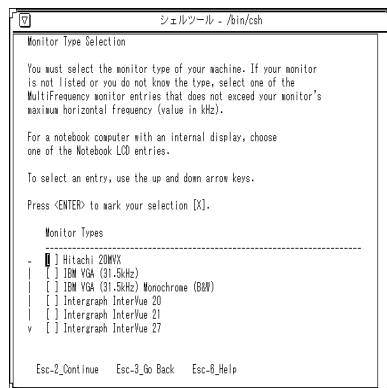
Graphics Device
-----
- [ ] 16 color Standard VGA (640x480 (256K))
  [ ] 16 color Standard VGA with sanning #800x600 (256K)
  [ ] ALR FLYER VL with V930C33 (50Hz) (1MB)
  [ ] ALR FLYER VL with V930C33 (70Hz) (1MB)
  [ ] ALR FLYER VL with V930C33 (80Hz interlaced) (1MB)
  [ ] AST Ascentia 950N with SVGA LCD Panel (1MB)
  [ ] AST Ascentia 950N with VGA LCD Panel (1MB)
  [ ] AST Manhattan 5080P (605424 - 512K)
  [ ] AST PowerExec 486SL/33: wd90c28 @ 800x600-4 or 1024x768-4 ext CR1640
  [ ] ATI 3D Pro Turbo PC2TV (4MB)
  v [ ] ATI 3D Xpression (2MB)

Esc-2_Continue  Esc-3_Go Back  Esc-6_Help
```

この画面では、システムにインストールするグラフィックスデバイスを指定します。選択するには、矢印キーを使用するか、グラフィックスデバイス名の最初の数文字を入力します。

Enter キーを押して [X] マークを付けます。

3. Monitor Types Selection [モニタータイプの選択]



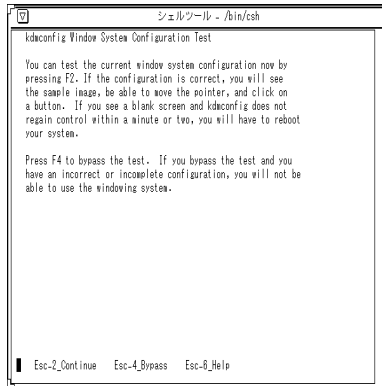
モニターのタイプを選択します。使用するモニターがリストになかったり、モニターのタイプが分からない場合は、モニターの最大水平周波数 (単位は kHz) を超えない MultiFrequency モニターのエントリのいずれかを選択します。

ディスプレイを内蔵しているノート型コンピュータの場合は、Notebook LCD エントリのいずれかを選択します。

エントリを選択するには、上下の矢印キーを使用します。

Enter キーを押すと、選択したエントリに [X] マークがつきます。

4. kdmconfig Window System Configuration Test [ウィンドウシステムの構成のテスト]

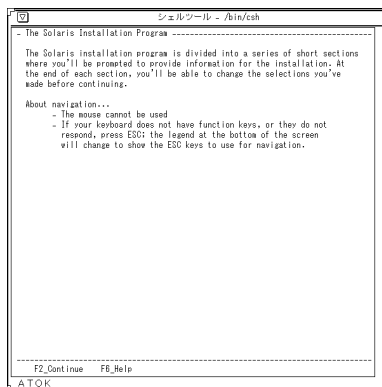


F2 キーを押すと、現在のウィンドウシステム構成をテストできます。構成が正しい場合は、サンプルのイメージが表示されて、ポインタを移動したり、ボタンをクリックしたりできます。何も表示されず、1、2分の間 `kdmconfig` が制御を取り戻すことができない場合は、システムをリブートしなければなりません。

F4 キーを押すと、テストを省略できます。テストを省略したときに、構成が間違っていたり完全でない場合、ウィンドウシステムを使用できなくなります。

sysidtty

1. The Solaris Installation Program [Solaris インストールプログラム]



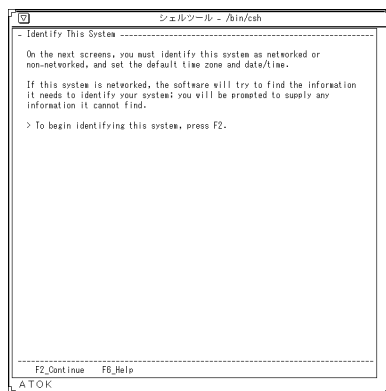
Solaris インストールプログラムは、いくつかの短いセクションで分かれています。各セクションでインストールの際の情報を入力するようプロンプトで求められます。各セクションの最後で、選択した情報を変更することができます。

ナビゲートについて

マウスは使用できません。

キーボードにファンクションキーがない場合、または機能しない場合、ESC キーを押してください。ESC キーで画面を移動する方法が画面下に示されます。

2. Identify This System [システムの指定]

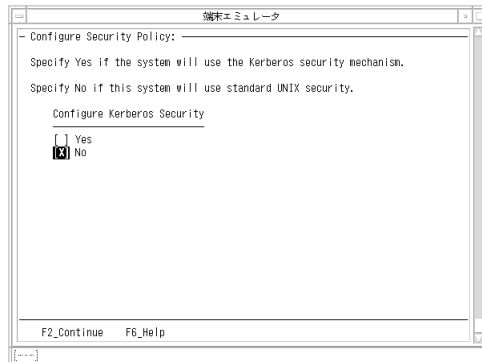


この後の画面では、システムがネットワークに接続されているかどうかを指定します。また、デフォルトの時間帯と日時を指定します。

ネットワークに接続されている場合、ソフトウェアはシステムを識別するのに必要な情報を自動的に探します。見つからない情報については、入力するように求められます。

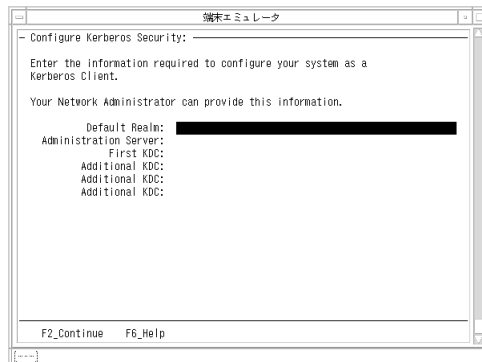
システムの指定を開始するには、F2 キーを押します。

3. Configure Security Policy [セキュリティポリシーの設定]



システムが Kerberos セキュリティ機構を使用する場合は、「Yes」を指定します。
システムが標準 UNIX セキュリティを使用する場合は、「No」を指定します。

4. Configure Kerberos Security [Kerberos セキュリティの構成]



システムを Kerberos クライアントとして構成するために必要な情報を指定します。

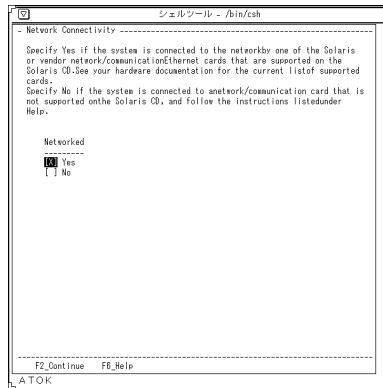
ここで指定する情報については、ネットワーク管理者に確認してください。

5. Confirm Information [情報の確認]



次の設定を確認してください。正しい場合は、F2 キーを押します。変更する場合には、F4 キーを押します。

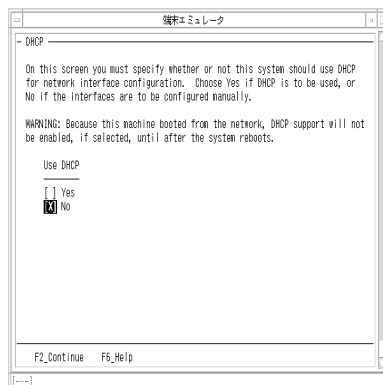
6. Network Connectivity [ネットワーク接続]



Solaris CD でサポートされている Solaris またはベンダーのネットワーク/通信 Ethernet カードのいずれかでシステムがネットワークに接続されている場合は、「Yes」を指定します。現在サポートされているカードのリストについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

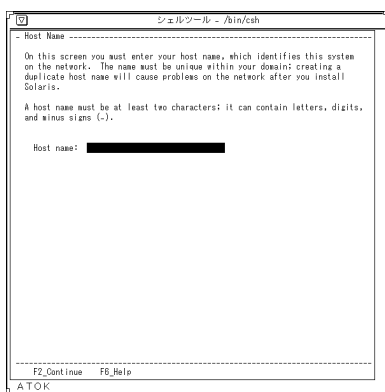
Solaris CD でサポートされていないネットワーク/通信カードでシステムが接続されている場合は「No」を指定します。その後は、ヘルプで表示される指示に従ってください。

7. DHCP



この画面では、このシステムが DHCP を使用してネットワークインタフェースを構成するかどうかを指定します。DHCP を使用する場合は「Yes」を、手作業でネットワークインタフェースを構成する場合は「No」を指定します。

8. Host Name [ホスト名]



この画面では、ネットワーク上でシステムを識別するためのホスト名を入力します。指定する名前は、ホストがあるドメイン内で重複しない名前にします。重複する名前を指定すると、Solaris をインストールした後で問題が起こります。

ホスト名は最低 2 文字必要で、文字、数字、マイナス記号を使うことができます。

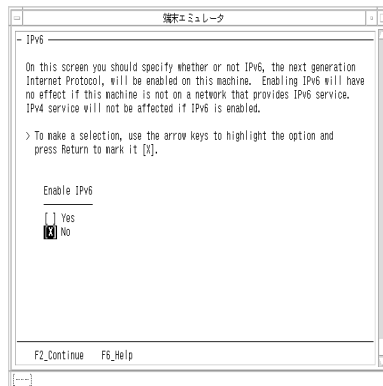
9. IP Address [IP アドレス]



この画面では、システムのインターネットプロトコル (IP) アドレスを指定します。重複しないように、また、サイトのアドレスの規則に従って指定します。そうしないとシステムやネットワークに支障をきたします。

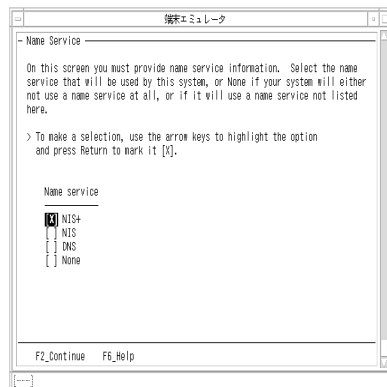
IP アドレスは、ピリオドで区切った 4 つの数字のグループです (例 : 129.200.9.1)。

10. IPv6



この画面では、このマシン上で次世代インターネットプロトコルである IPv6 を使用するかどうかを指定します。マシンが存在するネットワーク上に IPv6 サービスが提供されていない場合は、ここで「Yes」を指定しても使用できません。また IPv6 を選択しても IPv4 サービスに対する影響はありません。

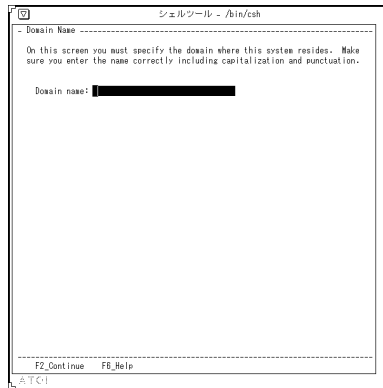
11. Name Service [ネームサービス]



この画面では、システムが使用するネームサービスを指定します。システムがネームサービスを使用しない場合、または使用するネームサービスがリスト中不在の場合は、「None」を選択します。

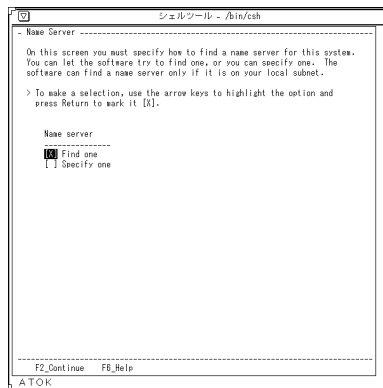
選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示させ、Return キーを押して [X] マークを付けます。

12. Domain Name [ドメイン名]



この画面では、システムが含まれるドメインを指定します。大文字と小文字の区別、区切り文字などを正しく入力してください。

13. Name Server [ネームサーバー]



この画面では、このシステム用のネームサーバーをどのように検索するかを指定します。ソフトウェアに検索させるか、または自分で指定することもできます。ネームサーバーがローカルのサブネットにある場合だけ、ソフトウェアが検索できます。

選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示させ、Return キーを押して [X] マークを付けます。

14. DNS Server Addresses [DNS サーバーアドレス]



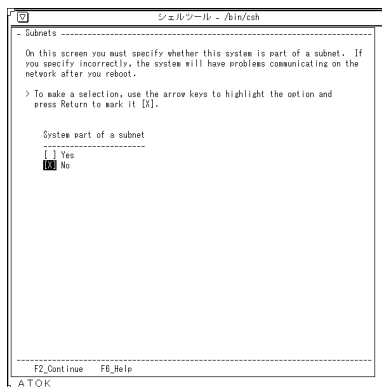
この画面では、DNS サーバーの IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つの IP アドレスを指定してください。IP アドレスは、ピリオドで区切った 4 つの数字のグループです。(例 129.200.9.1)。

15. DNS Search List [DNS 検索リスト]



この画面では、DNS から問い合わせがあったときに検索するドメインのリストを指定します。ドメイン名を1つも入力しない場合は、このシステムの DNS ドメインのみが検索されます。また、指定したドメインの合計文字数が 250 文字を超えないようにしてください。

16. Subnets [サブネット]



この画面では、システムがサブネットに含まれるかどうかを指定します。間違っ指定すると、再起動したあとでネットワーク上での通信に問題が起こります。

選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示させ、Return キーを押して [X] マークを付けます。

17. Netmask [ネットマスク]



この画面では、サブネットのネットマスクを指定します。デフォルトのネットマスクが表示されていますが、正しいことを確認してから使用してください。

ネットマスクはピリオドで区切った4つの数字のグループです (例 : 255.255.255.0)。

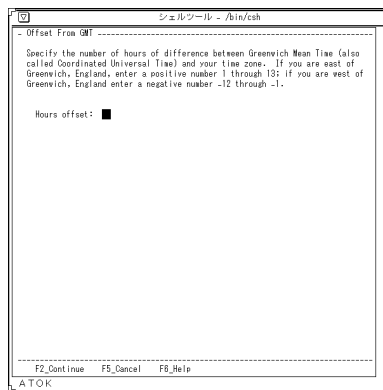
18. Time Zone [時間帯]



この画面では、デフォルトの時間帯を指定する方法を指定します。3つの方法のどれかで時間帯を指定できます。リストから、地域を選択するか、「other - offset from GMT」(グリニッジ標準時間からの時間差の指定) または「other - specify time zone file」(時間帯ファイルの指定) を選択します。

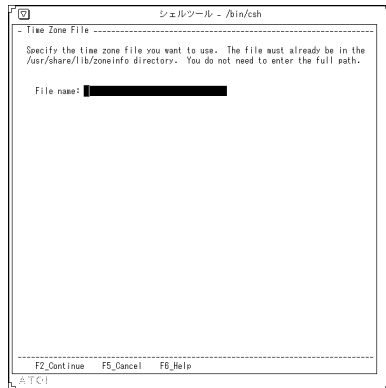
選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示させ、Return キーを押して [X] マークを付けます。

19. Offset From GMT [GMT からのオフセット]



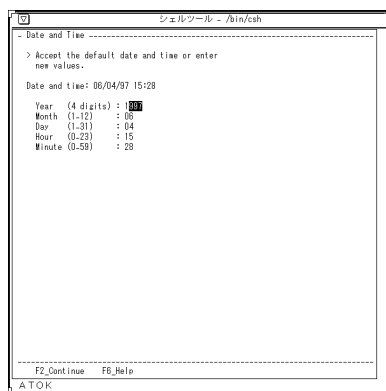
この画面では、グリニッジ標準時間からの時間差によりデフォルトの時間帯を指定します。英国のグリニッジより東の場合 1 から 13 までの正の数字を指定し、西の場合 -12 から -1 までの負の数字を指定します。

20. Time Zone File [時間帯ファイル]



この画面では、使用する時間帯ファイルを指定します。ファイルは /usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリになければなりません。フルパスで入力する必要はありません。

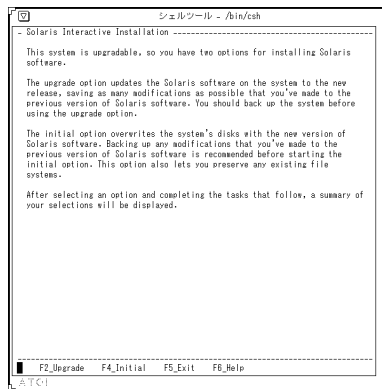
21. Date and Time [日付と時間]



デフォルトの日付と時間を使用するか、値を入力します。

ttinstall

1. Solaris Interactive Installation 1 [Solaris 対話式インストール 1]



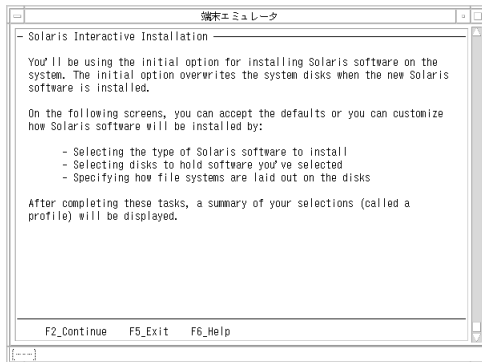
このシステムはアップグレードできます。Solaris ソフトウェアをインストールする方法が2つあります。

「Upgrade」オプションは、以前のバージョンの Solaris ソフトウェアで行なった変更を可能な限り残したまま、システム上の Solaris ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードします。アップグレードオプションを使用する前に、システムをバックアップしてください。

「Initial」オプションは、新しいバージョンの Solaris ソフトウェアでシステムのディスクを上書きします。初期インストールを使用する前に、以前のバージョンの Solaris ソフトウェアに行なった変更をバックアップすることをお勧めします。また、このオプションでは既存のファイルシステムを保存することもできます。

オプションを選択して、それに続く作業を完了した後、設定内容の要約が表示されます。

2. Solaris Interactive Installation 2 [Solaris 対話式インストール 2]



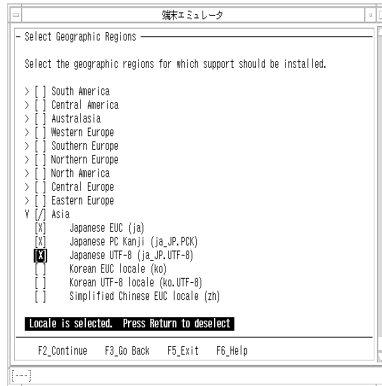
これから初期インストールオプションを使用して、Solaris ソフトウェアをシステムにインストールします。初期インストールオプションは新しい Solaris ソフトウェアをインストールするときにシステムディスクを上書きします。

この後の画面では、デフォルトを使用できます。あるいは、次のように Solaris ソフトウェアのインストールをカスタマイズすることもできます。

- インストールする Solaris ソフトウェアのタイプを選択します。
- 選択したソフトウェアを格納するディスクを選択します。
- ファイルシステムをディスクにどのように配置するかを指定します。

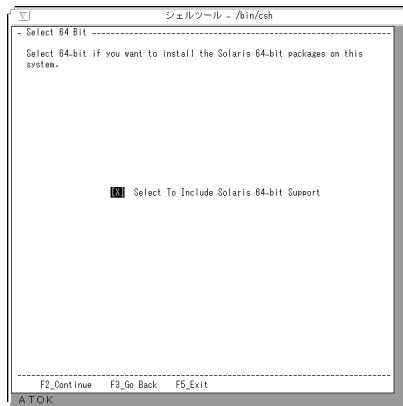
これらの作業を完了した後、設定内容の要約 (プロファイル) が表示されます。

3. Select Geographic Regions [地域による言語の選択]



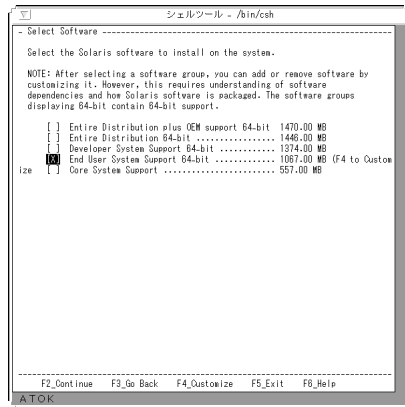
インストールするソフトウェアの対応地域を選択してください。

4. SPARC - Select 64 Bit [64 ビットの選択]



この画面では、システム上に Solaris 64 ビットパッケージをインストールしたい場合に 64 ビットを選択します。

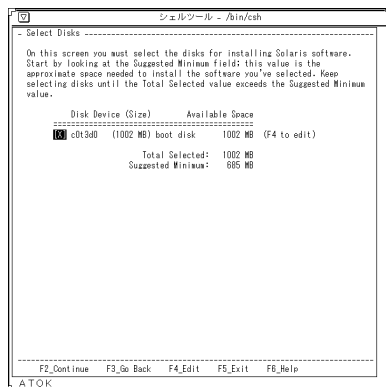
5. Select Software [ソフトウェアの選択]



システムにインストールする Solaris ソフトウェアを選択します。

注 - ソフトウェアグループを選択したあとで、カスタマイズしてソフトウェアの追加・削除ができます。ただし、ソフトウェアの依存関係と Solaris ソフトウェアのパッケージ形態についてよく理解している必要があります。

6. Select Disks [ディスクの選択]



この画面では、Solaris ソフトウェアをインストールするディスクを選択します。はじめに **Suggested Minimum** フィールドを確認します。この値は、選択したソフトウェアをインストールするのに必要な概算のディスク容量を示します。**Total Selected** の値が **Minimum** の値を超えるまでディスクを選択します。

7. IA - Use x86boot partition? [x86BOOT パーティションを使用しますか?]



検出された x86BOOT パーティションは Solaris ルート (/) ファイルシステムを示していますが、そこに有効な Solaris システムが存在するかどうか確認されていません。システムのインストール時にこの x86BOOT パーティションを再利用しますか?



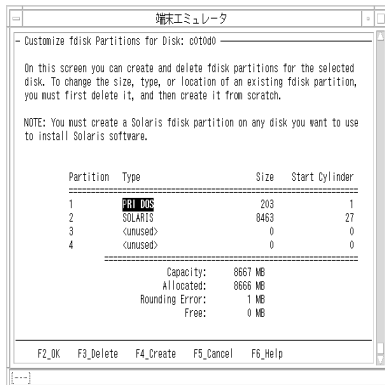
警告 - x86BOOT パーティションを再利用する場合、このパーティション上のルート (/) ファイルシステムは使用不可になります。

8. IA - Disk Editing Options [ディスクの編集オプション]



オプションを選択します。

9. IA - Customize fdisk Partitions for Disk [fdisk パーティションのカスタマイズ]



fdisk パーティションの作成、削除、カスタマイズを行います。fdisk パーティションの 1 から 4 にサイズを割り当てると、空きフィールドが更新されます。

注 - Solaris ソフトウェアをインストールするディスクには、Solaris の fdisk パーティションを作成する必要があります。

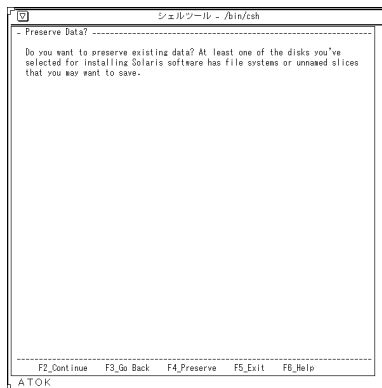
10. Select Boot Disk [ブートディスクの選択]



この画面では、Solaris ソフトウェアのルート (/) ファイルシステムをインストールするためのディスクを選択します。

- 元のブートデバイス

11. Preserve Data? [データを保存しますか ?]



現在のデータを保存しますか？

Solaris ソフトウェアをインストールするのに選択したディスクのうち、少なくとも 1 台に、保存した方がよいファイルシステムまたは名前のないスライスがあります。

12. Preserve Data [データの保存]

```
ソールツール - /bin/csh
-----
Preserve Data
-----
On this screen you can preserve the data on some or all disk slices. Any
slice you preserve will not be touched when Solaris software is installed.
If you preserve data on / (root), /usr, or /var you must rename them because
new versions of these file systems are created when Solaris software is
installed.

WARNING: Preserving an "overlap" slice will not preserve any data within it.
To preserve this data, you must explicitly set the mount point name.

Mount Point      Disk/Slice      Size
-----
[ ] /
[ ] swap
[x] overlap
[ ] /usr
[ ] /opt

-----
F2,OK  F5_Cancel  F8_Help
A.TOK
```

この画面では、一部またはすべてのディスクスライスのデータを保存できます。保存の選択をしたスライスは、Solaris ソフトウェアをインストールする際も影響を受けません。/(ルート)、/usr、または /var にデータを保存する場合、インストールでこれらのファイルシステムは新規に作成されるため、名前を変更してください。



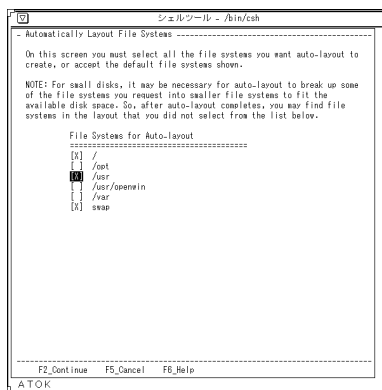
警告 - オーバーラップしたスライスを保存すると、その中のいかなるデータも保存されません。データを保存するには、マウントポイント名を明示的に設定する必要があります。

13. Automatically Layout File Systems? [ファイルシステムの自動配置を行いますか?]



自動配置機能によりファイルシステムをディスクに配置しますか？
手作業で行うには、高度なシステム管理の知識が必要です。

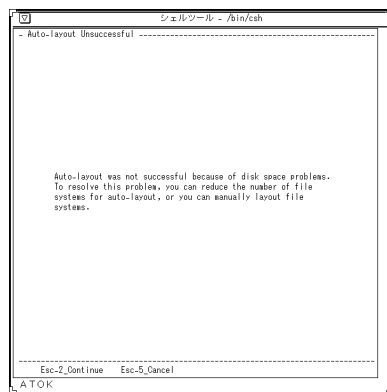
14. Automatically Layout File Systems [ファイルシステムの自動配置]



この画面では、自動配置したいすべてのファイルシステムを選択するか、次のデフォルトのファイルシステムを使用します。

注 - 小さいディスクの場合、限られたディスク空間にファイルシステムを分割して自動配置する必要があります。そのため、次のリストは選択しなかった配置となる場合もあります。

15. Auto-layout Unsuccessful [自動配置の失敗]



ディスク容量の問題のために、自動配置が失敗しました。

この問題を解決するには、ファイルシステムの数減らしてください。あるいは、手作業でファイルシステムを配置してください。

16. File System and Disk Layout [ファイルシステムとディスクの配置]

```
シェルツール - /bin/csh
File System and Disk Layout
-----
The summary below is your current file system and disk layout, based on the
information you've supplied.

NOTE: If you choose to customize, you should understand file systems, their
intended purpose on the disk, and how changing them may affect the operation
of the system.

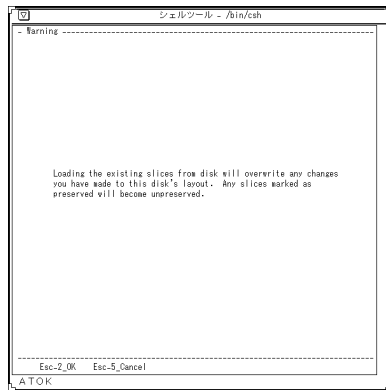
File system/Mount point   Disk/Slice   Size
-----
/                          c0t0d0s0    1024 MB
swap                       c0t0d0s1    79 MB
overlap                    c0t0d0s2    1002 MB
/usr                       c0t0d0s3    800 MB

-----
F2, Continue  F3, Go Back  F4, Customize  F5, Exit  F6, Help
A TOK
```

次の一覧は、設定された現在のファイルシステムとディスクの配置です。

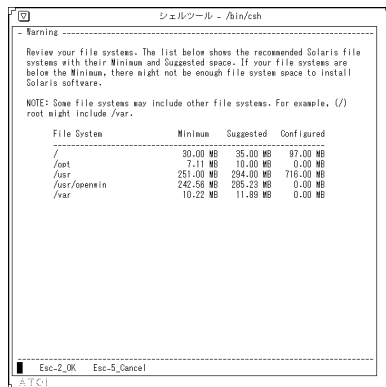
注 - カスタマイズする場合、ファイルシステム、ディスク上でのファイルシステムの役割、ファイルシステムの変更によりシステム動作が受ける影響などを理解している必要があります。

17. Warning 2 [警告 2]



ディスクから既存のスライスをロードすると、ディスクの配置による変更が上書きされます。保存を指定したスライスについても無効になります。

18. Warning 3 [警告 3]

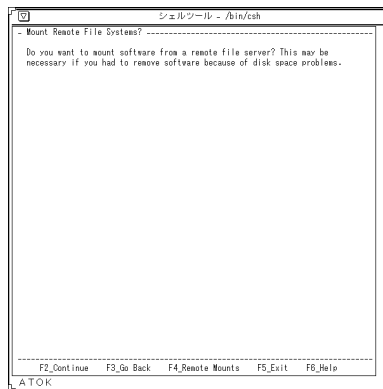


ファイルシステムを再検討してください。次のリストに、推奨する Solaris ファイルシステムを、その Minimum (最小) 容量と Suggested (推奨) 容量とともに示してい

ます。ファイルシステムが **Minimum** よりも低い場合は、**Solaris** ソフトウェアをインストールするための十分なファイルシステム容量がない可能性があります。

注 - 一部のファイルシステムは他のファイルシステムを含んでいる場合があります。たとえば、ルート (/) は /var を含むことがあります。

19. Mount Remote File Systems? [リモートファイルシステムをマウントしますか?]



リモートファイルサーバーからソフトウェアをマウントしますか？
ディスクの容量不足によりソフトウェアを削除する場合に必要です。

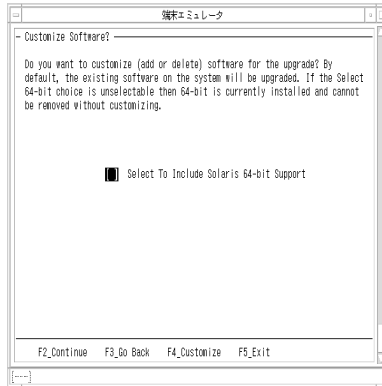
20. Mount Remote File System [リモートファイルシステムのマウント]



この画面では、サーバーからマウントするリモートファイルシステムを指定します。ファイルシステムを明示的に指定するか、サーバーのエクスポートできるファイルシステムのリストから1つを選択します。

注 - 次のフィールドに入力したら、マウントをテストします。リモートサーバーのソフトウェアを必要とするシステムはすべて、テストマウントを実行してください。

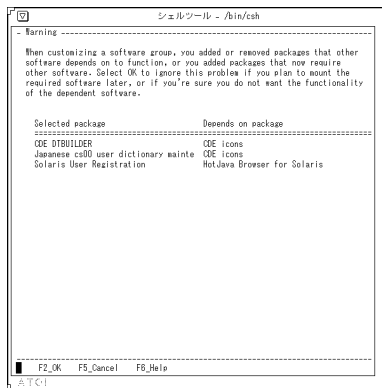
21. Customize Software? [既存のソフトウェアをカスタマイズしますか ?]



アップグレード作業のためにソフトウェアをカスタマイズ（追加または削除）しますか？システムに既存のソフトウェアはデフォルトでアップグレードされます。

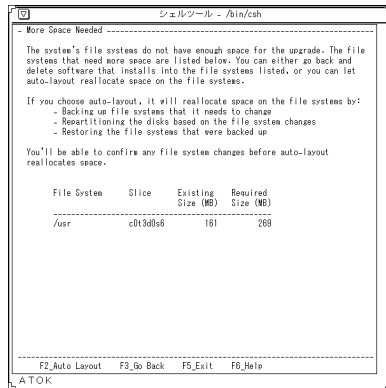
「64 ビットを選択」の項目が選択できない場合、現在 64 ビットがインストールされていて、これを削除するには、カスタマイズを行う必要があります。

22. Warning 1 [警告 1]



ソフトウェアグループをカスタマイズするときに、他のソフトウェアが機能するために依存するパッケージを追加または削除したか、あるいは、他のソフトウェアを必要とするパッケージを追加しました。後に必要なソフトウェアをマウントする場合、あるいは、依存するソフトウェアの機能を使用しない場合は、「OK」を選択してこの警告を無視してください。

23. More Space Needed [より多くの領域が必要]



このシステムのファイルシステムにはアップグレードするための十分な領域がありません。次のリストは、さらに領域を必要とするファイルシステムを示しています。前に戻って、ファイルシステムにインストールするソフトウェアを削除することもできます。あるいは、自動配置を使用して、ファイルシステムに領域を再度割り当てることができます。

自動配置を選択した場合、次のようにしてファイルシステムに容量を再度割り当てます。

- 変更する必要があるファイルシステムをバックアップします。
- ファイルシステムの変更に基づいて、ディスクのパーティションを再分割します。
- バックアップしておいたファイルシステムを復元します。

自動配置で容量を再度割り当てる前に、ファイルシステムの変更を確認できます。

24. File System Modification Summary [ファイルシステム変更の要約]

```
シェルワークス - /bin/csh
-----
File System Modification Summary
-----
Auto-layout has determined how to reallocate space on the file systems. The
list below shows what modifications will be made to the file systems and
what the final file system layout will be after the upgrade.

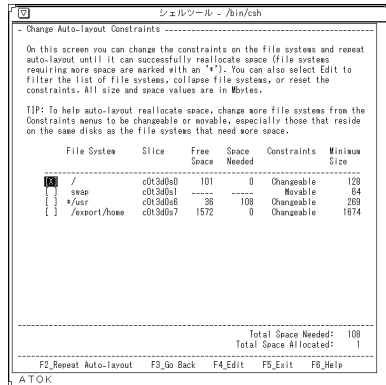
To change the constraints on the file system that auto-layout uses to
reallocate space, choose Change.

File System  Slice  Size  Modification  Existing  Existing
              (MB)                Slice      Size (MB)
-----
/             c0t3d0s0  85    Changed       -----  128
swap         c0t3d0s1  64    None          -----  -----
/usr         c0t3d0s6  310   Changed       -----  161
/export/home c0t3d0s7  1588  Changed       -----  1674
-----
F2,Cont:Inve  F3,Go:Back  F4,Change  F5,Exit  F6,Help
A TOK
```

自動配置により、ファイルシステムの容量の再割り当てが決定しました。次のリストは、ファイルシステムの変更点と、アップグレード後のファイルシステム配置を示しています。

自動配置が容量を再度割り当てるために使用するファイルシステムの制限を変更するには、「Change」を選択します。

25. Change Auto-layout Constraints [自動配置の制限の変更]

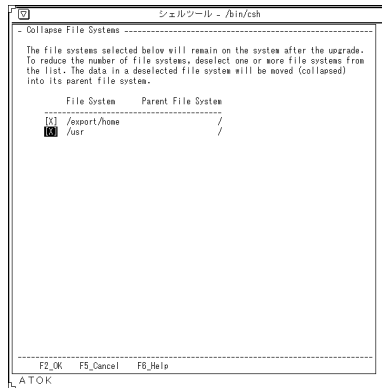


この画面では、容量の再割り当てが成功するまで、ファイルシステムの制限を変更して、自動配置を繰り返すことができます (容量が不足しているファイルシステムには * マークが付きます)。また、「Edit」を選択して、ファイルシステムのリストをフィルタにかけたり、ファイルシステムを短縮したり、あるいは制限を再設定したりすることもできます。サイズと容量の値の単位はすべて M バイトです。

■ ヒント

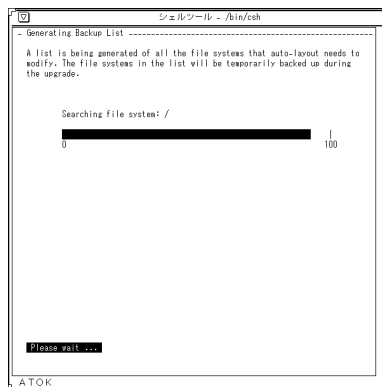
自動配置による容量の再割り当てを容易にするため、「Constraints」(制限)メニューにおいて、より多くのファイルシステム(特に、容量が不足しているファイルシステムと同じディスク上にあるもの)を「Changeable」(変更可能)または「Movable」(移動可能)に変更します。

26. Collapse File Systems [ファイルシステムの短縮]



以下に選択されたファイルシステムはアップグレード後にシステム上に残ります。ファイルシステムの数減らすには、リストから1つまたは複数のファイルシステムを選択解除してください。選択解除されたファイルシステムにあるデータは、その親のファイルシステムに移動(短縮)されます。

27. Generating Backup List [バックアップリストの生成]



自動配置が変更する必要があるすべてのファイルシステムのリストを生成しています。リスト内のファイルシステムは、アップグレードの間、一時的にバックアップされます。

28. Select Media for Backup [バックアップ用メディアの選択]



自動配置が変更するファイルシステムを一時的にバックアップするために使用する媒体を選択します。

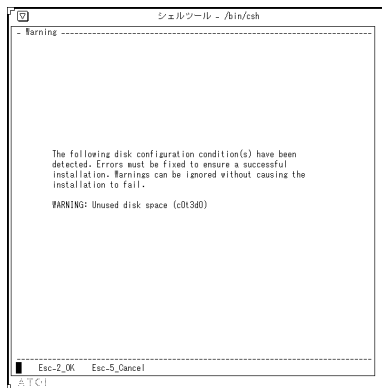
- バックアップに必要な容量

29. Profile [プロファイル]



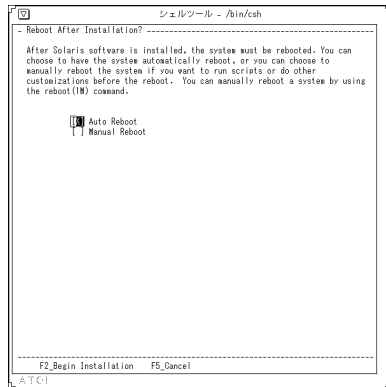
ここで示す情報は、Solaris をインストールするプロファイルです。ここまでの画面で選択した内容が反映されています。

30. Warning 4 [警告 4]



次のディスク構成状態が検出されました。インストールを成功させるには、エラーを修正しなければなりません。警告を無視しても、インストールが失敗する原因とならない場合があります。

31. Reboot After Installation? [インストール後にリブートしますか?]



Solaris ソフトウェアをインストールした後は、システムをリブートしなければなりません。自動的にリブート (Auto Reboot) することも、スクリプトを実行したり他のカスタマイズを行なった後で手動でリブート (Manual Reboot) することもできます。手動でシステムをリブートするには、`reboot(1M)` コマンドを使用します。

32. Exit [終了]



Solaris 対話式インストールプログラムを終了すると、プロファイルが削除されます。ただし、コンソールウィンドウから Solaris 対話式インストールプログラムを再起動できます。

ヘルプ画面

ヘルプ画面は、「インストールの概要」で述べたフェーズごとに Topics、How To、Reference の3つのカテゴリに分かれており、各インストール画面の「Help」を選択することによりその画面に対応した内容のヘルプ情報を参照できます。また、そこからさらにヘルプのカテゴリ選択画面へと進み、その他のヘルプ情報を参照することもできます。

ヘルプ一覧表

以下がヘルプの一覧表です。各ヘルプの翻訳がこれより先に記載されていますが、どのヘルプの翻訳がどのページにあるかを知りたい場合にこの一覧表をお使いください。

表 D-1 IA : kdmconfig ヘルプ

カテゴリ	タイトル	参照先
Topics		
	Bus type	331ページの「Bus type [バスタイプ]」
	Buttons	331ページの「Buttons [ボタン]」
	Color Depth Number	331ページの「Color Depth Number [カラーデプス数]」
	Confirm Information	331ページの「Confirm Information [情報の確認]」
	Display Resolution	331ページの「Display Resolution [ディスプレイの解像度]」
	Graphics Card	332ページの「Graphics Card [グラフィックスカード]」

表 D-1 IA : kdmconfig ヘルプ 続く

カテゴリ	タイトル	参照先
	Interrupt Number (IRQ)	332ページの「Interrupt Number (IRQ) [割り込み番号 (IRQ)]」
	I/O Address	332ページの「I/O Address [I/O アドレス]」
	Keyboard	333ページの「Keyboard [キーボード]」
	Keyboard Layout	333ページの「Keyboard Layout [キーボードの配置]」
	Memory Address	333ページの「Memory Address [メモリアドレス]」
	Monitor Type	333ページの「Monitor Type [モニタータイプ]」
	Navigation	334ページの「Navigation [ナビゲート]」
	Pointing Device	336ページの「Pointing Device [ポインティングデバイス]」
	Screen Size	336ページの「Screen Size [画面サイズ]」
	Serial Port	336ページの「Serial Port [シリアルポート]」
	Virtual Screen	337ページの「Virtual Screen [仮想スクリーン]」
How To		
	Navigate	334ページの「Navigation [ナビゲート]」
Reference		
	Glossary	337ページの「Glossary [用語集]」
	Navigation	334ページの「Navigation [ナビゲート]」

表 D-2 sysidtty ヘルプ

カテゴリ	タイトル	参照先
Topics		
	Confirm Information	338ページの「Confirm Information [情報の確認]」
	Date and Time	338ページの「Date and Time [日付と時間]」
	DNS Search List	338ページの「DNS Search List [DNS 検索リスト]」
	DNS Servers	339ページの「DNS Servers [DNS サーバー]」
	Domain Name	339ページの「Domain Name [ドメイン名]」
	Host Name	340ページの「Host Name [ホスト名]」
	IP Address	340ページの「IP Address [IP アドレス]」
	IPv6	341ページの「IPv6」
	Identifying Your System	340ページの「Identifying Your System [自己のシステムの識別]」
	Kerberos Configuration	341ページの「Kerberos Configuration [Kerberos 構成]」
	Locating Servers	342ページの「Locating Servers [サーバーの配置]」
	Name Service	342ページの「Name Service [ネームサービス]」
	Name Servers	343ページの「Name Servers [ネームサーバー]」
	Navigation	343ページの「Navigation [ナビゲート]」
	Netmask	346ページの「Netmask [ネットマスク]」
	Network Connectivity	346ページの「Network Connectivity [ネットワークの接続性]」

表 D-2 sysidtty ヘルプ 続く

カテゴリ	タイトル	参照先
	Offset from GMT	348ページの「Time Zone [時間帯] / Offset from GMT [GMT からのオフセット] / Time Zone File [時間帯ファイル]」
	Primary Network Interface	347ページの「Primary Network Interface [一次ネットワークインタフェース]」
	Security Policy (Kerberos)	347ページの「Security Policy (Kerberos) [セキュリティポリシー (Kerberos)]」
	Subnets	347ページの「Subnets [サブネット]」
	Time Zone	348ページの「Time Zone [時間帯] / Offset from GMT [GMT からのオフセット] / Time Zone File [時間帯ファイル]」
	Time Zone File	348ページの「Time Zone [時間帯] / Offset from GMT [GMT からのオフセット] / Time Zone File [時間帯ファイル]」
How To		
	Finding System Information	348ページの「Finding System Information [システム情報を見つける手順]」
	Navigation	349ページの「Navigation [ナビゲート]」
Reference		
	Glossary	352ページの「Glossary [用語集]」
	Navigation	343ページの「Navigation [ナビゲート]」

表 D-3 ttinstall ヘルプ

カテゴリ	タイトル	参照先
Topics		
	Auto-layout	355ページの「Auto - layout [自動配置]」
	Creating a Profile	356ページの「Creating a Profile [プロフィールの作成]」
	Device Naming Conventions	357ページの「Device Naming Conventions [Solaris 2.x 環境でのデバイス命名規則]」
	fdisk Partitions	358ページの「(IA) fdisk Partitions [fdisk パーティション] / (IA) Solaris fdisk Partitions [Solaris fdisk パーティション]」
	Language	359ページの「Languages [言語]」
	Laying Out File Systems on Disks	359ページの「Laying Out File System on Disks [ディスク上でのファイルシステムの配置]」
	More Space Needed for the Upgrade	361ページの「More Space Needed for the Upgrade [アップグレードにさらに必要な容量]」
	Mounting Remote File Systems	363ページの「Mounting Remote File Systems [リモートファイルシステムのマウント]」
	Navigating Using the Keyboard	363ページの「Navigating Using the Keyboard [キーボードでのナビゲート]」
	Preserving Data	365ページの「Preserving Data [データ保存] / Preserve Data Screen [データ画面]」
	Software Groups: What They Contain	366ページの「Software Groups : What They Contain [ソフトウェアグループ : 何が入っているか]」
	Solaris fdisk Partitions	358ページの「(IA) fdisk Partitions [fdisk パーティション] / (IA) Solaris fdisk Partitions [Solaris fdisk パーティション]」

表 D-3 ttinstall ヘルプ 続く

カテゴリ	タイトル	参照先
	Specifying a Boot Disk	367ページの「Specifying a Boot Disk [ブートディスクの指定]」
	Upgrading Option	368ページの「Upgrading Option [アップグレードオプション]」
How To		
	Access a Disk's Existing Layout	370ページの「Access a Disk's Existing Layout [ディスクの現在の配置を利用する]」
	Determine a System's platform	370ページの「Determine a System's platform [システムのプラットフォームを確認するには]」
	Free Up Disk Space	373ページの「Free Up Disk Space [ディスク容量の解放]」
	Reset Software Group to Default Selections	373ページの「Reset Software Group to Default Selections [ソフトウェアグループをデフォルトの選択に再設定するには]」
	Resolve Software Dependencies	374ページの「Resolve Software Dependencies [ソフトウェア依存関係の解決処理]」
	Specify a Boot Disk	374ページの「Specify a Boot Disk [ブートディスクの指定]」
Reference		
	Customize Disks Screen	375ページの「Customize Disks Screen [ディスクのカスタマイズ画面]」
	Customize Software Screen	378ページの「Customize Software Screen [ソフトウェアカスタマイズ画面]」
	Disk Editor Properties Screen	380ページの「Disk Editor Properties Screen [ディスクエディタ・プロパティ画面]」
	File System Modification Summary Screen	381ページの「File System Modifications Summary Screen [ファイルシステム変更の要約画面]」

表 D-3 ttinstall ヘルプ 続く

カテゴリ	タイトル	参照先
	Geographic Region Screen	382ページの「Geographic Region Screen [地域画面]」
	Glossary	383ページの「Glossary [用語集]」
	Mount Remote File System Screen	388ページの「Mount Remote File System Screen [リモートファイルシステムのマウント画面]」
	Preserve Data Screen	365ページの「Preserving Data [データ保存] / Preserve Data Screen [データ画面]」
	Select Auto-layout Constrains Screen	285ページの「IA - kdmconfig」
	Select Boot Disk	338ページの「DNS Search List [DNS 検索リスト]」
	Select Disks	341ページの「IPv6」
	Select Disk to Customize Screen	392ページの「Select Disk to Customize Screen [ディスクのカスタマイズ]」
	Select Media for Backup Screen	393ページの「Select Media for Backup Screen [バックアップ用メディアの選択画面]」
	Select Root Location	394ページの「Select Root Location [ルート位置の選択]」
	Select Version to Upgrade Screen	394ページの「Select Version to Upgrade Screen [アップグレードのバージョン選択の画面]」
	Server's Exportable File Systems Screen	392ページの「この画面について」

(IA) kdmconfig - Topics

Bus type [バスタイプ]

ボードに取り付けられているバスタイプを指定します。VESA ローカルまたは PCI バスのいずれかです。

Buttons [ボタン]

使用するポインティングデバイスのボタンの数を指定します。

この数値がメニューに表示されない場合は、ポインティングデバイスの種類を間違っていて選択している可能性があります。ポインティングデバイスをチェックする場合には、「Confirm Information」画面に進んでください。ポインティングデバイスが正しくない場合は、F2 キーを押して変更してください。

Color Depth Number [カラーデプス数]

カラープレーンで使われるビット数を指定します。

現在、X inside デバイスは、8 と 24 のカラービットプレーンを提供しています。

Confirm Information [情報の確認]

前の画面で入力した値を一覧表示します。デバイスを選び再構成するか、現在の構成を受け入れるか、あるいは保存しないで終了するかを選択します。

Display Resolution [ディスプレイの解像度]

モニターまたはディスプレイアダプタの解像度を指定します。

複数の解像度をサポートしているグラフィックスカードもあります。この画面が表示されている場合は、そのシステムのアダプタは複数の解像度をサポートしています。

注 - モニターがサポートしている最高の解像度を選択してください。モニターの性能以上の解像度を選択すると、モニターが損傷することがあります。選択する解像度をモニターがサポートしていることを確認してください。詳細については「デバイスの構成」を参照してください。

Graphics Card [グラフィックスカード]

システムにインストールするグラフィックスカードを指定します。

グラフィックスカードは、カードの種類 (例 : ATI VGA Wonder XL) と垂直方向のリフレッシュレート (例 : 70 Hz) に従って一覧表示されます。

リフレッシュレートについては、メーカーのモニターに関するマニュアルを参照してください。

Interrupt Number (IRQ) [割り込み番号 (IRQ)]

Solaris 環境は複数のデバイス間で IRQ を共用するため、性能面の理由から、各デバイスに固有の IRQ を割り当てなければなりません。

注 - 他のカードと IRQ を共用できないカードもあるので、1 つの IRQ を複数のデバイスで使用する場合は、事前にメーカーの当該デバイスに関するマニュアルで確認してください。

I/O Address [I/O アドレス]

デバイスが使用するブロックの先頭 I/O アドレスを指定します。

このフィールドは、Microsoft バスマウス上で選択できます。デフォルト値 0x23c は、"Primary" I/O アドレスとして Microsoft バスマウスのドキュメントやそのインタフェースカード上で調べることができます。バスマウスインタフェースをデフォルト設定値で使用する場合は、この値を指定します。

ご使用の Microsoft バスマウスインタフェースが、I/O アドレスのジャンプを変更している場合は、他のアドレス (0x238) を使用します。この値は Microsoft ドキュメントやインタフェースカード上から "Secondary" I/O アドレスとして調べることができます。

たとえば、ATI ビデオカードなどのようにマウスポートを持っているサードパーティのインタフェースカードは、Microsoft バスマウスとして構成できます。その場合、ATI カードは I/O アドレスのジャンパ変更なしで "Secondary" ポートを使用します。システムがこのインタフェースを使用する場合は、0x238 を設定します。

Keyboard [キーボード]

使用するキーボードを指定します。Solaris 環境は AT キーボードだけをサポートします。ただし、いくつかの国際レイアウトや言語はサポートしています。詳細については、次の「キーボードの配置」を参照してください。

Keyboard Layout [キーボードの配置]

キーボードの配置と言語を指定します。Solaris 環境は、国際配置と言語を備えた AT キーボードをサポートしています。

現在、次の言語と配置がサポートされています。

US-English、US-English (MicroSoft-Natural)、UK-English、Japanese (J3100)、Japanese (106)、French、French-Canadian、Swiss-French、Danish、Dutch、Belgian-Dutch、Norwegian、Swedish、German、Swiss-German、Italian、Spanish、Korean、Taiwanese

Memory Address [メモリーアドレス]

グラフィックスカードのメモリーが割り当てられているメモリーアドレスを指定します。

Monitor Type [モニタータイプ]

システムが使用するモニターのタイプを指定します。

モニターが選択リストにない、またはモニターのタイプが不明な場合は、汎用の Multi-Frequency モニターの中から、リフレッシュレートに対応したモニターを選択します。

リフレッシュレートについては、モニターのマニュアルを参照してください。

Navigation [ナビゲート]

ファンクションキーと ESC キー

ナビゲート用のデフォルトキーはファンクションキーです。ただし、キーボードにファンクションキーがなかったり、シリアル回線を通して実行している場合、ESC キーを使用します。

- ナビゲートに ESC キーを使用するには、ESC キーを 1 回押します (各画面の下に ESC キーの使用方法が表示されます)。
- ESC キー・ナビゲート (たとえば、ESC-2) を使用するには、ESC キーを押したあと数字キーを押します。
- メイン画面のナビゲート方法の表示をファンクションキーに戻すには、ESC キーを押したあと f キーを押します。

Return と Enter

Return または Enter キーを押して、メニューからオプションを選択します。

ナビゲートの要約

- メイン画面

ESC	ESC キーでの使用方法を表示し、有効にする
ESC-f	ファンクションキーでの使用方法を表示し、有効にする
F2、ESC-2	次画面に進む
F4、ESC-4	入力された情報を変更する
F6、ESC-6	ヘルプにアクセスする
Ctrl-N (下矢印)	メニューあるいは画面で下に移動する
Ctrl-P (上矢印)	メニューあるいは画面で上に移動する
Ctrl-H	フィールドで 1 文字消去
Ctrl-U	フィールドで行を消去
Back Space キー	フィールドで 1 文字消去

矢印キー	メニューでオプションに移動する
Return、Enter キー	メニューでオプションをマーク (選択) する

- ヘルプ画面

F2、ESC-2	(選択されたオプションに) 移動する
F3、ESC-3	ヘルプの各項目またはヘルプの Main Index に移動する
F5、ESC-5	ヘルプを終了する

- Ctrl キー・ナビゲート (たとえば、Ctrl-U) を使うには、Ctrl キーを押しながら、文字キーを押します。
- ESC キー・ナビゲート (たとえば、ESC-2) を使うには、ESC キーを押したあと、数字キーを押します。

Text フィールド

- データを入力するには、カーソル位置で入力を始めます。
- データを有効にし、確定するには、Return キーを押します。
- フィールド間を移動するには、次のキーを使います。
 - 上矢印または Ctrl-P
 - 下矢印または Ctrl-N
- 現在の値を消去するには、次のどれかを使います。
 - Back Space キー
 - Ctrl-H
 - Ctrl-U

メニュー

- 選択したい項目に移動するには、矢印キーを使います。
- 項目 [X] を選択するには、Enter キーを押します。
- 項目 [] を選択解除するには、矢印キーを使い、別のフィールドに移動して、Enter キーを押します。

画面

- 構成画面の情報を変更する、または次画面に進む場合、F2 キーまたは ESC-2 を押します。
- ヘルプにアクセスするには、F6 キーまたは ESC-6 を押します。
- 前の構成画面に戻るには、F3 キーあるいは ESC-3 を押します。

ヘルプ画面

- ヘルプを終了して前の構成画面に戻るには、F5 キーまたは ESC-5 を押します。
- ヘルプ項目を選択するには、矢印キーを使ってオプションに移動し、Enter キーを押して [X] マークを選択します。
- 選んだ項目に移動するには、F2 キーまたは ESC-2 を押します。
- ヘルプの Main Index に移動するには、F3 キーまたは ESC-3 を押します。

Pointing Device [ポインティングデバイス]

システムに接続するポインティングデバイスを指定します。ポインティングデバイスには、シリアルとバスの 2 種類があります。

- シリアルデバイスは通常、DB-9 あるいは DB-25 の DIN コネクタによってシステムのシリアル通信ポート (COM ポート) の 1 つに接続します。
- バスデバイスは通常、丸いコネクタによって接続します。ポインティングデバイスの正しい商品名については、デバイスの上部または下部、あるいは付属のマニュアルを参照してください。

Screen Size [画面サイズ]

モニターの画面サイズを指定します。

モニターと一致するサイズがない場合、もっとも近いサイズを選択してください。

Serial Port [シリアルポート]

マウスの接続に使用するシリアル通信ポートを指定します。

シリアル通信ポート (COM ポート) は通常、コンピュータの背面に配置されています。マウスは、9-ピン、15-ピン、または 25-ピンのコネクタで COM ポートに接続されています。

COM ポートは、次のデバイスに対応します。

- COM1 = /dev/tty00
- COM2 = /dev/tty01
- COM3 = /dev/tty02
- COM4 = /dev/tty03

Virtual Screen [仮想スクリーン]

仮想スクリーンの解像度とは、仮想デスクトップとして知られているパン可能な画面サイズを指します。

このオプションは、主にラップトップに対して使われます。パンが必要でなければ、仮想スクリーンの解像度を、ディスプレイの解像度と同じ、またはそれ以下にします。

(IA) kdmconfig - Reference

Glossary [用語集]

- グラフィックカード

コンピュータ内のカードで、コンピュータとモニター間のインタフェースを提供する。フレームバッファ、グラフィックスアダプタ、ビデオディスプレイアダプタなどとも呼ぶ。

- シリアルポート

モデムやシリアルマウスなど、シリアルデバイスをコンピュータと接続する通信ポート。DOS では、シリアルポートは COM1、COM2、COM3、COM4 と呼ばれる。Solaris 環境の下では同じポートを次のように呼ぶ。

- /dev/tty00 (COM1)
- /dev/tty01 (COM2)
- /dev/tty02 (COM3)

- /dev/tty03 (COM4)

- シリアルマウス

コンピュータのシリアルポートに接続するマウス。現在、すべてのシリアルマウスは /dev/tty00 (COM1) ポートに接続するようになっている。

- バスマウス

コンピュータのバスに挿入されているプリント回路ボードに接続するマウス。

- ポインティングデバイス

マウスなど、画面上のさまざまな項目を指すデバイスの総称。マウス以外のポインティングデバイスには、トラックボールやライトペンがある。

- 割り込み番号 (IRQ)

プロセッサに注意信号を発信する、周辺装置からのハードウェア割り込み。中央処理装置は、この割り込み番号によってシステム内のさまざまなカードを区別する。各カードが異なる IRQ を使用するように設定する。この番号の変更方法については、カードのマニュアルを参照。

sysidtty - Topics

Confirm Information [情報の確認]

ここまでの画面で入力した値を要約します。

F4 キーを押して、入力を変更する場合は、この要約の中で表示されている画面へ戻ることができます。それ以前のすでに確定されている情報を変更するには、L1-A または Stop-A を押して、システムをリブートしてください。

Date and Time [日付と時間]

システムクロックを設定します。

DNS Search List [DNS 検索リスト]

DNS サーバーから要求されたアドレスを検索する時に使用される DNS ドメインを指定します。

検索ドメインの指定は、省略可能です。検索ドメインが指定されていない場合は、デフォルトの検索ドメイン (このシステムのドメイン) が使用されます。

指定できる検索ドメインは 0 個から 6 個までです。指定する検索ドメインの合計文字数が 250 文字を超えないようにしてください。

参照

- DNS
- name service [ネームサービス]

DNS Servers [DNS サーバー]

システムが使用する DNS サーバーの IP アドレスを指定します。

指定できるネームサーバーは、1 個から 3 個までです。DNS はこれらのネームサーバーを使用して、他のシステムの名前を認識します。

システムが使用する DNS サーバーのアドレスがわからない場合は、システム管理者に確認してください。

参照

- DNS
- name service [ネームサービス]

Domain Name [ドメイン名]

システムを、ネームサービスドメインの一部として指定します。ドメイン名がわからない場合は、システム管理者に確認するか、すでにインストール済みのシステムで、`domainname(1M)` コマンドを実行します。

通常、ドメイン名は、ピリオドで区切られた 2 つから 4 つの短い名前構成されています。中には大文字で記述されているものもあります。

参照

- domain name [ドメイン名]

- domain [ドメイン]

Host Name [ホスト名]

システム名を指定します。このシステムがネットワーク上にある場合、他のすべてのシステムとは異なる固有の名前を指定する必要があります。

ホスト名は、サイトの方針に従って、ネットワーク管理者かシステム管理者によって割り当てられます。重複するホスト名を作成すると、ネットワーク障害を引き起こすので、システム管理者かネットワーク管理者に確認してください。

IP Address [IP アドレス]

ネットワーク上でシステムを識別する IP アドレスを指定します。電話番号に類似しています。

IP アドレスは、ピリオドで区切られた 4 つの数字です。一般的に、IP アドレスの各構成要素は 0 から 225 の範囲の数字です。しかし、最初の数字は、244 未満にしてください。また、通常、最後の数字に 0 は使用できません。

IP アドレスは、通常、ローカルの方針とインターネットの方針に従って、ネットワーク管理者かシステム管理者により割り当てられます。重複する IP アドレスを作成するとネットワーク障害を引き起こすので、システム管理者かネットワーク管理者に確認してください。

参照

- Internet Protocol (IP) address [IP アドレス]

Identifying Your System [自己のシステムの識別]

システム識別のために必要な情報については、システム管理者に確認してください。

参照

- Solaris のインストール関連マニュアル

Kerberos Configuration [Kerberos 構成]

「Kerberos 構成」メニューでは、Kerberos セキュリティを有効にするために必要な情報を指定します。

ここではすべてのエントリにおいて、完全指定のドメイン名を入力してください。

「デフォルトのレルム」フィールドには、通常大文字で入力します。たとえば、システムのドメイン名を大文字で入力します (例: YOURSITE.COM)

「管理サーバー」フィールドには、Kerberos を管理するサーバーの名前を指定します。

KDC のフィールドには、Key Distribution Center (鍵発行センター) として機能するマシンのドメインを完全指定名で入力してください。ここに指定したマシンが、Kerberos チケットを発行します。

ここで入力するすべての情報について、ネットワーク管理者に確認してください。

「Kerberos」メニューにおいて指定した情報は、`/etc/krb5/krb5.conf` ファイルに保存されます。情報が入力されていないフィールドがあると、`krb5.conf` ファイル中の対応するエントリが空になり、Kerberos が正しく機能しません。

ここでユーザーが入力しなかった情報がある場合、Solaris をインストールした後に、システム管理者が手動で `krb5.conf` ファイルを編集して、エントリに情報を追加したり変更したりすることができます。

詳細は、ヘルプトピック「セキュリティポリシー」を参照してください。

IPv6

システムが IPv6 を使用するかどうかを指定します。

IPv6 は、次世代のインターネットプロトコルです。選択時には、現バージョンのインターネットプロトコル IPv4 に加えて使用されます。IPv4 の選択は解除しないでください。

IPv6 のアドレス情報は、システムがネットワークから取得するので、ユーザーが入力するためのプロンプトは表示されません。

IPv6 がネットワーク上で使用されているかどうか不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Locating Servers [サーバーの配置]

システムのネームサーバーを検索する方法を指定します。

「Find one」を選択すると、ソフトウェアはネームサーバーの検索を行います。ネームサーバーを検索する場合は、サブネット上にそのネームサーバーが存在している必要があります。

「Specify one」を選択すると、補助の画面が表示されます。ここで、ネームサーバーのホスト名と IP アドレスを入力してください。

参照

- name service [ネームサービス]
- subnets [サブネット]

Name Service [ネームサービス]

このシステムとネームサービスとの関係を指定します。

システムをネームサーバーに認識させるためには、システムの情報(システム名、IP アドレス、Ethernet アドレスなど)を、サーバーに持たせる必要があります。サーバーが必要な情報は、使用するネームサービスの種類によって異なります。ネームサービスにシステムを追加する方法についての詳細は、Solaris のインストール関連マニュアルを参照してください。

注 - このシステムをネームサービスの一部として指定している場合、これ以降の画面で入力すべき情報の量が少なくなることがあります。

このシステム用のネットワークネームサービスについて分からないことがある場合には、システム管理者に確認してください。

参照

- NIS+
- NIS
- DNS
- name service [ネームサービス]

Name Servers [ネームサーバー]

このシステムにサービスを提供する、ネットワークネームサーバーの名前と IP アドレスを指定します。

IP アドレスは、ピリオドで区切られた 4 つの数字で構成されます。通常、IP アドレスの各構成要素は 0 から 225 の範囲の数字です。最初の数字は 224 未満にしてください。また、通常、最後の数字に 0 を使用できません。

参照

- Internet Protocol (IP) address [IP アドレス]
- name service [ネームサービス]
- name server [ネームサーバー]

Navigation [ナビゲート]

ファンクションキーと ESC キー

ナビゲート用のデフォルトキーはファンクションキーです。ただし、キーボードにファンクションキーがなかったり、TIP 回線を通して実行している場合、ESC キーを使用します。

- ナビゲートに ESC キーを使用するには、ESC キーを 1 回押します (ヘルプを終了し、メイン画面に戻ると、各画面の下に ESC キーの使用方法が表示されます)。
- メイン画面のナビゲート方法の表示をファンクションキーに戻すには、ESC-f を押します。
- ESC キー・ナビゲート (たとえば、ESC-2) を使用するには、ESC キーを押したあと数字キーを押します。

Return と Enter

Return または Enter キーを使って、メニューのオプションにマークをつけて選択します。

ナビゲートの要約

■ メイン画面

ESC キー	ESC キーでの使用方法を表示し、有効にする
ESC-f	ファンクションキーでの使用方法を表示し、有効にする
F2、ESC-2	次画面に進む
F4、ESC-4	入力された情報を変更する
F6、ESC-6	ヘルプにアクセスする
Ctrl-N (下矢印)	メニューで下に移動する
Ctrl-P (上矢印)	メニューで上に移動する
Ctrl-H	フィールドで 1 文字消去
Ctrl-U	フィールドで行を消去
Back Space キー	フィールドで 1 文字消去
矢印キー	メニューでオプションを反転表示する
Return、Enter キー	メニューでオプションをマーク (選択) する

■ ヘルプ画面

F2、ESC-2	(選択されたオプションに) 移動する
F3、ESC-3	ヘルプの各項目またはヘルプの Main Index に移動する
F5、ESC-5	ヘルプを終了する

- **Ctrl** キー・ナビゲート (たとえば、**Ctrl-U**) を使うには、**Ctrl** キーを押しながら、文字キーを押します。
- **ESC** キー・ナビゲート (たとえば、**ESC-2**) を使うには、**ESC** キーを押しながら、数字キーを押します。

Text フィールド

- データを入力するには、カーソル位置で入力を始めます。
- データを有効にし、確定するには、**Enter** キーを押します。
- フィールド間を移動するには、次のキーを使います。

- 上矢印または Ctrl-P
- 下矢印または Ctrl-N
- 現在の値を消去するには、次のどれかを使います。
 - Back Space キー
 - Ctrl-H
 - Ctrl-U

メニュー

- 選択したい項目を反転表示するには、矢印キーを使います。
- 項目 [X] を選択するには、Return キーを押します。
- 項目 [] を選択解除するには、矢印キーを使い、別のフィールドに移動して、Return キーを押します。

画面

- 確認画面の情報を変更するには、F4 キーまたは ESC-4 を選択します。
- ヘルプにアクセスするには、F6 キーまたは ESC-6 を押します。
- Solaris インストールプログラムを終了するには、F5 キーまたは ESC-5 を選択します。
- 次の画面に進むには、F2 キーまたは ESC-2 を選択します。
- すでに終了した確認画面に戻るには、L1-A または Stop-A を使用してシステムをリブートし、インストールを再開します。

ヘルプ画面

- ヘルプを終了して元の画面に戻るには、F5 キーまたは ESC-5 を選択します。
- ヘルプ項目を選択するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示し、Return キーを押して [X] マークを付けます。
- 選んだ項目に移動するには、F2 キーまたは ESC-2 を選択します。
- ヘルプの Main Index に移動するには、F3 キーまたは ESC-3 を選択します。

Netmask [ネットマスク]

システムのネットマスクを指定します。

ネットマスクとは、ピリオドで区切られた4つの番号のことで、IPアドレスのどの部分がネットワーク部であり、どの部分がホスト部であるか指定します。ネットマスクが分からない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に確認してください。

参照

- Internet Protocol (IP) address [IP アドレス]
- netmask [ネットマスク]
- subnets [サブネット]

Network Connectivity [ネットワークの接続性]

Solaris CD がサポートしていないネットワーク/通信カードにシステムが接続されている場合、Solaris ソフトウェアのインストールを終了してから、次を実行します。

1. 別売のネットワーク/通信カードをインストールします。
2. **sys-unconfig** プログラムを実行し、システムを出荷時の状態に戻します。
`sys-unconfig(1M)` のマニュアルページを参照。
3. システムにネットワークアダプタを装着します。
4. OK プロンプトが表示されたら、**boot -r** と入力します。
5. 画面のメッセージに従って、ネットワーク情報を入力します。

ネットワークはシステムを認識します。

Primary Network Interface [一次ネットワークインタフェース]

システムの一次ネットワークインタフェースを指定します。

ソフトウェアが、システム上で複数のイーサネットカードまたはネットワークアダプタカードを検出した場合、この情報が要求されます。CD-ROM からゲートウェイをインストールしている場合、この画面が表示されます。

ほとんどの場合、最小の番号のインタフェース (たとえば、選択肢が `le0` と `le1` の場合、最小の番号は `le0` です) が正しい選択肢です。ただし、不明な場合は、システム管理者かネットワーク管理者にたずねてください。

注 - 一次ネットワークインタフェースの選択が不正確だと、システムがネームサービスを発見できないことがあります。

Security Policy (Kerberos) [セキュリティポリシー (Kerberos)]

システムに実装するセキュリティポリシーの種類を指定します。

セキュリティポリシーを指定しない場合でも、通常の UNIX セキュリティが実装されます。

注 - Kerberos を使用する場合は、必ずネットワーク管理者に相談してください。1 つまたは複数の KDC の完全指定ドメイン名など、特別な情報が必要になるからです。このような情報がわからない場合や、情報について詳しく知らない場合には、通常の UNIX セキュリティで Solaris をインストールするように選択しておく
と、インストール後に `/etc/krb5/krb5.conf` ファイルを編集して情報を追加し、Kerberos セキュリティを有効にすることができます。

Subnets [サブネット]

このシステムが接続されているネットワークが、サブネットを持っているかどうかを指定します。

このシステムが接続されているネットワークが (通常はルーターかゲートウェイを使用して) 複数のサブネットに分割されている場合、「Yes」を選択してください。

ネットワークがサブネットに分割されているかどうか分からない場合、システム管理者に確かめてください。

参照

- netmask [ネットマスク]
- subnets [サブネット]

Time Zone [時間帯] / Offset from GMT [GMT からのオフセット] / Time Zone File [時間帯ファイル]

システムのデフォルトの時間帯を指定します。

時間帯メニューからデフォルトの時間帯を設定するには、次の 3 つの方法があります。

- 地域を選択する。
ユーザーの地域 (たとえば、United States/Mountain) の時間帯を指定します。
- 「other - offset from GMT」 (GMT からの時間差) を選択する。
グリニッジ標準時間からの差に相当する時間数を指定します。
- 「other - specify time zone file」 (ファイルを指定する) を選択する。
ディレクトリ /usr/share/lib/zoneinfo にある時間帯ファイルの名前を指定します。時間帯ファイルはこのディレクトリになければなりません。ファイルがなかった場合は、地域によって時間帯を選択するよう促すエラーメッセージが表示されます。

sysidtty - How To

Finding System Information [システム情報を見つける手順]

システムを指定するために必要な情報がわからない場合、システム管理者に確認してください。

参照

- Solaris のインストール関連マニュアル

Navigation [ナビゲート]

ファンクションキーを使わずにこの画面をナビゲートするには

使用法:

- 矢印キー
または、
- Control-N、Control-F ... 下へ移動
- Control-P、Control-B ... 上へ移動

ファンクションキーと ESC キー

ナビゲート用のデフォルトキーはファンクションキーです。ただし、キーボードにファンクションキーがなかったり、TIP 回線を通して実行している場合、ESC キーを使用します。

- ナビゲートに ESC キーを使用するには、ESC キーを 1 回押します (ヘルプを終了し、メイン画面に戻ると、各画面の下に ESC キーの使用方法が表示されます)。
- メイン画面のナビゲート方法の表示をファンクションキーに戻すには、ESC-f を押します。
- ESC キー・ナビゲート (たとえば、ESC-2) を使用するには、ESC キーを押したあと数字キーを押します。

Return と Enter

Return または Enter キーを使って、メニューのオプションにマークをつけて選択します。

ナビゲートの要約

- メイン画面

ESC キー	ESC キーでの使用方法を表示し、有効にする
ESC-f	ファンクションキーでの使用方法を表示し、有効にする
F2、ESC-2	次画面に進む
F4、ESC-4	入力された情報を変更する
F6、ESC-6	ヘルプにアクセスする
Ctrl-N (下矢印)	メニューで下に移動する
Ctrl-P (上矢印)	メニューで上に移動する
Ctrl-H	フィールドで 1 文字消去
Ctrl-U	フィールドで行を消去
Back Space キー	フィールドで 1 文字消去
矢印キー	メニューでオプションを反転表示する
Return キー	メニューでオプションをマーク (選択) する

■ ヘルプ画面

F2、ESC-2	(選択されたオプションに) 移動する
F3、ESC-3	ヘルプの各項目またはヘルプの Main Index に移動する
F5、ESC-5	ヘルプを終了する

- Control キー・ナビゲート (たとえば、Ctrl-U) を使うには、Control キーを押しながら、文字キーを押します。
- ESC キー・ナビゲート (たとえば、ESC-2) を使うには、ESC キーを押しながら、数字キーを押します。

Text フィールド

- データを入力するには、カーソル位置で入力を始めます。
- データを有効にし、確定するには、Return キーを押します。
- フィールド間を移動するには、次のキーを使います。
 - 上矢印または Ctrl-P
 - 下矢印または Ctrl-N

- 現在の値を消去するには、次のどれかを使います。
 - Back Space キー
 - Ctrl-H
 - Ctrl-U

メニュー

- 選択したい項目を反転表示するには、矢印キーを使います。
- 項目 [X] を選択するには、Return キーを押します。
- 項目 [] を選択解除するには、矢印キーを使い、別のフィールドに移動して、Return キーを押します。

画面

- 確認画面の情報を変更するには、F4 キーまたは ESC-4 を選択します。
- ヘルプにアクセスするには、F6 キーまたは ESC-6 を選択します。
- Solaris インストールプログラムを終了するには、F5 キーまたは ESC-5 を選択します。
- 次の画面に進むには、F2 キーまたは ESC-2 を選択します。
- すでに終了した確認画面に戻るには、L1-A または Stop-A を使用してシステムをリブートし、インストールを再開します。

ヘルプ画面

- ヘルプを終了して元の画面に戻るには、F5 キーまたは ESC-5 を選択します。
- ヘルプ項目を選択するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示し、Return キーを押して [X] マークを付けます。
- 選んだ項目に移動するには、F2 キーまたは ESC-2 を選択します。
- ヘルプの Main Index に移動するには、F3 キーまたは ESC-3 を選択します。

sysidtty - Reference

Glossary [用語集]

- /etc

システム管理者によって所有され管理されるディレクトリ。ユーザー ID のデータファイル、アカウントプログラム、インストール情報が含まれる。

- DNS

ドメインネームサービス (Domain Name Service)。ネームサービスの一種で、通常インターネットに接続するシステムによって使用される。

- IP アドレス

ネットワーク接続されたシステムを識別する固有の番号で、システムがインターネットプロトコルを使った通信を可能にする。ピリオドで区切られた4つの数字によって構成される。ほとんどの場合、IP アドレスの各構成要素は0から225の範囲の数字である。ただし、最初の数字は224未満でなければならない。また、通常、最後の数字に0は使用できない。

IP アドレスは、論理的に2つの部分に分割される。ネットワーク (電話の市外局番に似たもの) とホスト (電話番号に似たもの) である。

- NIS

Network Information Service (ネットワーク情報サービス) の略。SunOS 3.x、4.x、Solaris 1.x システムの標準のネームサービスである。

- NIS+

Network Information Service、Plus (ネットワーク情報サービスプラス) の略。NIS の後継であり、情報の自動的な更新を提供し、承認や認証のようなセキュリティ機能を追加している。NIS+ は、Solaris 2.x システムの標準のネームサービスである。

- Solaris インストールプログラム

メニュー形式の対話型プログラムで、システムの設定と Solaris のインストールを行うことができる。グラフィックスモニターを使用して Solaris をインストールする場合、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) が利用でき、グラフィックス以外からインストールする場合、キャラクタユーザーインタフェース (CUI) が利用できる。

- インターネットプロトコル (IP)

Solaris ベースのシステムが、ネットワーク経由で他のシステムと通信するときに使用する規則のセット。
- クライアント

リソースの一部またはすべてを他のシステム (サーバー) から取得するシステム。
- ゲートウェイ

2つの物理ネットワークの間でブリッジとして機能し、トラフィックを転送するシステム。
- サーバー

ネットワーク上のシステムにサービスを提供するシステム。ディスクレスクライアントの場合、サーバーには各ディスクレスクライアント用のルートファイルシステムとスワップ空間 (/export/root、/export/swap) 用のディスク空間が必要である。データレスクライアントの場合、サーバーは /usr と /usr/kvm のファイルシステムを提供が必要となる。
- サブネット

1つの論理ネットワークを、複数の小さな物理ネットワークに分割し、ルーティングを単純化するネットワーク機構の1つ。
- 時間帯

地表を経線で区分した 24 の地域のどれかを意味する。各地域で、その標準時間が管理されている。
- システムタイプ

Solaris を動作させるためにシステムを設定する方法を定義する用語。有効なシステムタイプは、「スタンドアロンシステム」、「データレスクライアント」、「ディスクレスクライアント」である。
- ドメイン

インターネットのネーミング階層の一部。ローカルネットワーク上で管理ファイルを共有するシステムのグループを表している。
- ドメイン名

ローカルネットワーク上のグループの ID。ネームサービスが適切に機能するために、ドメイン名は必須である。インターネットのドメイン名は、ピリオドで区切られた構成要素名によって構成されている (例: tundra.mpk.cal.us)。構成要素名は、ドメイン名の右側ほどより広い領域を示す。

- ネームサーバー

ネットワーク上のシステムにネームサービスを提供するサーバー。NIS+ を使用すると、ネームサーバーがマスターサーバーまたは複製サーバーになることができる。NIS を使用すると、ネームサーバーはマスターサーバーかスレーブサーバーになることができる。

- ネームサービス

ネットワーク上のすべてのシステムについての重要なシステム情報を含んだ分散ネットワークデータベースのことで、これにより、システムが互いに通信できる。ネームサービスを使用すると、システム情報の保守、管理、アクセスをネットワーク単位で実施できる。Sun は次のネームサービスをサポートしている。NIS+、NIS (従来の YP)。ネームサービスを使用しない場合、各システムは、システムを独自にコピーして、ローカルの /etc ファイルで管理しなければならない。

- ネットマスク

ビットマスクの 1 つ。長さ 32 ビットで、IP アドレスから重要なネットワーク情報やシステム情報を取得するために使用される。

- ネットワークに接続されていないシステム

ネットワークに接続されていないシステム、または他のシステムに依存していないシステム。ネットワークに接続されていないシステムは、システムタイプをスタンドアロンに設定すべきである。

- ネットワークに接続されているシステム

ハードウェアとソフトウェアによって互いに接続されたシステム (ホストと呼ばれる) のグループのことで、互いに通信と情報の交換を行うことができる。ローカルエリアネットワーク (Local Area Network、LAN) とも呼ばれる。システム領域をネットワーク化するには、1 つまたは複数のサーバーが必要である。ネットワークに接続されたシステムは、次のシステムタイプのいずれかに設定できる。「スタンドアロン」、「サーバー」、「ディスクレス」、「データレス」。

- ホスト名

ネットワーク上の他のシステムが認識している、あるシステムの名前。この名前は、ドメイン (通常は 1 つの組織) 内のすべてのシステムと重複しない固有のものでなければならない。ホスト名として、文字、数字、マイナス記号 (-) の組み合わせを使用できるが、最初の文字または最後の文字にマイナス記号は使用できない。

ttinstall -Topics

Auto - layout [自動配置]

自動配置機能

自動配置機能は、選択されたファイルシステムを取り出し、それらにすべてのディスク容量を割り当てます。

注 - ディスク容量の余裕がないと、自動配置機能は選択されていないファイルシステムを作成します。つまり、ディスク容量に余裕がない場合、自動配置は、選択されたファイルシステムをいくつかのファイルシステムに分割して、使用可能なディスク容量に収めます。

たとえば、

ディスク	A	95 M バイト
	B	95 M バイト
ファイルシステム	/	12 M バイト
	/usr	88 M バイト
	/swap	88 M バイト

自動配置は、どの組み合わせを使っても、分割を行わない限り、複数のファイルシステムをディスク A または B に保存できません。この問題を解決するために、自動配置はもう 1 つファイルシステムを作成して、元のファイルシステムを数 M バイト縮小します。

上記の例は、次のようになることがあります。

ディスク	A	95 M バイト
	/	12 M バイト
	/usr	81 M バイト

ディスク	B	95 M バイト
	/usr/openwin	7 M バイト
	/swap	88 M バイト

Creating a Profile [プロファイルの作成]

プロファイル

プロファイルは、Solaris をインストールする方法を指定します。Solaris インストールプログラムの表示する各画面で選択を行うと、プロファイルが作成されます。Solaris ソフトウェアのインストールを開始する前に、元の画面へ戻って、プロファイルが完全に希望通りになるまで選択結果を変更できます。

次に、スタンドアロンシステム用のプロファイルの例を示します。

システムタイプ	OS サーバー
クライアントプラットフォーム	sparc.sun4m
クライアント	5、24 MB スワップファイル
ソフトウェア	Solaris2.5、エンドユーザシステムサポート
言語	ja
ファイルシステムとディスクの配置	/、c0t3d0s0、14 MB swap、c0t3d0s1、32 MB /export、c0t3d0s3、380 MB /export/swap、c0t3d0s4、3 MB /opt、c0t3d0s5、110 MB /usr、c0t3d0s6、209 MB /var、c0t3d0s7、110 MB

Device Naming Conventions [Solaris 2.x 環境でのデバイス命名規則]

ディスクの命名規則

Solaris 2.x 環境でのディスクの命名規則は、SVR4 インタフェース定義 (SVID) に準拠しています。規則は、物理的な名前ではなく、論理的名前に基づいています。

Solaris インストールプログラムは、ディスクを次のように指定します。

ディスク	インタフェース	プラットフォーム
cntndn	例: SCSI、IPI	SPARC
cndn	例: IDE	IA
	例: SMD	SPARC

ここでは cn、tn、dn は、

- cn = 論理的なコントローラの番号
- tn = 物理的なバスターゲットの番号
- dn = ドライブ番号

スライスと **fdisk** パーティション

スライスとは、Solaris のディスクの特定の容量のことです。ここには Solaris ソフトウェアのファイルシステムが配置されます。1 台のディスクに最大 8 つのスライス (0-7) を構成できます。スライス 2 はディスク全体を表します。「Customize Disks:」画面をアクセスすると、0-7 のディスクスライスを確認できます。

IA システムのスライスをアクセスするには、最初に Solaris ソフトウェアをインストールする **fdisk** パーティションを選択してください。4 つの **fdisk** パーティションがあります。それぞれに個別のオペレーティングシステムを格納でき、どれかを Solaris ソフトウェア用に予約もできます。どの **fdisk** パーティションを Solaris ソフトウェア用に使用するかを指定した後で、Solaris の **fdisk** パーティションのスライス 0-7 にファイルシステムを配置できます。スライスは、「Customize Disks:」画面に表示されています。IA システムには、ブートスライスと代替セクタスライス

という 2 つの特別なスライスがあり、ディスク容量を使用します。これらの特別なスライスは必須であり、削除できません。

スライスのカスタム割り当て

このディスクスライスのカスタム割り当てを行うと、ルートは次のように配置されます。

0 はルート (オペレーティングシステム)

1 はスワップ (仮想メモリーの記憶容量)

2 はディスク全体

6 は /usr、実行可能プログラム、プログラムライブラリ、ドキュメント

(IA) fdisk Partitions [fdisk パーティション] / (IA) Solaris fdisk Partitions [Solaris fdisk パーティション]

fdisk とは

fdisk パーティションとは、IA のディスクのうち、あるオペレーティングシステム専用に割り当てられた領域のことです。fdisk の領域には 4 つのパーティションがあり、それぞれを個別のオペレーティングシステムに割り当てたり、複数のパーティションに同じオペレーティングシステムを割り当てたりできます。しかし、fdisk のパーティションに Solaris を複数回インストールする機能はサポートされていません。

一度に 1 つの fdisk パーティションだけを使用可能にできます。

Solaris の fdisk パーティション

あるディスクを使用して Solaris をインストールするには、Solaris の fdisk パーティションを作成する必要があります。Solaris インストールプログラムを使用すると、fdisk パーティションを自動的に作成 (Solaris がディスク全体を使用するか、ディスクの残りを使用するかによる)、または手動で作成できます。ディスク上にすでに Solaris の fdisk パーティションが存在する場合は、Solaris インストールプログラムは fdisk パーティションに関するプロンプトを表示しません。

fdisk パーティションのタイプ

- PRI DOS は DOSの基本パーティション (DOS12、DOS16、DOSHUGE (DOS32))
- EXT DOS は DOS の拡張パーティション
- Other は Solaris でも DOS でもないパーティション

参照

『Administration Supplement for Solaris Platforms』 マニュアル

Languages [言語]

言語の追加

言語を選択すると、Solaris オペレーティングシステムをインストールした後に、翻訳テキストを表示するだけでなく日付や時刻など、文化によって異なる慣習にも対応することができます。

1 つまたは複数の言語をインストールするように選択することができますが、このリリースにバンドルされているすべての Solaris ソフトウェアが、リストにある言語の翻訳テキストを備えているわけではありません。

注 - 言語を追加すると、「Software」画面の推奨サイズが自動的に大きくなります。

Laying Out File System on Disks [ディスク上での ファイルシステムの配置]

ファイルシステムとディスクの配置とは

ファイルシステムとディスクの配置とは、Solaris のインストール用に選択した複数のディスクの中にファイルシステムを配置するプロセスのことです。1 台のディスクを最大 8 つのスライスに分割できます。複数のディスクのスライスにファイルシステムを割り当てます。これによって、システムの実行時にスライスがファイルシステム階層の中でマウントされる場所が決定されます。

ソフトウェアにファイルシステムを配置させる (自動配置) ように選択することも、手作業でファイルシステムをディスクに配置することもできます。

重要な Solaris のファイルシステム

次のファイルシステムは Solaris のインストールを無事終了させる上で必須なので、Solaris インストールプログラムは、それぞれに十分なディスク容量が割り当てられているかどうかを監視します。

■ / (ルート)

システムの階層ファイルツリーの最上位にあるファイルシステムです。ルートディレクトリには、システムの動作にあたって、必須のディレクトリやファイル、たとえばカーネル、デバイスドライバ、システムを起動 (ブート) するプログラムが置かれています。

■ /var

ローカルシステムにおいて時間の経過とともに変更や拡張が予想されるシステムファイルやディレクトリを含みます。この中には、システムログ、vi ファイル、mail ファイル、uucp ファイルが含まれます。

■ /usr

スタンドアロンシステムまたはサーバーが保持するファイルシステムで、UNIX の標準的なプログラムの多くを含んでいます。ローカルコピーの維持に比べると、1 台のサーバーの大規模な /usr ファイルシステムを共有する方が、Solaris ソフトウェアのインストールの実行に必要な、システム全体のディスク容量を最小限に抑えることができます。

■ /usr/openwin

スタンドアロンシステムまたはサーバーのディレクトリで、OpenWindows ファイルシステムを含みます。このディレクトリを作成しないと、Solaris インストールプログラムは、これらのファイルを /usr に置きます。

■ /export

サーバー上にあるファイルシステムで、ネットワーク上の他のシステムに共有されます。たとえば、/export ファイルシステムは、ディスクレスクライアントのルートファイルシステムとスワップ空間、ネットワーク上のユーザーのホームディレクトリを格納できます。ディスクレスクライアントのブートと動作は、/export ファイルシステムに依存します。

■ /export/root

クライアントのルートファイルシステムを持つディレクトリです。

ガイドライン

作成すべきファイルシステムとそのサイズは、システムの想定される役割によって異なります。たとえば、通常、サーバーのファイルシステムは、スタンドアロンシステムより複雑です。ファイルシステムの配置方法は、次の影響を受けます。

- インストールされる、サードパーティのソフトウェアやバンドルされていないソフトウェア
- システムにプリンタが接続されるかどうか
- ユーザーのホームディレクトリをローカルディスクに置くか、それとも共有のファイルサーバーからマウントするか
- 電子メールを受信するかどうか
- サイトのバックアップのガイドライン

一般的なガイドラインは、ファイルシステム階層を個別のファイルシステムごとに分割することです。この結果、定期的に行われるバックアップで、階層全体を対象とする必要がなくなるので、バックアップと復元をより効率的に行うことができます。ファイルシステムを分割すると、ファイルシステム階層を1つまたは複数のディスクに分散させることができるので、性能の向上につながります。たとえば、Solaris のほぼすべてのファイルの /usr ファイルシステムへのロードが考えられます。Solaris のオペレーティングシステムのファイルは、ほとんどの場合読み込み専用なので、/usr ファイルを単独のファイルシステムに入れ、1度だけバックアップすれば十分です。

唯一のファイルシステムとして / (ルート) を作成

ファイルシステムとして (/) ルートだけを作成することもできます。ファイルシステム全体を対象にしてバックアップと復元を行うので、これらの作業はかなり時間のかかるものとなります。

More Space Needed for the Upgrade [アップグレードにさらに必要な容量]

ファイルシステムは、アップグレード時に容量がさらに必要な場合があります。その理由は次のとおりです。

- 新しいソフトウェアが、Solaris で定義したソフトウェアグループに追加されている。システムにインストールされているソフトウェアグループに追加された新しいソフトウェアは、自動的にアップグレードの対象となる。
- システムに既存のソフトウェアのサイズが、新しいリリースで増加した。

容量問題の解決方法

アップグレード時の容量問題を解決するには、次の 2 つの方法があります。

- ソフトウェアの選択を解除する。

容量の問題は選択されているソフトウェアに原因があります。「Customize Software」画面に戻り、容量の不足しているファイルシステムにソフトウェアがインストール可能になるまでパッケージあるいはクラスタの選択を解除します。そのシステムに不要な、あるいはインストールしたくない新しいソフトウェアから削除していきます。

注 - 「Customize Software」画面では、「Software Description」ウィンドウで、どのファイルシステムにパッケージあるいはクラスタがインストールされるかを調べることができます。

自動配置機能によって容量を再割り当てする

容量の問題を解決するのに十分なソフトウェアを削除できない場合は、自動配置機能を使用して、新しいファイルシステムの必要サイズに見合うようにシステム上に容量を再割り当てしなくてはなりません。まず、自動配置機能は、デフォルトで設定されている制限 (システムのファイルシステムに対して実行できる、あるいは実行できないこと) に基づき容量を再割り当てしようとします。それがうまくいかないときは、ユーザーが別の制限を設定する必要があります。

注 - 自動配置機能にはファイルシステムを増やす機能はありません。変更が必要なファイルシステムのバックアップを取り、そのファイルシステムの変更に従ってディスクを再分割したのち、アップグレードの前にそのファイルシステムを復元することにより、容量を再割り当てします。

Mounting Remote File Systems [リモートファイルシステムのマウント]

リモートファイルシステムのマウント

ネットワーク環境では、システムはサーバーからファイルシステムをマウント (アクセス) することがあります。これをリモートマウントと呼んでいます。たとえば、他のシステムに OpenWindows を提供するようにファイルサーバーを設定した場合、システムは、OpenWindows をエクスポートするサーバーから OpenWindows をマウントする必要があります。

リモートファイルシステムをマウントする場所

「Mount Remote File Systems?」画面を使用して、マウントすべき特定のファイルシステムとサーバーとを指定します。マウントテストを行い、サーバーへ到達可能かどうか調べることもできます。

マウントテストに失敗した場合でも、「Mount Remote File Systems?」画面にリモートファイルシステムを追加してください。マウントテストの失敗は、テストの実施時点で、ある特定のサーバーが停止していたにすぎないことがあるからです。リモートファイルシステムをこのリストに追加すると、システムのリブート時に、追加したファイルシステムが使用可能になります。

Navigating Using the Keyboard [キーボードでのナビゲート]

ファンクションキーを使わずにナビゲートする方法

次のキーを使います。

- 矢印キー
- Control-N、Control-F ... 下へ移動
- Control-P、Control-B ... 上へ移動

ファンクションキーと ESC キー

ナビゲート用のデフォルトキーは、ファンクションキーです。ただし、キーボードにファンクションキーがない場合、または TIP 回線を通して実行している場合、ESC キーを使わなければなりません。

- ナビゲートを行うために ESC キーを有効にする方法
ESC キーを 1 回押します (各画面の下にナビゲート用の ESC キーの使い方が表示されます)。
- メイン画面のナビゲート方法の表示をファンクションキーに戻す方法
ESC-f キーを押します。
- ESC キーによるナビゲートを行う方法 (たとえば、ESC-2)
ESC キーを押しながら、数字キーを押します。

ナビゲートのまとめ

- メイン画面

F2、ESC-2	次の画面へ移動
F4、ESC-4	入力した情報の変更
F6、ESC-6	ヘルプの表示
L1-A、STOP-A	システムのリブート
Control-N	メニュー内を下に移動
Control-F	メニュー内を下に移動
下矢印	メニュー内を下に移動
Tab キー	メニュー内を下に移動
Control-P	メニュー内を上移動
Control-B	メニュー内を上移動
上矢印キー	メニュー内を上移動
Shift-Tab	メニュー内を上移動
Control-H	フィールド内でのバックスペース
Back Space キー	フィールド内でのバックスペース
矢印キー	メニュー内のオプションの反転表示

Return キー	メニュー内のオプションの選択
スペースキー	メニュー内のオプションの選択
x	メニュー内のオプションの選択

■ ヘルプ画面

F2、ESC-2	選択したオプションへ移動
F3、ESC-3	ヘルプの各項目またはヘルプの Main Index へ移動
F5、ESC-5	ヘルプの終了

■ その他

- Control キーのナビゲートを使うには (たとえば、Control-U)、Control キーを押しながら、文字キーを押します。
- ESC キーのナビゲートを使うには (たとえば、ESC-2)、ESC キーを押しながら、数字キーを押します。

Preserving Data [データ保存] / Preserve Data Screen [データ画面]

スワップと、重複スライスの保存

スワップと、重複スライスを保存するときは、データではなくジオメトリを保存します。

マウントポイントを変更するには

矢印キーを使ってマウントポイント名に移動して、新しい名前を入力します。

注 - / (ルート)、スワップ、または重複スライスへの変更は、バックスラッシュ (\) で開始します。

名前を変更しなければならないファイル

次のファイルにデータを保存する場合、これらのファイルはディスク上で固有のものでなければならないため、マウントポイントの名前を変更します。

- / (ルート)
- /usr
- /usr/openwin
- /var

Software Groups : What They Contain [ソフトウェアグループ : 何が入っているか]

ソフトウェアグループ

Solaris には、次の 4 つのソフトウェアグループがあります。

- コアシステムサポート

システム上で Solaris のブートと実行を行うために必要な、最小限のソフトウェアを含んだソフトウェアグループ。ネットワーク用ソフトウェアおよびウィンドウ環境を動作させるために必要なドライバも含んでいます。OpenWindows ソフトウェアは含まれていません。

- エンドユーザシステムサポート

コアソフトウェアグループと一般ユーザー用に推奨されるソフトウェアを含むソフトウェアグループ。OpenWindows と DeskSet ソフトウェアも含まれます。

- 開発者システムサポート

エンドユーザシステムサポートソフトウェアを含むソフトウェアグループ。開発ソフトウェア用のライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、プログラミングツールも含まれています。Solaris には、コンパイラとデバッガは含まれていません。

- 全体ディストリビューション

Solaris のリリース全体を含むソフトウェアグループ。

この他に次のソフトウェアが表示される場合があります (SPARC 版のみ)。

- 全体ディストリビューションと OEM サポート

Solaris のリリース全体と特定のベンダーのハードウェアをサポートするソフトウェアを含みます。SPARC をベースとしたソフトウェアグループサーバーに Solaris をインストールする時に推奨されます。

一度に 1 つだけソフトウェアグループを選択できます。

インストールする各ソフトウェアの推奨サイズ

各ソフトウェアグループをインストールするための推奨サイズが、各グループの隣に M バイト単位で表示されています。このサイズは、次を含んでいます。

- ソフトウェアのサイズ
- ファイルシステムのオーバーヘッド
- スワップ (メモリーの量によって変化します)

注 - 一度、ディスクを (手作業あるいは自動で) 配置すると、Recommended および Minimum に表示された値が変わることがあります。

Specifying a Boot Disk [ブートディスクの指定]

ブートディスクとは

ブートディスクとは、/ (ルート) ファイルシステムがインストールされているディスクのことです。このシステムのデフォルトのブートドライブは、「Disks」画面に表示されています。

IA システムのブートディスク

IA システムでは、/ (ルート) ファイルシステムを変更して、どのディスクでもブートディスクとして使用できます。通常、ブートディスクは c0t0d0 です。PS/2 システムでは、c0t6d0 です。ただし、デフォルトのブートディスクを変更する場合は、Solaris ブートフロッピーディスクを使用して、そのディスクをブートする必要があります。

SPARC システムのブートディスク

SPARC システムでは、どのディスクでもブートディスクとして使用できます。

Upgrading Option [アップグレードオプション]

アップグレードを行う前に、インストールプログラムは、Solaris ソフトウェアの新しいバージョンをインストールするのに十分なディスク容量が、既存のファイルシステムにあるかどうかを調べます。

- ファイルシステムに十分なディスク容量がない場合は、そのファイルシステムにインストールしようとしたソフトウェアを削除する、あるいは自動配置機能を使用してシステムに容量を再割り当てるように求めるプロンプトが表示されます。
- 既存のファイルシステムに十分な容量がある場合は、ただちにアップグレードが開始されます。

アップグレード終了後の作業

インストールプログラムは、Solaris ソフトウェアの旧バージョンに対して行なったローカルの変更を保存できないことがあります。次のファイルを参照して、アップグレードによって保存できなかったローカルの変更をし直す必要があるかどうかを調べます。

- システムのリポート前

```
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```

- システムのリポート後

```
/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```

Solaris インストールプログラムがアップグレードの際に行なった処理の記録は、アップグレードが成功したかどうか判断する上で重要です。アップグレードの出力は、次のファイルに保存されます。

- システムのリポート前

```
/a/var/sadm/system/logs/upgrade_log
```

- システムのリポート後

```
/var/sadm/system/logs/upgrade_log
```


アップグレードに関する問題発生時の対処方法

問題

システムにアップグレード可能な Solaris のバージョンが存在するにもかかわらず、アップグレードオプションが使用できない場合は、次の原因が考えられます。

- /var/sadm ディレクトリがシンボリックリンクである、あるいは別のファイルシステムからマウントされている。
- /var/sadm/softinfo/INST_RELEASE ファイルが存在しない。

解決策 - /var/sadm ディレクトリをルート(/) あるいは /var ファイルシステムに移動します。または、次のテンプレートを使用して、INST_RELEASE ファイルを作成します。

OS=Solaris

VERSION=2.x (x は既存の Solaris のバージョン番号)

REV=0

問題

Solaris インストールプログラムがシステムのメタデバイスをマウントできず、アップグレードされない。

解決策 - システムの /etc/vfstab ファイル内にあるメタデバイスすべてをコメントにします。アップグレードはメタデバイスをサポートしません。

問題

Solaris インストールプログラムがファイルシステムをマウントできず、アップグレードされない。アップグレード中、インストールプログラムは、アップグレードされるルートファイルシステムの /etc/vfstab ファイルに列挙されているファイルシステムをすべてマウントしようとします。インストールプログラムがファイルシステムをマウントできない場合、成功せずに終了します。

解決策 - /etc/vfstab ファイルに記述されているファイルシステムがすべてマウントできることを確認します。/etc/vfstab ファイルに列挙されているファイルシステムの中で、マウントできないもの、あるいは問題の起こる可能性があるものをすべてコメントにして、インストールプログラムがアップグレード中にそれらのファイルシステムをマウントしないようにします。

ttinstall - How To

Access a Disk's Existing Layout [ディスクの現在の配置を利用する]

ディスクの配置を利用するには

Volume Table of Contents (VTOC) ラベルをロードすると、ディスクの現在のファイルシステム配置を利用できます。VTOC ラベルをロードすると、「Customize Disk:」画面上の現在の配置を、そのディスクのファイルシステムとスライスで上書きします。

ディスクの現在のファイルシステム配置をロードするには、次のようにします。

1. 「File System and Disk Layout」画面に移動し、**F4** キーを押します。
2. 「Customize Disk:」画面でカスタマイズするディスクを選択し、**F4** キーを押します。
3. メニューから「Load existing slices from VTOC label」を選択し、**F2** キーを押します。

注 - VTOC を利用してファイルシステム配置を編集する場合は、「Customize Disk :」画面から **F4** キーを押し、「Show cylinder boundaries」のオプションを有効にしておくると便利です。

Determine a System's platform [システムのプラットフォームを確認するには]

システムのプラットフォームグループを確認するには

1. システムのプラットフォームを次のリストで調べます。リストにない場合は、手順 **2** を参照してください。

システム	プラットフォームグループ
IA	i386
SPARCstation SLC	sun4c
SPARCstation ELC	sun4c
SPARCstation IPC	sun4c
SPARCstation IPX	sun4c
SPARCstation 1	sun4c
SPARCstation 1+	sun4c
SPARCstation 2	sun4c
SPARCserver 1000	sun4d
SPARCcenter 2000	sun4d
SPARCclassic	sun4m
SPARCclassic X	sun4m
SPARCstation LX	sun4m
SPARCstation LX+	sun4m
SPARCstation 4	sun4m
SPARCstation 5	sun4m
SPARCstation 10	sun4m
SPARCstation 10SX	sun4m
SPARCstation 20	sun4m
SPARCstation Voyager	sun4m
SPARCserver 630	sun4m
SPARCserver 670	sun4m
SPARCserver 690	sun4m
Ultra 1 Model 140	sun4u
Ultra 1 Model 170	sun4u
Ultra 1 Creator Model 140E	sun4u
Ultra 1 Creator3D Model 140E	sun4u
Ultra 1 Creator Model 170E	sun4u
Ultra 1 Creator 3D Model 170E	sun4u
Ultra 1 Creator Model 200E	sun4u
Ultra 1 Creator3D Model 200E	sun4u

システム	プラットフォームグループ
Ultra Enterprise 1 Model 140	sun4u
Ultra Enterprise 1 Model 170	sun4u
Ultra Enterprise 1 Model 170E	sun4u
Ultra 2 Creator Model 1170	sun4u
Ultra 2 Creator3D Model 1170	sun4u
Ultra 2 Creator Model 2170	sun4u
Ultra 2 Creator3D Model 2170	sun4u
Ultra 2 Creator Model 1200	sun4u
Ultra 2 Creator3D Model 1200	sun4u
Ultra 2 Creator Model 2200	sun4u
Ultra 2 Creator3D Model 2200	sun4u
Ultra XX	sun4u
Ultra Enterprise 2 Model 1170	sun4u
Ultra Enterprise 2 Model 2170	sun4u
Ultra Enterprise 2 Model 1200	sun4u
Ultra Enterprise 2 Model 2200	sun4u
Ultra Enterprise 150	sun4u
Ultra Enterprise 3000	sun4u
Ultra Enterprise 4000	sun4u
Ultra Enterprise 5000	sun4u
Ultra Enterprise 6000	sun4u
Ultra Enterprise 1000	sun4u

2. 使用しているハードウェアのマニュアルを調べます。または、**Solaris** ソフトウェアをすでに起動しているシステムにアクセスできる場合は、次のコマンドを入力して、プラットフォームを調べます。

```
sun% uname -m
```

Free Up Disk Space [ディスク容量の解放]

ディスク容量を解放するには

ディスクの空き容量を増やすには、以下の手順があります。

- 「Disks」画面の「選択されたディスク」リストにディスクを追加します。
- システムにディスクを増設します。
- 選択したソフトウェアグループ(「Customize Software」画面を参照)から、ソフトウェアクラスタまたはソフトウェアパッケージを削除します。
- 「Software」画面で他のソフトウェアグループを選択します。
- サーバーをインストールしている場合は、クライアントの数や、各クライアントのデフォルトのスワップ容量を減らすこともできます。

Reset Software Group to Default Selections [ソフトウェアグループをデフォルトの選択に再設定するには]

ソフトウェアグループ設定値をリセットする手順

ソフトウェアグループの選択を行なった後で、ソフトウェアグループの選択をリセットする場合は、次の手順に従ってください。

1. 「**Customize Software**」画面から作業を開始するときは **F2** キーを押します。
2. 「**Software**」画面から、他のソフトウェアグループを選択します。
3. ソフトウェアグループの現在の編集結果を破棄して良いかどうかをたずねる警告メッセージが表示されます。**F2** キーを押します。
4. 元のソフトウェアグループを選択し直して、**F4** キーを押します。

ソフトウェアグループの選択結果は、元の状態に戻ります。

Resolve Software Dependencies [ソフトウェア依存関係の解決処理]

パッケージを追加または削除すると、未解決の依存関係に関する警告が表示される場合があります。これは依存関係にあるソフトウェアが存在していないためです。

必要なパッケージを選択するか、またはそのパッケージに依存しているパッケージを選択解除します。たとえば次のような依存関係があるとします。

選択したパッケージ	依存するパッケージ
System & Network Admin Appl	Install Software

このような場合、Install Software パッケージを選択するか、System & Network Admin Appl パッケージを選択解除します。

未解決の依存関係が無視できる場合

ネットワークの他の場所に、リモートマウントすることがわかっている場合、またはその機能が不要な場合だけ未解決の依存関係が無視できます。ネットワークでファイルサーバーからソフトウェアをリモートマウントすることは、よくあることです。この場合、ソフトウェアをローカルにインストールする必要はありません。たとえば、ファイルサーバー上に OpenWindows をインストールし、リモートマウントを使って共有することができます。

未解決の依存関係は無視しても、Solaris を正常にインストールすることができます。ただし、オプションのソフトウェアが正常に機能しないことがあります。

Specify a Boot Disk [ブートディスクの指定]

ブートディスクとは

ブートディスクとは、/ (ルート) ファイルシステムがインストールされているディスクのことです。現在インストールを行なっているこのシステムのブートドライブは、「Disks」画面に表示されています。

IA システムのブートディスク

IA システムでは、/ (ルート) ファイルシステムを変更して、ブートディスクとしてのディスクでも使用できます。通常、ブートディスクは c0t0d0 です。PS/2 システムでは、c0t6d0 です。ただし、デフォルトのブートディスクを変更する場合は、Solaris ブートフロッピーディスクを使用して、そのディスクをブートする必要があります。

SPARC システムのブートディスク

SPARC システムでは、ブートディスクとしてのディスクでも使用できます。

ttinstall - Reference

Customize Disks Screen [ディスクのカスタマイズ画面]

この画面について

この画面でディスクを編集することができます。Free フィールドは、スライスの大きさを編集すると変化します。

注 - このソフトウェアでは、負の空き容量を指定することはできません。

編集可能フィールド

この画面では次の項目を編集できます。

- マウントポイント
- サイズ (MB)

Entry フィールド

Entry にはマウントポイントのエントリが表示されます。

Recommended フィールド

Recommended は現在のファイルシステムのための推奨値で、これにはファイル階層にあるすべてのファイルシステムと、インストールに必要なディスク容量の約 15% の空き容量が含まれます。

Minimum フィールド

Minimum は現在のファイルシステムのための値で、Recommended 値で使用した 15% の空き容量を除いた、ファイル階層のすべてのファイルシステムが含まれます。ファイルシステムは Minimum より小さくはいけません。小さい場合には容量についての警告が表示されます。

Recommended と Minimum サイズを持つファイルシステム

次のファイルシステムを選択した場合は、推奨値と最小値がわかります。

- / (ルート)
- /opt
- /usr
- /usr/openwin
- /var
- swap

Slice フィールド

ディスクには 0 ~ 7 の番号が付いた 8 つのスライスがあります。スライスはディスクの物理的な容量です。スライス 2 は例外で、習慣上そのディスク全体を表します。

注 - SunOS 4.1.x では、スライスをパーティションと呼んでいました。

IA システムの場合、ブートスライスと代替セクタスライスという 2 つの特別なスライスがディスク上にあります。これらのスライスは必須で、編集することはできません。

重複スライスの指定

- 重なり合うスライスを作成するには、**Mount Point** フィールドにキーワード **overlap** を入力します。このマウントポイントで、スライスを他のスライスと重ねることができます。
- 開始シリンダを編集し、終了シリンダを表示するには、**F4** キーを押し、「**Disk Editing Options**」画面からシリンダを選択してください。

注 - このソフトウェアでは、負の空き容量を指定することはできません。

(IA) Solaris パーティションサイズフィールド

Solaris fdisk パーティションの大きさは、OS のオーバーヘッドのために、**Capacity** より大きくなります。

(IA) OS Overhead フィールド

この値は、ブートスライスと代替セクタスライスに対応しています。

[Usable] Capacity フィールド

これはファイルシステムの大きさを決定するときに、編集することができるディスクの大きさです。

Rounding エラーフィールド

この値は、数値を切り捨てたために失われた **M** バイト数を示します。これは常に正の数です。

Allocated フィールド

このフィールドは、ユーザーが現在構成しているディスク容量を示します。

Free フィールド

このフィールドは、割り当てるディスク容量がどれだけ残っているかを示します。これはスライスを編集すると変化しますが、0 未満にはなりません。

ナビゲート

- フィールド間を移動するには、矢印キー (上、下、左、右) または Tab キーを使います。
- フィールドの内容を消去するには、Delete キー、Back Space キー、またはスペースバーを使います。

Customize Software Screen [ソフトウェアカスタマイズ画面]

この画面について

パッケージは、ソフトウェアのアプリケーションを形成するファイルとディレクトリからなる便宜上のグループです。クラスタは、ソフトウェアパッケージの集まりです。

初期オプションでは、選択したソフトウェアグループにあるソフトウェアは自動的にインストールされます。アップグレードオプションでは、システムに既存のソフトウェアがアップグレードされます。

いずれの場合も、画面上でクラスタとパッケージを選択したり、選択解除したりすることによりインストールするソフトウェアを追加、または削除できます。

凡例

>	展開していないクラスタ
V	展開したクラスタ
[]	選択していないクラスタまたはパッケージ
[X]	選択したクラスタまたはパッケージ
[/]	一部選択したクラスタまたはパッケージ
[!]	必須クラスタまたはパッケージ

この画面の使用方法

- クラスタを展開するには
矢印キーで反転表示バーを > 記号の上に移動して、Return キーを押します。

- クラスタを圧縮するには
矢印キーで反転表示バーを V 記号の上に移動して、Return キーを押します。
- クラスタまたはパッケージを選択または選択解除するには
矢印キーで反転表示バーを [, [X], または [/] 記号の上に移動して、Return キーを押します。
- クラスタまたはパッケージ情報を表示するには
矢印キーで反転表示バーをクラスタ名またはパッケージ名の上に移動して、Return キーを押します。
- クラスタとパッケージのリストをスクロールするには
上下の矢印キーを使ってリストを移動します。
- 一部選択したクラスタ内のすべてのパッケージを選択するには
矢印キーで反転表示バーをクラスタの上に移動して、Return キーを押します。

必須クラスタとパッケージ

必須クラスタとパッケージは選択したり解除したりすることはできません。ただし、ソフトウェアグループの内容がわかるように表示されます。

ソフトウェアグループ再設定するには(初期設定のみ)

1. 「**Customize Software**」画面で **F2** キーを押します。
2. 「**Software**」画面で別のソフトウェアグループを選択します。
3. 警告メッセージが表示されたら、**F2 (編集を失う)** キーを選択します。
4. 元のソフトウェアグループを再度選択します。

Disk Editor Properties Screen [ディスクエディタ・プロパティ画面]

この画面について

この画面で、「Customize Disk:」画面でのディスクエディタの環境を変更できます。デフォルトにより、ディスクエディタは次のように設定されます。

- 編集単位として M バイトを使用する。
- シリンダ境界を示さない。

デフォルトを変更するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示させ、Return キーを押して [X] マークを付けます。

シリンダ境界の表示

シリンダ境界の表示にすると、開始シリンダを編集できます。一般に、重なり合うパーティションを作成するときにだけ、これが役立ちます。

注 - シリンダの編集には、高度なシステム管理の知識が必要です。編集の詳細を理解していない場合は、シリンダ境界を表示しないでください。

VTOC ラベルから現在のスライスをロードする

Volume Table of Contents (VTOC) には、ディスク上の情報の配置について記述されています。このテーブルをロードすると、現在のディスク構成を読み込むことができます。

注 - 現在のスライスのロードを選択した場合、「Customized Disk:」画面で構成した内容は削除されるので注意してください。

File System Modifications Summary Screen [ファイルシステム変更の要約画面]

画面について

ファイルシステムのリストには次の項目が含まれています。

- Slice (スライス)
アップグレード後のファイルシステムの位置
- Size (サイズ)
アップグレード後のファイルシステムのサイズ
- Modification (変更)
ファイルシステムに容量を再割り当てする場合に自動配置機能が行う変更内容
- Existing Slice (既存のスライス)
既存のファイルシステムの位置
- Existing Size (既存のサイズ)
既存のファイルシステムのサイズ

変更の意味

- None
ファイルシステムにはなにも起こらない
- Changed
ファイルシステムのスライスの位置あるいはサイズ、またはその両方に変更がある
- Deleted
ファイルシステムは削除される
- Created
ファイルシステムが作成される
- Unused
指定したディスク内に未使用の容量がある

■ Collapsed

ファイルシステムは親ファイルシステムに移動(短縮)する

未使用のディスク容量

自動配置機能を使用して容量を再割り当てた場合、ディスク容量が余ることがあります。その場合、自動配置機能はその余分な容量をファイルシステム間で分配したり、/export/home ファイルシステムに置いたりします。自動配置機能で分配できないディスクの余った容量は、ディスクに残されたまま **Unused** とマークされます。

Geographic Region Screen [地域画面]

画面について

この画面でシステムにインストールするソフトウェアの対応地域を選択することができます。

地域は、ロケールと言語から構成されています。システムにインストールされるソフトウェアの対応地域のすべてが必要でない場合、1つまたは複数の地域から一部のロケールを選択することができます。

凡例

>	展開していない地域
V	展開した地域
[]	選択していない地域またはロケール
[X]	選択した地域またはロケール
[/]	一部選択した地域
[!]	必須地域またはロケール

この画面の使用方法

- 地域を展開するには
矢印キーで反転表示バーを > 記号の上に移動して、Return キーを押します。
- 地域を圧縮するには

矢印キーで反転表示バーを V 記号の上に移動して、Return キーを押します。

- 地域またはロケールを選択または選択解除するには

矢印キーで反転表示バーを [, [X]、または [/] 記号の上に移動して、Return キーを押します。

- 地域とロケールのリストをスクロールするには

上下の矢印キーを使ってリストを移動します。

- 一部選択した地域内のすべてのロケールを表示するには

矢印キーで反転表示バーを地域の上に移動して、Return キーを押します。

Glossary [用語集]

- / (ルート)

階層ファイルツリーの最上位にあるファイルシステム。ルートディレクトリには、カーネル、デバイスドライバ、システムを起動するためのプログラムなど、重要なディレクトリやファイルがある。

- /opt

オプションのサードパーティ、またはアンバンドルのソフトウェア用のマウントポイントを含むファイルシステム。

- /swap

「スワップ容量」を参照。

- /usr

標準の UNIX プログラムを数多く含むファイル。ローカルコピーを持つ代わりに、大きな /usr ファイルシステムをサーバーと共用することによって、システムに Solaris ソフトウェアをインストールし、実行するのに必要なディスク容量を最小限に抑えることができる。

- /var

ローカルシステムが存在するかぎり変更されたり追加されたりする、システムファイルとディレクトリを含むファイルシステム。この中には、システムログ、vi ファイル、mail ファイル、uucp ファイルなどがある。

- fdisk パーティション

IA システム上で特定のオペレーティングシステムに専用となるディスクドライブの論理パーティション。Solaris のインストール時に、IA システム上に最低 1 つ

の **fdisk** を設定する必要がある。IA システムは、各ディスク上に最大 4 種類のオペレーティングシステムをサポートし、各オペレーティングシステムは固有の **fdisk** パーティションに配置しなければならない。**fdisk** パーティションは連続していて、重ならない。

- IP アドレス

ネットワークに接続されたシステムを識別する固有の番号。これによってインターネットプロトコルでの通信が可能となる。ピリオドで区切られた 4 つの数字で構成される。ほとんどの場合、IP アドレスの各部分は、0 から 255 までの数字になる。ただし、最初の数字は 224 未満でなければならず、通常最後の数字に 0 は使用できない。

- OS サーバー

ネットワーク上のシステムにサービスを提供するシステム。ディスクレスクライアントの場合、OS サーバー上にそれぞれのルートファイルシステムとスワップ容量 (`/export/root`、`/export/swap`) が必要となる。

- Solaris インストールプログラム

メニュー形式の対話型プログラムで、これを使ってシステムを設定し、Solaris をインストールできる。グラフィックスモニタからインストールする場合、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) が利用でき、グラフィックスモニター以外からインストールする場合は、キャラクタユーザーインタフェース (CUI) が利用できる。

- アップグレードオプション

システムのディスクのうち、最低 1 台がスライス 0 に Solaris 2.x ルートファイルシステムを持っている場合、Solaris インストール時に指定できるオプション。インストールするプログラムにより、Solaris の初期インストールと同じ時間がかかることもある。

- エンドユーザーシステムサポート

コアソフトウェアグループと一般ユーザーのための推奨ソフトウェアを含むソフトウェアグループで、OpenWindows や DeskSet ソフトウェアが含まれる。

- 開発者システムサポート

エンドユーザーシステムサポートソフトウェアとソフトウェア開発用ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、プログラミングツールなどを含むソフトウェアグループ。Solaris にはコンパイラとデバッグは含まれない。

- クライアント

ネットワークに接続されたシステム。その操作に必要な資源すべてまたは一部を OS サーバーから得ている。

- クラスタ

ソフトウェアパッケージの論理グループ。Solaris ソフトウェアは、ソフトウェアグループに分割され、それぞれがクラスタとパッケージで構成されている。不要なクラスタは削除できる。

- コア

ソフトウェアグループの1つ。システム上で Solaris ソフトウェアをブートし、実行するのに必要な最小ソフトウェアを含む。この中には、いくつかのネットワークソフトウェアとウィンドウ環境の実行に必要なドライバがある。OpenWindows ソフトウェアは含まれない。

- 自動配置 (Auto-layout)

選択したファイルシステムを取り込み、利用できるすべてのディスク容量を割り当てる Solaris インストールプログラムの機能。「手作業による配置」を参照。

- 初期オプション

初めてインストールするシステムの場合、Solaris インストールプログラムで提供されるオプション。アップグレード可能なシステムでも指定できるが、初期インストールを選択するとディスクが上書きされる。

- シリンダ

各ディスク面の同一円周上にある全トラックが集まったもの。

- スライス

連続したブロックで構成されるディスク容量。習慣上、スライス2はディスク全体を表す。1つのディスクは8つのスライスに分割できる。ディスクにファイルシステムを作成する前に、ディスクをスライスにフォーマットしなければならない。IA システム上では、Solaris は1つの fdisk パーティションにインストールされ、それをさらにスライスに分割できる。

- スワップ容量

現在のプロセスを処理するのに十分なメモリーがシステムにない場合、仮想記憶域として使用されるディスク容量。/swap、または swap ファイルシステムとも呼ぶ。

- 全体ディストリビューション

Solaris リリース全体を含むソフトウェアグループ。

- 全体ディストリビューションと OEM

Solaris のリリース全体と OEM 用に追加されたハードウェアサポートからなるソフトウェアグループ。サーバーに Solaris をインストールする時に推奨される。

- ソフトウェアグループ

Solaris ソフトウェアのバンドルした論理グループ。Solaris をインストールするときは、コア、エンドユーザシステムサポート、開発者システムサポート、全体ディストリビューションのうちの1つを選択する。その中からさらにソフトウェアを追加したり削除したりできる。

- ソフトウェアの依存関係 (dependencies)

機能するのに他のパッケージを必要とするパッケージ。

- 重複スライス

ディスク上で同じ物理シリンダを共用するスライス (物理スライスを結合した論理スライス)。次の例では、slice 0 と 1 は slice 2 と重複している。

slice 0		
	slice 1	
slice 2		

- ディスクパーティション

特定のファイルシステムと機能のために予約されているディスクの一部。

- 手作業による配置 (Manual Layout)

ディスクの指定や、どのスライスにどのファイルシステムを割り当てるかの指定を手作業で行うこと。

- ドメイン

インターネットの階層の一部。管理ファイルを共有するローカルネットワーク上のシステムグループを表す。

- ドメイン名

ドメインの名前で、ネームサービスが正しく機能するのに必要となる。インターネットドメイン名は、ピリオドで区切られた構成要素名(たとえば、tundra.mpk.ca.us) からなる。その構成要素名は、ドメイン名の右側ほどより広い(よりリモートの)容量を示す。

- パーティション

「スライス」または「fdisk パーティション」を参照。

- パッケージ

ソフトウェアアプリケーションを形成するファイルとディレクトリの機能グループ。Solaris ソフトウェアはソフトウェアグループに分割され、それぞれがクラスターとパッケージを構成する。

- ファイルサーバー

ネットワーク上のシステムに、ソフトウェアとファイルの格納領域を提供するサーバー。

- ファイルシステム

ファイルとディレクトリの集まり。論理階層に組み込まれると、情報が編成され、構造化される。

- プラットフォーム

Solaris ソフトウェアを実行させるためにシステムが使用する命令セット。i86pc、SUNW、SUN_4_60、IBM_PPS_Model_6040 など。

- プロファイル (Profile)

Solaris ソフトウェアをシステムにインストールする方法を定義するテキストファイル。

- ホスト名

ネットワーク上の他のシステムが認識している、あるシステムの名前。この名前は、あるドメイン内 (通常、1つの組織内) のすべてのシステム間で固有でなければならない。文字、数字、マイナス符号 (-) を組み合わせて指定できるが、先頭または末尾にマイナス符号は使用できない。

- マウント

mount コマンドを実行して、ファイルシステムをアクセス可能にすること。ファイルシステムをマウントするには、ローカルシステムのマウントポイントとマウントするファイルシステム名 (たとえば /usr) が必要。

- マウントポイント

ローカルまたはリモートシステムに存在するファイルシステムを、リモートマウントするシステム上のディレクトリ。

Mount Remote File System Screen [リモートファイルシステムのマウント画面]

この画面について

この画面では、サーバーからマウントするリモートファイルシステムを指定します。また、マウントをテストして、サーバーが実行中であるかどうかを確認できます。

Local mount point (ローカルマウントポイント)

リモートファイルシステムがマウントされるマウントポイントを指定します。

例 : /marketing

Server's host name (サーバーのホスト名)

ファイルシステムを提供するサーバーのホスト名を指定します。

例 : sholto

Server's IP address (サーバーの IP アドレス)

サーバーの IP アドレスが自動的に検出できない場合に指定します。IP アドレスはピリオドで区切られた 4 つの数値です。

例 : 129.221.2.1

File system path (ファイルシステムへのパス)

このフィールドには、マウントするリモートファイルシステムへのパスを指定します。または、F4 キーを押して、「Server's Exportable File System」画面にアクセスし、その画面でサーバーに登録されているエクスポート可能なファイルシステムのリストからファイルシステムパスを選択できます。選択したファイルシステムパスは、自動的に「Mount Remote File System」画面の File System Path フィールドにコピーされます。

F3 - テストマウントについて

F3 キーを押すと自動的にテストマウントが開始され、サーバーがアクセスできるかどうか、また指定したファイルシステムがマウントできるかどうかを検査します。テストマウントが成功しなかった場合、サーバーが一時的にダウンしていることがあります。その場合は、F5 キーを押し、Solaris ソフトウェアをインストールしたあと、リモートファイルシステムをマウントしていることを確認してください。

Select Auto-layout Constrains Screen [自動配置機能の構成画面の選択]

この画面について

この画面では、ファイルシステム上の制限を変更することができます。制限は、自動配置機能が容量の再割り当てをするときにファイルシステムに対して何が実行できて、何ができないかを決定します。

制限を変更する主な目的は、現在より大きな容量を必要とするファイルシステムに十分な空き容量を作成することです。(割り当てられた容量の合計値が必要な容量の合計値より大きくなるようにします。)

注 - 制限を指定し、必要とする容量に十分な空き容量を割り当てても、ファイルシステムの再割り当てには限界があるため、自動配置に失敗することがあります。

制限

ファイルシステムに対して、次のような制限を指定することができます。

■ Fixed (固定)

自動配置機能を使用して、ファイルシステムを変更することはできません。デフォルトでは、現在より大きな容量を必要としないファイルシステムは Fixed (固定) として指定されます。

■ Changeable (変更可能)

自動配置機能を使用して、ファイルシステムを他の場所に移動し、そのファイルシステムのサイズを変更することができます。この制限は、/etc/vfstab ファイルにマウントされているファイルシステムにのみ有効です。Minimum Size (サイズの最小値) を変更することで、ファイルシステムのサイズを変更できます。

注 - 現在より大きな容量を必要とするファイルシステムは、常に **Changeable** (変更可能) として指定されます。

■ **Movable** (移動可能)

自動配置機能を使用して、同一ディスクあるいは異なるディスク間で、ファイルシステムを別のスライスに移動することができますが、サイズは変わりません。この制限は、`/etc/vfstab` ファイルにマウントされているファイルシステムにのみ有効です。

■ **Available** (使用可能)

自動配置機能は、ファイルシステムのすべての容量を使用して、容量を再割り当てします。ファイルシステムの容量は、`/etc/vfstab` ファイルにマウントされていないため、すべて空き容量とみなされます。

ファイルシステムのデータはすべて失われます。この制限は、`/etc/vfstab` ファイルにマウントされていないファイルシステムにのみ有効です。

制限を指定する場合のガイドライン

- 現在よりもさらに大きな容量が必要なファイルシステムと同じディスクに存在するファイルシステムには、**Changeable** あるいは **Movable** の制限を指定します。(当該ファイルシステムに隣接するファイルシステムをまず選択します。)
- 空き容量を共有できるファイルシステムには、**Changeable** 制限を指定します。
- **Changeable** や **Movable** 制限の使用は最小限にとどめます。ファイルシステムが移動または変更される場合、ディスクの再区分化を行うために一時的にそのファイルシステム上のユーザーファイルのバックアップが取られるからです。(クライアントサービスおよび Solaris CD イメージはユーザーファイルとみなされます。)

見出しの説明

■ **Required Size**

ファイルシステムがアップグレードに必要なサイズ

■ **Existing Size**

ファイルシステムの現在のサイズ

■ **Free Space**

ファイルシステムが含む空き容量

- Space Needed

ファイルシステムがアップグレードに必要な追加容量

- Minimum Size

アップグレード後の、ファイルシステムの最小サイズ。割り当てられていない容量がそのファイルシステムに追加されると、ファイルシステムのサイズは大きくなります。Changeable 制限が指定されていると、この値を増減させてファイルシステムのサイズを変更することができます。

- Total Space Needed

すべてのファイルシステムが必要とする容量の合計。

- Total Free Space Allocated

配置された空き容量の合計。この容量には、Available (Free Space) と Changeable (Existing Size - Minimum Size) とマークされたファイルシステムからの空き容量が含まれます。

短縮オプション

短縮オプションを使用して、ファイルシステムを親ファイルシステムに移動(短縮)し、ファイルシステムの数減らすことができます。短縮ファイルシステムでは、アップグレードのために現在より大きな容量を必要とするファイルシステムが変わる場合も変わらない場合もあります。

フィルタオプション

フィルタオプションを使用して、どのファイルシステムをリストに表示させるかを選択することができます。

デフォルトオプション

デフォルトオプションを使用して、制限をすべてデフォルト値に設定し直すことができます。現在より大きな容量を必要とするファイルシステムは Changeable、その他のファイルシステムはすべて Fixed となります。

Select Boot Disk [ブートディスクの選択]

この画面について

IA システム上でブートディスクを変更する場合、リブート前に BIOS の変更が必要です。

Select Disks [ディスクの選択]

この画面について

Solaris インストールプログラムは、Solaris ソフトウェアをインストールするのに有効なディスクとブートデバイスを、自動的に選択します。そのため、デフォルトでは、必要以上のディスクが選択される場合もあります。

Suggested Minimum と Total Selected フィールドを使用して、選択したディスクの解除が可能かどうか確認してください。

ブートデバイス

ブートデバイスとは、Solaris ソフトウェアをインストールし、自動的にリブートする主デバイスとして構成されるパーティション、あるいはスライスを指します。ブートデバイスにルート (/) が構成されます。

Select Disk to Customize Screen [ディスクのカスタマイズ]

この画面について

この画面では、編集するディスクを選択します。

- ディスクを編集するには、矢印キーを使って編集したいディスクを反転表示させ、F4 キーを押してカスタマイズします。
- 「File System and Disk Layout」画面に戻るには、F2 キーを押します。編集したいディスクがリストに表示されない場合、次のようにしてください。

- F2 キーを押して「File System and Disk Layout」画面に戻り、F3 キーを押して「Select Disk」画面に戻ります。

Select Media for Backup Screen [バックアップ用メディアの選択画面]

この画面について

バックアップに必要な容量は、容量を再割り当てするために変更あるいは移動しなければならないすべてのファイルシステムをベースにしています。アップグレード開始後に必要となるバックアップ用に次のどちらかのメディアを選択しなくてはなりません。

- ローカルファイルシステム
アップグレードされるシステム上のローカルファイルシステムを指定します。アップグレードによって変更されるローカルファイルシステムを指定することはできません。パスは、ディスクスライス用のブロックデバイスパスか、`/etc/vfstab` ファイルにマウントされているファイルシステムへの絶対パスでなくてはなりません。
- ローカルテープ
アップグレードされるシステム上のローカルテープドライブを指定します。パスは、テープドライブ用の文字 (`raw`) デバイスパスでなくてはなりません。
- フロッピーディスク
アップグレードされるシステム上のローカルなフロッピーディスクドライブを指定します。パスは、フロッピーディスクドライブ用のキャラクタ (`raw`) デバイスパスでなくてはなりません。
- リモートファイルシステム (NFS)
リモートシステム上の NFS ファイルシステムを指定します。パスは、リモートシステム (ホスト) の名前または IP アドレス、および NFS ファイルシステムへの絶対パスを含まなくてはなりません。
- リモートシステム (`rsh`)
リモートシェル (`rsh`) で到達できるリモートシステム上のディレクトリを指定します。アップグレードされるシステムは、リモートシステムの `.rhosts` ファイルを介してリモートシステムにアクセスできなくてはなりません。パスは、リ

モートシステム (ホスト) の名前とディレクトリへの絶対パスを含んでいなくてはなりません。ユーザーログイン (ユーザー) が指定されていない場合は、リモートシェルは root で実行されます。

Select Root Location [ルート位置の選択]

この画面について

この画面では、(/) ファイルシステムを構成したい位置を、実際のスライスで指定します。

ブートデバイス

ブートデバイスは、Solaris ソフトウェアをブートするためにまず構成される VTOC スライスです。

Select Version to Upgrade Screen [アップグレードのバージョン選択の画面]

この画面について

システムに Solaris ソフトウェアの複数のバージョンをインストールしてある場合には、どのバージョンの Solaris をアップグレードしたいかを、選択する必要があります。Solaris の各バージョンは、ルートファイルシステムを含む、対応するディスクスライスを持っています。あるバージョンの Solaris を選択した場合、そのルートファイルシステムの /etc/vfstab ファイルにマウントされるファイルシステムが、アップグレードの対象として選択されます。

OS サーバーのみ

アップグレードする Solaris バージョンのリストは、OS サーバーが提供するサービスを含みません。OS サーバーをアップグレードする場合、そのサーバーと同じプラットフォーム、および同じプラットフォームグループのクライアント向け OS サービスは、自動的にアップグレードされます。他のクライアントを新しいバー

ジョンの Solaris にアップグレードするには、OS サーバーをアップグレードしてから、`server_upgrade` コマンドを実行する必要があります。

Server's Exportable File Systems Screen [サーバーのエクスポート可能なファイルシステム画面]

この画面について

`showmount` コマンドを使って、サーバーのエクスポート可能なファイルシステムのリストを表示することができます。

索引

A

Admintool

- ソフトウェアの削除 160, 170, 175
- ソフトウェアの追加 160, 170

C

Can't boot from file/device メッセージ 184

CD

- CD-ROM ドライブに挿入する 28
- CD-ROM ドライブへ挿入する 114

CD-ROM ドライブ

- CD を挿入する 28, 114

CHANGE DEFAULT BOOT DEVICE メッセージ 189

CHS 対応

- 定義 19

cylinder/head/sector が有効

- 定義 19

D

DHCP

- 定義 19

Dynamic Host Configuration Protocol

- 定義 19

F

FAQ

- アップグレード 106

fdisk パーティション

- Solaris 用に作成する 82, 93

- 定義 20

file just loaded does not appear to be executable メッセージ 184

I

IDE インタフェース

- 表面検査 188
- 不良ブロックのマッピング 188

Internet Protocol バージョン 6

- 定義 20

IPv6

- 定義 20

K

Kiosk

- 定義 20

L

LBA 対応

- 定義 20

le0: No carrier - transceiver cable problem
メッセージ 183
Linux オペレーティングシステム 83

N

No carrier - transceiver cable problem メッセージ 183
Not a UFS filesystem メッセージ 184

P

pkgadd
ソフトウェアの追加 160, 179, 179
pkgrm
ソフトウェアの削除 160, 180, 179
Product Registry
インストールした製品情報の表示 166
インストールした製品の整合性の検査 167
製品のアンインストール 169
説明 164
ソフトウェアのインストール 168
ソフトウェアの削除 159, 163
ソフトウェアの追加 159, 163
目的 163

S

Solaris
アップグレード後の整理作業 157
アップグレード方法 105
インストール 62, 93
インストールサーバーでインストールする 79
パーティションの作成 93
パーティションへのインストール 82
Solaris 8 対話式インストールプログラム
キャラクタユーザーインタフェース (CUI) 20, 82
グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) 20, 82
実行方法 82
定義 20
Solaris Product Registry
インストールした製品情報の表示 166
インストールした製品の整合性の検査 167

製品のアンインストール 169
説明 164
ソフトウェアのインストール 168
ソフトウェアの削除 159, 163
ソフトウェアの追加 159, 163
目的 163

Solaris Web Start

Solaris のアップグレード 141
Solaris のインストール 62, 79, 82
アップグレード後の Solaris の整理作業 157
インストールユーティリティ 43
グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) 23
コマンド行ユーザーインタフェース (CLI) 23
システムの構成 46, 125
実行方法 23
制限 43
ソフトウェアの追加 159, 160
定義 21
デフォルトの動作 43
stty コマンド 83
system
情報 25

T

tip 接続と対話式インストール 28, 83, 113
transceiver cable problem メッセージ 183

U

upgrade_cleanup ファイル 107, 157
upgrade_log ファイル 108, 157

W

WARNING: CHANGE DEFAULT BOOT
DEVICE 189

あ

アップグレード
Solaris 141
tip 接続による 83, 113

後の整理作業 107
計画 111
システム 108, 109
システムのバックアップ 109
失敗したアップグレード 191, 192
種類 105
準備作業 108
設定 113
定義 21
頻繁に寄せられる質問 106
問題の解決 189
ログ 108, 157
アップグレード後の整理作業
Solaris 107, 157

い

インストール
Solaris オペレーティング環境 19, 27, 62,
79
tip 接続による 27
計画 23, 24
設定 23, 27
インストール、パーティションへの
Solaris 82

う

ウィザード
定義 21

お

オペレーティングシステム
保存 81

か

カスタム JumpStart
定義 21
完全バックアップコマンド 111

こ

構成
システム 46, 125

さ

サイズ
tip ウィンドウの大きさ 28, 83, 113
最小限必要なサイズ 106

削除、ソフトウェアの
Admintool による 160, 175
pkgrm による 160, 179, 180
Solaris Product Registry による 159, 163

し

システム
アップグレード 108, 109
アップグレード用に構成する 125
構成 46, 82
情報 112
バックアップ 109
ブート 29
複数のディスクを持つ 44
失敗したアップグレード
リポートの問題 191, 192
初期インストール
定義 21
初期オブション 105
シリンダ
定義 21

す

スライス
定義 22
スワップ
定義 22

せ

セクター
定義 22

そ

ソフトウェア
Solaris のインストール後に削除 159
Solaris のインストール後に追加 159
ソフトウェアグループとサイズ 26

た

対話式インストール
tip 接続と 28, 83, 113

つ

追加、ソフトウェアの
Admintool による 160, 170
pkgadd による 160, 179
Solaris Product Registry による 159, 163
Solaris Web Start による 159, 160

て

定義

CHS 対応 19
DHCP 19
Dynamic Host Configuration Protocol 19
fdisk パーティション 20
Internet Protocol バージョン 6 20
IPv6 20
Kiosk 20
LBA 対応 20
Solaris 8 対話式インストールプログラ
ム 20
Solaris Web Start 21
アップグレード 21
ウィザード 21
カスタム JumpStart 21
初期インストール 21
シリンダ 21
スライス 22
スワップ 22
セクター 22
トラック 22
パッケージ 22
ミニルート 22

ディスク

複数の 44

ディスク容量

推奨値 26

と

トラック
定義 22

は

パーティション
Solaris 用に作成する 93
ハードディスク
IDE ドライブの表面検査 188
バックアップ
システム 109
パッケージ
定義 22
パッチ 108

ひ

表示

tip 接続と対話式インストール 28, 83, 113
表面検査、IDE ドライブの 188
頻繁に寄せられる質問
アップグレード 106

ふ

ファイルシステム
手作業による配置 45
ブート
フロッピーディスク 28
方法 29
ブート、システムの
問題の解決 183
不良ブロック 188

ま

マッピング、IDE ドライブの不良ブロッ
ク 188

み

ミニルート
定義 22

も

問題の解決 183
Solaris ソフトウェアのアップグレー
ド 189
システムのブート 183

ろ
ログ、アップグレードの 108, 157

論理ブロックアドレス
定義 20